2019年度
国際文化学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【C0100】国際文化情報学入門［大嶋　良明、林　志津江 、奥石　哲哉、大中　一彌］春学期授業/Spring 1
【C0110】チュートリアル［担当教員はガイダンス時に指示］春学期授業/Spring 3
【C0200】国際文化情報学の展開［大嶋　良明］春学期授業/Spring 4
【C0212】ディジタル情報学概論［重定　如彦］秋学期授業/Fall 5
【C0210】統計処理法［竹内　広宜］春学期授業/Spring 6
【C0211】システム論［甲　洋介］秋学期授業/Fall 7
【C0213】文化情報学概論［森村　修］春学期授業/Spring 8
【C0214】情報産業論［鏡 明彦］春学期授業/Spring 9
【C0215】ネット文化論［神戸　雅一］秋学期授業/Fall 10
【C0220】表象文化概論［稲垣　立男、竹内　晶子、林　志津江 、森村　修］春学期授業/Spring 11
【C0221】メディアと情報［君塚　洋一］春学期授業/Spring 12
【C0222】社会と美術［稲垣　立男］春学期授業/Spring 13
【C0223】メディアと社会［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 14
【C0224】身体表象論［深谷　公宣］秋学期授業/Fall 15
【C0232】現代思想［森村　修］秋学期授業/Fall 16
【C0231】言語文化概論［衣笠　正晃］秋学期授業/Fall 17
【C0230】比較文化［前川　裕］春学期授業/Spring 18
【C0233】ジェンダー論［佐々木　一惠］春学期授業/Spring 20
【C0234】異文化間コミュニケーション［江村　裕文］秋学期授業/Fall 21
【C0237】Philosophy of the Public Sphere ［石田　安実］秋学期授業/Fall 22
【C0235】国際関係学概論Ⅰ ［小林　昭菜］春学期授業/Spring 23
【C0236】国際関係学概論Ⅱ ［小林　昭菜］秋学期授業/Fall 24
【C0241】国家と民族［中島　成久］春学期授業/Spring 25
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall 26
【C0244】宗教と社会［佐々木　一惠］春学期授業/Spring 27
【C0245】Religion and Society ［丹羽　充］春学期授業/Spring 28
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring 29
【C1001】異文化適応論［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall 30
【C0400】情報システム概論［和泉　順子、櫻井　茂明、中村　文隆］秋学期授業/Fall 31
【C0410】メディア情報基礎［大嶋　良明、甲　洋介、米倉　明男］秋学期授業/Fall 32
【C0420】ネットワーク基礎［金　勇、大嶋　良明、松田　裕幸］春学期授業/Spring 33
【C0432】メディア表現法［大嶋　良明］秋学期授業/Fall 34
【C0439】メディアアートの世界［大嶋　良明］春学期授業/Spring 36
【C0433】プログラミング言語基礎［佐藤　雅明］春学期授業/Spring 37
【C0434】仮想世界研究［甲　洋介］春学期授業/Spring 38
【C0437】社会とデータサイエンス［和泉　順子］秋学期授業/Fall 39
【C0300】世界の言語Ⅰ ［奥石　哲哉］春学期授業/Spring 40
【C0302】世界の英語［小中原　麻友］春学期授業/Spring 41
【C0303】言語の理論Ⅰ ［石川　潔］春学期授業/Spring 43
【C0304】言語の理論Ⅱ ［石井　創］秋学期授業/Fall 44
【C0305】社会言語学［塩田　雄大］秋学期授業/Fall 45
【C0306】応用言語学［川﨑　貴子］春学期授業/Spring 46
【C0500】英語コミュニケーションⅠ ［アンドリュー・ジョーンズ］秋学期授業/Fall 47
【C0501】英語コミュニケーションⅠ ［アンドリュー・ジョーンズ］秋学期授業/Fall 48
【C0502】英語コミュニケーションⅠ ［ジョナサン・エーブル］秋学期授業/Fall 49
【C0503】英語コミュニケーションⅠ ［ジョナサン・エーブル］秋学期授業/Fall 50
【C0504】英語コミュニケーションⅠ ［マーク・フィールド］秋学期授業/Fall 51
【C0505】英語コミュニケーションⅠ ［ラスカイル・ハウザー］秋学期授業/Fall 52
【C0506】英語コミュニケーションⅠ ［ラスカイル・ハウザー］秋学期授業/Fall 53
【C0510】英語コミュニケーションⅡ ［アンドリュー・ジョーンズ］春学期授業/Spring 54
【C0511】英語コミュニケーションⅡ ［アンドリュー・ジョーンズ］春学期授業/Spring 55
【C0512】英語コミュニケーションⅡ ［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring 56
【C0513】英語コミュニケーションⅡ ［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring 57

【C0514】英語コミュニケーションⅡ ［マーク・フィールド］春学期授業/Spring 58
【C0515】英語コミュニケーションⅡ ［ラスカイル・ハウザー］春学期授業/Spring 59
【C0516】英語コミュニケーションⅡ ［ラスカイル・ハウザー］春学期授業/Spring 60
【C0520】英語コミュニケーションⅢ ［アンドリュー・ジョーンズ］春学期授業/Spring 61
【C0521】英語コミュニケーションⅢ ［アンドリュー・ジョーンズ］春学期授業/Spring 62
【C0522】英語コミュニケーションⅢ ［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring 63
【C0523】英語コミュニケーションⅢ ［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring 64
【C0524】英語コミュニケーションⅢ ［マーク・フィールド］春学期授業/Spring 65
【C0525】英語コミュニケーションⅢ ［ラスカイル・ハウザー］春学期授業/Spring 67
【C0526】英語コミュニケーションⅢ ［ラスカイル・ハウザー］春学期授業/Spring 68
【C0530】英語アプリケーションⅠ ［ジョナサン・エーブル］秋学期授業/Fall 69
【C0531】英語アプリケーションⅡ ［Kregg　Johnston］春学期授業/Spring 70
【C0532】英語アプリケーションⅢ ［ウォルター　カズマー］春学期授業/Spring 71
【C0533】英語アプリケーションⅣ ［ウォルター　カズマー］春学期授業/Spring 73
【C0534】英語アプリケーションⅤ ［ジョナサン・エーブル］春学期授業/Spring 75
【C0535】英語アプリケーションⅥ ［ラスカイル・ハウザー］春学期授業/Spring 77
【C0536】英語アプリケーションⅦ ［アンドリュー・ジョーンズ］秋学期授業/Fall 78
【C0537】英語アプリケーションⅧ ［リービ　英雄］秋学期授業/Fall 79
【C0538】英語アプリケーションⅨ ［マーク・フィールド］秋学期授業/Fall 80
【C0539】英語アプリケーションⅩ ［ラスカイル・ハウザー］秋学期授業/Fall 81
【C0580】ドイツ語コミュニケーションⅠ ［アネッテ・グルーバー］秋学期授業/Fall 82
【C0585】ドイツ語コミュニケーションⅡ ［ウテ・シュミット］春学期授業/Spring 83
【C0590】ドイツ語コミュニケーションⅢ ［アネッテ・グルーバー］春学期授業/Spring 84
【C0595】ドイツ語アプリケーション［林　志津江］春学期授業/Spring 85
【C0596】ドイツ語アプリケーション［辻　朋季］春学期授業/Spring 86
【C0597】ドイツ語アプリケーション［ウテ・シュミット］秋学期授業/Fall 87
【C0610】フランス語コミュニケーションⅠ ［カレンス・フィリップ］秋学期授業/Fall 88
【C0615】フランス語コミュニケーションⅡ ［大中　一彌］春学期授業/Spring 89
【C0620】フランス語コミュニケーションⅢ ［カレンス・フィリップ］春学期授業/Spring 90
【C0625】フランス語アプリケーション［ジョルディ・フィリップ］春学期授業/Spring 91
【C0626】フランス語アプリケーション［ジョルディ・フィリップ］秋学期授業/Fall 92
【C0627】フランス語アプリケーション［コンルール　ジョルジュ］春学期授業/Spring 93
【C0628】フランス語アプリケーション［ジョルディ・フィリップ］秋学期授業/Fall 94
【C0640】ロシア語コミュニケーションⅠ ［コベルニック　ナディヤ］秋学期授業/Fall 95
【C0645】ロシア語コミュニケーションⅡ ［コベルニック　ナディヤ］春学期授業/Spring 96
【C0650】ロシア語コミュニケーションⅢ ［コベルニック　ナディヤ］春学期授業/Spring 97
【C0655】ロシア語アプリケーション［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 98
【C0656】ロシア語アプリケーション［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall 99
【C0670】中国語コミュニケーションⅠ ［蒋　彧婷］秋学期授業/Fall 100
【C0675】中国語コミュニケーションⅡ ［薬　会］春学期授業/Spring 101
【C0680】中国語コミュニケーションⅢ ［蒋　彧婷］春学期授業/Spring 102
【C0685】中国語アプリケーションⅠ ［曽　士才］秋学期授業/Fall 103
【C0688】中国語アプリケーションⅡ ［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 104
【C0687】中国語アプリケーションⅢ ［周　重雷］春学期授業/Spring 105
【C0686】中国語アプリケーションⅣ ［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 106
【C0700】スペイン語コミュニケーションⅠ ［ピエダッド・ガルシア・ルイス］秋学期授業/Fall 107
【C0705】スペイン語コミュニケーションⅡ ［ピエダッド・ガルシア・ルイス］春学期授業/Spring 108
【C0710】スペイン語コミュニケーションⅢ ［ピエダッド・ガルシア・ルイス］春学期授業/Spring 109
【C0715】スペイン語アプリケーション［ピエダッド・ガルシア・ルイス］春学期授業/Spring 110
【C0716】スペイン語アプリケーション［ピエダッド・ガルシア・ルイス］春学期授業/Spring 111
【C0720】スペイン語アプリケーション［ピエダッド・ガルシア・ルイス］秋学期授業/Fall 112
【C0721】スペイン語アプリケーション［ピエダッド・ガルシア・ルイス］秋学期授業/Fall 113
【C0740】朝鮮語コミュニケーションⅠ ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 114
【C0745】朝鮮語コミュニケーションⅡ ［梁　禮先］春学期授業/Spring 115
【C0750】朝鮮語コミュニケーションⅢ ［富所　明秀］春学期授業/Spring 116
【C0755】朝鮮語アプリケーション［梁　禮先］春学期授業/Spring 117
【C0756】朝鮮語アプリケーション［梁　禮先］秋学期授業/Fall 118

【C0770】情報コミュニケーションⅠ ［甲　洋介］春学期授業/Spring 119
【C0771】情報コミュニケーションⅡ ［大嶋　良明］春学期授業/Spring 120
【C0772】情報コミュニケーションⅢ ［稲垣　立男］春学期授業/Spring 122
【C0773】情報アプリケーションⅠ ［重定　如彦］秋学期授業/Fall 123
【C0774】情報アプリケーションⅡ ［和泉　順子］秋学期授業/Fall 124
【C0800】こころの科学［甲　洋介］春学期授業/Spring 125
【C0802】こころとからだの現象学［森村　修］秋学期授業/Fall 126
【C0801】ゲーム構築論［重定　如彦］春学期授業/Spring 127
【C0810】道具のデザイン学［甲　洋介］春学期授業/Spring 128
【C0813】情報セキュリティとプライバシー［和泉　順子］秋学期授業/Fall 129
【C0814】文化と生物［島野　智之、岡西　政典、川上　裕司、黒沼　真由美］秋学期授業/Fall 130
【C0815】文化と環境情報［島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、松崎　素道］秋学期授業/Fall 131
【C0820】文化情報空間論［甲　洋介］秋学期授業/Fall 132
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理［大嶋　良明］春学期授業/Spring 133
【C0830】コネクション・デザイン［川村　たつる］秋学期授業/Fall 135
【C0831】情報の編集論［川村　たつる］春学期授業/Spring 136
【C0832】文化情報の哲学［森村　修］春学期授業/Spring 137
【C0833】ソーシャル・プラクティス［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 138
【C0852】サブカルチャー論［島田　雅彦］春学期授業/Spring 139
【C0438】道具による感覚・体験のデザイン［甲　洋介］春学期授業/Spring 140
【C0860】マルチメディア表現法［大嶋　良明］春学期授業/Spring 141
【C0861】メディア表現ワークショップ１［稲垣　立男］春学期授業/Spring 143
【C0862】メディア表現ワークショップ２［島田　雅彦］秋学期授業/Fall 144
【C0864】五感共生論［川村　たつる］秋学期授業/Fall 145
【C0871】写真論［丹羽　晴美］秋学期授業/Fall 146
【C0872】映像と文学［林　志津江 ］秋学期授業/Fall 147
【C0880】演劇論［竹内　晶子］春学期授業/Spring 149
【C0883】空間デザイン論［前田　尚武］オータムセッション/Autumn Session 150
【C1000】比較表象文化論［竹内　晶子］秋学期授業/Fall 151
【C1011】異文化と身体表現［深谷　公宣］春学期授業/Spring 152
【C0850】パフォーマンスの美学［森村　修］秋学期授業/Fall 153
【C0854】現代美術論［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 154
【C0900】世界の中の日本文学［岩川　ありさ］春学期授業/Spring 155
【C0901】世界の中の日本語［リービ　英雄］秋学期授業/Fall 156
【C1021】日英翻訳論［リービ　英雄］春学期授業/Spring 157
【C0910】中国の文化Ⅰ（現代中国社会）［曽　士才］春学期授業/Spring 158
【C0912】中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 159
【C0913】中国の文化Ⅳ（中国語の構造）［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 161
【C0915】中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）［野村　英登］春学期授業/Spring 162
【C0916】中国の文化Ⅶ（近代文学）［張　文菁］春学期授業/Spring 163
【C0917】中国の文化Ⅷ（現代文学）［張　文菁］秋学期授業/Fall 164
【C0918】中国の文化Ⅸ（中国俗文学）［鈴木　靖］春学期授業/Spring 165
【C0919】中国の文化Ⅹ（歴史）［張　玉萍］秋学期授業/Fall 166
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）［神谷　丹路］春学期授業/Spring 167
【C0921】朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）［内山　政春］秋学期授業/Fall 168
【C0930】アフロ・アジアの文化［江村　裕文］春学期授業/Spring 169
【C0932】ロシア・東欧の文化［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 170
【C0941】ドイツ語圏の文化Ⅱ ［林　志津江 ］春学期授業/Spring 171
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 172
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall 174
【C0945】スペイン語圏の文化Ⅰ ［久木　正雄］春学期授業/Spring 175
【C0946】スペイン語圏の文化Ⅱ ［久木　正雄］秋学期授業/Fall 176
【C0950】カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）［ヴィラ・ラケル］春学期授業/Spring 177
【C0951】カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）［ヴィラ・ラケル］秋学期授業/Fall 178
【C0952】カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）［ヴィラ・ラケル］春学期授業/Spring 179
【C0953】カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）［ヴィラ・ラケル］秋学期授業/Fall 180
【C0961】英語圏の文化Ⅱ（思想史）　［マーク・フィールド］秋学期授業/Fall 181

【C0962】英語圏の文化Ⅲ（現代事情）［粟飯原　文子］春学期授業/Spring 182
【C0963】英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）［須藤　祐二］秋学期授業/Fall 183
【C0964】英語圏の文化Ⅴ（文学と社会 B）［北　文美子］秋学期授業/Fall 184
【C0965】英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）［中和　彩子］春学期授業/Spring 185
【C0966】英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）［輿石　哲哉］春学期授業/Spring 186
【C0967】英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）［輿石　哲哉］秋学期授業/Fall 188
【C0970】Structure of English ［輿石　哲哉］春学期授業/Spring 189
【C0968】History of English ［輿石　哲哉］秋学期授業/Fall 191
【C0902】世界とつながる地域の歴史と文化［髙柳　俊男］春学期授業/Spring 193
【C1052】実践社会調査法［松本　悟］春学期授業/Spring 195
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall 196
【C1040】国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）［松本　悟］春学期授業/Spring 197
【C1049】途上国経済論［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 198
【C1020】間文化性研究翻訳論［熊田　泰章］春学期授業/Spring 199
【C1050】多文化社会と人間［加藤　丈太郎］春学期授業/Spring 200
【C1041】国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））［松本　悟］秋学期授業/Fall 202
【C1043】人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）［曽　士才］秋学期授業/Fall 203
【C1045】人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）［木村　健二］秋学期授業/Fall 204
【C1047】国際関係研究Ⅲ（地域紛争とエスニシティ）［中島　成久］秋学期授業/Fall 205
【C0923】国際関係研究Ⅴ（東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学）［中島　成久］秋学期授業/Fall 206
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 207
【C1054】Cultural Dimension of American Foreign Relations ［佐原　彩子］春学期授業/Spring 208
【C1103】情報文化演習［春学期担当：佐藤　雅明，秋学期担当：和泉　順子］春学期・秋学期/Spring・Fall 209
【C1100】情報文化演習［大嶋　良明］春学期・秋学期/Spring・Fall 210
【C1101】情報文化演習［甲　洋介］春学期・秋学期/Spring・Fall 213
【C1102】情報文化演習［重定　如彦］春学期・秋学期/Spring・Fall 214
【C1104】情報文化演習［島野　智之］春学期・秋学期/Spring・Fall 216
【C1105】情報文化演習［森村　修］春学期・秋学期/Spring・Fall 217
【C1106】表象文化演習［稲垣　立男］春学期・秋学期/Spring・Fall 219
【C1108】表象文化演習［岩川　ありさ］春学期・秋学期/Spring・Fall 221
【C1107】表象文化演習［種田　元晴］春学期・秋学期/Spring・Fall 223
【C1109】表象文化演習［島田　雅彦］春学期・秋学期/Spring・Fall 224
【C1110】表象文化演習［深谷　公宣］春学期・秋学期/Spring・Fall 225
【C1112】表象文化演習［竹内　晶子］春学期・秋学期/Spring・Fall 226
【C1114】表象文化演習［林　志津江 ］春学期・秋学期/Spring・Fall 227
【C1116】言語文化演習［江村　裕文］春学期・秋学期/Spring・Fall 229
【C1121】言語文化演習［大西　亮］春学期・秋学期/Spring・Fall 230
【C1118】言語文化演習［衣笠　正晃］春学期・秋学期/Spring・Fall 232
【C1115】言語文化演習［輿石　哲哉］春学期・秋学期/Spring・Fall 234
【C1119】言語文化演習［佐々木　直美］春学期・秋学期/Spring・Fall 236
【C1120】言語文化演習［佐藤　千登勢］春学期・秋学期/Spring・Fall 237
【C1111】言語文化演習［鈴木　靖］春学期・秋学期/Spring・Fall 239
【C1122】言語文化演習［栩木　玲子］春学期・秋学期/Spring・Fall 241
【C1113】言語文化演習［廣松　勲］春学期・秋学期/Spring・Fall 243
【C1123】言語文化演習［前川　裕］春学期・秋学期/Spring・Fall 245
【C1124】言語文化演習［リービ　英雄］春学期・秋学期/Spring・Fall 247
【C1117】国際社会演習［粟飯原　文子］春学期・秋学期/Spring・Fall 248
【C1126】国際社会演習［中山　寛子］春学期・秋学期/Spring・Fall 249
【C1127】国際社会演習［大中　一彌］春学期・秋学期/Spring・Fall 250
【C1128】国際社会演習［春学期担当：桐谷　多恵子，秋学期担当：熊田　泰章］春学期・秋学期/Spring・Fall 251
【C1129】国際社会演習［佐々木　一惠］春学期・秋学期/Spring・Fall 253
【C1130】国際社会演習［曽　士才］春学期・秋学期/Spring・Fall 254
【C1131】国際社会演習［髙柳　俊男］春学期・秋学期/Spring・Fall 255
【C1132】国際社会演習［中島　成久］春学期・秋学期/Spring・Fall 257
【C1133】国際社会演習［松本　悟］春学期・秋学期/Spring・Fall 258
【C1060】インターンシップ事前学習［中島　成久、廣松　勲］春学期授業/Spring 260

BSP100GA

国際文化情報学入門

大嶋　良明、林　志津江 、輿石　哲哉、大中　一彌

配当年次／単位：**1 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**1 年生全体を 2 クラスに分割する**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『国際文化情報学入門』は各コースの担当教員によるオムニバス講義です。今年度の担当は下記の 4 名です。
情報文化コース：大嶋良明
表象文化コース：林志津江
言語文化コース：輿石哲哉
国際社会コース：大中一彌
国際文化学部の学生として身につけてもらいたい基本的な知識を捉え、学生各自が在学中に共通に必要となる「文化を学ぶ考え方」を理解するための講義です。私たちの学部では文化を『情報文化』『表象文化』『言語文化』『国際社会』の 4 つの面から捉えようとしており、それぞれの分野を専門とする 4 人の教員が担当します。

【到達目標】
「情報文化」は、現代の都市型社会において「情報」こそが我々の思考や生活の基盤であるとの立場から、情報の生成、編集、再構成と文化の伝達や人間と情報のかかわりについて今日的な話題から学ぶ。
「表象文化」は、主に人間の知覚と創造行為の関連、創造行為のプロセスとメディアの関連を学びながら、幅広い知の視点の獲得を目指すとともに、研究対象とその方法を選ぶための初歩的な議論を導入します。「表象文化＝芸術に関する知識のインプットではない」こと、創造行為と日常の間にあるもの、表象文化と言語の結びつきについて、思考できるようになるのが目標です。
「言語文化」では、国際文化学部生として知っておいて欲しい言語に関する基本的な知識を学ぶ。外国語学習のコツを、英語を題材にしながら考えていく。基本的なレファレンス類の使い方、大学での外国語の学び方、日々の情報の収集法等について、具体的に考える。併せて、他の 3 分野とのインターフェースについて学ぶ。
「国際社会」では、現代の世界における国家間・集団間の諸問題を文化的な視野のなかで考える態度と方法を学びます。簡単な単語を使い、外国語が下手でも話そうとする姿勢は大事ですが、皆さんの将来にとっては、話をする時の中身が大切です。この「入門」授業では、高校までの知識を確認しながら、国際問題について考え、語るための糸口を見つけることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・1 年生全員が履修します。
・週 2 回講義があります。
・130 名程度の中教室講義 ×2 クラスでの講義です。
・出席、課題、レポート、試験等は分野ごとに課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体のガイダンスを合同授業で実施する。
2	【A グループ】第 1 講（表象・国際） 【B グループ】第 1 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：ヨーロッパ・ルネサンスと遠近法の確立 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
3	【A グループ】第 2 講（表象・国際） 【B グループ】第 2 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 2 回） 情報：情報の定義と多文化情報空間 表象：印象派と産業革命 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかり使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
4	【A グループ】第 3 講（表象・国際） 【B グループ】第 3 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 3 回） 情報：情報の地図、カルトグラム 表象：造形／図像から応用化学／写真へ 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
5	【A グループ】第 4 講（表象・国際） 【B グループ】第 4 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 4 回） 情報：サインとピクトグラム 表象：モーツァルトと淡いナショナリズム 言語：大学での外国語学習、小テスト 1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
6	【A グループ】第 5 講（表象・国際） 【B グループ】第 5 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 5 回） 情報：映像が伝える情報 表象：交響曲と「私」を語るための音楽 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう） 国際：明治２０年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
7	【A グループ】第 6 講（表象・国際） 【B グループ】第 6 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 6 回） 情報：言語と情報 表象：グラモフォン・フィルム・マイクロフォン 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト２ 国際：国際関係論への基本的な構え
8	【A グループ】第 1 講（情報・言語） 【B グループ】第 1 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：ヨーロッパ・ルネサンスと遠近法の確立 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
9	【A グループ】第 2 講（情報・言語） 【B グループ】第 2 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 2 回） 情報：情報の定義と多文化情報空間 表象：印象派と産業革命 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかり使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
10	【A グループ】第 3 講（情報・言語） 【B グループ】第 3 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 3 回） 情報：情報の地図、カルトグラム 表象：造形／図像から応用化学／写真へ 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
11	【A グループ】第 4 講（情報・言語） 【B グループ】第 4 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 4 回） 情報：サインとピクトグラム 表象：モーツァルトと淡いナショナリズム 言語：大学での外国語学習、小テスト 1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
12	【A グループ】第 5 講（情報・言語） 【B グループ】第 5 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 5 回） 情報：映像が伝える情報 表象：交響曲と「私」を語るための音楽 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう 国際：明治２０年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
13	【A グループ】第 6 講（情報・言語） 【B グループ】第 6 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 6 回） 情報：言語と情報 表象：グラモフォン・フィルム・マイクロフォン 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト２ 国際：国際関係論への基本的な構え
14	まとめ	合同授業による総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各コースの授業において予習復習、課題、文献講読などが課されるので毎回の授業の後にかならずこれらの学習活動を行ってください。また大学での最初の科目授業であり、担当ごとの授業スタイルの違いもあるので、学習方法そのものに早い時期に慣れる必要があります。学習支援ハンドブックをはじめ、各教員の指示によくしたがって学習を進めてください。
*****
（表象）授業内で触れた作品に触れるとともに、「国立美術館キャンパスメンバーズ」制度を活用し、首都圏各地の美術館・展覧会を訪問してください。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書は用いませんが、必要な文献等に関しては、それぞれの分野ごとに必要に応じて指示します。

【参考書】
担当教員それぞれが開講時ないし授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
各分野の点数配分をそれぞれ 25%とし、それを合計する。内訳は（　）のとおり。
情報文化＝ 25%（平常点 10%, 試験 15%）
表象文化＝ 25%（毎授業提出のレビュー課題が主体の平常点 15 %、学期末課題 10 %）

言語文化＝ 25%（小テストで 25%、欠席は原則的に認めず、減点の対象となるので留意のこと）
国際社会＝ 25%（レポート成績（任意）、小テスト、授業への貢献、その他の 4 項目で、各 25 %)

【学生の意見等からの気づき】
大人数の必修の授業となるので、円滑な運営が行えるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する

【その他の重要事項】
・学年全体を 2 クラスにわけて授業を行ないます。
・どちらのクラスも週 2 回授業があります。
・自分がどちらのクラスに該当するか必ず確認してください。

【Outline and objectives】
There are two objectives of this course taught by four instructors from the four subfields of intercultural studies:
A. You should become acquainted with the basic ideas and concepts which are necessary for intercultural studies.
B. You should begin to develop a framework of learning cultures other than your own, on the basis of which you can start to conduct your own research.

BSP100GA

チュートリアル

担当教員はガイダンス時に指示

配当年次／単位：**1 年／ 1 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校から大学に移行するための初年次教育として、基礎的なアカデミックスキルの習得をめざす。
「読み書き」に重点をおき、図書館の利用法、文献の検索法、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、授業を受けるにあたっての心構えなどについて指導する。

【到達目標】
・板書を写し取るだけでなく、授業の内容を自分の言葉でまとめたノートをとれるようになる。
・図書館のサイトを用いて、必要な文献や論文を集めることができるようになる。
・先行文献の知見をきちんと注の形で明記し、正しい日本語と真っ当な論理を用いた論文を書くことができるようになる。
・聞き手とコミュニケーションをとりながら、口頭で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
レポート題材の絞り方、文献探し、アウトライン執筆、草稿執筆、完成稿執筆、口頭発表、質疑応答など、順々に学びながら実践していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業説明。大学生活をいかに過ごすか。図書館案内。
第 2 回	文章の読解	要約の仕方
第 3 回	課題の絞り方	文献検索の方法 アウトラインの書き方
第 4 回	アウトライン	論文の組み立て方
第 5 回	レポートの書き方	相互添削指導
第 6 回	レジュメの作り方	口頭発表の仕方
第 7 回	学生プレゼンテーション	質疑応答の方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期を通じて一つのレポートを完成させるため、毎週課題が出ます。授業支援システムに期日までに必ず提出すること。

【テキスト（教科書）】
学習支援ハンドブック
授業内配布物

【参考書】
授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
a. 授業参加　30%
b. 課題提出　40%
c. 口頭発表　30%
通常の科目と異なり、P（合格）または F（不合格）で評価される。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Students will learn basic academic skills for higher education, such as those of note taking, library research, academic writing, and oral presentation.

BSP200GA

国際文化情報学の展開

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設された科目である（ただし必修ではない）。科目の目的は、「入門」で導入した国際文化情報学への理解をさらに発展させることであり、そのためにオムニバス形式を交えた講義形態で、様々な学術活動や業務の実践を通じての「展開」に接することで理解を深める。分野横断的な科目の特性を堅持しつつ、今年度は「教育と情報」、「デザインの実践」、「文化研究の理論」、「電脳社会」といずれも文化情報学と深く関連するテーマのもとで講義を行う。今年度の全体コーディネーターは、大嶋良明が担当する。

【到達目標】
入門科目で学修した国際文化情報学の枠組み的思考が、学術研究のみならず実社会での実践活動にも活かされていることを理解する。Study Abroad での文化研究やその振り返り、演習での各自の学術的活動に資する横断的視野を入門科目より一段高い水準で形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本科目はいわゆるオムニバス授業である。 テーマ領域として「教育と情報」「デザインの理論と実践」「文化研究の理論」「電脳空間」を取り上げ、各 2 名または 3 名の講師がそれぞれの専門性にもとづき講義を担当する。毎回の講義は各講師の方針に沿って運営するが、科目担当者へのリアクションペーパー、および e ポートフォリオもしくは授業支援システムへの蓄積により学修内容を可視化することで理解を深化させる。
予定されている講師と各テーマ（仮題も含まれる）については、授業計画を参照する。初回講義で科目オリエンテーションを行い担当日程表を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（担当：大嶋）	科目内容のガイダンスを行う。e ポートフォリオの仕組みを理解し、学修支援のプラットフォームとしての準備作業を行う。
2	国際文化情報学とその展開領域（担当：大嶋）	入門科目での国際文化情報学の学修内容からの発展、展開科目としての領域の広がりを理解する。
3	教育と情報（１）：　情報教育の今日（担当：御園生純）	情報教育の今日的な問題点について学ぶ。これまでの情報教育と政策の思想性や政治性について批判的に取り上げ、自立し自律した市民に求められるものはなにかを論じる。
4	教育と情報（２）：メディアリテラシー（担当：坂本旬）	多様なメッセージを批判的に読み解き、創造し、コミュニケーションし、行動する能力としてのメディアリテラシーの概念を学ぶ。
5	教育と情報（３）：学修内容の可視化　（担当：佐々木健太）	学修とは何か、学修内容を振り返り、学修成果を可視化すること、その支援のプラットフォームについて ePortfolio を中心に学ぶ。
6	デザインの理論と実践（１）：メディア・アートの大衆化 (担当：堀宏行)	文化情報の実践として、AR/MR/VR やプロジェクションマッピングなどによるメディア・アートの大衆化とその今日的な状況を論じる。
7	デザインの理論と実践（2）：UX(担当：中村麻由)	文化情報の実践の場として、UX(User Experience) デザインの理論と戦略を学ぶ。
8	デザインの理論と実践（３）：アート・プロジェクト（担当：遠山昇司）	文化情報の実践の場として、現代芸術の中でのアートプロジェクトの企画、運営のあり方を学ぶ。
9	前半のまとめ、文化情報の日常（担当：大嶋）	振り返りに基づくグループワークで学習内容の総括を行う。前半のまとめとして、文化情報の日常的実践としての Maker ムーブメント、Tinkering を紹介する。
10	文化研究の理論（１）：芸術論（担当：廣松勲）	文学研究における「社会的なもの」の扱いに注目し、フランス語圏カリブ海域文学を中心に論じる。
11	文化研究の理論（２）：批判的分析（担当：岩川ありさ）	近現代文学、文芸批評、ポピュラー・カルチャー、クィア・スタディーズ、サブカルチャーなどの研究関心領域から主題を選び批判的分析を行なう。
12	電脳社会の理論（１）：クラウドサービスとオープンデータ（担当：重定如彦）	オープンデータ活用やインバウンド支援のサービスプラットフォームを人工知能との関連を交えて論じる。
13	電脳社会の理論（２）：ポストヒューマン（担当：森村修）	電脳社会の到来にすでに予言されていたポストヒューマンを取り上げて論じる。
14	まとめ（担当：大嶋）	まとめ授業およびグループワークにより学修内容を総括する。同時に e ポートフォリオ上の関連コンテンツを再構成し学修成果の可視化を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義内容に関する振り返り、自分なりの問いかけが重要となる。リアクションペーパーを有効に活かすための授業外の活動、それを支援する ICT もまた本科目の重要な論題のひとつであり、まさに枠組み的思考としての文化情報学の理論と実践となる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
各回の講義担当者が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加 10%
リアクションペーパー 20%
中間課題 10%
グループワーク　 20%
学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
文化情報学とは何かという問いかけに応えるべく、その展開領域の広さとその有機的な繋がりを、**実社会で文化情報の理論と実践をいかして活躍する講師陣との協働**により、より身近に実感し共有できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、タブレット、PC など日常的な ICT の活用で十分である。むしろニーズによる適切で有効な使い分け（すなわち脱スマホ依存）が重要である。

【その他の重要事項】
【文化情報を語る OBOG 講師陣（五十音順）】
佐々木健太（教育工学研究者、英語科・情報科担当教員）
法政大学国際文化学部卒業。法政大学国際文化研究科多文化情報空間研究領域にて ePortfolio 研究、グローバル人材育成の一環として ePortfolio(HOPS) の基盤システム開発に貢献、修了後は法政大学国際高校にて英語科・情報科担当講師。
遠山昇司（映画監督、プロデューサー）
法政大学国際文化学部卒業。早稲田大学国際情報通信研究科（GITS）修士課程にて安藤紘平氏に師事。修了後は「NOT LONG, AT NIGHT -夜はながくない-」で監督デビュー。「マジックユートピア」(丹修一共同監督) がアンカレッジ国際映画祭、ヒューストン国際映画祭審査員特別賞を受賞、「冬の蝶」がテヘラン国際短編映画祭グランプリ受賞。映画監督としての活動と並行して様々なアートプロジェクトなどの企画・プロデュースを手がけ、「赤崎水曜日郵便局」「鮫ヶ浦水曜日郵便局」「ポイントホープ」のディレクター等を務める。2018 年に「さいたま国際芸術祭」ディレクター就任。
中村麻由（UX デザイナー、インタラクションデザイナー）
法政大学国際文化学部卒業。SONY PCL 勤務を経てロンドン芸術大学 London College of Communication 修士課程留学、修了後はロンドンにてデザインオフィス ustwo に勤務、UX デザインのプロジェクトに従事、現在に至る。
堀宏行（プログラマ・テクノロジスト）
法政大学国際文化学部卒業。情報科学大学院大学（IAMAS）修了後、ライゾマティクスなどでエンジニアとして活躍。数々のプロジェクトを手がけたのち 2015 年に独立。テクノロジーとクリエイティブによる地域の課題解決をめざす。2017 年に汎株式会社を設立、共同代表。

【Outline and objectives】
This course is the sophomore level development of informatics framework in the liberal arts context, which provides a natural extension to the introductory materials covered in the freshman lecture series. The course will cover the four major subject areas of "Education and Informatics", "Theory and Practice in Design", "Theory on Contemporary Issues", and "Cyber Society" in omnibus lecture series.

COT200GA

ディジタル情報学概論

重定　如彦

サブタイトル：**ディジタル社会を生き抜くための基礎知識**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。
ディジタル情報化社会、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。
この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることをめざす。
情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】
ディジタルとは何かについて理解する。
ディジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。
ディジタル情報化社会及び、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解する。
現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するため、教科書である「ディジタル情報学概論」の内容をもとにディジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。
授業の前半ではディジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。
具体的にはまず「ディジタルとは何か」から始まり、ディジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、ディジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。
次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうディジタル技術について解説する。
各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに授業支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。
おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とディジタル	ディジタルとは何か 情報の符号化 ディジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛生を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6 回	ディジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	ディジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型ディジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、ディジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 ディジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、ディジタルマップと GIS	3 次元 GC ディジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する Power Point の資料（授業支援システムで配布する）

【参考書】
奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/
にいくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %
「評価基準」
平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。
レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。
期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。

【学生の意見等からの気づき】
「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。
また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】
PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline and objectives】
Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

PRI200GA

統計処理法

竹内　広宜

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることはけっして容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】
・確率の計算方法を理解する
・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
・データを解釈する方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。観測したい現象を数値データとして表現し、統計的な道具立てを使って分析するための基礎となるものです。
　数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと確率の基礎 1	授業の進め方についての説明、確率の定義
第 2 回	確率の基礎２	場合の数
第 3 回	確率の基礎 3	場合の数の実践
第 4 回	確率１	確率の計算
第 5 回	確率２	確率計算の実践
第 6 回	統計の基礎 1	データの整理
第 7 回	統計の基礎 2	代表値
第 8 回	統計の基礎 3	分散と標準偏差
第 9 回	２次元データの分析 1	散布図と相関係数
第 10 回	２次元データの分析 2	回帰分析
第 11 回	確率分布 1	確率変数と期待値
第 12 回	確率分布 2	二項分布
第 13 回	確率分布 3	正規分布
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的に、新聞・テレビ・インターネットなどを通してデータを含んだニュースや記事にふれておくこと。

【テキスト（教科書）】
作成した資料を使って行います。

【参考書】
講義中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に不定期に実施する小テストと期末試験の結果を元に総合的に評価します。目安としては、小テスト 30%、期末試験 70%となります。

【学生の意見等からの気づき】
理解が進むよう、実例をできるだけ多く紹介するようにします。
また、毎回開始時に前回の授業で理解が難しかった箇所を簡単に振り返ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義時間で演習を行います。演習では計算を行いますので電卓などを持参するようにしてください。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn following topics
- Probability
- Data visualization
- Basic statistics
- Method to interpret results of data analytics

HUI200GA

システム論

甲　洋介

サブタイトル：**人と社会を理解するもう一つの視点**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
システムは、あなたの身近にある
私たちは、たくさんの「システム」に囲まれながら日々を生活しています。たとえば...　朝起きて **SNS** で友だちとつながり、**家族**に挨拶し、**キッチン**で朝食つくるのは面倒なので**コンビニ**で買って**電子マネー**で支払い、**自動運転のライドシェア**で近くまで移動し、**大学の講義**に出る...
私たちに身近なこれらはすべて、何らかの目的を果たすため全体がうまく機能するように人間が体系的に組み立てたもの、つまり広い意味で「システム」です。
家族や、社会制度もシステム？　世の中をシステムから捉えるといろいろな事が見えてくる
そして人間が作ったモノだけでなく、それを作り出す**人間社会そのものも一種のシステム**なのです。たとえばサッカーチームを考えてみましょう。システムの考え方に立つと、重要なのは、チームを構成する個々の要素が強力であるだけは不十分なことに気づきます。むしろ互いが巧みに関係し合いながら、全体としてうまく機能するように発想して行動すること、が重要となります。このように考えると、「システムの考え方」が、世界における**国際関係を視る視点**として、今とくに大切なことが分かるでしょう。
社会にはシステムがさまざまな形で埋め込まれています。そして、常にその姿を変えています。それを発見することは面白い。なぜなら、それは、人間が暮らし方を工夫してきた足跡そのものだから。
「システムという考え方」を身につける
本講義では、世の中の身近な題材を取り上げ、一見複雑そうに見える事柄や仕組みを、「システムというものの見方」を用いて、自分で系統立てて捉え直すことができるようになります。

【到達目標】
あなた、または社会が直面する一見複雑に見える問題に対して：
・それはどのような要素からなっているか
・その本質は何か、何を目的としているのか
・複数の要素間の相互関係はどうなっているか
・どのようにすれば解決に近づくことができるか
など、システムの考え方を用いて、複数の視点を組み合わせながら問題を検討・分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導くまでの道筋を、理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、概ね以下の流れに沿って展開されます。
・前回の小課題の解説、質問応答、ディスカッション（約 15 分）
・講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65 分）
・小課題による練習（20 分）
講義と授業中の小課題を組み合せ、それを繰り返すことで、到達目標に向けた練習を積むことができます。授業中の討議を通じて，他者の多様な意見を認めつつ自らのオリジナルな考えを導けるようになり，それを他者が理解できるよう論理的に説明する練習をします。期末レポート等でその成果を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方
第 2 回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか，基本的な考え方を身近な例で説明する
第 3 回	暮らしの中のシステム	人の暮らしには、実に様々なシステムがあふれています。それらには、人間が暮らし方を工夫してきた歴史が残っている
第 4 回	システムの考え方の基本、幾つかの視点の使い方を、練習する	複雑そうに見える物事を、要素に分け、要素の間の関係性に目を向け、その挙動にどのような目的があるか考えてみる　〜社会現象はどのぐらい予測（不）可能か？
第 5 回	システムの信頼性を高める	故障しないモノはないが、システムの信頼性を高め、リスクを軽減する工夫はできる。システムの挙動をコントロールする技法。
第 6 回	人間の行為をシステムの視点から理解する　〜生体から個体レベルまで	人間の行為は「選択」の連続です。一見気まぐれのように見える人間の行為に規則性があるのでしょうか。考え方を説明します
第 7 回	人と道具のシステム論	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう　－文房具から宇宙旅行まで
第 8 回	社会というシステム　〜個人の視点から社会へ	社会を理解するのは複雑に見える。社会をどのように捉えるか。入門としてパーソンズの考え方を紹介する
第 9 回	社会のシステム論 (1)　－ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を軸とした社会システム論で知られる、ルーマンの考え方を説明する
第 10 回	社会のシステム論 (2)　－コミュニケーションの連鎖	ルーマンは，社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか、コミュニケーションの連鎖というキーワードから迫る
第 11 回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	よりよい社会を実現するための人間の創意工夫と試行錯誤の軌跡としての、システム
第 12 回	都市計画、コミュニティ、地域計画	人の住まう場としての都市、地域コミュニティにおける生活を、システムとして再検討する
第 13 回	システムダイナミクス	複雑な社会システムを理解する道具としてのシステムダイナミクス。要素間の相互作用の表現方法を解説し、社会現象に対する多様な見方を提示する
第 14 回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ課題の解説、視点の提示、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の復習を踏まえ、小課題を出します。提出には主に授業支援システムを用います。
・社会システムの理解に向けて、日頃から新聞やニュースにある身近な社会問題の背景について自分なりの考察をする習慣（復習）が役に立ちます。

【テキスト（教科書）】
講義資料を提示、またはプリントを配布．テキストは使用しません．

【参考書】
・知恵の樹 — 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】
・小レポートと，授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %），
・期末レポートまたは期末試験（40 %）
で総合的に評価します。
小課題，期末レポートのいずれも，基本事項の理解とそれを用いた的確な記述、多角的な検討、自分なりの答えを導くまでの論理性、が評価の上で重要です。

【学生の意見等からの気づき】
「込み入った話になると理解できなかった」と意見がありました．分かりやすい例示を増やそうと思います．できる限り、講義内容をどのように捉えてほしいかを説明するようにします．

【関連科目】
直接的には「道具のデザイン」「文化情報空間論」。国際社会コース、表象文化コースの専門科目とも関連しています。

【Outline and objectives】
This class allows you to learn basic principles of "System" theory. Each of you is expected to re-examine some social issues by performing "System thinking".

FRI200GA

文化情報学概論

森村　修

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**情報倫理学**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。
2019 年度は「**コミュニケーションってなに?!**」というテーマで、様々な学問からアプローチして、「コミュニケーション」の問題を考えていきます。その際に、先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を追究します。彼は民俗学者であり、精神医学研究者であり、情報理論家であり、動物行動学者であり、とにかく知の鬼才です。本科目では、彼の『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000」を読解する中で、「人と人（自分と他人、親と子ども、など）から、人と動物、人と人工物などのあいだのコミュニケーションの問題を考えていきます。
そこから次に、「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討しつつ、「文化情報学」から見た「コミュニケーション」という問題を考えていきます。
【授業の意義】
本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」という問題を検討することによって、「異文化コミニュケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方で「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】
・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間や人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	1. ベイトソン紹介 2.『精神の生態学』概要
第 3 回	『精神の生態学』読解 (1)	関係の力学から文化の総体を見る
第 4 回	『精神の生態学』読解 (2)	芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	『精神の生態学』読解 (3)	人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る
第 6 回	『精神の生態学』読解 (4)	イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	『精神の生態学』読解 (5)	コミュニケーションの発生と進化を考察する
第 8 回	21 世紀日本の「コミュニケーション」とは何か (1)	"コミュ障"とコミュニケーションを考える
第 9 回	21 世紀日本の「コミュニケーション」とは何か (2)	ディスコミュニケーションの実態を追跡する
第 10 回	21 世紀日本の「コミュニケーション」とは何か (3)	コミュニケーションの壁は高いか低いか
第 11 回	21 世紀日本の「コミュニケーション」とは何か (4)	「大人は判ってくれない」のは本当か
第 12 回	脳科学からみる「コミュニケーション」——孤独と共感 (1)	私たちの共感は、どのような脳の働きによるのだろうか
第 13 回	脳科学からみる「コミュニケーション」——孤独と共感 (2)	助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよね——でも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。

【テキスト（教科書）】
・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】
・G. ベイトソン『精神の生態学』改訂第 2 版、新思索社、2000 年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・ F. ガタリ「三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008 年

【成績評価の方法と基準】
試験に加え、小テストなどを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断します。
期末試験（80 %）・小テスト（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
新規科目なので、なし

【その他の重要事項】
「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。それは、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。
また、私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。
本科目の発展した科目として、「文化情報の哲学」があります。この科目は、「文化情報」を人間の生物学・生理学・医学（解剖学）的な脳と、文化や社会の産物としての「こころ」との関係を犯罪の側面から考えていきます。このような立場を「神経犯罪学」と言います。

【注意点】
大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline and objectives】
This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2019, we will consider the question of "**What is Communication?!** " and we will examine the problems of "communication".

FRI200GA

情報産業論

鏡 明彦

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報産業の現状と展望
～国内外の放送サービスを通して今の情報産業を見つめ、将来を展望する～
「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支えるＩＴ産業が飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないといえる。しかし、情報を伝える手段が変わっても、情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得=デジタルリテラシーの醸成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな通信メディアの進展と物との繋がりが広がる IoT や AI ともに、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？　それらのメディアの進展を展望するのも本授業のテーマとする。

【到達目標】
・グローバル視点でのメディア動向把握とその中の個の重要性理解
・アナログからデジタルに移行した TV メディアの変遷の理解
・インターネットの進展に伴う IT 産業の理解
・放送と通信が連携しているメディアサービスの理解
・放送メディアが目指しているサービスの理解
・AI や IoT をはじめとする様々な新情報サービスの理解
・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
・各種マスメディアの今後の展望についての理解
・国内外のメディア動向の理解
・国が進める施策の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的に、プロジェクターを使用してＰＣでのスライドや動画を活用しながら授業を進める。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介する。現在、自身の仕事でデジタル TV 事業のサービス開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げて、皆さんの意見を聞きながら授業を進める。毎回、授業最後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とする。また、毎年 5 月末に開催される NHK 放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開の場を持ち出し授業として見学会を催し、スーパーハイビジョン（8K）やダイバースビジョン、インテグラル立体等の最新放送技術やサービスに触れる機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷やトレンドについて触れる
第 2 回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明を行う。その中で、放送法についても触れる
第 3 回	放送局のコンテンツビジネス	NHK オンデマンドや Web サービス、データ放送、ハイブリッドキャスト、同時再送信を通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する
第 4 回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES2018（家電の国際見本市）の展示内容からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第 5 回	海外の放送業界のトレンド	NAB2018（全米放送機器展）の展示内容からピックアップして、放送業界に関する最新情報を紹介
第 6 回	NHK 技研の一般公開内容の紹介（事前予習）	NHK 放送技術研究所の一般公開の見学会（土曜日）に向け、事前に展示内容について説明し、当日の理解の参考とする
第 7 回	技研公開見学（この週は土曜日に持ち出し授業を行い、翌週の火曜日は休講）	5 月末に開催される NHK 放送技術研究所を見学し、最新放送技術とサービスを体感。見学した結果をレポートにまとめて翌々週の授業までに提出。成績に反映。
第 8 回	放送メディアの今後	欧米の国際見本市や技研公開を通して感じた潮流について、メディアサービスの状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第 9 回	多様なネットサービスについて	欧米の国際見本市や技研公開を通して感じた潮流について、ネットサービスやビッグデータなどの情報活用や、ドローン、Uber など個人に直接繋がるサービスの可能性について 5G も含め考える
第 10 回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebook などに代表されるソーシャルメディアによる放送メディアへのインパクトを検証
第 11 回	多様化する端末の UI、AI、IoT について	スマート化する端末やそれに搭載される UI（ユーザインターフェース）や AI、さらに物等への搭載が進む IoT について考える
第 12 回	情報化の光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得られる情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？ について考える
第 13 回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介
第 14 回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。

【テキスト（教科書）】
特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）

【参考書】
テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 6 割、レポート 4 割で評価。レポート提出は必須。レポート提出は 2 回で、NHK 放送技術研究所の一般公開見学の感想レポートと 7 月最後の授業で出題するテーマに関するレポート。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解して自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果となったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義の最後に、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えて理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業を行う予定。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will look at the information industry based on the transmission path (broadcasting, communication), using the services of broadcasting contents both in Japan and abroad, and grasp the current state of various media services. And we will look into the future. Based on the Internet environment, what kind of impact will the development of personal communication media represented by smart terminals, IoT and AI have on broadcasting, newspapers, and magazines of the conventional mass media? I also think about the progress of those media.

FRI200GA

ネット文化論

神戸　雅一

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。
本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。
本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】
日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義では、ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。
毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。
期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じる試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ネットビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
14	ネットワーク時代の情報システムの価値	ネットワーク化した情報システムが、どのように価値を付加し人々の生活を変えるのかについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマをを紹介します。各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持つことを期待します。ネット文化に関係するニュースや Web サイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】
講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。
1.　期末試験または期末レポート： 70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。
2.　平常点： 15%
講義への関心、参加度を評価し平常点とします。
3.　ミニレポート 15%
毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義終了時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的に声をかけてください。

【Outline and objectives】
This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”
Evolution of internet with computers, smart phones and other information technologies makes change our life style rapidly. We live in “information network society” supported by lots of internet technologies. You need to think essences of “information network society” continually and act independently for trends of modern world. This course deals with history of computers, internet, smart phones and these applications. It also distributes economy, decision making, intellectual properties, and privacy to estimate how to make smart decisions in everyday life. Internet technologies are changing our life style. Domains of this course are changing constantly. Internet technologies cause not only merits but also demerits for our lives. This course objects are to analyze and discuss about many social issues in our world.

ART200GA

表象文化概論

稲垣　立男、竹内　晶子、林　志津江 、森村　修

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「表象文化」とは芸術諸ジャンルを指す総称である。文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの作品群を研究の対象とし、その表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、それらが内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが、「表象文化論」である。ここでは、4 つの分野を扱いつつ、表象文化論の基礎教養を履修者に身につけてもらうことになる。

【到達目標】
この講義は、「国際文化情報学入門」の「表象文化コース」の次段階となる。この講義を聴いたうえで、または聴きつつ、表象文化コースの各専門科目でさらに踏み込んだ研究をすることが望ましい。
表象文化に関する全般的な知識を身につけた上で、各自の関心のある領域で専門研究が進められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
初回は担当教員 4 名全員が、それぞれの講義について解説する。
その後、4 人が 3 回ずつ講義をおこなう。
学期末の試験では 4 分野からそれぞれ出題される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について語る。
第 2 回	舞台表現論 I ：声	声が舞台上で持つ力について考察する。
第 3 回	舞台表現論 II ：所作	舞台上の所作と現実の所作は何が違うのか。記号学的に考察する。
第 4 回	舞台表現論 III ：日本演劇	日本演劇の特徴を、西洋演劇との比較を通じて考察する。
第 5 回	視覚文化論 (1)	・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』・『写真小史』読解 ・ロラン・バルト『明るい部屋』読解
第 6 回	視覚文化論 (2)	・『視覚論』（Vision and Visuality）検討
第 7 回	視覚文化論 (3)	レフ・マノヴィッチと「視覚文化論」——インスタグラムと視覚文化論
第 8 回	文人画とコンセプチュアルアート（1）：文人画、コンセプチュアルアートについて	江戸時代の美術様式である文人画と 1960 年代のコンセプチュアルアートと比較し考察する。
第 9 回	文人画とコンセプチュアルアート（2）：芸術の様々な実験	文人画の主な画家の制作についての解説と、20 世紀から現代までの美術の概念と様々な実験との比較・考察。
第 10 回	文人画とコンセプチュアルアート（3）：ワークショップ	文人画、コンセプチュアルアートと関連したキーワード（コンセプト、テキスト、オブジェ、空間）をテーマに実施
第 11 回	音楽と社会（1）：教育と音楽	歌が「愛」を表現する・「国歌」を歌いたい国民・アンサンブルと合唱の真実
第 12 回	音楽と社会（2）：音と響の印象	音が作り出すイメージ・YMO と「日本」・音楽のオリエンタリズム？
第 13 回	音楽と社会（3）：快感に訴える	「愛国ソング」の系譜・音楽とアイデンティティ・そして J-POP？
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各担当教員が指示する。

【テキスト（教科書）】
学期を通して用いるテキストはとくになし。各担当教員が講義時に指示する。

【参考書】
各担当教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、期末試験の合計。評価基準は平常点 30 %、期末試験 70 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
担当者交代のため、該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、静止画像および動画を用いる。
資料配布等で、授業支援システムを利用する場合がある。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスにかならず出席すること。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できない。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもありうる。

【Outline and objectives】
This is an introductory course on the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, photography, art, and music. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

DES200GA

メディアと情報

君塚　洋一

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】
以下 3 点を目標とする。
1）身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
2）環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
3）メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、音楽などの具体的な素材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。
また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。
テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアの特性とコミュニケーション	メディアとは何か？　さまざまなメディアのかたちを見る
第 3 回	コミュニケーションをとらえるさまざまなモデル	伝達モデルと共有モデル、関係モデル、交話モデル、M. マクルーハン等
第 4 回	何がメディアの情報となるのか？	情報の特性：最近の「ニュース」を事例に
第 5 回	参加型課題（予定）	これまでの授業の理解、および関連文献の要約とコメント等
第 6 回	メディアが現実・経験をつくる-1	言語・メディアが世界を「構成」する：ピクチャレスク・ツーリズムなどを事例に
第 7 回	メディアが現実・経験をつくる-2	メディア・リテラシーによる批評と分析：メディア表現の内容分析などを事例に
第 8 回	メディアが現実・経験をつくる-3	メディア文化とノスタルジー
第 9 回	参加型課題（予定）	これまでの授業の理解、およびメディア表現の鑑賞と評価等
第 10 回	市場情報システムとメディア表現-1	マーケティング戦略と広告表現：シャンプー CM などを事例に
第 11 回	市場情報システムとメディア表現-2	商品開発と宣伝の仕事
第 12 回	市場情報システムとメディア表現-3	メディア・クリエイターの仕事
第 13 回	ポストモダン社会とメディア、情報	ポストモダンとは、記号の引用と操作、情報倫理
第 14 回	まとめ・筆記試験	前期のふりかえり・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につけてみる。
2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手 (媒体社、広告会社等) の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
3）前半の 1 回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースを書き出し、持ち寄って授業の題材とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用しない。

【参考書】
有馬哲夫『世界のしくみが見える「メディア論」』宝島社（宝島新書）、2007 年
ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義――メディオロジーから情報社会へ』　書籍工房早山、2010 年
鈴木みどり編『Study Guide　メディア・リテラシー　入門編』リベルタ出版、2000 年
竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1・2』北樹出版、2005 年
若林直樹・白尾隆太郎編著『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年
山田奨治編著『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート（3 回程度：約 30 %）および筆記試験（約 70 %）

【学生の意見等からの気づき】
メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。
毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。
また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】
本科目は、講義、授業内課題、筆記試験の 3 つで成り立つ。授業の理解や発展学習のため、授業内課題を 3 ～ 4 回課し、受講者による発表の機会を設ける。テーマについて高い関心をもち、積極的な発言と活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline and objectives】
Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

ART200GA

社会と美術

稲垣　立男

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「社会と美術」では、特に 21 世紀に入り大きなテーマとなっている社会と芸術との関係に焦点を当てていきます。みなさんがあまり接したことのない新しい美術の世界についての見方や考え方に触れるきっかけとなる入門的な内容の講義科目です。
現代美術を中心に、パフォーミングアーツ、音楽、建築などの多様な表現の世界についての事例から芸術と社会との接点や関係について学びます。
・芸術史と理論
・社会と美術
・様々なメディア
・表現の現場
という 4 つのテーマで講義を進めます。毎回の講義の冒頭には最新の展覧会やライブ、アーティストの情報などを紹介します。

【到達目標】
・芸術史と理論
この科目を学ぶ上での基礎となる近現代の芸術史と理論について学びます。
・社会と美術
アーティストの制作の現場をめぐる講義です。アーティスト達はどのようにアイディアを展開し作品を制作するのか、その過程を探ります。また実際に発表された作品をめぐる社会への影響や問題について多角的に分析します。
・様々なメディア
社会や時代を映す鏡としてのメディアと芸術表現との関係について、具体例を交えながら学びます。
・表現の現場
多様化する劇場や美術館、またオルタナティブな表現の現場について考察します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
スライドでの講義と映像資料による鑑賞が中心ですが、講義内容に関連したレポートを毎回書いてもらいます。レポートを書くことで、それぞれのテーマについてより深く考察することを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 社会と美術について	講義内容/教科書・参考書/評価基準について
2	芸術史と理論 1 近代美術について 19 世紀～第二次世界大戦前の美術	印象派、フォービズム、キュビズム、未来派・ダダ、シュルレアリズム、構成主義、デ・スティル、バウハウス
3	芸術史と理論 2 戦後の美術～ 1970 年代の美術	抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート、
4	芸術史と理論 3 1980 年代～現在	新表現主義、YBA、関係性のアート、ソーシャルエンゲージド・アート
5	社会と美術 1 社会の枠組みと美術	サリー・マン、ロバート・メイプルソープ、蔡國強、ロバート・スミッソン、アイ・ウェイウェイ
6	社会と美術 2 個と社会が触れ合う	ダミアン・ハースト、草間彌生、ハンス・ハーケ、赤瀬川原平
7	社会と美術 3 体感する美術	ゴードン・マッタ・クラーク、中谷芙二子、クリスト・川俣正
8	様々なメディア 1 新しい建築	伊東豊雄、レム・クールハース、フランク・ゲーリー
9	様々なメディア 2 わたしを記録する メディアとしての写真	ソフィ・カル、シンディ・シャーマン、森村泰昌 ソフィ・カル、杉本博司、他
10	様々なメディア 3 現代音楽と美術	アルノルト・シェーンベルク、ジョン・ケージ、スティーブ・ライヒ、坂本龍一
11	表現の現場 1 美術館・国際展とキュレーター	ハラルド・ゼーマン、ジャン・ユベール・マルタン、ハンス・ウルリッヒ・オブリスト
12	表現の現場 2 ギャラリー、オルタナティブスペース	アーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブ
13	表現の現場 3 パフォーマンス/パフォーミングアーツの現場	ヴァト・アコンチローリー・アンダーソン、ヨゼフ・ボイス、マリーナ・アブラモビッチ
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・美術を学ぶには、実際の作品鑑賞することがとても重要になります。
・美術館やギャラリーなどでなるべく多くの作品に触れてください。

【テキスト（教科書）】
・毎回授業内容に関連した資料を配布します。
・授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】
『社会の芸術/芸術という社会—社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルムアート社、2016 年
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで　世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年
高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002 年
辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】
平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。
1. 平常点（50%）
2. 授業内レポート（25%）
3. 試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】
美術を学ぶためには、体験的かつ分析的な物の見方が必要でしょう。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】
This course studies experientially about the world of unique and diverse expressions such as contemporary art, music, architecture. Each lecture will focus on the relationship between society and artistic expression. Introductory lectures will be given the opportunity to learn the way of thinking and to think about the world of art that has never been touched so far.

ART200GA

メディアと社会

稲垣　立男

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**席数を超えた場合選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。
メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

【到達目標】
授業では、過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
「現代メディア史」「メディアと社会」「メディアと表象」の 3 つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
・メディアの歴史
　古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。
・メディアと社会
　社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。
・メディアと表象
　メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。
毎回の授業の最後に、講義の内容に関するレポートを書くことになります。また授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容 教科書・参考書 評価基準など
2	メディアの歴史 —文字の誕生—	文字の誕生とその発達の歴史について
3	メディアの歴史 —活字と文化—	活字（印刷）の発明と近代文化に与えた影響について
4	メディアの歴史 —ヘルベチカ—	映像資料視聴。 書体 “ヘルベチカ” の秘密に迫る
5	メディアの歴史 —ネットワークと社会—	パーソナルコンピューターの普及とリンクして、1990 年代後半から爆発的な発展を遂げたインターネットの歴史について
6	メディアと社会 —マスメディアと報道・チョムスキー—	国内外のメディアや地域や国によっての報道の違いなどについて
7	メディアと社会 —企業とメディア・—	映像資料視聴。 インターネットでの音楽ファイル共有ソフト・ナップスターの登場など、iPod が社会現象を巻き起こした時代背景とともに商品ヒットの要因を読み解く
8	メディアと社会 —子どもとメディア・デジタルネイティブ以降—	現代の子どもをとりまくメディア環境の変化その問題点について。
9	メディアと社会 —地域とメディア—	地域社会を取り巻くメディアの役割と課題
10	メディアと表象 —メディアとアバンギャルド—	モダンアートと新しいメディア
11	メディアと表象 —メディアとしての建築—	建築とメディア、デザインとメディアについて
12	メディアと表象 —多様化するメディア—	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
13	メディアと表象 —メディアと料理— —メディアとクリスマス—	料理をめぐるメディア論 日本におけるクリスマスについて
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に様々なメディアに接して、体験的に学ぶことが大事です。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容についてのプリントを配布します。

【参考書】
マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987 年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための 15 話』有斐閣、2004 年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 (50%)
2. 授業毎に行う授業内レポート (25%)
3. 試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】
メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して課題を提出してもらう可能性があります。

【その他の重要事項】
初回のオリエンテーションに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】
We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.
This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

ART200GA

身体表象論

深谷　公宣

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**定員 60 名。それを超えたら選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどういうことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】
・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
・人間の情動と身体運動の関係性を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。抜き打ちで小テストを行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。
2	絵画における身体（1）	ヨーロッパ中世から現代における絵画の身体表現について考える：ダ・ヴィンチ、ボッティチェリ、ラファエロなど。
3	絵画における身体（2）	ヨーロッパ近代・現代における絵画の身体表現について考える：マネ、スーラ、ドガなど。
4	彫刻における身体	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考え、日本の仏像との比較を試みる：ミケランジェロ、ベルニーニなど。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える：スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える：シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える：アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える：アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映像における身体運動の表現法について技術的・理論的に考える。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える：小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	西洋近世以降の服飾の歴史的変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	日本の服飾の歴史的変遷を振り返る。
13	身体表象再考	これまでの講義で得た知見を活かし、ファッション CM を読み解く。
14	試験	記述式の期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
小林康夫『表象文化論講義　絵画の冒険』（東京大学出版会）
諸川春樹他『彫刻の解剖学ードナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
西村清和『視線の物語　写真の哲学』（講談社メチエ）
森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
蓮實重彦『監督　小津安二郎　〔増補決定版〕』（ちくま学芸文庫）
柳田國男『明治大正史　世相篇』（講談社学術文庫）
鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO 出版）
ダムタイプ『メモランダム　古橋悌二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%: 当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
小課題 30 %：学期中に適宜課す小テストまたは小レポートを通し、それまでの講義の理解度を評価。
期末試験 40 %：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing human body from a social perspective.

PHL200GA

現代思想

森村　修

サブタイトル：**なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？**
配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。
2019 年度は、イタリア人思想家・アクティヴィストのフランコ・ベラルディ（ビフォ）の『大量殺人の “ダークヒーロー” ―なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？』（作品社、2017）（Franco ’Bifo’ Beradri, Heros:Mass Murder and Suicide, 2015 ）を取り上げる。同書は、「大量殺人と自殺」というテーマで、「なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？」という問いについて、心理・社会・経済・政治的背景を踏まえて、哲学的に考察している。
そこで本授業では、自分たちがどのような危機的環境に置かれているかを客観的に考察し、現代社会の〈病理〉を思想的に分析することを目的とする。
本科目は、前期科目「文化情報の哲学」と密接に連関している。履修する学年に制約があるが、積極的に「文化情報の哲学」を受講することが望ましい。

【到達目標】
（1）フランコ・ベラルディのテキストを検討すること、私たちが国家や資本主義によって収奪され、暴力的に自己破壊に向かわざるを得ない現実を把握し直すことができる。と同時に、国家権力や資本主義から自らの生を取り戻すための抵抗の戦略を「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができる。
（2）本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、リアクションペーパーを用いる等して、受講生の考えを聞くことも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要説明
2	なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？	・フランコ・ベラルディとは誰か？
3	人間を死に追いやる現代資本主義社会	・現代資本主義分析
4	オーロラ銃乱射事件	・資本主義における「動員」
5	ヨケラ高校銃乱射事件	・新自由主義と社会ダーウィニズム
6	ヴァージニア工科大学銃乱射事件	・弱さと暴力
7	現代資本主義社会における “犯罪”	・絶対資本主義と犯罪
8	ノルウェー連続テロ事件	・アイデンティティの確認という脅迫観念
9	マクベラの洞窟虐殺事件	・殉教と自殺
10	アメリカ同時多発テロ、ロンドン英兵惨殺事件など	・心理的・精神的搾取と精神病理 ・戦争 PTSD
11	横浜浮浪者襲撃事件、引きこもりなど	・自殺と引きこもり
12	最も自殺の多い国の希望――ソウルへの旅	・自殺症候群
13	何もなせることがないときに、何をなすべきか？	・ディストピア的アイロニー
14	まとめ	・メディア・アクティヴィスト的パラダイム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に、基本的なテキストを読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
フランコ・ベラルディ『大量殺人の “ダークヒーロー” ――なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？』（作品社、2017）
Franco ’Bifo’ Berardi, *Heroes: Mass Murder and Suicide*, Verso, 2015.

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①期末レポート（80 %）
②平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず、政治哲学や政治思想などに興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. 前期科目「文化情報の哲学」と密接に関わっているので、履修可能な学年に制約があるが、積極的に、両科目を受講することが望ましい。哲学・思想の修得は、半期では短すぎることを肝に命ずるべきである。
3. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
4. 万が一、受講生数が多い場合は、選抜も考えている。そのため、第 1 回目の授業には必ず参加すること。初回に参加しない場合は、登録できない可能性もある。

【Outline and objectives】
The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about "origin" and "essence" of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the "thought of modern trends" simply.
Therefore, in this class in 2019, we aim at objectively considering what kind of crisis environment we are in, and aim at ideological analysis of < pathology > of modern society.

LIT200GA

言語文化概論

衣笠　正晃

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、20 世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】
1）テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
2）言語（ことば）と文化・社会との密接なかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
3）学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
各回とも、出席者がテキストおよび事前配布資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。
授業形式は講義が中心となりますが、皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。またグループに分かれてのディスカッションや復習を兼ねたミニレポートの提出をおこなってもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説と履修意図の確認＋ことばから文化・社会を捉える視点（テキスト第 1 章）
2	19 世紀から 20 世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第 2 章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第 4 章）
5	ことばとしての文化 (1)	ヤコブソン、レヴィ＝ストロースと構造主義革命（テキスト第 5 章）
6	ことばとしての文化 (2)	バルトと一般記号学（テキスト第 5 章）
7	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第 7 章）
8	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第 8 章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業 (1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第 9 章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業 (2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第 10 章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第 13 章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第 14 章）
13	まとめ	学期授業内容の確認・総括（テキスト第 15 章）
14	学期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配布資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までにまとめ、授業内に提出すること。

【テキスト（教科書）】
・石田英敬『現代思想の教科書――世界を考える知の地平 15 章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010 年）
※上記テキスト以外にも随時プリントを配布・使用します。

【参考書】
・岡本裕一朗『フランス現代思想史――構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015 年）
・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014 年）
※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50 %）をあわせて評価します。
評価にあたっては以下の 4 点の達成度にもとづいて判断します。
1）テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
2）思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
3）授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
4）授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】
・テキストや資料について具体的な事例をつうじた解説を心がけ、履修者による主体的な問題発見・取り組みにつながるようにしたい。
・リアクションペーパーでの質問や意見、感想をクラス全体に還元するだけでなく、クラス規模を考慮しながら、出席者による議論や意見交換の機会をできるだけ取り入れたい。

【その他の重要事項】
・クラス規模などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。
・配布資料として英語資料を用いることがあります。
・授業妨害行為（私語、携帯電話の使用、歩き回りなど）にはきわめて厳しく対処します。この点が理解できない人はこの授業を履修しないでください。

【Outline and objectives】
In this class, we will outline the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn" on the humanities, and think about how to confront the issues of the contemporary world.

LIT200GA

比較文化

前川　裕

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が世界の中で他者とのコミュニケーションを行なう力を育成する観点から、欧米人による英文の日本文化論や日本文学の英訳をテキストとして読みながら、日本人の発想と欧米人の発想の相違を比較し、文化の多様性および異文化コミュニケーションの意義について考察する。同時に、学生は英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化を理解し、日本文化を世界に発信するもっとも有効な方法を比較文化論的視野から発想する習慣を身につけ、授業内におけるディスカッションを通して、それを実践する。

【到達目標】
学生が「文化とは何か？」という問いに対する、歴史的な議論の流れを辿り、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を踏まえた上で、文化を比較することの意味を理解できるようになることを目標とする。学生は比較文化論的な方法論を身につけ、授業内におけるディスカッション等を通して、世界の中で他者とコミュニケーションを行える能力を涵養することを目指す。また、そういう歴史的理解を基礎として、現代の異文化コミュニケーションの現状を理解し、自らも他の国々の人々と積極的に交流できるようになることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式と演習形式の併用によって進められる。学生諸君のグループによって、発表してもらうこともある。せまい意味での文化研究ではなく、文学作品や映画を通して、浮き彫りにされる各時代の文化的諸相の理解が望まれる。また、映像を通して見る大衆文化も中心的な研究テーマの一つとなるため、映画撮影の現場を訪れ、映画制作を体感してもらうこともあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	比較文化論の方法	学生が世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できるようになるために、比較文化研究の歴史においてどのような方法論が採られてきたかを概説する。具体的には、比較文化研究において用いられる「比較」(comparison) や「対比」(parallel) とはいかなる概念かを説明する。また、文化の静態性・動態性などの用語を用いながら、近年のあらたな方法論の展開も紹介する。
2	「比較」と「対比」のケーススタディー（ディスカション①）	前回の授業を受けて、学生に「比較」と「対比」の例を具体的に挙げてもらい、欧米と日本の文化を比べるとき、どのような点に注意すべきかをディスカッションしてもらう。 また、欧米から日本に来た留学生等が日本文化のどんな点に欧米文化と似たものを見い出せるかを語ってもらい、それが「比較」なのか「対比」なのかを検証する。それによって、多様な文化的背景を持つ世界の人々が日本社会・文化をどのようなものとしてみなしているかを考え、異文化コミュニケーションの重要性を明らかにする。
3	ルース・ベネディクト『菊と刀』を見る。（ディスカション②）	日本文化研究の古典とみなされる『菊と刀』の内容を英語原文で紹介し、「罪の文化」(guilt culture) と「恥の文化」(shame culture) という概念の功罪について論ずる。さらに、ＳＡで英語圏に留学した日本人学生等に自己体験を語ってもらい、ベネディクトの見解が現在においても有効であるかについて検証する。それに対して欧米系の留学生やアジア系の留学生等がどう考えるのかを意見聴取し、ディスカッションを行なう。このように、歴史的な研究書を学ぶと同時に、異文化に属する現在の人間がそれに対してどんな意見を持っているのかを具体的に知ることにより、文化の多様性や異文化コミュニケーションの意義を考察する。
4	義理と忠・孝（ディスカッション③）	ベネディクトが特に注目した「義理」という概念が、日本社会のなかでどのように機能してきたかについて論ずる。それは儒教道徳として中国から伝わった忠・孝とは異なる日本で発達した独自の概念であることを明確にし、東洋においても西洋とは異なる微妙な文化的差異が存在すること認識し、文化の多様性という言葉の重要性を考察する。また、アジア系の留学生が日本の義理という考え方をどのようにみなしているのか意見聴取し、義理が本当に日本独自のものであるかをディスカッションする。
5	ベネディクトの再評価	ダグラス・ラミスやクリフォード・ギアーツなどの諸説を紹介しながら、『菊と刀』の現代的意味を考える。さらに、こういう過去の歴史的著作を分析することによって、異文化コミュニケーションの現状や可能性についても言及する。
6	翻訳論	表示義 (denotation) および共示義 (connotation) などの翻訳に関連する基本的用語を紹介しながら、翻訳とは単に「言葉の移植」ではなく「文化の移植」であることを明らかにする。飜訳を通して、言語が媒体する文化の多様性を分析し、異文化コミュニケーションの可能性を考察する。
7	日本近代文学の英訳研究（１）樋口一葉『たけくらべ』	『たけくらべ』の英訳 Growing Up を用いながら、表示義的翻訳と共示義的翻訳を具体的に検証し、その功罪について論ずる。『たけくらべ』のような特殊な文化的背景を持つ文学作品を、まったく違った文化環境に置かれた西洋の人々に発信する際の異文化コミュニケーションの難しさについても言及し、それを克服するための課題についても論じる。
8	日本近代文学の英訳研究（２）川端康成『雪国』	『雪国』の英訳 Snow Country において、川端の曖昧な文体が翻訳者エドワード・サイデンステッカーによってどう翻訳されたかを紹介し、翻訳の本質について論じる。文化の多様性という枠組みの中で、フェミニズムやジェンダー論に基づく『雪国』の西洋的解釈が異文化コミュニケーションの意義にどうのように貢献するかも考察する。
9	日本近代文学の英訳研究（３）芥川龍之介『地獄変』	『地獄変』の英訳 Hell Screen を取り上げ、飜訳において言語構造の差異だけでなく、文化に基づく身体的行動の差異も、飜訳にどう影響するかを考察する。具体的には、クライマックスにおける鳥の行動が、原文と英訳でどのように異なっているかを紹介し、その理由を分析する。異文化理解が単に言語的問題ではなく、人間の身体的行動にも関連することを考察する。
10	アメリカの歴史と文化（ディスカッション④）	1853 年、浦賀にペリーが来航して以来、「鎖国」が終わりを告げ、日本近代化の苦難の歴史が始まるが、それとほぼ同じ時期の 19 世紀中庸、アメリカがどのような状況にあったのか、特に移民国家アメリカがどのように成立したか等について、南北戦争やイギリスの産業革命の影響などを紹介しながら考察する。また、現実にそういう移民国家に住む留学生等にアメリカの現状と問題点を語ってもらい、日本人学生とディスカッションしてもらう。

11	イギリスの歴史と文化	ダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(Robinson Crusoe)（1719）を紹介し、その英語原文を読みながら、イギリス人の心性（マンタリテ）について、比較文化論的に考察する。また、この作品が「経済学」や「社会学」のテキストとして使われることがある理由を解説し、イギリスの歴史と文化の特徴を分析し、イギリス人が「大陸」と呼ぶフランスなどのヨーロッパ大陸の国々との文化的差異も検証する。同時に、イギリスと「大陸」の異文化コミュニケーションがどのように行なわれてきたかも概説する。
12	文化の均質化（１）	トルーマン・カポーティーの『冷血』(In Cold Blood) を取り上げ、事実が虚構を越える近・現代社会においては、言語・人種による差異は縮小し、無機質な同質性が東西文化の特徴となる現象について考察する。つまり、文化の多様性が意味を失い、異文化理解・交流という概念自体が希薄になるのは何故かについて論じる。
13	文化の均質化（２）（ディスカッション⑤）	欧米の言語が大量に流入し、世界共通のインターネット社会が成立することによって、文化の均質化が進み、各国の文化がどのように変容していくかを、異文化理解・交流という視座から検証し、ディスカッションを行なう。また、欧米諸国に逆輸入された日本語の具体例を挙げ、文化の均質化が bilateral な関係によって成立することを検証する。
14	比較文化研究の最新の動向および授業内試験と解説	それまでの講義内容を総括し、さらには、最新の比較文化研究の動向にも触れ、比較文化研究の将来について考察し、同時に異文化コミュニケーションの重要性について再確認する。その上で授業内試験を行い、試験終了後、出題ポイントを解説し、これまでの授業の総まとめを行う。定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書は必ず読んで、授業に出席しなければならない。課題図書は、日本近代文学英訳作品など多岐に渡る。

【テキスト（教科書）】
あらかじめし指定するテキストはない。テーマに応じて、読むべき参考書を指定する。

【参考書】
ルース・ベネディクト『菊と刀』（光文社新訳古典文庫、2008）
ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』（岩波文庫改訂版、2012）

【成績評価の方法と基準】
講義ノートのみ持ち込み可の授業内試験 (１００％)。

【学生の意見等からの気づき】
大人数授業のため、板書が見にくくなりがちであるので、講義を整理したプリントの配布回数を増やしたい。学生アシスタントを有効に活用し、配布時間の改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生が用意すべき情報機器は特になし。

【その他の重要事項】
配布プリントはあくまでも、講義の補助的な役割をするものですから、プリントだけ取りに来ても意味がないことを、学生諸君は自覚してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help the students compare Japanese thinking with Western and understand a variety of cultures and the significance of cross-cultural communication through reading English essays on Japanese culture by Westerners or works of Japanese literature translated into English. The students are also expected to learn the history, society, and culture of English-speaking countries and acquire the cross-cultural view from which they can think of and discuss various issues with people from different cultures.

GDR200GA

ジェンダー論

佐々木　一惠

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】
１．ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
２．言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリニティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
・一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
・毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形で提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ② 1980 年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトゥルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティー	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった３つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	試験（１）	第一回試験
14	試験（２）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996 年）
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006 年）
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013 年）
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006 年）
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　２０％
試験（二回あるうち、必ず一回は受験すること）　８０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度も授業の中で受講生の皆さんに意見を述べてもらったり、また小さなディスカッションを行って頂く予定です。

【その他の重要事項】
・受講希望者が 200 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
・授業の中で、受講者の皆さんに意見を述べてもらったり、小さなディスカッションを行ってもらうことがあります。

【Outline and objectives】
The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

LIN200GA

異文化間コミュニケーション

江村　裕文

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なった文化を背景にひきずった個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築く、というのが、外国人との交流なり異文化間コミュニケーションに対してみなさんが抱くイメージなのではないかと思う。
異文化を理解するのは、口で言うほど容易ではない。
異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどういうことが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どうしたらいいのか。自らの体験に基づきながら事例を紹介している直塚玲子の著作をテキストにして、異文化（間）が抱える諸問題に触れていきたい。

【到達目標】
異文化間の具体的な問題としてどういうことが起こるかを事例を通じて知ったうえで、自分がそういう場に遭遇した場合に、適切に対処し、問題を最小限に食い止め、可能であれば「相手」との interaction 相互作用を通じて関係を改善できるという能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講では、まず鈴木の著書にある、「文化」とは何か、についての考察をすすめて「文化」に関する理解を共通にし、その上で、日本人と (特に欧米の) 外国人がコミュニケーションをする上での諸問題について、直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』にあげられている事例や、さらに、可能であれば、上級生のＳＡ体験者からの体験談やさまざまな具体的な問題点を持ち寄りながら、討論や考察をすすめていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・テキスト紹介・報告箇所の割り当て	授業の進め方およびテキストについて解説し、テキストの報告個所について割り当てる
2	「文化」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	「欧米人が沈黙するとき」①	「私と異文化との出会い」 講読と解説
4	「欧米人が沈黙するとき」②	「この間はどうも」 －感謝の気持ちのあらわし方
5	「欧米人が沈黙するとき」③	「すみません」 －人間関係の潤滑油
6	「欧米人が沈黙するとき」④	「何もありませんが…」 －謙遜表現をめぐって 「どうぞよろしく」 －不当な義務
7	「欧米人が沈黙するとき」⑤	「プライベートな質問」 －プライバシーとは 「一杯飲みにいきませんか」 －誘い方・断り方
8	「日本人が沈黙するとき」①	「夜遅くまで、ご熱心な練習ですこと」 －苦情の述べ方 「イエスですか、ノーですか」 －婉曲表現
9	「日本人が沈黙するとき」②	「ご意見をどうぞ」 －タテマエ 「窓を開けてもいいですか」 －責任回避
10	「日本人が沈黙するとき」③	「根回し」 －時間の浪費？ 「酒とコミュニケーション」 －日本的契約
11	討論「異文化間コミュニケーション」のために	ＳＡを経験した上級生の経験を踏まえて、異文化コミュニケーションにおける問題点を共有する
12	討論「異文化間の諸問題をどう解決するか」	授業の内容を踏まえて、「異文化」をどう乗り越えていったらいいか考える
13	討論「日本文化と異文化」	自分が日本文化の体現者であるということと、異文化を理解するということにおける問題点を考える
14	討論・議論	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「テキスト」を読む時間においては、割り当てられた個所について報告準備を行い、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。
「討論」に関しては、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように情報収集等を行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは以下の二点
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店

【参考書】
授業中に適宜紹介の予定である。

【成績評価の方法と基準】
原則、「平常点」４０点、レポート６０点の合計１００点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ＳＡ体験者の上級生の体験談が聞きたいという、特に一年生からの要望が多いので、その機会をもう少し多くしたい。
「今回の課題図書を読んで国際文化学部において学ぶべきことの概観が漸く見えたように思える。これから自分の専門分野を見つける上で基礎的な視野を得ることができた。」（１年生）
「私がＳＡプログラムで直面した問題には日本人の特有さがあったということに授業・レポート作成を通して気づかされた。」（３年生）
以上は最終レポートに書かれた一部である。この授業には、学ぶ側の姿勢次第で、より豊かな学びの可能性があると確信している。

【その他の重要事項】
この授業は「コミュニケーション」の授業である。コミュニケーションが苦手な学生の積極的参加は評価するが、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢で授業に臨む、たとえばずっと寝ているとか、は教室内に存在していないと判断する。コミュニケーションは知識よりも実践である。

【Outline and objectives】
In this class, "Intercultural Communication" or "Cross Cultural Communication", we are going to treat following isues,
1 What is Culture,
2 What is Cultural differences,
3 How to be possible the Communication between different Cultures.
To know the other Cultures teach us the features of our own Culture.
In this class, we will understand the way to communicate with owners of different Cultures.

PHL200GA

Philosophy of the Public Sphere

石田　安実

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

People often think that "philosophy" is quite an old subject − and very difficult, unfortunately. It is true that philosophical questions have been discussed in rather complicated and often confusing manners since many years ago, for example, by Socrates and Aristotle in the ancient Greek period. But many philosophers believe that these questions are tightly related to our everyday life. We are surrounded by a number of philosophical issues, though we may not always be aware of their philosophical significance; philosophical issues are basically our everyday issues. But how are they related to our life?

In this course, you will discuss various philosophical topics, their in-depth meanings, and their philosophical significance, trying to find their very relevance to your life. That may help you see your surroundings, your society and the world in quite exciting and interesting ways. Out of many philosophical topics found in our daily life, we will discuss about 12 topics in class.

【到達目標】

This course provides a broad introduction to philosophical ways of thinking. The course is open to students from any disciplines, who hope to:

(1) understand some of the most fundamental philosophical topics (which include freedom, truth, and moral rightness /wrongness),

(2) be able to explain these issues in very simple everyday terms, and

(3) apply philosophical ways of thinking (reasoning) on every-day issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

· No previous philosophy courses required.
· Basic course requirements:
*Intellectual curiosity; Keen eyes on everyday-life facts and happenings;
*Respectful attitude of others' opinions (including those which you will find in readings and in the class).
· Each class will consist of 100-minutes of lecture and discussion. The class will be conducted in English.
· I appreciate interaction and exchange with you in class.
· As a final project, you are expected to submit a short paper of 700 to 1000 words at the end of the semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explaining the course
2	Lying	Is lying always wrong?
3	Morality	What does it mean to be "morally right"?
4	Relativism	Is everything relative?
5	Freedom	Are we completely free?
6	Culture vs. Nature (1)	How different are they?
7	Culture vs. Nature (2)	The idea of enhancement
8	Love	What is it?: Just a perception?
9	Perception	What do we perceive?: Is it so accurate?
10	Knowledge vs. Beliefs	What do we know?: How do we know it is true?
11	Truth, Reality	What is really true?: Truth, Reality, Dream
12	Robots and Humans	Is the Mind just the Brain?
13	Language	What does it do?: What's its role?
14	Wrap-up	Concluding remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

· I recommend that you review what you have learned after the class.
· You will have to choose your "paper topic" by the end of the semester.

【テキスト（教科書）】

· There will be no specific textbooks assigned.
· Occasionally, reading materials may be assigned and handouts will be given in class.

【参考書】

No specific books assigned. But looking into any (large size) philosophy dictionaries will be of great help.

【成績評価の方法と基準】

Basically I will assess your grade based on the way you participate in the class and your final project.

Attitude/ Participation: 40% of course grade
Final Project (a paper): 60% of course grade

* Attitude/ Participation:

I appreciate your participation in class, and would like to know your ideas and opinions. I will consider your participation as part of your grade.

You are not allowed to use cell-phones and notebook computers in class. If you get a warning twice, that will affect your grade.

*Final Project:

At the end of the semester, you will write a paper (of 700 to 1000 words) on the topic that you choose, explaining your ideas or insights. Your topic should be related to the issues studied or discussed in class.

Near the end of the semester, you will have to submit your "essay plan" that should include the title (topic) of your paper and your (tentative) conclusion described in a short paragraph (see the schedule). You will receive my comments, and then your paper plan should be reorganized or revised accordingly.

In writing your paper, you can expand your ideas by citing or referring to books and other readings, including materials from websites. In that case, you must explicitly show the sources or reference either in the footnotes or endnotes. If you copy sentences from any existing documents (again, including any writings from websites) without doing so, you will receive a "D" grade. It is important that you basically present your own view or insights, not the same ideas as described or explained in documents or on websites.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback obtained yet.

【その他の重要事項】

· *Philosophy* is different from ***a*** *philosophy*. "Philosophy" is the discipline that comprises logic, metaphysics, ethics, epistemology, etc.; on the other hand, "*a* philosophy" is a system of beliefs, concepts, or attitude of an individual or a group. Everyone has **a** philosophy of some sort, even if he/she has never read a philosophy book. **An individual's philosophy can be a subject for examination and discussion in philosophy class**.
· As I appreciate interaction and exchange with you in class, I would like to know what you think and have your feedback. So, I strongly advise that you attend all of the classes and participate in the discussions.
· No cell-phones are allowed to use in class.

【Outline and objectives】

People often think that "philosophy" is quite an old subject − and very difficult, unfortunately. It is true that philosophical questions have been discussed in rather complicated and often confusing manners since many years ago, for example, by Socrates and Aristotle in the ancient Greek period. But many philosophers believe that these questions are tightly related to our everyday life. We are surrounded by a number of philosophical issues, though we may not always be aware of their philosophical significance; philosophical issues are basically our everyday issues. But how are they related to our life?

In this course, you will discuss various philosophical topics, their in-depth meanings, and their philosophical significance, trying to find their very relevance to your life. That may help you see your surroundings, your society and the world in quite exciting and interesting ways. Out of many philosophical topics found in our daily life, we will discuss about 12 topics in class.

SOS200GA

国際関係学概論 I

小林　昭菜

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超えた場合には抽選・選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際関係とは国家と国家の関係である。私たちは国家と国家が定めた決まりや仕組みに従って行動しているし、そうしていかねばならない。例えば、外交、貿易は国家と国家の間の取り決めによって展開しているし、パスポートを持ち外国を行き来する私たちは、国家と国家の取り決めに縛られている。しかし近年の国際関係は、国家の在り方そのものを問いかけ、国家をどのように考えたらよいのかという疑問を投げかけているように思われる。本講義ではその背景にある歴史的展開を学習し、国際関係学を理解する重要さを学ぶ。

【到達目標】
①「国際関係」の構造、動態、「国際関係」をめぐる概念、理論の特徴と変化を、「国際関係」の成立から現代までのプロセスのなかで学ぶ。
②複雑に絡み合った現代国際関係の事象、問題を、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から分析、理解する。
③①、②を通じて広領域学としての国際関係学の方法論を学び、国際文化情報学に向かう基礎的な視座と方法の習得につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式。レジュメを配布するが、講義で扱うレジュメは授業支援システムにアップロードする。毎回課題を課し、その課題に対する意見を各自リアクションペーパーで回答してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、注意事項についての説明。国際関係を学習することの重要性について。
2	国際関係とは何か	国際関係が意味するもの、国際関係で何が見えてくるのか。
3	国際関係の発展	国際関係の発生から近代国際関係へ
4	国民国家とは何か	国家と民族、西欧における国民国家の成立と変遷、非西欧世界における国家と民族。
5	国民国家と国際運動	国際政治と運動、ソビエト社会主義共和国連邦とは何なのか。
6	国際関係の中にみる政治・経済の問題	民主主義の遍歴、現代世界における民主主義の問題、経済学の誕生、マルクス主義経済学の背景。
7	国際関係の中にみる社会・文化の問題	開発と福祉、個性と交流。
8	国際関係の新しいテーマ	エスノ・ナショナリズム、マイノリティの問題、国家主権の変容、地域、リージョナリズム。
9	国際関係の中の日本	近代日本、戦中戦後の日本、西欧近代文化と日本、アジアの中の近代日本。
10	国際関係論の理論的展開	歴史的、思想的な面から国際関係を問い直す
11	20 世紀の世界秩序	勢力均衡、集団安全保障、単独行動主義。
12	地球政治の展開	ウェストファリアン、フィラデルフィアン、反ユートピアン。
13	日本人の三つの 21 世紀シナリオ	日本人の見る三つのシナリオ。日本における国際政治論議の展開。
14	21 世紀日本外交路線の対立軸	長期的、地球的視野からの日本外交戦略。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した文献を読む、新聞を読むことを習慣づける。

【テキスト（教科書）】
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。
猪口孝『国際関係論の系譜』東京大学出版会、2007 年。

【参考書】
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
西川吉光『現代国際関係論』晃洋書房、2001 年。
滝田賢治、大芝亮、都留康子編『国際関係学　第 2 版』有信堂、2017 年。

【成績評価の方法と基準】
授業での積極的発言や態度、リアクションペーパーへの積極的コメントは評価対象とする（30 %）。
期末試験の出来（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心に併せて授業内容の一部変更も行う。

【Outline and objectives】
International relation(IR) is the relationship between nations. Understanding of IR is one of the key way to realize today's world. However IR has questioned what nation is and how we can think about nations. In this lecture, we will learn the background of history about IR and how IR has affected today's world.

SOS200GA

国際関係学概論Ⅱ

小林　昭菜

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超えた場合には抽選・選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期では国際関係学の総論を扱ったが、秋学期は国際関係の中にある地域社会への理解を深めていく。
国際関係とは国家と国家の関係である。私たちは国家と国家が定めた決まりや仕組みに従って行動しているし、そうしていかねばならない。例えば、外交、貿易は国家と国家の間の取り決めによって展開しているし、パスポートを持ち外国を行き来する私たちは、国家と国家の取り決めに縛られている。しかし近年の国際関係は、国家の在り方そのものを問いかけ、国家をどのように考えたらよいのかという疑問を投げかけているように思われる。本講義ではその背景にある歴史的展開を学習し、国際関係学を理解する重要さを学ぶ。

【到達目標】
①「国際関係」の構造、動態、「国際関係」をめぐる概念、理論の特徴と変化を、「国際関係」の成立から現代までのプロセスのなかで学ぶ。
②複雑に絡み合った現代国際関係の事象、問題を、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から分析、理解する。
③①、②を通じて広領域学としての国際関係学の方法論を学び、国際文化情報学に向かう基礎的な視座と方法の習得につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式。レジュメを配布するが、講義で扱うレジュメは授業支援システムにアップロードする。毎回課題を課し、その課題に対する意見を各自リアクションペーパーで回答してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 地球社会の生成と展開	授業の進め方、注意事項についての説明。国際関係を学習することの重要性について。 つのグローバリゼーション。現代世界における 2 つの流れ。
2	ウェストファリア体制の成立、拡大、変容	ウェストファリア体制の成立と現代国際政治。
3	冷戦とウェストファリア体制	冷戦の発生、展開、双極体系の形成、「雪解け」からデタント、新冷戦と冷戦終結。
4	冷戦終結後の国際政治史	冷戦終結の「効果」、冷戦終結が引き起こした国際政治の現実
5	リアリズム	古典的リアリズム、構造的リアリズム、ネオ、リアリズム。
6	リベラリズム	機能主義、国際的相互依存、グローバル化
7	従属論と世界システム論	国際関係を資本主義システムから見る。世界システム論。
8	主権国家、国際機関	主権、国家、国民の成立条件、国家承認、国家の多様性。 国際機関の設立、国際関係理論と国際機関。
9	EU、ASEAN	ヨーロッパ統合、ブレグジット、ASEAN 誕生、世界の地域主義。
10	イスラーム世界	イスラーム世界との間の主権概念の再、グローバリゼーションに適応するイスラーム、不安定化する中東地域。
11	国境問題	国際関係論と地政学における国境。
12	東アジアの国際関係論	日本、韓国、台湾、中国の国際関係
13	地域研究と国際関係論	地域研究、国際関係論の起源と交錯。
14	世界関係性の中の日本、まとめ	春学期、秋学期の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した文献を読む、新聞を読むことを習慣づける。

【テキスト（教科書）】
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
滝田賢治、大芝亮、都留康子編『国際関係学　第 2 版』有信堂、2017 年。

【参考書】
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。
猪口孝『国際関係論の系譜』東京大学出版会、2007 年。

【成績評価の方法と基準】
授業での積極的発言や態度、リアクションペーパーへの積極的コメントは評価対象とする（30 %）。
期末試験の出来（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心に併せて授業内容の一部変更も行う。

【Outline and objectives】
International relation is the relationship(IR) between nations. Understanding of IR is one of the key way to realize today's world. However IR has questioned what nation is and how we can think about nations. In this lecture, we will learn the background of history about IR and how IR has affected today's world.

SOC200GA

国家と民族

中島　成久

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「宗教と国民統合／非統合」というテーマで講義を行う。アメリカ（キリスト教）、インドネシア（イスラーム）、日本（国家神道）における「宗教と国民統合／非統合」の問題を検討する。そして「無宗教」が当たり前とされる日本の宗教意識を再検討する。

【到達目標】
戦後日本人は「無宗教」を当然のことと見做すようになった。その大きな原因は、戦前国家神道を「宗教ではない」と強弁してきたことと無関係ではない。日本人の宗教意識を、アメリカ、インドネシアの事例と比較検討することにより、国際的な立場に立った理解に到達することを目指す。とりわけ、今上天皇の退位による元号の交替として記念すべき年に当るので、現代日本における天皇制の意味をしっかりと見つめる授業としたい、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。視聴覚教材（DVD,　Youtube）などを多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の趣旨・成績評価説明、NHK スペシャル遷宮シリーズ第 1 回「伊勢神宮～アマテラスの謎～」視聴
第 2 回	日本①	NHK スペシャル「靖国――知られざる占領下の攻防」
第 3 回	日本②	国家神道の成立
第 4 回	日本③	国家神道からの逸脱――内村鑑三と大本教
第 5 回	日本④	天皇儀礼と戦後民主主義、改元問題
第 6 回	インドネシア①	「パンチャシラ」（建国五原則）をめぐる対立
第 7 回	インドネシア②	２００２年バリ島爆弾事件
第 8 回	インドネシア③	イスラームファッションの流行とイスラーム規範の強化
第 9 回	インドネシア④	イスラーム金融
第 10 回	アメリカ①	大統領就任式と「聖書」的世界観 進化論とキリスト教ファンダメンタリズム
第 11 回	アメリカ②	進化論裁判映画「風の遺産」前半
第 12 回	アメリカ③	進化論裁判映画「風の遺産」後半
第 13 回	アメリカ④	妊娠中絶をめぐる文化戦争
第 14 回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1　課題のテキスト・参考文献を熟読すること
2　図書館などでさらなる参考文献を調べ、読み込むこと
3　改元問題へ関心を持ち、「天皇制」の意味を常に考えること

【テキスト（教科書）】
森孝一　『宗教から読む「アメリカ」』講談社選書メチエ、2006 年
見市建　『インドネシア　イスラーム主義のゆくえ』平凡社、2004 年
島薗進　『国家神道と日本人』岩波新書、2010 年
阿満利麿『日本人はなぜ無宗教なのか』ちくま新書、1996 年

【参考書】
随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み・態度（３０％）と授業内試験の成績（７０％）を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
1　板書をもっときれいに書くこと。
2　滑舌をよくすること。

【Outline and objectives】
The topic of this class is Religion and National Integration/Disintegration. Case studies from USA (Christian Religions), Indonesia(Islam) and Japan (State Shintoism) are examined, and Japanese discourse of No Religion is reexamined.

POL200GA

平和学

松本　悟

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）平和学で取り上げられる方法を理解し実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から 13 回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。
・受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある。

【Outline and objectives】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peaces in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

SOC200GA

宗教と社会

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：150 名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】
1．宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2．宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
・毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS 細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連していているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・ 紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。

【テキスト（教科書）】
特になし 。毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】
望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009 年）
棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005 年）
島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006 年）
田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007 年）
タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006 年）
ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007 年）
ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009 年）
中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002 年）
磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006 年）
『岩波講座 宗教（全 10 巻）』（岩波書店、2004 年）
『諸宗教の倫理学（全 5 巻）』（九州大学出版会、1992〜2006 年）

【成績評価の方法と基準】
毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】
・150 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
・大教室の授業ですが、授業中に受講者の皆さんの意見を聞いたり、小規模なディスカッションを行ってもらうことがあります。

【Outline and objectives】
The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

SOC200GA

Religion and Society

丹羽　充

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：25 **人程度。希望者多数の場合には，入学時以降の** TOEFL **や** TOEIC **など標準的なテストの結果と初回授業へのコメントを総合的に評価して選考します。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will learn anthropological approaches for interpreting issues regarding religions, societies, and the relationships between them. This course will not be centered on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions. Instead, we will focus on how people practice religion, how they relate themselves to it, and, ultimately, how religions are related to society.

【到達目標】
Students will:
-Understand basic anthropological approaches to religion.
-Improve their interest in and ability to understand 'others' as familiar existences through comparative perspectives.
-Acquire the ability to reflect on themselves with the help of 'others', and unfamiliarize the familiarized.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
The course consists of lectures, student presentations, and class discussions. Readings are assigned for each class. Students will write reaction papers at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course.
2	Theories and Controversies	Various theories and controversies in anthropology of religion.
3	The Body as a Symbol	The relationship between the body and religion.
4	Maintaining and Transforming Boundaries	The politics of religious identity.
5	Sex, Gender and the Sacred	The relationship between religion, sex and gender.
6	Presentation and Discussion	Student presentation (regarding 3 & 4) and discussion.
7	Religion, Culture, and Environment	The relationship between religion, culture and environment.
8	Religious Change and New Religious Movements	Varieties of religious changes and new religious movements.
9	Presentation and Discussion	Student presentation (regarding 5 & 7) and discussion.
10	World Religions	The diversity within world religions.
11	Secularism and Irreligion	Aspects of secularization.
12	Presentation and Discussion	Student presentation (regarding 8 &10) and discussion.
13	Presentation and Discussion and Fundamentalism	Student presentation (regarding 11) and discussion. A lecture on religious fundamentalism.
14	Film: Jesus Camp	A documentary film on Christian fundamentalism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read the assigned texts and prepare questions or comments for reaction papers before class.

【テキスト（教科書）】
No textbook required. Reading materials will be shared or provided.

【参考書】
Bowie, Fiona. 2002. The Anthropology of Religion. Oxford: Blackwell Publishing.
Eller, Jack David. 2007. Introducing Anthropology of Religion: Culture to the Ultimate. New York: Routledge.

【成績評価の方法と基準】
Participation in class (30%)
Presentation (30%)
Reaction papers in every class (40%)

【学生の意見等からの気づき】
Minor adjustments may be made to the course design based upon the number of participants and their interests.

【その他の重要事項】
Students who are interested in this course must attend the first and second sessions in which we will develop a presentation schedule. All participants are expected to read the assigned materials for every class and join the class discussions.

【Outline and objectives】
Students will learn anthropological approaches for interpreting issues regarding religions, societies, and the relationships between them. This course will not be centered on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions. Instead, we will focus on how people practice religion, how they relate themselves to it, and, ultimately, how religions are related to society.

HUM200GA

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：100 **名前後が望ましい**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。１，２年生には、専攻科目や演習として更に深めたい学問領域やテーマにつなげる機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につけること
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できること
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できること
（4）関連する文献の趣旨を的確に読み取れること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義、映像、他の受講生とグループディスカッション、フィードバックシートの提出など様々な形態を組み合わせて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	国際文化論とは	文化とか何か、国際文化論とはどのような学問かを考える
3	国際協力とは	グループ演習の形で国際協力について考える
4	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
5	開発コミュニケーション	進んだ技術の伝播をコミュニケーション理論とつなげて考える
6	文化の受容と抵抗	明治日本の近代化を支えたお雇い外国人を通して異文化への反応について考える
7	文化遺産保護	なぜ文化遺産を守るのか、明治日本とイスラム国（IS）を通して考える
8	博物館学	他国の文化財保護に協力するという発想がどのように誕生したのかを考える
9	国連と文化	文化面での国際協力を進める国連機関の役割について考える
10	政府開発援助（ODA）と文化影響	ODA の基礎を学ぶとともにそれが文化に与える影響を考える
11	文化外交	開発途上国への文化協力を通してパブリックディプロマシーについて考える
12	人権	人権とは何かを歴史的に考える
13	難民受け入れ	難民受け入れ制度について「集団的汚名」という視点を通して考える
14	統合と同化	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最初の授業で具体的に指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
最初の授業で提示した上で、毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（フィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
1 年生にとってレポートが難しかったという意見があったので、レポートの書き方について丁寧に説明するなどの対応を講じ、適切なレベルでの達成度評価を行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに必ず事前登録して下さい。

【その他の重要事項】
・2018 年度の代講教員から元の担当教員に変更になっていますので、先輩からアドバイスをもらう際などには留意して下さい。この授業は国際社会コースの基幹科目ですので、特に 1、2 年生には将来どのような専門を学びたいか、SA で何を学んだらいいか、3 年生からどのようなゼミに入ったらいいかを考える場としてこの授業を活かして欲しいと思います。
・長年開発協力の分野にＮＧＯとして関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義する。

【Outline and objectives】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

PSY200GA

異文化適応論

浅川　希洋志

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考える傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】
しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を中心に授業を行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD があれば適宜紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第 2 回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第 3 回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第 4 回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第 5 回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第 6 回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第 7 回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第 8 回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知ろう、読もうとする傾向が強いか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第 9 回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第 10 回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第 11 回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第 12 回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第 13 回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】
東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【Outline and objectives】
This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people. Especially, this course focuses on how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships. In addition, what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies is argued by examining relevant topics throughout the course.

COT100GA

情報システム概論

和泉　順子、櫻井　茂明、中村　文隆

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報処理システムを構成しているコンピュータのハードウェア及びソフトウェアの基本的な役割や動作を学習する。アセンブラやデータベース機能などの実習も行い、知識の習得だけでなく、自らが設定した条件でコンピュータが実際に動く部分を自ら確認し、学ぶ。

【到達目標】
コンピュータの構成、ハードウェア及びソフトウェアの動作やアセンブラなどを理解し、IT パスポートなどの試験の一部に対応可能な知識や技能の修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　授業は 6 つのテーマ、すなわち、1. コンピュータのハードウエアの構成及び役割、2. アセンブラの機能の学習・作成、3. ソフトウエアの構成及び役割、4. データベース ACCESS の機能の修得及び使用、5. 情報処理システムの種類と機能、6. 情報システムのセキュリティ、開発・保守の 6 項目である。
　アセンブラおよびデータベース ACCESS の学習では、情報室のコンピュータを使用した実習を行う。その他のテーマについては、講義が中心になるが、コンピュータの具体的な事例・事柄を示しながら、理解が容易になるような講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの開発経緯	計算具、計算器、計算機と順に開発され、現在の各種のコンピュータの開発を知る
第 2 回	データの基礎的表現	数値データの 2 進数、8 進数、16 進数および 10 進数について、その関係を含めて、理解する
第 3 回	各種データの表現	数値データ、論理データ、文字データ、音声データ及び画像データについて構造を理解する
第 4 回	中央処理装置	中央処理装置を構成する演算装置、制御装置、主記記憶装置の構造を学ぶ
第 5 回	記憶装置、入出力装置、通信制御装置	磁気記憶装置、入力装置、出力装置、通信制御装置の構造と役割について学習する
第 6 回	アセンブラ言語の基礎	仮想的計算機 COMET の構成及びアセンブラ言語 CASL の基礎を学ぶ
第 7 回	アセンブラ言語の応用、実習	計算問題を CASL で作成する実習を行い、実行して結果を確認し、計算機の構造を理解する
第 8 回	ソフトウエアの基本構成	ソフトウエアを構成する基本ソフトウエア、ミドルウエア及び応用ソフトウエアについて学習する
第 9 回	オペレーティングシステム	OS を構成する各種のプログラムおよびその役割、OS の種類と構成について理解する
第 10 回	言語処理ソフトウエア	機械語、アセンブラ言語および高水準言語の種類及びその処理方式について学ぶ
第 11 回	ファイルシステム	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について学習する
第 12 回	データベースシステムの基礎	データベース ACCESS の構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習する
第 13 回	ソフトウェアの開発と保守、情報セキュリティ	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解し、その方法を学ぶ。
第 14 回	授業のまとめ	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．授業内容をテキストに従って復習する。
2．課題を提出し、授業内容を復習する。
3．授業で使用したソフトウエアについて、テーマを考えて独自で使用し、その機能を体験する。

【テキスト（教科書）】
「情報システム概論」, 和泉順子, 櫻井茂明, 中村文隆, サイエンス社, 2018, ISBN 978-4-7819-1430-5

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は、課題・小テスト等（40%）、期末テスト（50%）および平常点（10%）で行う。

【学生の意見等からの気づき】
　理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業であり、授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。
授業支援システムを利用して課題を提出してもらう可能性があるため、課題作成時おおび提出時には貸与パソコンまたは個人パソコンが必要になる。

【その他の重要事項】
　初回の授業に必ず出席すること。
　情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
　受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【Outline and objectives】
We will learn the basic behaviours of the hardware and software of the computer constituting the information processing system. We also do practical training such as assembler and database functions, not only acquire knowledge, but also learn where the computer actually works.

COT100GA

メディア情報基礎

大嶋　良明、甲　洋介、米倉　明男

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品を Photoshop と Premiere で作ろう。
本講義は、メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置く。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PC を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTML とスタイルシートによる Web コンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを取り上げ、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを育成する。

【到達目標】
PC マルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・Photoshop や Premiere などのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Web サイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）基本的なしくみ
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）その特性の詳細
5	制作実習Ａ：実習の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法（ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなど）
6	制作実習Ａ：静止画像による作品制作	Photoshop を用いたディジタル画像の制作
7	制作実習Ａ：静止画像による作品制作	PC を用いたマルチメディア・コンテンツ制作（Windows Media, QuickTime, FlashVideo）
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル画像（動画像）のしくみとその特性、画像の情報圧縮の方式。その応用例。
9	制作実習Ｂ：実習の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	MovieMaker（または Premiere）を用いたムービー制作の基本
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	MovieMaker（または Premiere）を用いたムービー制作の実践
12	Web ページの構成と表現手法	HTML5 による Web ページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTML とスタイルシートを用いた Web コンテンツの構造化、CSS による Web コンテンツの制作実習
14	まとめ	学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディアー IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内 Web 環境ならびに ePortfolio を活用する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline and objectives】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Premier, Windows Movie Maker and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with enough elemental techniques in related authoring tools.

COT200GA

ネットワーク基礎

金　勇、大嶋　良明、松田　裕幸

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでも Internet で安全確実にコミュニケーションできるようになろう
ネットワークは絶えず変化しており、世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできることは、実は思うほど簡単ではない。コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、IT パスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外や SA などで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャル Web など最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御と DNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IP アドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNS による名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線 LAN	ネットワークコマンド (ping, ipconfig, traceroute, nslookup など) を活用する。無線 LAN でのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解し TCP/IP および UDP/IP の概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSI の参照モデルと TCP/IP の各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
9	Web サービス（1）：HTML 文書の交換と Web サーバ	HTML 文書の設計とその構成法を理解する。Web サーバの基本動作を理解する。HTTP プロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Web サービス（2）：ハイパーテキストデータ	ハイパーテキストについてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。マルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしての FTP と SCP を理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCP と UDP の違いを理解する。RTSP について学ぶ。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。Skype や WindowsMedia 配信などリアルタイムマルチメディアの応用を実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL 暗号化の概念を学ぶ。HTTPS や WinSCP などセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM, ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SA など在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子, 大谷俊郎, 吉田智子 (著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN: 978-4762828300

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特に SA などキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置した PC のみならず、学生個人が利用するノート PC や携帯端末、情報センターの貸出ノート PC などさまざまな ICT 機器を活用する。課題提出等には学内 Web 環境ならびに授業支援システム、ePortfolio を活用するため、個人 PC または貸与 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
本科目では、Web を基盤とする ICT の実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問う IT パスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline and objectives】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

COT200GA

メディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：**2～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう
PC を使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】
Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、ディジタルマルチメディアの特性を活かした**中級以上の作品制作**ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論
- DTP に向けてのスキャナ、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出
各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・デジタル写真のリタッチ
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・自由なテーマによる最終課題（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
●大事にしたいこと
・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ
2	デザインの基本原則	CRAP の原理 (近接、反復、整列、コントラスト) を学ぶ
3	デザインの基本原則の応用	前 2 回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop Elements）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのディジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質を比較する
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC や貸出 PC 等を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。
自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでディジタルカメラを常に携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）： Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）： Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、
ISBN 4895630072

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア　IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット　タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,30%)、クリティーク (課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作 (35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。

【学生の意見等からの気づき】
実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】
情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディアの制作に関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」など。

【Outline and objectives】
This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう
本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Proessing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】
メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。
Processing の制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。
IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身に回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物は自分のケータイでも動かしてみる。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（1）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（2）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（3）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題１】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。【課題１】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題 2 ：学習成果のまとめと Web 化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるので、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Proessing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。

【テキスト（教科書）】
Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめよう 第 2 版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】
【p5.js プログラミング】
Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js ―ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974
【メディアアートのためのプログラミング】
Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design ― Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134
【ジェネラティブ・アート】
マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修), 沖 啓介 (翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アート― Processing による実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,20%)、中間課題 (30%)、最終課題 (40%)、相互批評（10%）を目安にすべてを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目なので過去年度からの気づきはとくにないが、プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。そのなかで IoT や Maker ムーブメントなどの動向も十分に取り入れた内容を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】
自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア表現手法ついて講義する。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「ディジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【Outline and objectives】
This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in
contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

COT200GA

プログラミング言語基礎

佐藤　雅明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ同士を繋ぐテクノロジーであったインターネットは、Web、スマートフォン、そして IoT などの登場によってすべての分野の社会インフラとなった。本授業では、こうしたコンピュータネットワークが前提となった社会のリテラシーとして、コンピュータの仕組みとプログラムの基本的な仕組み、コンピュータの動作原理やインターネット上のシステムの構造を学ぶ。

【到達目標】
- コンピュータを構成する要素と基本的な仕組みを理解できる。
- コンソールとエディタを使って、JavaScript を使った基本的なプログラミングの構造を学ぶ。
- プログラミングをする上で必要な論理的思考を身につける。
- web 上でのインタラクションがあるプログラミングを作成し、情報取得・情報発信力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は原則的に、講義と演習 (プログラミング演習・課題演習) によって進める。また、授業中に知識試験と課題発表をおこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について述べると共に、現在のインターネットを取り巻く状況と課題について学ぶ。
2	コンピュータの仕組み	現在のコンピュータの構成要素やオペレーティングシステム、階層モデルなどについて学ぶ。
3	Web の仕組み	現在のインターネットのサービスプラットフォームである Web と、そこでの情報交換の仕方について学ぶ。
4	HTML	Web における情報記述言語である HTML の仕組みについて学び、実際の記述法を学ぶ。
5	スクリプト	JavaScript を通したプログラミングの記述の仕方と基本的な知識を学ぶ。
6	関数と変数	JavaScript における関数と変数の概念と使い方を学ぶ。
7	場合分け	JavaScript における条件分岐の概念と使い方を学ぶ。
8	繰り返し	JavaScript における繰り返しの概念と使い方を学ぶ。
9	知識試験	ここまでの知識の習得度を確認するための試験をおこなう。
10	ネットワークの仕組み	コンピュータネットワークを扱うにあたって知っておくべき構造、基礎について学ぶ。
11	セキュリティとプライバシー	Web などを通した情報発信、あるいはプログラムを作成する上で知っておくべきセキュリティ、プライバシーの基礎について学ぶ。
12	課題演習 (1)	ここまでの授業を踏まえ、プログラムによるインタラクションがある Web ページの構築、主に設計をおこなう。
13	課題演習 (2)	ここまでの授業を踏まえ、プログラムによるインタラクションがある Web ページの構築、主に実装をおこなう。
14	最終発表	構築した Web ページの発表を通し、この授業で学んだ知識と技術について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備などは特段必要としないが、必要に応じて授業内で課題などを出すこともあるため、授業中のアナウンスを確認して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に必要としない。

【参考書】
特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】
成績については、平常点 30%、知識試験 30%、最終発表 40%を目安として評価を行う予定である。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

【Outline and objectives】
Up to the present, the Internet has supported our live. The Internet connected everything, every service by global scale. Also, an individual can show the message easily to the world by the Internet. The Internet is a global infrastructure designed to solve many issues by simply making good use of it.In this lecture, you will learn basic architecture of the computer, and methods of a programming.

HUI200GA

仮想世界研究

甲　洋介

サブタイトル：
配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」
社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。
メディアテクノロジーの進展によって、現実と仮想との境界は曖昧となった。一方で、私たちの生活は、**" 手ごたえ" ＝リアリティ**（現実感）を喪失しつつある、と指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによってどのように『変化』し、何が『拡張』した、と言うのだろうか。
つながっているフリは寂しい？　でも親密なのはもっと怖い
「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす新たな意味を問い直し、受講生と一緒に具体的な検討を加えていく。

【到達目標】
そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？
仮想世界の問題は、SF 物語ではない。わたしたちの日常生活で起きている現象である。本科目の履修を終えると、次の側面について基本用語を用いて言及できるようになる。
a. 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
b. リアルな仮想世界と、手ごたえのない現実世界、という現象
c.「仮想現実感」(VR) の構成要素と基本的な考え方
d.「仮想現実」の、社会のさまざまな側面への浸透
e. 拡大する仮想世界とともに生きる
それぞれのトピックに具体的な検討を加えながら、この問題に切り込むための問題意識を育てる。やがて、ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物であることに気づくだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。授業は講義と受講生による討議を組み合わせながら展開する。
現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は" 生きやすい"。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。
仮想世界はけして技術者が勝手気ままに作り出している世界ではない。仮想世界の構築には、あなた自身の欲望が関与している。そうであるならば、いったい私たちは、**仮想世界に何を期待し、私たちの何を変化させ、何を失い、仮想世界と共にどう生きようとしているのか**。講義の各回で、受講生一人ひとりが考え、問題意識を育て、その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめ上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすい － それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑う － なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？
4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へ　－ネットで恋した相手、それは○○だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念と理論
9	仮想現実とは何か	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用②	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
14	まとめ	現実と仮想世界のはざまを生き抜いていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義を通じて考えた事柄を、各自が授業支援システムに蓄積する。　コメントは講義に活かされる。

【テキスト（教科書）】
・「接続された心」"Life on the Screen"（S. タークル、早川書房）
・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD（Association for Computing Machinery）
・「2001 年宇宙の旅」 (A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】
・アニメ：「攻殻機動隊〜GHOST IN THE SHELL」
・映画：「惑星ソラリス」（アンドレイ・タルコフスキー）
・"Alone Together" (S.Turkle、Basic Books 出版)
担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。　他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験・レポート (60 %)
授業・討議における積極性な貢献度合い（出席、発表、レスポンスシートを含む）（40 %）
止むを得ない事情と判断される場合を除き、期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心が高い、『仮想世界』における "こころの問題" を取り上げた。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、協同作業を通じて自らの問題意識を育てることが重要になる。

【履修条件】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
「道具のデザイン」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

社会とデータサイエンス

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業では IoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】
ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なるや内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく心理学や社会学など社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	４つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で発表されたデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。 また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】
In this class, we will learn how data which would be obtained from not only the data created by the personal computer but also various sensors, the behaviour of the person, and the public information opened by the public institutions as the "open data" is being utilised in social activities. The keywords are "data science", "IoT (Internet of Things)", "open data", and "big data".
Learn and practice the handling and visualisation of various data.

LIN300GA

世界の言語 I

輿石　哲哉

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の数多くの言語のうち，この授業では，インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます．この語族の言語は世界中に広がっていて，今では全ての大陸で話されています．この語族がどのようにしてできたのか，どのようにこの語族の言語が変化してきたのか，特徴はどのようなものか，世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが，本科目のテーマです．

【到達目標】
具体的には，以下の５つです．
１）インド・ヨーロッパ語族の言語について，その全体像を把握すること．
２）インド・ヨーロッパ語族について，その歴史を知ること．
３）インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること．
４）他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること．
５）一般的に，言語の歴史・構造について，知識を得ること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は，基本的にシラバスに基づき，講義形式で進めていきます．履修者数，履修者の知識等により，内容には修正を加えることがあることを予めご了解ください．
・授業は全て事前に用意したスライド（207 枚）によるプレゼン形式で行います．同スライドは予めダウンロード可能です．さらに，背景が白い pdf 版を用意しますので，それを事前にプリントアウトし授業に持参して書き込みを作れば，自分だけのノートにもなります．
・授業支援システムを多用し，事前，事後の学習も可能な限り支援していきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向 ・比較の視点	授業のやり方について，概略を説明し，ヨーロッパについて学び，比較することの意味について学びます．
2	・地球単位で言語を考える ・英語で-a で終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます．
3	・Parallel text の意味	言語を比較する際の材料として，parallel text と呼ばれるものを使用することがあります．様々な例を使い，実際に言語の比較を行っていきます．
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	印欧学という学問がどのように発達してきたか，歴史的な背景を見ながら考えていきます．
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます．印欧語族の語派について見ていきます．初回は，Indo-Iranian, Armenian, Albanian についてお話します．
6	・個々の語派（続き）	印欧語族の個々の語派について，引き続き見ていきます．今回は，Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italic の各語派についてお話します．
7	・英語へのラテン語の影響 ・個々の語派（続き） ・非印欧諸語 ・Grimm's Law	最初，英語へのラテン語の影響を見た後，語派の話を続けます．今回は Celtic, Germanic について見ます．さらに，印欧語族でない言語についても学びます．その後，Grimm's Law について話し始めます．
8	・Grimm's Law （続き） ・Verner's Law ・Centum vs. Satem ・音対応と言語再建	Grimm's Law と Verner's Law について学び，さらに印欧語族を 2 分すると言われる Centum-Satem Split についてお話します．それから音対応と言語再建について学びます．
9	・言語の語彙 ・歯擦音化 ・The letter C in English	言語の語彙の成り立ちについて見た後，自然な音変化の例として歯擦音化について考察します．英語の C という文字の歴史を例に取り，歯擦音化を例証します．
10	・ヨーロッパの地勢 ・印欧祖語はいつ話されていたか？	印欧語族の発達に，ヨーロッパの地勢が及ぼした影響について考察し，その後，印欧祖語の「いつ」問題について考察します．
11	・印欧祖語はどこで話されていたか？	印欧祖語の「どこ」問題について，最近の印欧学の成果を解説しながら考察します．
12	・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き） ・印欧祖語の史的発達	前回に引き続き，印欧祖語の「どこ」問題について，最近の印欧学の成果を解説しながら考察しますその後，印欧祖語の発達の経緯を見ていきます．
13	・印欧祖語の史的発達（続き） ヨーロッパ早わかり 現在の欧州言語事情	印欧祖語がどのように発達を遂げたか，引き続きお話します．ヨーロッパの言語文化事情をまとめ，最後に現在の欧州言語事情に触れます．
14	・まとめ	これまでの授業を総括します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みます．基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．

【テキスト（教科書）】
特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】
授業中，随時指定いたしますが，とりあえず以下のものを挙げておきます．
泉井久之助 (1968).『ヨーロッパの言語』．東京：岩波書店．[古いですがよい本です．基本的にこの本の内容は，かなり本科目の内容と重なります．]
風間喜代三 (1978).『言語学の誕生』．東京：岩波書店．
マルティネ，アンドレ，神山孝夫訳 (2003).『「印欧人」のことば誌—比較言語学概説—』．東京：ひつじ書房．
Chapters 1 & 2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). *English Vocabulary Elements*. Oxford: Oxford University Press.
Chapters 2 & 3 from Stockwell, Robert & Donka Minkova (2001). *English Words: History and Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
Diamond, Jared (1997). *Guns, Germs and Steel*. London: Caggo & Windus.

【成績評価の方法と基準】
試験の結果 (100%) に基づき成績を出します．人数が多すぎる場合，授業への参加度をみることは現実的ではないため，現段階では平常点は設定していませんが，人数を見て場合によっては平常点を加味します．

【学生の意見等からの気づき】
隔年開講のため，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコン，スクリーン等を用います．

【その他の重要事項】
必ず英語の辞書を持参してください．その際，語源欄が充実しているものを推奨します．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，学部専門教育科目の（4）言語科目に属し，ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです．「世界の言語 II」と交替で隔年開講され，2 年生以上が履修できます．

【Outline and objectives】
The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages.Specifically, by the end of the course, you should:
- become acquainted with the European languages in general,
- have enough knowledge about the their historical background,
- become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development.
- have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families.
- begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure.

LIN300GA

世界の英語

小中原　麻友

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes（世界の英語たち）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という２つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。

学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んで行きます。その後、学期後半では、植民地化の遺産や標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深め、更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んで行きます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史的変遷の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、PPT とハンドアウトを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第 2 回	講義・ディスカッション（1）	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users （グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者）
第 3 回	講義・ディスカッション（2）	The global spread of English （英語の地球規模の普及）
第 4 回	講義・ディスカッション（3）	Diversification of English and preparation for group presentations （英語の多様化、グループプレゼン準備）
第 5 回	グループ・プレゼンテーション（1）	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada （英語変種（1）：イギリス、アメリカ、カナダの英語）
第 6 回	グループ・プレゼンテーション（2）	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand （英語変種（2）：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語）
第 7 回	グループ・プレゼンテーション（3）	Varieties of English (3): Englishses in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia （英語変種（3）：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語）
第 8 回	グループ・プレゼンテーション（4）	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea （英語変種（4）：フィリピン、中国、香港、韓国の英語）
第 9 回	講義・ディスカッション（4）	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology （植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー）
第 10 回	講義・ディスカッション（5）	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction （共通語としての英語（ELF）でのコミュニケーション（1）：導入）
第 11 回	講義・ディスカッション（6）	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making （ELF でのコミュニケーション（2）：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略）
第 12 回	講義・ディスカッション（7）	ELF communication (3): CS for coping with communication problems （ELF でのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上の問題に対処する方略）
第 13 回	講義・ディスカッション（8）	ELF communication (3): CS for facilitating communication （ELF でのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上を促進する方略）
第 14 回	期末試験、まとめ	（人数によっては期末レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＜準備学習＞
・リーディング課題（第 3 回、10 回、11 回授業開始時まで；全 3 回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
・フィールドワーク（第 2 回、10 回、13 回授業開始時まで；全 3 回予定）：授業前までに配布プリントに沿って簡単なデータ収集を行い、それに基づき考察を書く。
・グループ・プレゼンテーション準備（第 5 〜 8 回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。
＜復習＞
・リアクション・ペーパー（第 5 回、第 9 回；全２回予定）：それまでの学習内容のまとめと考察を書き、該当の授業開始前までに授業支援システム上で提出する。
・その他、期末試験（あるいはレポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

・教科書指定なし。
・その他、テーマごとに参考文献を紹介し、適宜、コピーを配布します。配布資料やスライドは、原則英語です。
・授業の PPT は、授業終了後に、授業支援システムで配布します。

【参考書】

＜ World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識＞

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; Yew York: Routledge. (Companion website: http://www.routledgetextbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.

8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京:亜紀書房.
11. 末延岑生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012).『World Englishes – 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011).『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002).『事典アジアの最新英語事情』. 東京：大修館.
15. 本名信行 (2003).『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.
＜リスニング教材＞
1. 榎木園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎木薗鉄也. (2016). 『インド英語のツボ：必ず聞き取れる 5 つのコツ』. 東京：アルク.
3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京：コスモピア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろんな英語をリスニング』東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモピア.
6. 平本照麿 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京：アルク.
＜参考ウェブサイト＞
1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from http://www.dialectsarchive.com/dialects-accents
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html
4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from https://www.univie.ac.at/voice/

【成績評価の方法と基準】
＜平常点： 5%＞
・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ただ教室に「いる」だけでは参加したことになりませんので、ディスカッションに積極的に貢献して下さい。
・遅刻２回（電車遅延は除く）で、欠席１回とみなします。
＜授業内外課題： 45%＞
・リーディング課題やフィールドワーク、リアクション・ペーパー、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。
＜試験： 50%＞
学期末（第 14 週）に試験（あるいはレポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
グループ・プレゼンテーションの際は、こちらで PC を用意しますが、自分の PC を使用したい場合は、持参すること。

【その他の重要事項】
授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline and objectives】
In the era of globalization, English is one of the dominant tools of intercultural communication among people from diverse linguistic and cultural backgrounds. How does such a communication look like? The aim of this course is to reconsider 'English' from the perspective of World Englishes and English as a lingua franca. Through this course, you will have the opportunity to understand features of varieties of English particularly in Asian countries as well as features of intercultural communication in English as a lingua franca settings. On the basis of the knowledge you acquired, you will then reconsider the role of English in the globalized world and English communication ability necessary for surviving in such a world.

LIN200GA

言語の理論Ⅰ

石川　潔

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
具体的な謎の解明（講義およびディスカッション and/or リアクションペーパー）を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その１（音声学・音韻論）	*water* はカタカナで「ワラ」？
第 3 回	「音素」その２（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その１（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その２（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その１（統語論）	「５文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その２（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その３（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その４（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その５（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その６（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その１	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その２	*Without her contributions failed to come in.* ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにてハンドアウトを配布します（教室での配布は致しません。）

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
久しぶりの担当なので、N/A。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは授業支援システムにて配布。
授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
ハンドアウト類は授業支援システム上で配布します。教室での配布は一切しません。
私語は厳禁。
その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/ を参照のこと。
なお、この授業は『言語学概論Ｂ』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】
An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN200GA

言語の理論Ⅱ

石井　創

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】
１．言語学の各分野における基礎知識を理解できる
２．言語的な事実の気付きに敏感になる、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
３．科学研究の方法論に対し、正しい認識をもつ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本として進めます。具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑い直す姿勢を大切にしてください。質疑応答やリアクションペーパーを書く時間も設ける予定ですので、その姿勢によって得られた疑問点や不明点は積極的に発信してください。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問・コメントについては、時間の許す限り次回の授業内で紹介していくつもりです。
なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論１	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論２	語の作られ方
第 5 回	形態論３	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学１	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学２	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論１	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論２	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論３	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第 13 回	意味論１	意味の記述と語彙分解
第 14 回	意味論２	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業内容を理解していることを前提に、その日の授業を進めていきます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業をしてください。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいです。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験 100%
２．授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）。

【学生の意見等からの気づき】
１．「説明を聞き逃すと理解が追い付かなくなる」という意見があったため、昨年度以上に受講生の理解度をこまめに確認しながら説明を行う。
２．受講生がより理解しやすくなるように、取り上げる内容とその順序に若干の変更を加える。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは授業支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は授業支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを授業支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics on these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN300GA

社会言語学

塩田　雄大

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。
社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（言語の変化／ことばの乱れ／地域方言／コミュニケーション／アイデンティティー／言語どうしの接触／言語政策／…）、講義では日本語社会を対象にこれらを全般的に扱いつつ、「若者語・流行語」については多少重点的に取り上げる。毎回の課題準備とグループワークを通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】
社会言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講師による一方向的な講義形式ではなく、毎回、簡単なグループワークの実施を検討している。また、スマホを用いたアンケートや意見聴取を講義中におこなうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	ことばの分析①	だじゃれと言語学　ほか
第 3 回	ことばの分析②	「なので」と言っていいか？　ほか
第 4 回	談話の構造①	日本語話者の話題展開法　ほか
第 5 回	談話の構造②	「雨に降られた」は翻訳しにくい　ほか
第 6 回	言語変化①	「アホ」と「バカ」の境界線　ほか
第 7 回	言語変化②	「書きたり」が「書いた」になった　ほか
第 8 回	方言調査①	「せえへん」なんて言い方、しいひんな　ほか
第 9 回	方言調査②	「もう終わったくね？」の言語学
第 10 回	変化の動因①	「ピンクなシャツ」と言うか　ほか
第 11 回	変化の動因②	「何かを信じてこれたかなぁ」はだめなのか　ほか
第 12 回	配慮表現	「この講義では何を教えるつもりですか」は失礼か　ほか
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備には 1 回あたり 1 ～ 2 時間程度はかかるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】
『社会志向の言語学』（南雅彦著、くろしお出版、2017 年、1,800 円＋税）
http://www.9640.jp/book_view/?747
内容に比して安価であり、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】
一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に二千円の投資をケチる人は、その後に二千円以上の損をすることになる。
（1）『新世代の言語学　－社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか 編著、くろしお出版、2003 年、1,800 円＋税）
（2）『新版　日本語語用論入門』（山岡政紀・牧原功・小野正樹、明治書院、2018 年、1,600 円＋税）
（3）『朝倉日英対照言語学シリーズ［発展編］1　社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017 年、3,200 円＋税）
（4）『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、2013 年、840 円＋税）
（5）『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、2013 年、800 円＋税）
（6）『日本語の配慮表現の多様性』（野田尚史ほか、くろしお出版、2017 年、3,700 円＋税）

【成績評価の方法と基準】
毎回の事前準備課題　20 %
グループワークでの議論活性化への寄与度　20 %
最終レポート　60 %
全出席を求めるものではないが、毎回の講義に出席して自分なりに考える習慣をつけていかない限り、最終レポートが及第点に至ることはおそらくないと思われる。課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したものも、不可となる。また、学ぼうとする他の学生の意欲をそぐような行為（講義と関係のないスマホ操作や私語）があった場合、レポートを提出する権利を認めないので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は優秀な学生も多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
「ふだんよく見るメールアドレス」「word が使える環境」「配布資料を綴じるためのＡ４縦型二穴ファイル（紙ファイルでよい）」を準備しておくこと。
連絡事項をメールで伝える場合があり、またレポート提出もメールを用いるため、（ＳＮＳアカウントではなく）添付ファイル送受信可能なメールアドレスを各自確定させ、講義期間中は受信メールを定期的に確認すること（「メールを見ていませんでした」ということのないように）。
また、レポートの執筆は word を用いることを原則とする（添削を加えるため）。word 以外のワープロソフトを使用している学生は、事前に相談されたい。

【その他の重要事項】
質問・相談は、講義終了後、あるいはメールにて随時受け付ける。講師アドレスは初回講義時に周知する。
本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。留学生の受講も歓迎する。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。きちんと努力する者、なにかを真剣に知ろうとするものが集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】
To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.
The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. language change / language disturbance / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be introduced generally, while the themes of "words of youngsters" "buzzwords" should be discussed with greater emphasis.

LIN300GA

応用言語学

川﨑　貴子

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】
こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育〜言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートをとりながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を 100 %として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
言語習得研究の手法や研究の発展について学んでいただき、分野に興味を持っていただけたようでよかったと思います。

【Outline and objectives】
Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrated on theoretical aspects of first and second language acquisition.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Personal and Cultural Identity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of personal and cultural identity.
Week 6	Values: Deciding Right and Wrong	Reading, pair work exercises, and small group discussions on personal values and how one decides between right and wrong.
Week 7	Values: Discussing Future Goals	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on one's values and future goals.
Week 8	Culture Shock: Advice for Dealing With Culture Shock	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of culture shock, and how to deal with it.
Week 9	Culture in Language: Proverbs and Idioms	Listening, reading, small group discussions, and written exercise on how culture is reflected in language such proverbs and idioms.
Week 10	Body Language and Customs: Signs and Gestures	Reading, pair work exercises, and small group discussions on how the meaning of signs and gestures change according to cultural customs.
Week 11	Body Language and Customs: Non-verbal Communication Norms	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on how customs affect body language and non-verbal communication norms.
Week 12	Individualism: Individualism and Collectivism	Reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individualism and collectivism.
Week 13	Individualism: The Challenges of Different Working Styles	Listening, pair work exercises, and small group discussions, on how individual preferences can make different working styles challenging.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】
Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Personal and Cultural Identity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of personal and cultural identity.
Week 6	Values: Deciding Right and Wrong	Reading, pair work exercises, and small group discussions on personal values and how one decides between right and wrong.
Week 7	Values: Discussing Future Goals	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on one's values and future goals.
Week 8	Culture Shock: Advice for Dealing With Culture Shock	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of culture shock, and how to deal with it.
Week 9	Culture in Language: Proverbs and Idioms	Listening, reading, small group discussions, and written exercise on how culture is reflected in language such proverbs and idioms.
Week 10	Body Language and Customs: Signs and Gestures	Reading, pair work exercises, and small group discussions on how the meaning of signs and gestures change according to cultural customs.
Week 11	Body Language and Customs: Non-verbal Communication Norms	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on how customs affect body language and non-verbal communication norms.
Week 12	Individualism: Individualism and Collectivism	Reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individualism and collectivism.
Week 13	Individualism: The Challenges of Different Working Styles	Listening, pair work exercises, and small group discussions, on how individual preferences can make different working styles challenging.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】
Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Food: as a reflection of culture.	Listening, reading, and pair work exercises on food as a reflection of culture.
Week 6	Food: as a social tool.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of food as a social tool.
Week 7	Health: yours and healthcare around the world.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on healthcare in different countries.
Week 8	Politics. Explaining your system, and understand others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on political systems in different countries.
Week 9	Money. Value and price in different cultures.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on value and price in different countries.
Week 10	Travel. A practical issue.	Listening, reading, and pair work exercises on the practical issue of travel.
Week 11	Transport as it reflects the needs of its users.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a transportation system being a reflection of the needs of its users.
Week 12	Belief: religion and belief in Japan and elsewhere.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of religion and belief systems being in Japan and elsewhere.
Week 13	Saying 'Goodbye'. How we take our leave.	Listening, reading, small group discussions, and written exercises on different ways of saying 'Goodbye' depending on the situation.
Week 14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Textual preparation and work for Presentations will be necessary.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Food: as a reflection of culture.	Listening, reading, and pair work exercises on food as a reflection of culture.
Week 6	Food: as a social tool.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of food as a social tool.
Week 7	Health: yours and healthcare around the world.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on healthcare in different countries.
Week 8	Politics. Explaining your system, and understand others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on political systems in different countries.
Week 9	Money. Value and price in different cultures.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on value and price in different countries.
Week 10	Travel. A practical issue.	Listening, reading, and pair work exercises on the practical issue of travel.
Week 11	Transport as it reflects the needs of its users.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a transportation system being a reflection of the needs of its users.
Week 12	Belief: religion and belief in Japan and elsewhere.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of religion and belief systems being in Japan and elsewhere.
Week 13	Saying 'Goodbye'. How we take our leave.	Listening, reading, small group discussions, and written exercises on different ways of saying 'Goodbye' depending on the situation.
Week 14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Textual preparation and work for Presentations will be necessary.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

マーク・フィールド

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know, Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Life Experiences	Listening, reading, and pair work exercises on life experiences.
Week 6	Identity: Nature Verses Nurture	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a person's character being a result of genetic factors or social factors.
Week 7	Identity: Your Family History	Listening on the concept of the family tree, followed by student presentations about their families, and written assignment introducing one's family history.
Week 8	World Destinations: Describing Places	Listening, reading, and pair work exercises on describing places.
Week 9	World Destinations: Getting Around	Listening, reading, and small group discussions on traveling into, out of, and around different places in the world.
Week 10	World Destinations: Where to Visit in Japan	Listening on places to visit, followed by student presentations about their favorite spots in Japan, and written assignment describing a favorite place.
Week 11	Energy Challenges: Sources and Sustainability	Listening, reading, and pair work exercises on energy production and consumption.
Week 12	Energy Challenges: Organizations and Community Action	Listening, reading, and small group discussions on what activist groups and local communities can do to reduce energy consumption and help the planet.
Week 13	Energy Challenges: Persuading Others to Act	Video on a persuasive presentation, followed by student presentations making recommendations for action, and persuasive paragraph written assignment.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class 1*, Cengage Learning, ISBN-13:978-1-133-31081-5

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students ' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don ' t Know, and Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Giving your experiences : Finding your stories and setting the scene	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 6	Giving your experiences : Description and compression	Conversation exercises, and written assignment on describing experiences.
Week 7	Midterm Student Presentations	Individual student presentations to the class
Week 8	Discussing your opinions : Discussion and argument	Listening, reading, and pair work exercises on developing and expressing opinions.
Week 9	Discussing your opinions ☒ The triangle of persuasion	Conversation exercises, and written assignment on persuasive discussion styles.
Week 10	Telling how you feel: Physical feelings, likes, wants and emotions	Listening, reading, conversation exercises and written assignment on expressing physical feelings, likes, wants, and emotions.
Week 11	Starting conversations ☒ Friends and acquaintances	Listening, and pair work exercises on starting conversations with friends.
Week 12	Starting conversations: Strangers	Listening, and pair work exercises on starting conversations with strangers.
Week 13	Putting it all together ☒ The flow of conversation	Conversation exercises, and written assignment on how conversations flow naturally from beginning to end.
Week 14	Final Presentation	Group presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for pair presentations

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know, and Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
5	Giving your experiences : Finding your stories and setting the scene	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
6	Giving your experiences : Description and compression	Conversation exercises, and written assignment on describing experiences.
7	Midterm Student Presentations	Individual student presentations to the class
8	Discussing your opinions : Discussion and argument	Listening, reading, and pair work exercises on developing and expressing opinions.
9	Discussing your opinions ☒ The triangle of persuasion	Conversation exercises, and written assignment on persuasive discussion styles.
10	Telling how you feel: Physical feelings, likes, wants and emotions	Listening, reading, conversation exercises and written assignment on expressing physical feelings, likes, wants, and emotions.
11	Starting conversations ☒ Friends and acquaintances	Listening, and pair work exercises on starting conversations with friends.
12	Starting conversations: Strangers	Listening, and pair work exercises on starting conversations with strangers.
13	Putting it all together ☒ The flow of conversation	Conversation exercises, and written assignment on how conversations flow naturally from beginning to end.
14	Final Presentation	Group presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for pair presentations

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the fall semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Analyzing Learning Goals, Silent Interview	Listening, pair work exercise, and written assignment on analyzing one's desires and personal learning goals.
Week 5	Writing about Traditional Japanese Culture	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on traditional Japanese culture.
Week 6	Character Writing, Different Perspectives	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on how a person's character can affect his/her perspective on things.
Week 7	Editing, Common Errors, Writing Conventions	Listening, reading, pair work exercise, and written assignment on writing conventions, common errors and editing one's writing.
Week 8	Creative Writing Prompts, Collaborative Writing	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on individual creative writing, and collaborative group writing.
Week 9	Stretching the Imagination	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on using the written word to create a mental image.
Week 10	Creating a Utopian Society	Listening, pair work exercise, and written assignment on the concept of creating a Utopian society.
Week 11	Class Project	Brainstorming and planning.
Week 12	Evaluating and Revising the Class Project	Evaluating and revising the class project.
Week 13	Practical Tips, Preparation for Travel	Practical tips, preparation for travel.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide course material.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the fall semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Analyzing Learning Goals, Silent Interview	Listening, pair work exercise, and written assignment on analyzing one's desires and personal learning goals.
Week 5	Writing about Traditional Japanese Culture	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on traditional Japanese culture.
Week 6	Character Writing, Different Perspectives	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on how a person's character can affect his/her perspective on things.
Week 7	Editing, Common Errors, Writing Conventions	Listening, reading, pair work exercise, and written assignment on writing conventions, common errors and editing one's writing.
Week 8	Creative Writing Prompts, Collaborative Writing	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on individual creative writing, and collaborative group writing.
Week 9	Stretching the Imagination	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on using the written word to create a mental image.
Week 10	Creating a Utopian Society	Listening, pair work exercise, and written assignment on the concept of creating a Utopian society.
Week 11	Class Project	Brainstorming and planning.
Week 12	Evaluating and Revising the Class Project	Evaluating and revising the class project.
Week 13	Practical Tips, Preparation for Travel	Practical tips, preparation for travel.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide course material.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Classroom techniques and behaviour in Japan and beyond.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on classroom styles of behavior inside and outside of Japan.
Week 5	The culture of eating out.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how culture can effect why and when people eat out.
Week 6	Etiquette: redundant in a Global Society?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on etiquette and if globalization has made the idea of learning manners unnecessary.
Week 7	The politics of having a vote.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on politics and the right to vote.
Week 8	How to stay well.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how to stay well while living abroad.
Week 9	Shopping wisely.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on shopping wisely.
Week 10	Where will you stray to?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on getting lost and what to do.
Week 11	How to get from A to B via X.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on traveling when changing modes of transportation is involved.
Week 12	Superstitions; are they the same everywhere?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on superstitions and different beliefs.
Week 13	Re-entry. A safe landing.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on returning safely and the possibility of re-entry shock.
14	Examination/Comments	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】
Materials will be provided as required.

【参考書】
And English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation
20% Homework.
40% Final Examination/Term Project.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Classroom techniques and behaviour in Japan and beyond.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on classroom styles of behavior inside and outside of Japan.
Week 5	The culture of eating out.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how culture can effect why and when people eat out.
Week 6	Etiquette: redundant in a Global Society?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on etiquette and if globalization has made the idea of learning manners unnecessary.
Week 7	The politics of having a vote.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on politics and the right to vote.
Week 8	How to stay well.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how to stay well while living abroad.
Week 9	Shopping wisely.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on shopping wisely.
Week 10	Where will you stray to?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on getting lost and what to do.
Week 11	How to get from A to B via X.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on traveling when changing modes of transportation is involved.
Week 12	Superstitions; are they the same everywhere?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on superstitions and different beliefs.
Week 13	Re-entry. A safe landing.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on returning safely and the possibility of re-entry shock.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】
Materials will be provided as required.

【参考書】
And English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation
20% Homework.
40% Final Examination/Term Project.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

マーク・フィールド

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Express Yourself: Explaining Steps in a Process	Listening, reading, and small group discussions on how to explain a step by step process. Followed by student presentations and a written assignment explaining how to do something that takes a number of different steps.
Week 5	On the Move: Types of Transportation	Listening, reading, and pair work exercises on different types of transportation.
Week 6	On the Move: Sharing Economy	Listening, reading, and small group discussions on new ways to travel around cities created by the new sharing economy.
Week 7	On the Move: An Opinion Paper	Listening, reading, and small group discussions on the best way to travel in special environments. Followed by student presentations and a written opinion assignment on the best way to go some place when the standard way is not possible.
Week 8	Rain or Shine: Climate Extremes	Listening, reading, and pair work exercises on different types of extreme weather.
Week 9	Rain or Shine: Weather and Erosion	Listening, reading, and small group discussions on how weather can change the physical environment.
Week 10	Rain or Shine: A Vivid Description	Listening, reading, and small group discussions how extreme weather can affect people. Followed by student presentations and a written assignment describing a personal experience with a significant weather event.
Week 11	What's Your Game?: Reported Speech	Listening, reading, and pair work exercises on reporting what happened around a sporting event.
Week 12	What's Your Game?: Explaining Important Qualities	Listening, reading, and small group discussions on qualities are important to be good at different types of sports.
Week 13	What's Your Game?: Timed Essay	Timed in class essay on a topic related explaining important qualities for a certain sport.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English media independently as a means of increasing their vocabulary and general knowledge.

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas & James R. Morgan, World Class 1, Cengage Learning, ISBN-13:978-1-133-31081-5

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Study skills and time management	Listening, reading, and small group discussions how study more effectively by managing one's time wisely.
Week 5	Sharing your own culture	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on sharing one's own cultural ideas and practices to others.
Week 6	Universal and local cultural rules	Listening, reading, small group discussions, and written assignment on local and universal norms of behavior.
Week 7	Midterm Presentation	Individual student presentations to the class
Week 8	Social Rules	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of social rules and how they can vary according to context and culture.
Week 9	Ethics and honesty	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of ethics and honesty and how they can vary according to context and culture.
Week 10	Diversity and Difference	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of social diversity and individual differences.
Week 11	Individuality and Conformity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individuality and group conformity.
Week 12	Discussing controversial issues	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on some controversial social issues.
Week 13	Presentation Preparation and Practice	Students write up their final presentations scripts incorporating vocabulary and concepts covered in previous classes and practice reading their final presentations with student partners.
Week 14	Final Presentation	Individual student presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Study skills and time management	Listening, reading, and small group discussions how study more effectively by managing one's time wisely.
Week 5	Sharing your own culture	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on sharing one's own cultural ideas and practices to others.
Week 6	Universal and local cultural rules	Listening, reading, small group discussions, and written assignment on local and universal norms of behavior.
Week 7	Midterm Presentation	Individual student presentations to the class
Week 8	Social Rules	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of social rules and how they can vary according to context and culture.
Week 9	Ethics and honesty	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of ethics and honesty and how they can vary according to context and culture.
Week 10	Diversity and Difference	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of social diversity and individual differences.
Week 11	Individuality and Conformity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individuality and group conformity.
Week 12	Discussing controversial issues	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on some controversial social issues.
Week 13	Presentation Preparation and Practice	Students write up their final presentations scripts incorporating vocabulary and concepts covered in previous classes and practice reading their final presentations with student partners.
Week 14	Final Presentation	Individual student presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Politeness: Ways of Showing Courtesy and Respect	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on politeness, and different ways of showing courtesy and respect.
Week 6	Communication Styles: Verbal Communication Norms	Reading, pair work exercises, and small group discussions on verbal communication styles and norms can vary between people and cultures.
Week 7	Communication Styles: Common Differences in Spoken Behavior	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on common differences in spoken behavior
Week 8	Gender and Culture: Examining Gender Issues in Japan and Abroad	Reading, pair work exercises, and small group discussions on gender issues inside of Japan and abroad.
Week 9	Gender and Culture: Cultural Expectations and Gender Roles	Listening, pair work exercises, small group discussions on cultural expectations and gender roles.
Week 10	Diversity: Multiculturalism and Stereotypes	Reading, pair work exercises, and small group discussions on Multiculturalism and stereotypes.
Week 11	Diversity: Learning from Our Differences	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on diversity and learning from personal and cultural differences.
Week 12	Social Change: Confronting Social Problems and Discrimination	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on confronting social problems and discrimination.
Week 13	Global Community: What Kind of Global Citizen are You?	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concept of a global community, and what kind of global citizen could be?
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】
Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Politeness: Ways of Showing Courtesy and Respect	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on politeness, and different ways of showing courtesy and respect.
Week 6	Communication Styles: Verbal Communication Norms	Reading, pair work exercises, and small group discussions on verbal communication styles and norms can vary between people and cultures.
Week 7	Communication Styles: Common Differences in Spoken Behavior	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on common differences in spoken behavior
Week 8	Gender and Culture: Examining Gender Issues in Japan and Abroad	Reading, pair work exercises, and small group discussions on gender issues inside of Japan and abroad.
Week 9	Gender and Culture: Cultural Expectations and Gender Roles	Listening, pair work exercises, small group discussions on cultural expectations and gender roles.
Week 10	Diversity: Multiculturalism and Stereotypes	Reading, pair work exercises, and small group discussions on Multiculturalism and stereotypes.
Week 11	Diversity: Learning from Our Differences	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on diversity and learning from personal and cultural differences.
Week 12	Social Change: Confronting Social Problems and Discrimination	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on confronting social problems and discrimination.
Week 13	Global Community: What Kind of Global Citizen are You?	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concept of a global community, and what kind of global citizen could be?
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】
Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation. How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Appearance reflecting the self and revealing others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on appearances and what they can communicate to ourselves and to others.
Week 6	Meeting people in a domestic environment.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other people in domestic environment.
Week 7	Meeting people: other students, other countries.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other students from different countries at school and elsewhere.
Week 8	Meeting people: expressing ourselves. Etiquette and feelings.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting people, and expressing our feelings while maintaining good manners.
Week 9	Culture: explaining Japan.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on explaining the culture of modern Japan.
Week 10	Culture: exploring tradition.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on exploring traditional Japanese culture.
Week 11	Culture: changing as we speak.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on how quickly cultures can change and evolve.
Week 12	Where we live: Town and Country.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live and the difference between city and country life.
Week 13	Where we live ： Directions and Dimensions.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live, how to get there, how the perception of size and distance can change.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and Presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation.
20% Homework.
40% Final Examination/term project.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation. How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Appearance reflecting the self and revealing others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on appearances and what they can communicate to ourselves and to others.
Week 6	Meeting people in a domestic environment.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other people in domestic environment.
Week 7	Meeting people: other students, other countries.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other students from different countries at school and elsewhere.
Week 8	Meeting people: expressing ourselves. Etiquette and feelings.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting people, and expressing our feelings while maintaining good manners.
Week 9	Culture: explaining Japan.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on explaining the culture of modern Japan.
Week 10	Culture: exploring tradition.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on exploring traditional Japanese culture.
Week 11	Culture: changing as we speak.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on how quickly cultures can change and evolve.
Week 12	Where we live: Town and Country.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live and the difference between city and country life.
Week 13	Where we live ： Directions and Dimensions.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live, how to get there, how the perception of size and distance can change.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and Presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation.
20% Homework.
40% Final Examination/term project.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

マーク・フィールド

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	The World's a Stage: From Shakespeare to Internet Stars	Listening, reading, and pair work exercises on traditional and newer forms of entertainment.
Week 6	The World's a Stage: Hip-Hop Goes Home	Listening, reading, and small group discussions on the ancient roots of some very modern music.
Week 7	The World's a Stage: Role-play a Famous Person	Listening, reading, and small group discussions on some famous entertainers, Followed student role-playing their favorite entertainers.
Week 8	In Style: More than Shopping	Listening, reading, and pair work exercises on fashion and different places to shop for and buy things including expensive malls and flea markets.
Week 9	In Style: Real or Fake?	Video on how to spot fake brand goods, pair work exercises, small group discussions on the meaning and real value of expensive iconic brands.
Week 10	In Style: Presenting and Defending an Argument	Listening, reading, and small group discussions on what certain styles of clothes say about people. Followed by student persuasive presentations on the benefits of designer goods or the evils of fake products.
Week 11	Decisions, Decisions: Rational Decisions	Listening, reading, and pair work exercises on making logical decisions.
Week 12	Decisions, Decisions: Peer Pressure	Listening, reading, and small group discussions on how others can sometimes affect what we do and the choices we make.
Week 13	Decisions, Decisions: The Teenage Brain	Video, and short reading on the unique features of young brains, followed by pair work exercises, and small group discussions on making decisions.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas & James R. Morgan, World Class 1, Cengage Learning, ISBN-13:978-1-133-31081-5

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
Week 6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
Week 7	Group presentation	Preparation and practice
Week 8	Mid-term Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback
Week 9	Informative discussion	Learning and teaching
Week 10	Persuasive discussion	Presenting one on one
Week 11	Persuasive discussion	Being politely powerful
Week 12	Presenting yourself socially	Learning to interact on a personal level
Week 13	Final Presentation	Preparation and practice
Week 14	Final Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In-class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
Week 6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
Week 7	Group presentation	Preparation and practice
Week 8	Mid-term Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback
Week 9	Informative discussion	Learning and teaching
Week 10	Persuasive discussion	Presenting one on one
Week 11	Persuasive discussion	Being politely powerful
Week 12	Presenting yourself socially	Learning to interact on a personal level
Week 13	Final Presentation	Preparation and practice
Week 14	Final Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In-class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

LANe300GA

英語アプリケーションⅠ

ジョナサン・エーブル

サブタイトル：Art, Rebellion and Advertising
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Theme: Art Topic: Symbols and Logos.	English lecture, reading, discussion and written assignment on symbols and logos.
Week 3	Theme: Art Topic: Symbols and meanings in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'	English reading, lecture and discussion on the symbols and their means in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'	English lecture, reading, discussion and written assignment on Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'.
Week 5	Theme: Art Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'	English reading, lecture and discussion on Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'
Week 6	Theme: Art Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?	English lecture, reading, discussion and written assignment on whether functional objects can be considered works of art.
Week 7	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s	English reading, lecture and discussion on the music of Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young	English lecture, reading, discussion and written assignment on the music of Bob Dylan and Neil Young as a stimulus for social change.
Week 9	Theme: Rebellion Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech	English reading, lecture and discussion of Martin Luther King's 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques continued	English reading, lecture and discussion of more techniques used in advertising.
Week 12	Theme: Advertising Topic: Advertising vs Branding	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs Topic: Is the unexamined life worth living?	English reading, lecture and discussion on the underlying briefs people seldom consider.
Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.
Presentations – 70%
Class participation – 30%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
None

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

Kregg　Johnston

サブタイトル：The Basics of Supply and Demand in Market Economics
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to accomplish the following: 1. Develop the student's knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics. 2. Understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically. 3. Analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
1. Students read chapter in book
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter
3. Student-led discussions in small groups of self-Check questions, review questions, critical thinking questions
4. End of chapter quizzes
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter).
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic systems	English reading, discussion and written assignment on Economic systems.
Week 4	Choice in a world of scarcity: Choice & Budget constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a world of scarcity: Social Choices & Objections to the Economic approach	English reading, discussion and written assignment on Economic & Social Choices.
Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of Supply and Demand
Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with Demand & Supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price elasticity of demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price elasticity of supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry structure: Explicit & Implicit costs/ Accounting & Economic profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry structure : The structure of costs in the short run & long run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm output decisions	English reading and lecture on the concepts of Market Competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit decisions in the short run & long run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. Read the assigned chapters in the book.
2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.

【テキスト（教科書）】
OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. < http://cnx.org/content/col11627/latest/ > .

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
- Quizzes 50%
- Participation 20%
- Homework 15%
- Written assignments 15%

【学生の意見等からの気づき】
More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター　カズマー

サブタイトル：Culture, why are there differences?
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth employment: where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and employment: Working life: what is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research habits: Conducting group research- different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Alternative career tracks: Unusual fields for employment Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation tip — explanation of structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical research — Big pharma: how medicine changes our reality Presentation tip — use of voice and posture: voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health issues: Diet considerations for life stages Presentation tip — use of slides: slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation tip — Group work: Making sure group members pull their weigh and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in our blood: Technology changes: Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up, Presentation tip — Final slide editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course overview discussions — Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

【学生の意見等からの気づき】
More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Contact
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター　カズマー

サブタイトル：Why culture matters?- truths and fallacies
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing your life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing other lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining customs in your country: holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining customs in selected Asian countries: holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining customs in selected Western European countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Discussion of Asian and Western national differences: National holidays, national/regional habits Presentation tip — explanation of structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Discussion of South American customs in selected countries: Discussing cultural difference Presentation tip — use of voice and posture: voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 9	Discussing food habits: Diet and how it affects customs Presentation tip — use of slides: slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Habits of selected parts of Africa: national holidays, national/regional habits Presentation tip — Group work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
Week 11	Examination of sports by continent- selected countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip — Final slide editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	African presentations with discussion of main themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	South American Presentations with discussion of main themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course overview discussion of contrasting presentation themes — discussion of cultural contrasts from country to country and region to region	Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

【学生の意見等からの気づき】
More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Contact email
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションⅤ

ジョナサン・エーブル

サブタイトル：Instant Fluency
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pairwork and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2
Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if …?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'What if …?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
・Final Exam – 30%
・Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
・Class Participation – 20%
・Word-up Tests – 10%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

LANe300GA

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル・ハウザー

サブタイトル：Canadian Life
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic (b) Canadian fact sheet questions and answers (c) a guided topical conversation and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic (b) Canadian fact sheet questions and answers (c) a guided topical conversation and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada – The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada – Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada – The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation
Week 6	Regions of Canada – Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art – The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art – Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music – Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music – Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
Students will be graded on their
1. Bi-weekly presentations – 70%
2. Weekly quizzes – 30%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture.

LANe300GA

英語アプリケーションⅦ

アンドリュー・ジョーンズ

サブタイトル：The Renaissance: Culture and Art
配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide course material.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).
20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.
20% Portfolio of notes taken during lectures.

【学生の意見等からの気づき】
After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

リービ　英雄

サブタイトル：Japanese Culture, World Culture
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：英語アプリケーション
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第 2 回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第 3 回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第 4 回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 5 回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 6 回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 7 回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 8 回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 9 回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 10 回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 11 回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 12 回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 13 回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 14 回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Read about Japanese culture.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some reference materials.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
50% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Presentations, etc.)
50% Term Project.

【学生の意見等からの気づき】
日本だけでなく外国文化を課題にしてもいい、と分った。

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

LANe300GA

英語アプリケーションⅨ

マーク・フィールド

サブタイトル：The History of Tourism
配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
In this course we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.
Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル・ハウザー

サブタイトル：Effective Business Presentation in a Multi-Cultural World
配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation The differences between Japanese and International business presentation styles	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

LANd100GA

ドイツ語コミュニケーションⅠ

アネッテ・グルーバー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】
当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
　コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Im Moebelhaus	Akkusativ
3	Wie findest du den?	Syntax
4	Im Kaufhaus	Nomen im Plural
5	Termine vereinbaren	Idiomatische Phrasen
6	Mit Papa im Supermarkt	Personalpronomen im Dativ
7	Orientierung im Supermarkt	Nomen im Dativ
8	Gespraeche mit Verkaeufern	Idiomatische Phrasen
9	Einen Gast bewirten	Imperativ
10	Berufe: Vor-und Nachteile	Modalverben
11	Mein Arbeitsplatz	Wo? in, bei + Dativ
12	Verabredungen	Uhrzeit
13	Datum, Termine	Zeitangaben
14	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Wortschatz, Phrasen

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell 1, Lektion 1-4
Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】
自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】
各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。６０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。４０％
遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度のはやさ、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline and objectives】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd200GA

ドイツ語コミュニケーションⅡ

ウテ・シュミット

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者が困難なくドイツ語圏で生活をするためと大学生活を送るために、積極的にドイツ語を使う必要があります。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。

【到達目標】
受講者は困難なくドイツ語圏で学生生活を送ることと、
少しでも多く話せるようになること
一つでも多くの単語と表現を覚えること
がこの授業の目標です。
聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では基礎文法を含むテキストを用い、ドイツ語圏の日常生活や文化のさまざまな場面に題材を求めた、会話練習、聴きとり練習等に取り組む。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得、実践的にパートナー練習を通じて、コミュニケーション能力をアップすることをめざしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einführung オリエンテーション	Sich vorstellen Ich und meine Familie
2	日常生活と大学 Mein Alltag	Zeiten und Termine im Alltag und an der Uni
3	余暇 Freizeit	Hobby und Vereinsleben
4	食生活 Ernährung	Lebensmittel einkaufen und Essen im Restaurant
5	買い物 Kaufen, Kaufen	Im Geschäft: Preise und Konsum
6	住居 Wohnen	Wohnungen und Möbel
7	メディア Medien	Breif-Handy-SMS-Mail
8	健康 Gesundheit	Beim Arzt
9	街の中 Orientierung	In der Stadt
10	場所と方向 Wege	Wegbeschreibungen verstehen
11	天気 Klima und Wetter	Wetterbericht verstehen
12	休暇 Urlaub	Eine Reise planen
13	祝日とお祭り Feiertage und Feste	Feste in Deutschland und der Schweiz kennenlernen, Japanische Feste erklären
14	まとめ Wiederholung	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布します

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業の積極的な参加（発言）（40 %）、提出した宿題（30 %）、面接試験（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
文章を書く練習は役に立ったようで、引き続き授業で取り上げたいと思っています。

【Outline and objectives】
In this course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing, so that they can manage their study abroad program without major difficulties. Students will not only improve their communication skills, but they also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200GA

ドイツ語コミュニケーションⅢ

アネッテ・グルーバー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当講座はドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、学生一人ひとりが実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語のコミュニケーション能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Terminvereinbarungen	Dialoge in Partnerarbeit
3	Familie und Freunde	Possessivartikel
4	Arbeiten im Haushalt	trennbare Verben
5	Wo? Wohin?	Wechselpraepositionen mit Dativ und Akkusativ
6	Berlin	Wegbeschreibung
7	Ueber Vergangenes sprechen	Perfekt
8	Meine Stadt	Personalpronomen im Akkusativ
9	Um Auskunft bitten/Auskunft geben	Wo-/Ja-Nein-Fragen Idiomatische Phrasen Training muendlicher Ausdruck
10	Um etwas bitten/auf Bitten reagieren	Imperativ Idiomatische Phrasen
11	Ansagen verstehen	Hoerverstehen (Alltagssituationen)
12	E-Mails schreiben	Training schriftlicher Ausdruck
13	Simulation Pruefung Start Deutsch 1	Leseverstehen, Hoerverstehen, muendlicher Ausdruck, schriftlicher Ausdruck
14	Wiederholung und Zusammenfassung	kommunikative Spiele

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】
自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】
各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。６０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。４０％
遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望あれば応える。

【Outline and objectives】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

林　志津江

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ドイツ語圏の留学で伸ばしたドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、それらを簡単なドイツ語で表現・説明することができる。抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ議論ができる。まとまった分量のドイツ語作文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
各テーマに沿って議論する形式です。各回決められたテクストを前もって読んでおきます。授業ではペアワーク・グループワークも取り入れ、テクストの内容と重要な概念（語彙）を確認しながらできる限りドイツ語でアウトプット（作文）します。この作業を繰り返しながら、自分の言いたいことが適切なドイツ語の表現で、できるだけスムーズにドイツ語で言えるように練習します。テーマに関しては、ドイツ語圏それぞれ共通する話題、異なる話題のバリエーションを用意し、自分自身の体験と比較しながら、理解の内容を深めていくことができるよう配慮したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整、ドイツ語で SA 滞在時の思い出を語ってみよう！
2	自宅と家族、住まいについて	家族、家庭内での光景、一日の営みについてドイツ語で説明しする練習
3	方言（1）ー 食文化	土地ごとに違う表現・同じ食べ物でも土地ごとで名前が違うこと
4	方言（2）ー ドイツ語圏のさまざまな様相	あなたが見聞きしたものは？ あるいは見聞きできなかったものは？
5	学校・大学生活（1）	学校・大学制度、学校生活のさまざまな光景を説明する
6	学校・大学生活（2）	大学生の過ごし方、大学が目指すものー 日本とドイツ語圏では何が違うのかな？
7	社会問題（1）ー 環境政策について	ドイツ語圏の脱原発政策について、自分の意見をドイツ語で言ってみよう
8	社会問題（2）ー 移民政策、難民の流入	移民政策・難民政策、メディアが発することと自分が思ったこと、自分の意見をドイツ語で言ってみよう
9	社会問題（3）ー 教育と大学制度	日本の大学生とスイス（ドイツ語圏）にいる大学生は何が違った？
10	社会問題（4）ー 日本の社会と教育制度	ドイツ語圏と比べて日本は？ 教育に関する語彙を整理してみよう
11	ドイツ語圏の歴史と政治（1）	ドイツ語圏の歴史で知っていることは？ 感じていることをドイツ語で言ってみよう
12	ドイツ語圏の歴史と政治（2）	自分の意見をドイツ語で確認してみよう
13	ドイツ語圏の歴史と政治（3）	SA 先の友人や Mitbewohner とは何を話しましたか？ ドイツのメディアが報道する日本について
14	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むといいです。国際政治を自分の身近な問題として引き受けるために必要なものについて考えられようになることは、単なる知識ではなく、「何を話すか」のブラッシュアップにも必要です。
・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。

【テキスト（教科書）】
適宜コピーを配布します
（"*Themen aktuell 1*"（Hueber, 2003）,"*Dreimal Deutsch*" (Klett, 2003）を持っている場合は持参）

【参考書】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver2.』（朝日出版社、2011 年）（1,2 年次使用教科書）
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60 %、定期試験 40 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です。ただし議論の時は使ってはいけません。

【その他の重要事項】
授業内容（テーマ）と順序は変更されることがあります。

【Outline and objectives】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication (over 5. semester) as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking society. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

辻　朋季

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
留学を通して身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。ドイツ語検定試験の２級相当のレベルに到達することを一つの目標に、ドイツ語テキストの正確な読解に取り組みます。辞書なしで文意を捉えられるよう、速読の力を養うとともに、ドイツ語の構文を正しく理解して精緻に読み解く訓練もしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】
ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く（著者が何を言いたいのか、メッセージを読み解く）。辞書なしで文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。独検２級に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、初見のテキストを辞書なしで読み、テキストの大まかな方向性を把握する練習をします。後半では、事前に配布した教材（ドイツ語圏の文化や歴史に関するテキストやニュース記事）などを精読します。文章の和訳をしながら、内容を正確に読み解くとともに、テキストが扱っているテーマについての議論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	スイス留学をふり返る	2018 年にスイスで起きたことについて、テキストを読む。自身の留学体験とも重ね合わせて、どんな年だったのかをふり返る。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	スイスの隣国ドイツのいまを知る。ドイツとスイスの社会や政治の制度の違いを知る。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	史上最年少の首相が誕生したオーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどにをついて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて、改めて学ぶ	スイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る
6	ドイツ語圏を知る（4）スイスの直接民主制について	最低賃金 3000 円？ 国内法よりも国際法を優先？ 民間銀行の信用創造を禁止？ 世界が驚くスイスの斬新な国民投票発議について学ぶ。
7	スイスと多言語主義	４つの公用語を持つスイスの現状や、英語の普及がもたらす影響などについて学ぶ。
8	日本とスイスの交流史	1864 年に修好条約が締結されて 154 年を迎える日本とスイスの両国の関係を学ぶ。
9	日本とドイツの交流史	1862 年にプロイセンと日本の間で修好条約が結ばれて 160 年弱。日独間の交流の歴史を知る。
10	独検に挑戦（1）	ドイツ語検定 2 級で出題された文章を正確に読み解いていく。
11	独検に挑戦（2）	ドイツ語検定 2 級で出題された文法問題を解いて、初級・中級文法の定着を図る。
12	独検に挑戦（3）	ドイツ語検定の聞き取り試験を解きながら、リスニングの力を養っていく。
13	スイス、ドイツのいま（1）	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、ドイツの最新の情勢を知る。
14	スイス、ドイツのいま（2）	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、スイスの最新の情勢を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の後半で読むテキストは事前に配布しますので、辞書を用いて予習して授業に臨んで下さい。予習に際しては、ただ単語の意味を調べるだけではなく、著者がどのようなスタンスで何を述べようとしているのかを読み解く努力をしていきましょう。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、プリントを毎回配布します。

【参考書】
中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著：『ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）。ドイツ語の文法がコンパクトながら網羅的に解説されていて、ドイツ語学習者の「必携の書」と言えます。まだ持っていない学生は用意してください。また中級文法のトレーニングには、以下の参考書もおすすめします。辻朋季：『もやもやを解消！ ドイツ語文法ドリル』（三修社、2015 年）

【成績評価の方法と基準】
授業での発言と参加 40 %。課題への取り組み 40 %。小テスト 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語で話す機会を増やしてほしいという意見があったので、 授業で扱うテーマに関して、ドイツ語で議論する場を設けていく。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to make progress our German language skills acquired by staying and studying in Switzerland. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read them precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases(nominative, genitive, dative and accusative).
NOTA BENE: The cource is mainly held in Japanese, partially in German. Students who are not proficient in these languages are requested to ask the course lecturer beforehand (q.v. also curriculum vitae in Japanese)

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

ウテ・シュミット

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Alltagskultur im deutschen Sprachraum ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう
この授業では身近な事柄から時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分の周りの日常と比較しながら、自分の意見をドイツ語で発信し、ディスカッションをしていきたいと思います。

【到達目標】
この授業では受講者がドイツ語による口頭および書面の表現力をつけることを目標としています。題材として、身近な事柄から時事問題までドイツ語圏の日常文化を扱います。学生はその実情を調べ、日本と比較しつつ、各テーマについて発表や意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいです。受講者は日本の文化や日本が抱える問題をドイツ語で発信するための能力を磨きます。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
テキストブック、新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを
通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbsvorstellung
第 2 回	大学生活	Studium und Studentenleben
第 3 回	日曜日の過ごし方	Der Sonntag heute und in der Vergangenheit
第 4 回	国と国民:典型的とは何か？	Was ist typisch?
第 5 回	国際文化とは	Interkulturelle Kommunikation: Zwischen den Kulturen
第 6 回	歴史と政治１	Geschichte und Politik 1 Wie lernen wir Geschichte in der Schule?
第 7 回	歴史と政治２	Geschichte und Politik 2 Interessieren Sie sich fur Politik?
第 8 回	ドイツ映画　1	Deutschsprachige Filme
第 9 回	ドイツ映画　2	Einen Film sehen und eine Filmkritik schreiben
第 10 回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第 11 回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第 12 回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第 13 回	お祭り	Traditionelle Feste
第 14 回	クリスマスを知るクイズ	Weihnachtenquiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題が出ます。単語の復習は必須。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布します。

【参考書】
特にない

【成績評価の方法と基準】
授業での発言と参加５０％、宿題５０％

【学生の意見等からの気づき】
特にない

【Outline and objectives】
In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

LANf100GA

フランス語コミュニケーションⅠ

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語コミュニケーションの力を発展させるクラス。フランス語会話を日常生活の中で使えるように土台をつくる。
聞く、読む、話す、書くの四つの能力をまんべんなく鍛え、確実に学習事項を身につけられるように構成されているプログラムです。
表現と、関連する文法の機能を体系的に理解する練習を行い、学習のごく早い段階からフランス語のコミュニケーションを可能にし、学習のモチベーションを与えたいと思います。

【到達目標】
フランスの中で旅行および生活するために不可欠な基礎の知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
担当する講師は日本人、ネイティブともに同じテキストを使う。日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を養う。発音の聴き取り、繰り返し、質疑応答などのさまざまな練習を通じてフランス語コミュニケーションの力を発展させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Présentations	自己紹介
	Unité 4 Leçon13 p47	数字
	Les nombres	時間、曜日
	L'heure, les jours	
2	Unité 4 Leçon14 p49	職業に関して話す
	Parler de professions	職場
	Lieux de travail	
3	Unité 4 Leçon15 p51	時間と行為
	Actions dans le temps	
4	Unité 4 Leçon15 p51	毎日の行為
	Actions habituelles	スポーツ
	Le sport	
5	Unité 5 Leçon17 p57	飲食の習慣
	Habitudes alimentaires	量
	Quantités	
6	Unité 5 Leçon18 p59	過去の行為
	Actions passées	
7	Unité 5 Leçon18 p59	意見を述べる
	Exprimer une opinion	中間テスト
	Test de mi-trimestre	
8	Unité 5 Leçon19 p61	移動　（過去）
	Déplacements (passé)	
9	Unité 5 Leçon19 p61	時間についての質問
	Interroger sur le temps	祭日のイベント
	Activités de fêtes	
10	Unité 6 Leçon21 p67	許可
	Permission	禁止
	Interdiction	
11	Unité 6 Leçon22 p69	可能性
	Possibilités	能力
	Savoir-faire	意士, 義務
	Volonté, obligation	
12	Unité 6 Leçon23 p71	提案する
	Faire des propositions	
13	Test de fin de trimestre	期末テスト
14	Correction du test	テストの返却
	Culture française	フランスの文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習問題、復習問題、宿題

【テキスト（教科書）】
Nouveau Taxi 1 . Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal　旺文社

【成績評価の方法と基準】
1：平常点　（5 %）　3：宿題　（20 %）
2：積極性　（5 %）　4：定期試験　（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
冠詞や前置詞などをよりわかりやすく説明し、初歩の段階から苦手意識を持たず、楽しんで学習できるよう工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
CD プレーヤー

【Outline and objectives】
This course is the first step as part of the program which prepares the students for their study trip and stay in Angers (France). The progression of the class is based on the text book called "Nouveau Taxi 1" but we will use extra material to focus on oral training. The purpose of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn the basic knowledge which is necessary to communicate with native speakers in France. For this purpose, in class, we will give priority to active interactions. The students will have to participate and speak as much as possible with partners. We'll do a lot of panel exercises and learn how to ask or answer questions in order to communicate in various situations experienced in everyday life. In order to achieve the goal of this program, it is also important to develop the vocabulary which is needed for each topic. The rules of pronunciation will be explained in detail, and we will do many exercises over and over to improve the speaking ability. Japanese teachers will also take part in this program in different classes. In the first stage, they will explain French grammar that can be reutilized in conversation patterns in our class. Furthermore, homework, revisions and tests will give the students the opportunity to check their progress.

LANf200GA

フランス語コミュニケーションⅡ

大中　一彌

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スタディ・アブロード・プログラムで予定されているアンジェ滞在にむけて、必要な語彙や表現、中級程度の文法を学ぶ授業です。教科書 Le Nouveau taxi! 1 を中心に進めますが、インターネット上にあるフランス語圏の動画や記事も利用します。

【到達目標】
教科書 Le Nouveau taxi! 1 を終え、学んだ表現を自分でも聞き取ることができ、会話で使えるようになる。また日常的な内容の文章を読み、電子メールや簡単な手紙が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
1. 語彙や発音、文法事項の説明
2. 学生による production（実際に発音したり、聞き取ったり、書いたり、読んだりできるか）
3. 理解度チェック（2. で挙げた項目のチェック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方についての説明 Leçon 22	できること、できないことを伝える。したいこと、しなければならないことを言う。
2	Leçon 23	提案をする。提案に賛成する、あるいは提案を断る。
3	Leçon 24	命令文を使う。頼みごとをする。
4	Évaluation 2	Leçon22 から Leçon24 の内容を踏まえた問題を解いて復習する。
5	Leçon 25	好きなことについて語る。頻度や程度の表現をあわせて学ぶ。
6	Leçon 26	意見を言う、意見を求める。反論する。
7	Leçon 27	好みについて述べる。助言する。
8	Leçon 29	過去の出来事や習慣について話す（半過去）。最近の出来事について話す（近接過去）。
9	Leçon 30	過去の出来事について話す（複合過去）。そのときの状況について述べる。
10	Leçon 31	過去の出来事を、時の表現と結びつけて話す。目的の表現を学ぶ。
11	Leçon 33	未来のことについて話す（単純未来）。ありうるかもしれないこと、あるいはたしかなことについて話す。
12	Leçon 34	未来の計画について話す。これからのことを時の表現と結びつけて話す。
13	Leçon 35	条件・仮定の表現を学ぶ。これからやりたいこと、またその理由について話す。
14	Évaluation 3	Leçon25 から Leçon35 の内容を踏まえた問題を解いて復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語は毎日続けて親しまなければ身につきません。新しい単語をあらかじめ調べておき、授業後も繰り返して発音して動詞の活用や表現を覚えることを通じて、予習と復習をしっかりとするようにしてください。

【テキスト（教科書）】
Guy Capelle & Robert Menand, Le Nouveau taxi! 1 Méthode de français, 2009, Hachette.

【参考書】
仏和辞典を持参してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
授業内活動（小テスト等を含む）　40 %
テスト 30%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度、この授業を担当していません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書をまめに引く習慣をつけるようにしましょう。文法については、アンジェではフランス語で教わることを念頭に、日本語の参考書を買いましょう。できるだけ早くフランス語環境での学習に慣れるために、インターネットを活用しましょう。

【その他の重要事項】
分からないことがあるときは、家に持ち帰らずに、その日のうちに確認するようにしましょう。遠慮せずに授業中に質問してください。それでも解消しないときは、授業後も質問を受けつけます。

【Outline and objectives】
This intermediate French course includes a grammar review, conversation, reading, and writing. Class meets four times a week. Students will prepare to study abroad in Angers, France (fall semester, 2019).

LANf200GA

フランス語コミュニケーションⅢ

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座。日常生活の中で、フランス語での中コミュニケーションがもっと細かくできるようにレベルアップさせる練習を行う。
さらに基礎文法を固め、必須な語彙を増やし、フランス語のスキルを高める。練習問題は多くの場合はペアで行うように学習者同士のコミュニケーションが促される仕組みになっているプログラムです。

【到達目標】
前年度よりさらに会話のテーマを広げながら、フランスで暮らせるために様々な角度からコミュニケーションの力を強化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
前年度と同じテキストを使い、基本的に同様の教え方を行う。フランスで暮らせる目的を固めながら、フランス語でネイティブとコミュニケーションを取るように会話の能力を強める。それぞれの日常生活の状況に関係がある様々な会話パターンを覚え、反応及び会話のスピードを高める練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 7 Leçon 25 p79 Exprimer ses goûts et ses préférences Exprimer l'intensité	趣味, 好み 程度
2	Unité 7 Leçon 25 p78 Activités de loisirs faire / jouer sport, musique,jeux Pronoms "en" et "y"	休暇の行為（復習） スポーツ / 音楽 ゲーム en / y 代名詞
3	Unité 7 Leçon 25 p79 Fréquence des actions Enquête	行為の頻度 アンケート
4	Unité 7 Leçon 26 p81 Exprimer une opinion Contester	意見 異議
5	Unité 7 Leçon 27 p83 Donner une appréciation sur ses goûts adjectifs	好みについて評価 形容詞
6	Unité 7 Leçon 27 p83 Donner des conseils	助言、アドバイス
7	Unité 8 Leçon 29 p89 Evènement récents Etats et habitudes passés Test de mi-trimestre	近未来の出来事 過去の習慣 (半過去) 中間テスト
8	Unité 8 Leçon 30 p91 Evènements passés、 Circonstances et états passés	過去の出来事、 過去の状況・状態
9	Unité 8 Leçon 31 p93 Situer dans le temps Le but	時間の表現 目的
10	Unité 9 Leçon 33 p99 Prévisions (météo) Probabilité Certitude	天気予報 可能性
11	Unité 9 Leçon 34 p101 Expression du futur Projets	未来 計画
12	Unité 9 Leçon 35p103 Hypothèse Condition	仮定 条件
13	Test de fin de trimestre	期末試験
14	Correction du test Symboles de la France	テスト返却 フランスのシンボル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習、宿題

【テキスト（教科書）】
Le Nouveau Taxi 1. Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
１：平常点 （5 %） ３：宿題 （15 %）
２：積極性 （10 %） ４：定期試験 （70 %）

【学生の意見等からの気づき】
具体的なシチュエーションのなかで、より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【Outline and objectives】
This course is a part of the second step program which prepares the students for their study trip and stay in Angers (France). We will review and go further in the program with the support of Japanese teachers who will keep on teaching the grammar program at an intermediate higher level. Basically, we will use the same method of progression as the 1srt year program based on the text book called "Nouveau Taxi 1". We will also use extra materials and methods which will focus on "how to use" in order to develop the oral ability. The main priority of this class will be the strengthening and brushing up of the speaking ability. Like last year, the students will learn to explain facts or actions in everyday situations, they will participate actively by asking or answering questions in a more precise way and will give opinions about many different topics. For this purpose, the students will have to memorize vocabulary which is necessary to talk about many different subjects, and they will perform drills which involve more grammar of the intermediate level. We will proceed progressively and each step will lead in a natural way to the next one. We will do reviews if it is necessary to assure a smooth but active progression.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2 ou B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests - Découverte de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 1 : Vivre ensemble (1)	pp.11-13 & p.15 : supermarché et alimentation
3	Unité 1 : Vivre ensemble (2)	p.14 & pp.16-17 : le subjonctif ; le logement
4	Unité 1 : Vivre ensemble (3)	pp.18-20 & p.23 : le voisinage ; conseiller
5	Unité 1 : Vivre ensemble (4)	p.22, p.24, p.26 : la négation et la restriction ; équilibrer son alimentation
6	Unité 2 : Le goût des nôtres (1)	pp.27-30 : famille et origines ; passé composé et imparfait
7	Unité 2 : Le goût des nôtres (2)	pp.31-35 : souvenirs familiaux, généalogie ; indicateurs de temps
8	Unité 2 : Le goût des nôtres (3)	pp.36-39 : rapports à l'autre ; verbes pronominaux TEST INTERMEDIAIRE
9	Unité 4 : Consommation (1)	pp.59-61: mode et vêtements ; image de la France
10	Unité 4 : Consommation (2)	pp.62-65 : être consommateur ; expression de l'opinion
11	Unité 4 : Consommation (3)	pp.66-68 & p.71 : économie de partage ; comparatif & superlatif
12	Unité 7 : Et si on partait ? (1)	pp.107-109 & p.111 : bien voyager ; le futur
13	Unité 7 : Et si on partait ? (2)	p.110 & pp.112-113 : préparer ses vacances
14	Unité 7 : Et si on partait ? (3)	p.114 & p.116 : et si ? ; condition & hypothèse TEST FINAL Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).
(14 回の出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation en classe : 50%
Tests et devoirs : 50%

【学生の意見等からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】
Salle LL
Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France (ex: SA-France) ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
This course is for intermediate students with a A2 or B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 5 : le français dans le monde (1)	pp.75-77 : diversité des cultures francophones
2	Unité 5 : le français dans le monde (2)	pp.78-80 : le plus-que-parfait ; relations interculturelles ; Océanie
3	Unité 5 : le français dans le monde (3)	pp.81-85 : "en" & "y"; le français dans le monde
4	Unité 5 : le français dans le monde (4)	pp.86-90 : indicateurs de temps ; la diversité ; le vocabulaire français
5	Unité 6 : Médias en masse (1)	pp.91-93 : les médias à l'ère du numérique
6	Unité 6 : Médias en masse (2)	pp.94-97 : les faits-divers ; nominalisation de la phrase verbale
7	Unité 6 : Médias en masse (3)	pp.98-100 & p.103 : le passif ; le bouleversement des médias TEST INTERMEDIAIRE
8	Unité 8 : La planète en héritage (1)	pp.123-125 & p.127 : le recyclage
9	Unité 8 : La planète en héritage (2)	p.126 & pp.128-129 : effet de serre ; verbes et adjectifs avec prépositions
10	Unité 8 : La planète en héritage (3)	pp.130-132 : la planète, demain ; le gérondif
11	Unité 8 : La planète en héritage (4)	pp.133-136 : vivre en respectant l'écologie ; l'ordre du discours
12	Unité 11 : du sport (1)	pp.171-173 & p.175 : la paresse et les loisirs
13	Unité 11 : du sport (2)	p.174 & pp.176-177 : au service de la santé ; les doubles pronoms
14	Unité 11 : du sport (3)	p.178 & p.186, pp.180-183 : quels sports choisir ? ; le futur antérieur TEST FINAL Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).
(14 回の出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation en classe : 50%
Tests et devoirs : 50%

【学生の意見等からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】
Salle LL
Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France (ex: SA-France) ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
This course is for intermediate students with a A2 or B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

コンルール　ジョルジュ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】
Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif.
Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
①	- Prise de contact (questions et révisions générales). - Explications sur le programme du cours	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. Le programme du cours pourra s'en trouver modifié.
②	Demander des articles, des produits	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	Parler des quantités	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	Passer une commande	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	Réserver	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	Réserver (suite et fin)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Révision générale	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	Parler d'argent	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	Échanger, se faire rembourser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	Comparer	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	Localiser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	Parler des lieux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	Expliquer un vol ou un accident	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	- révisions - test final	Le test final pourra être constitué d'une partie écrite mais aussi orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive Du Francais - 2eme Edition: Livre De L'eleve + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-2090381634)

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】
Préparation: 25%
Participation en classe: 25%
Tests et devoirs: 50%

【学生の意見等からの気づき】
Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】
CD

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c636353133336363536383834343935.pdf

【Outline and objectives】
The goal of this course is to teach the French Language basic structure using English according to the ability of the students.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, d'un seul semestre, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (「ビジネス・フランス語」). Il constitue une bonne initiation au vocabulaire de l'économie et du monde du travail.

【到達目標】
Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone.
Il est également utile à la préparation des examens du DELF ou des "Kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
L'apprentissage sera progressif mais rapide, donc relativement intense. Exercices et activités développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.
Chaque séance de cours sera conclue par quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 (1) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Présentation du cours et de la méthode. Parties A et B de l'unité 1.
②	Unité 1 (2) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 2 (1) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 2 (2) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 2 (3) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 3 (1) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 3 (2) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 3 (3) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 4 (1) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Parties A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 4 (2) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 4 (3) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 5 (1) ("En mission", pp. 72-87)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑬	Unité 5 (2) ("En mission", pp. 72-87)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 5 (3) ("En mission", pp. 72-87)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique. TEST FINAL

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】
OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)
Un manuel pourra être prêté à chaque étudiant durant le semestre.

【参考書】
La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 40%
Test, textes et exposés : 60%

【学生の意見等からの気づき】
Quelques notions fondamentales d'économie et de finances seront rappelées.

【学生が準備すべき機器他】
Salle LL

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
This "business french" course (one semester only) is intended for students who want to communicate in professional situations (level A2-B1).

LANr100GA

ロシア語コミュニケーションⅠ

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる会話表現の習得を目標とする授業です。ロシア語の発音とイントネーションに慣れることから始め、挨拶、受け答えの基礎から徐々に語彙を増やしていき、最小限の日常行動が可能となるような会話の基礎を作ります。また、講師との対話（会話）を通して、現地事情を感じてもらえるような授業を目指します。

【到達目標】
簡単なロシア語の質問を正しく理解し、答えることができる。簡単な言葉で自分のことを表現できる。文章を正確に読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
会話の基礎は、定型的なフレーズの音読練習、暗記、場面での応用で築かれていきます。授業では発音・イントネーションの練習、場面設定でのロール・プレイなどを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習	前期に既習した事項を復習する。
2	食材	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
3	料理、飲み物	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
4	料理の味・調理法	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
5	レストラン	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
6	地図、世界の言語	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
7	職業、施設・機関	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
8	移動、交通機関	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
9	町、建物	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
10	形容詞	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
11	動物、鳥、昆虫	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
12	クリスマス、お正月　年賀状の書き方	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
13	「私の一日」（日常生活）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（新出単語の意味調べ、文章の音読練習）と復習（授業で学んだことの復習）をすること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】
The goals of this course are: (1) to give students practice at listening and speaking, and (2) to teach students useful words and expressions.

LANr200GA

ロシア語コミュニケーションⅡ

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
9 月からの現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1 年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返し行います。

【到達目標】
ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業ではテーマごとに文章を音読し（発音・イントネーションを確認するため）、そこで使われている表現をロール・プレーなどを通して練習します。その後、覚えてきた表現を使い短いロシア語の文章を作成する練習も行います。更に、ロシア語での質疑応答に答えられる訓練を行います。
会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと既習の会話表現の復習	既習の会話表現の復習を行う。
2	自己紹介	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
3	家族	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
4	私が住んでいる家（建物、庭）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
5	私が住んでいる家（部屋、家具、設備）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
6	私が住んでいる家（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
7	自然、ハイキング	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
8	教育、学生生活	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
9	教育、学生生活（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
10	人間の身体部位	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
11	人間の身体部位（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
12	人の外見	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
13	人の外見（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各テーマで読んでいく文章の中でわからない単語があったら調べておくこと。また、授業で学んだ表現をよく復習すること。文章は音読すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%)、宿題 (30%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】
The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, and to give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

LANr200GA

ロシア語コミュニケーションⅢ

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現地での学習に備えるため、会話でよく使われる語彙や表現を身につけ、それをもとに相手に自分の考えを伝える訓練を行います。また、短いロシア語の文章を作成する練習も行います。さらに、テーマに沿ってロシアでの生活に関することを紹介していきます。

【到達目標】
自分のことをロシア語で表現できる（話す、書く）、他のテーマについても簡単なロシア語を使って表現（話す、書く）できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では文章を音読し、そこで使われている表現の練習をします。そして、授業中に覚えてきた表現を使い短いロシア語の文章を作成する練習も行います。会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと既習の会話表現の復習	既習の会話表現の復習を行う。
2	日常生活、趣味	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
3	カレンダー、時間の表現	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
4	カレンダー、時間の表現（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
5	交通機関、切符売り場	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
6	交通機関、切符売り場（まとめ）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
7	旅行	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
8	観光地（プレゼンテーションの準備）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
9	観光地（プレゼンテーション）	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
10	電話	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
11	手紙、メールの書き方	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
12	病気と健康	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
13	診療所・病院にて	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各テーマで読んでいく文章の中でわからない単語があったら調べておくこと。また、授業で学んだ表現をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%)、宿題 (30%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】
The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, and to give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤　千登勢

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ロシアで培ったロシア語の文法と読解力を維持・向上させ、ロシア語学習に対するモチヴェーションをいっそう高めることが目的となります。ロシア語テキストの読解を通して、ロシアの文化や慣習をさらに深く知る楽しみも分かち合いたいと思います。

【到達目標】
ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＰＫＩ）、あるいはロシア語能力検定試験の各自が目標とするレヴェルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
読解に重点をおきます。教材には、ＴＰＫＩやロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や習慣をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握し、設問に答える練習を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第 2 回	ＴＰＫＩの読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 3 回	ＴＰＫＩの読解問題と文法解説	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 4 回	ＴＰＫＩの読解問題と文法解説	ＴＰＫＩのテクストに関するリスニングとテクスト内容の簡単な解説。
第 5 回	ＴＰＫＩの読解問題と文法解説	ＴＰＫＩのテクストに関するリスニングとテクスト内容の簡単な解説。
第 6 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 7 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 8 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 9 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 10 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 11 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 12 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテクストの読解と解説。
第 13 回	ロシア映画鑑賞（1）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。
第 14 回	ロシア映画鑑賞（2）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ＴＰＫＩの練習問題やロシア語能力検定試験の過去問題を通して、本番に臨む準備を各人でも重ねていってください。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場でコピーを配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
予習を含む授業への取り組み（50 %）、出席率（50%）

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞への希望があったので、両者に応じるような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to maintain and improve Russian grammar and reading comprehension in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤　千登勢

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期はロシア語の読解力に加え、リスニングの向上にも力を入れます。次年度のロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の希望する級の合格を目標に掲げます。

【到達目標】
読解力と聴解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチヴェーションをいっそう高めること、ロシアの文化をロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の各自が目標とするレヴェルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ロシア語検定試験　（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の読解問題やロシア語雑誌のコラム、ロシア文化に関する文献を教材としてリーディングの力を養います。また、ＴＰＫИのリスニング問題を利用して聴解力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	みなさんの要望を訊くアンケートを実施。
第 2 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИのリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 3 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИのリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第 4 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 5 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第 6 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 7 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 8 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 9 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 10 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 11 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 12 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 13 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテクスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 14 回	映画鑑賞	ロシア映画を鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシアの文化、社会を知るために読むテクストの予習。

【テキスト（教科書）】
教場でテクストのコピーを配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
予習を含む授業への取り組み（50 %）と出席率（50 %）に基づき判断します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの要望に基づき、これまでどおり、ＴＰＫИおよびロシア語能力検定試験に向けた対策、およびロシア語のコラムの読解を続けていきます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to maintain and improve reading comprehension and listening in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading and listening texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANc100GA

中国語コミュニケーションⅠ

蒋　彧婷

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音及び基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を習得する。

【到達目標】
中国語コミュニケーションに必要不可欠な発音と基礎的な文法に関する知識と技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
発音及び読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	会話と授業に関する説明	中国語会話の練習と授業に関する注意事項の説明
②	第１課	新出単語とポイント 動詞の後ろの「給」 「跟～一様」 「从来+不/没有～」 「～什么的」
③	第１課	本文とトレーニング
④	第２課	新出単語とポイント 「即使～也 ･･･」 「越来越～」 疑問詞「也/都 ･･･」 「不僅～, 而且 ･･･」
⑤	第２課	本文とトレーニング
⑥	第３課	新出単語とポイント 「因為～, 所以 ･･･」 否定の語気を強める「又」、反駁、詰問の語気を表す「什么」
⑦	第３課	本文とトレーニング
⑧	第４課	新出単語とポイント 「又～又 ･･･」 「虽然～但是 ･･･」 「只要～, 就 ･･･」 「像～似的」
⑨	第４課	本文とトレーニング
⑩	第５課	新出単語とポイント 「有的～, 有的 ･･･」 形容詞の重ね型 「～得了/不了」 「不管～, 也/都 ･･･」
⑪	第５課	本文とトレーニング
⑫	第６課	新出単語とポイント 「不是～, 而是 ･･･」 「対～来説 ･･･」 動態助詞「着」 「非～不可」
⑬	第６課	本文とトレーニング
⑭	復習、試験、解説	ここまで習った内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語とポイントをしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。
・毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
『チャレンジ！ 二年生の中国語』－簡明会話版－
著者: 南　勇　　朝日出版社

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を行うために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】
Master the basic knowledge of Chinese pronunciation and fundamental grammatical matter while learning the necessary knowledge for Chinese communication.

LANc200GA

中国語コミュニケーションⅡ

薬　会

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語によるコミュニケーション（会話と作文）の能力を向上させます。

【到達目標】
初級後段階中級前段階の作文能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回、こちらが提示した作文の練習問題を、既習の語彙・文法知識に基づき完成し、提出する。また、提出し添削されたプリントを理解し、その後の作文に生かすために復習する。最終的にＳＡ開始時の「宿題」に対応できるための基礎作りとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数字・量詞の文	時間とお金 「二」と「両」の使い分け
2	断定・否定の文	「是」構文と動詞・形容詞構文 「不」と「没有」の使い分け
3	疑問文	普通疑問文と反復疑問文 疑問詞と疑問文
4	連体・連用修飾を含む文	「的」「地」「得」 副詞と形容詞
5	「把」を使用した文	「把」構文
6	受け身文	「被」「叫」「讓」など
7	使役文・兼語文・連動文	「叫」「讓」「去」など
8	存現文	「在」「有」「動詞＋着」
9	比較の文	「比」「一様」など
10	介詞を使用した文	「従」「离」「在」「跟」「為了」など
11	助動詞の文	「会」「能」「可以」など
12	テンス・アスペクト	「了」「着」「過」
13	補語の文	程度・方向・結果・数量・可能補語
14	試験・まとめ	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①　この授業が始まるまでに『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著　東方書店）の内容を復習し、また毎回必ず教室に持参してください。
②　教室へ来る前に、必ず前週までに習った内容や授業中に使用したプリントを確認し、事前に目を通しておいてください。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著　東方書店）。また、出版社は指定しませんが、各自自分の使い慣れた日中、中日辞典を持参してください。

【成績評価の方法と基準】
小テストや提出物の完成度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは「唐詩の暗記が楽しかった」「教え方が良く確実に頭に残る授業でした」「きつかったけど力になりました」との意見がありました。引き続き、色々と進め方を工夫して授業を進めて行きたいと思います。また、アンケートでは授業外学習に時間をあまり使わない学生の割合が高いことが分かりました。予習復習や課題の面では改善する必要があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this Chinese course is to improve the ability of Chinese expression.

LANc200GA

中国語コミュニケーションⅢ

蒋　彧婷

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一年次の既習内容に引き続き、更に基礎を固め、読解力や表現力などのスキルアップにつないでいくことを目的とする。

【到達目標】
一年次に習った内容を軸に、留学に必要な音読・訳読がこなせる。
コミュニケーションを取れるスキルがアップできる。
表現力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、履修者のレベルを確認の上、内容への理解をチェックしながら、効果的に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	発音のブラッシュアップと授業を受ける際の注意事項の説明など
②	第７課	难道～吗，会，连～也/都，为了
③	第７課	本文とトレーニング
④	第８課	形容词的动词用法，越～越～，住，趁
⑤	第８課	本文とトレーニング
⑥	第９課	以为，要不然，敢，别看
⑦	第９課	本文とトレーニング
⑧	第１０課	该，等，没想到，并+不/没有
⑨	第１０課	本文とトレーニング
⑩	第１１課	看来，既～也～，只有～才～，地
⑪	第１１課	本文とトレーニング
⑫	第１２課	既然～就～，关于，是不是，不知道～(才）好
⑬	第１２課	本文とトレーニング
⑭	復習、試験、解説	ここまで習った内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語と文法をしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
『チャレンジ！ 二年生の中国語』―簡明会話版―
著者：南勇　朝日出版社

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを主に（５０％）、学習態度や学習意欲（２０％）、小テスト（２０％）、平常点なども（１０％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を目指すために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】
Following the contents of the previous course of the first year, we aim to further strengthen the foundation and link up skills such as reading ability and expressiveness.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅠ

曽　士才

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書を使いながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
たとえば、『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布。
第 2 回	プリント 1 ①	政治関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 3 回	プリント 1 ②	翻訳と講読を続ける。
第 4 回	プリント 1 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 5 回	プリント 2 ①	経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント 2 ②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント 2 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント 3 ①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント 3 ②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント 3 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント 4 ①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント 4 ②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント 4 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 14 回	読解力テストと講評	テスト後の講評と関連語彙の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業はプリント教材を読み、翻訳することになる。受講者は事前に分担部分を読み込み、訳文を用意しておくこと。また、参考図書・三潴正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳する。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
三潴正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010 年

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の学習（20 %）と学期末に実施する読解力テスト（80 %）で達成度を判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline and objectives】
Chinese Application I〜IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I〜IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or agazines.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

渡辺　昭太

配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
(2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
(3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第 1 課、第 2 課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第 3 課、第 4 課	所在・存在の表現、程度副詞 “很” の機能、“吗” の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第 5 課、第 6 課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第 7 課、第 8 課	多用される “来” と “去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第 9 課、第 10 課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么” が必要な場合、副詞 “就” の用法、副詞 “才” の用法
7	第 11 課、第 12 課	副詞 “都” の用法、副詞 “只” の用法、副詞 “也” の用法、副詞 “再／又／还” の用法、副詞 “再” の用法
8	第 13 課、第 14 課	「…から」と “从…” の対応関係、「…まで」と “…到” の対応関係、動詞後の “…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的” 構文
9	第 15 課、第 16 課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第 17 課、第 18 課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す “了”、過去の習慣的動作と “了”
11	第 19 課、第 20 課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要” の使用条件、可能性を表す “会”、可能を表す “能”“会”“可以”
12	第 21 課、第 22 課	“被” 構文の諸特徴、日本語の受身表現と “被” 構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把” 構文の使用条件、“把” 構文の使用制限
13	第 23 課、第 24 課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将然表現、主体表現としての “人”、道具・手段や原因を表す「で」、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、テキストの予習／復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】
相原茂（著）2006『作文ルール 66　日中翻訳技法』朝日出版社（2,300 円＋税）

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめの一歩〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 1995 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』東京：東方書店
・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 70%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を 30%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】
Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the writing skill. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周　重雷

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである：
１、正確な発音で中国語を話す。
２、日常会話を流暢に話す。
３、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
１、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
２、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
３、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
４、総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	１、シラバスの配布 ２、中国語による自己紹介
第 2 回	ピンイン・日常用語（1）	１、ピンインを復習する ２、簡単な日常会話を練習する
第 3 回	文章の朗読・日常用語（2）	１、短い文章を朗読し、発音をチェックする ２、言い回しを使って日常会話を練習する
第 4 回	会話パターン（1）	買い物する時の会話パターンをチェックする
第 5 回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第 6 回	会話パターン（2）	レストランでの会話パターンをチェックする
第 7 回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第 8 回	会話パターン（3）	ものの尋ね方をチェックする
第 9 回	授業内発表（3）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで問答する
第 10 回	会話パターン（4）	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する
第 11 回	授業内発表（4）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第 12 回	スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第 13 回	授業内発表（5）	個人発表をする
第 14 回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布。

【参考書】
劉月華　他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館

【成績評価の方法と基準】
期末試験の点数（５０点）と平常点（５０点）の合計点で評価する。
平常点の場合は、学習態度のほか、最初には会話力の個人差があるため、どれほど進歩が見られるかも参考となる。

【学生の意見等からの気づき】
要望に応じて会話パターンの変更も可能。
また、会話以外の質問も受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定の受験を推奨される。

【Outline and objectives】
Chinese Application Ⅰ～Ⅳ are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木　靖

配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「聞く」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
中国のドラマは、インターネットでのオンデマンド配信などを通じて、多くの作品が鑑賞できるようになっている。この授業を通じて、中国語のドラマを鑑賞できる力を身につけるとともに、“中国語を” 学ぶから “中国語で” 学ぶあるいは楽しむという、教室学習から生涯学習への転換をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業時間を有効に利用するため、e ラーニングによる予習と教室での学習を組み合わせたブレンド型学習を行う。
授業の具体的な進め方は、次のとおり。
〔授業前の事前学習〕
授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、ドラマのディクテーションを行う
〔授業の進め方と方法〕
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）
②単語・表現・語法の解説と作文練習
③ドラマのロールプレイ練習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方を説明した後、事前学習に使用する教材の利用方法を解説と実習を行う
第 2 回	「愛是一顆幸福的子彈」第１集	第１集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 3 回	「愛是一顆幸福的子彈」第２集	第２集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 4 回	「愛是一顆幸福的子彈」第３集	第３集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 5 回	「愛是一顆幸福的子彈」第４集	第４集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 6 回	「愛是一顆幸福的子彈」第５集	第５集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 7 回	「愛是一顆幸福的子彈」第６集	第６集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 8 回	「愛是一顆幸福的子彈」第７集	第７集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 9 回	「愛是一顆幸福的子彈」第８集	第８集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 10 回	「愛是一顆幸福的子彈」第９集	第９集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 11 回	「愛是一顆幸福的子彈」第１０集	第１０集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 12 回	「愛是一顆幸福的子彈」第１１集	第１１集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 13 回	「愛是一顆幸福的子彈」第１２集	第１２集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第 14 回	「愛是一顆幸福的子彈」第１３集	第１３集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に下記の事前学習を行うこと。
①パソコンまたはスマートフォンを使い、ドラマのディクテーションを行う
②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、ロールプレイができるよう準備する

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、毎回各回のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】
・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
①授業のはじめに行う小テスト（60 %）
②事前学習（ディクテーション）の実施状況（20 %）
③ロールプレイの内容（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのロールプレイによる練習時間を増やし、より実践的な表現力を身につけられるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
教材の利用には、インターネットの接続できるパソコンまたはスマートフォンが必要である。自宅でこれらの環境がない場合は、学内の情報カフェテリアなどを活用してほしい。

【Outline and objectives】
Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve listening skills through the use of e-Learning.

LANs100GA

スペイン語コミュニケーションⅠ

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas comunicativas.

【到達目標】
El objetivo de este curso es que los alumnos se familiaricen con el español hablado. Llevaremos a la práctica, mediante conversaciones sencillas, los conocimientos gramaticales que ya hayan adquirido y los que vayan adquiriendo. Cuidaremos la correcta pronunciación y entonación.
Que al final de este curso los alumnos sean capaces de entender y desarrollar en español conversaciones sencillas de la vida cotidiana, ese es nuestro objetivo principal.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir el objetivo arriba mencionado,además de usar el libro de texto fijado para esta clase,yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Alfabeto. Ortografía y pronunciación.
2	Comunicación	Expresiones útiles en clase. Comunicación : Saludos y presentaciones.
3	Comunicación	Nombres propios. Números (I). Cultura : Nombres y apellidos.
4	Comunicación	Género y número de los sustantivos. Práctica. Expresiones con el artículo determinado. Práctica de los pronombres personales de sujeto.
5	Comunicación	Verbo SER, presente de indicativo. Usos y práctica. Oraciones interrogativas y negativas.
6	Comunicación	Números (II). Profesiones. Nacionalidades. Práctica. Cultura : Personajes históricos.
7	Comunicación	Expresiones con el artículo indeterminado. Práctica de los adjetivos posesivos y calificativos.
8	Comunicación	Verbo TENER, presente de indicativo. Usos y práctica. Interrogativos (I). Números (III).
9	Comunicación	Miembros de la familia. Comunicación : descripción de personas. Cultura: Gestos. Repaso.
10	Comunicación	Verbo ESTAR, presente de indicativo. Usos y práctica. Usos de HAY. Práctica de los adjetivos y pronombres demostrativos.
11	Comunicación	Comunicación :localización de personas y objetos. Adverbios de lugar. Números (IV)
12	Comunicación	Números ordinales. Cultura : Ciudades patrimonio de la Humanidad.
13	Comunicación	Presente de indicativo, verbos regulares e irregulares. Usos y práctica. Interrogativos (II). Comunicación : actividades cotidianas. Días de la semana
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes
イメージ・スペイン語
朝日出版社

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

【Outline and objectives】
The objective of this course is for students to become familiar with spoken Spanish. We will put into practice, through simple conversations, the grammatical knowledge that they have already acquired and the knowledge they acquire. We will take care of the correct pronunciation and intonation. At the end of this course students are able to understand and develop simple conversations of everyday life in Spanish.

LANs200GA

スペイン語コミュニケーションⅡ

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas comunicativas.

【到達目標】
Nuestro objetivo es elevar la capacidad de comprensión y expresión, fundamentalmente oral, de los alumnos.
La ampliación y enriquecimiento de su vocabulario será uno de nuestros principales objetivos.
Nos proponemos que, semana tras semana de clase, los alumnos vayan adquiriendo una mayor destreza en comprender y expresarse oralmente en muy diversas situaciones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir el objetivo arriba mencionado,además de usar el libro de texto fijado para esta clase,yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Comunicación : las vacaciones de primavera.
2	Comunicación	Expresiones con IR A + infinitivo. Hablar de planes e intenciones.
3	Comunicación	Práctica de los verbos con cambio vocálico y las preposiciones. Expresión de la hora.
4	Comunicación	Meses y estaciones del año. Medios de transporte Hablar de acciones futuras. Cultura : Museos.
5	Comunicación	Práctica de los erbos reflexivos. La casa. Partes de ella.
6	Comunicación	Expresiones del clima. Cultura : Hábitos y costumbres.
7	Comunicación	Práctica de los pronombres de objeto directo. Expresiones con SABER, CONOCER y PODER.
8	Comunicación	Práctica de QUERER + infinitivo y PODER + infinitivo. Comidas y bebidas. Recetas de cocina.
9	Comunicación	Comunicación: pedir en un restaurante. Repaso. Cultura : Las comidas.
10	Comunicación	Práctica de las preposiciones y los pronombres de objeto indirecto. Expresiones del comparativo y superlativo.
11	Comunicación	Ropa, accesorios, etc. Práctica de los colores. Comunicación: de compras en una tienda. Cultura: La Navidad.
12	Comunicación	Práctica del verbo GUSTAR y otros que se usan de la misma manera. Expresión de la comparacion del adverbio.
13	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Deportes. Comunicación: hablar de gustos y aficiones. Cultura: Fiestas populares. Repaso general.
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
¡ Nos gusta! 1
Gramática para hablar
（出版社）朝日出版社

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

【Outline and objectives】
Our objective is to increase the capacity of comprehension and expression, fundamentally oral, of the students.
Enlargement and enrichment of your vocabulary will be one of our main objectives.
We propose that, week after week of class, students acquire a greater ability to understand and express themselves orally in very different situations.

LANs200GA

スペイン語コミュニケーションⅢ

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas comunicativas.

【到達目標】
Nuestro objetivo es,como en los cursos anteriores,elevar la capacidad de comprensión oral de los alumnos y su destreza en expresarse oralmente.
Tienen que conseguir aumentar considerablemente su vocabulario, de cara,sobre todo,a su próxima ida a España.
Antes de ese momento,nos proponemos que lleguen a un nivel que les permita aprovechar al máximo su estancia y sus clases en España.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para lograr el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto indicado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Expresiones con el verbo DOLER.
2	Comunicación	Expresionens con SER, ESTAR + adjetivo. Oraciones exclamativas. Expresiones con TENER QUE y HAY QUE + infinitivo. Práctica de los pronombres y adjetivos indefinidos.
3	Comunicación	Partes del cuerpo. Comunicación : estado físico y sentimientos. Cultura : Hábitos Deportivos.
4	Comunicación	Práctica del pretérito indefinido de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Uso de los marcadores de tiempo.
5	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Comunicación : hablar de acciones pasadas.
6	Comunicación	Repaso. Cultura : Lenguas.
7	Comunicación	Práctica del pretérito imperfecto de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Práctica del pronombre relativo QUE.
8	Comunicación	Diferencias entre el indefinido y el imperfecto. Práctica. Repaso general.
9	Comunicación	Usos del infinitivo, gerundio y participio. Práctica.
10	Comunicación	Uso del presente continuo. Práctica.
11	Comunicación	Pretérito perfecto de indicativo. Usos y práctica.
12	Comunicación	Pretérito pluscuamperfecto de indicativo. Usos y práctica.
13	Comunicación	Práctica del imperativo.
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
¡ Nos gusta! 1
Gramática para hablar
（出版社）朝日出版社

【参考書】
Concretamente,ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

【Outline and objectives】
Our objective is to increase the capacity of comprehension and expression, fundamentally oral, of the students.
Enlargement and enrichment of your vocabulary will be one of our main objectives.
We propose that, week after week of class, students acquire a greater ability to understand and express themselves orally in very different situations.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible : comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Su estancia en Barcelona. Planteamiento del curso. Información sobre el examen DELE.
2	Aplicación	La primavera. Inicio del curso académico y del año laboral. "Ohanami".
3	Aplicación	Situaciones en las que puede encontrarse una persona en un país extranjero, por ejemplo, ser víctima de un robo e ir a denunciarlo. Debate.
4	Aplicación	En la consulta del médico. Síntomas, dolencias, etc.
5	Aplicación	Reservar una habitación de hotel por teléfono. Trámites, ya en el hotel, a la hora de entrar y a la hora de dejar la habitación. Consultas,reclamaciones, quejas, etc.
6	Aplicación	Cocina. Recetas. Platos diversos.
7	Aplicación	De compras. Precios, colores, tallas, etc.
8	Aplicación	Días de muy buena suerte y de muy mala suerte. Debate.
9	Aplicación	Temas de actualidad y de interés para los alumnos.
10	Aplicación	Tópicos sobre los países, sobre las regiones, etc.
11	Aplicación	Cómo sería nuestro país ideal y otro en el que no querríamos vivir.
12	Aplicación	Cómo cambia la vida de las personas. O no cambia. La lotería.
13	Aplicación	Distintos trabajos realizados por una persona. El mundo del trabajo. Debate.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】
Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.
The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.
We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse alexamen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Su estancia en Barcelona. Planteamiento del curso. Información sobre el examen DELE.
2	Aplicación	En un restaurante. Pidiendo la comida y preguntando muchas cosas.
3	Aplicación	Distintas personas hablan de sus experiencias vividas. Debate.
4	Aplicación	El tiempo. Diversidad. Relación con el carácter y la forma de vida de las personas.
5	Aplicación	Cartas,solicitudes, mensajes, correos, etc.
6	Aplicación	Situaciones de la vida cotidiana,por ejemplo,en una peluquería.
7	Aplicación	Entrevista de trabajo. El mundo laboral.
8	Aplicación	La televisión, el cine,los medios de comunicación...
9	Aplicación	Temas de actualidad y de interés para los alumnos.
10	Aplicación	Costumbres. Creencias religiosas. Debate.
11	Aplicación	Reservar hora por teléfono en el dentista, por ejemplo. Tratamientos médicos. El sistema sanitario.
12	Aplicación	Aficiones, diversiones. El ocio. Alcohol, tabaco...
13	Aplicación	Malentendidos graciosos, chistes, bromas...
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】
Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.
The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.
We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión,oral y escrita, gramática y vocabulario.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Las vacaciones de verano. Planteamiento del curso. Sobre el examen DELE.
2	Aplicación	Biografía de personajes famosos (escritores).
3	Aplicación	Biografía de personajes famosos (pintores).
4	Aplicación	El campo y la ciudad. Cambio de vida de un medio a otro. Debate.
5	Aplicación	Discriminación racial y otros problemas sociales.
6	Aplicación	Vidas de personas anónimas, por ejemplo, un taxista,un hombre de campo, etc.
7	Aplicación	Días festivos de Japón.
8	Aplicación	Días festivos de España.
9	Aplicación	Temas de actualidad e interés para los alumnos.
10	Aplicación	La emigración. La vida en el nuevo país. La vuelta a las raíces. Debate.
11	Aplicación	Vidas de genios.
12	Aplicación	Deportes. Campeonatos. Explicar las reglas de algunos juegos y deportes.
13	Aplicación	El mundo de los sueños. La interpretación y el significado de algunos sueños.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】
Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.
The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.
We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Prácticas aplicativas.

【到達目標】
Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.
Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.
Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible : comprensión y expresión,oral y escrita,gramática y vocabulario.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Las vacaciones de verano. Planteamiento del curso. Sobre el examen DELE.
2	Aplicación	Voluntarios. JICA y otras organizaciones. Su labor.
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura...Debate.
4	Aplicación	Libros, películas, etc.
5	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas.
6	Aplicación	Genios de la pintura,el arte...
7	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
8	Aplicación	Fiestas populares muy conocidas.
9	Aplicación	Temas de actualidad e interés para los alumnos.
10	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
11	Aplicación	Temas de la historia reciente de España. Debate.
12	Aplicación	La Navidad. Forma de celebrarla en España y en Japón. El fin de año.
13	Aplicación	El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】
Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.
The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.
We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANk100GA

朝鮮語コミュニケーションⅠ

富所　明秀

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語３」「朝鮮語６」「朝鮮語コミュニケーションⅠ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習，「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の２つの形，禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 3 課	文中の疑問形，方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言，動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 5 課	用言の名詞形，いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現，大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 7 課	「～しながら」，指定詞の第Ⅲ語基
12	第 8 課	用言の「である」形，間接話法１
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通テキストの予習は不要ですが，なるべく復習の時間を多く取ってください．また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います．

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります．

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.
By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk200GA

朝鮮語コミュニケーションⅡ

梁　禮先

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「話す」「聞く」力の一層のレベルアップを計り、重なる「話す」「聞く」訓練を通して、自信を持って自然な朝鮮語の会話を身に付けていくことを目指します。今まで習った朝鮮語の力を、会話で様々に応用できるように、そのスキルを一層磨いていきます。

【到達目標】
SA に行った時のために、ある程度の生活会話が可能になることがこの授業の到達目標です。自分で考えてあらゆる場面で自然な表現ができるように、会話の力を磨いていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
　会話中心に授業を進めていきます。会話体の言葉に慣れていくように、話す訓練などを通して身に付けていけるようにします。また、一年間習った朝鮮語の語彙・文法などを使って、自分で文章を考えて言葉にする訓練も繰り返していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方と簡単に復習	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	お久しぶりです	課題と会話とあいさつ文についての説明。
第 3 回	病気のとき	課題と会話と病気に関する単語などの説明。
第 4 回	私の家族	課題と会話とその説明について。
第 5 回	歌で習う朝鮮語	課題と韓国の歌から朝鮮語を習う。
第 6 回	天気について	課題と会話と四季などについての説明。
第 7 回	今日は何をしますか？	課題と会話と会話の言い回しの説明。
第 8 回	今日は何をするの？	課題と会話とバンマルについて。
第 9 回	遊園地にいきましょう	課題と会話とその説明について。
第 10 回	学校で	課題と会話とその説明について。
第 11 回	郵便局で	課題と会話とその説明について。
第 12 回	ホテルで	課題と会話とその説明について。
第 13 回	美容院で	課題と会話の練習とその説明について。
第 14 回	期末評価	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題について準備すること。また、事前に出すレポートもやってくること。

【テキスト（教科書）】
梁　禮先「朝鮮語コミュニケーションⅡ」とプリント（テキスト・プリントともに自家製教室用教材）

【参考書】
朝鮮語辞書、韓国に関連のある歴史・文化などの書籍。

【成績評価の方法と基準】
朝鮮語で積極的に発言をすること。
発表・課題・小テスト・平常点の総合点 (30%)、 期末テスト (70%)

【学生の意見等からの気づき】
もっと会話に力を入れること。
発音をもっと練習したいなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
内容は少々変わることもあります。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to improve your level of "speaking" and "listening" and to acquire the skills needed to have a natural Korean conversation with confidence through repetition of "speaking" and "listening" training. To be able to apply Korean language skills, which you learned until today, to conversations in various ways, we will continue to hone our skills.

LANk200GA

朝鮮語コミュニケーションⅢ

富所　明秀

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．
２年次秋学期の SA に備えます。

【到達目標】
ＳＡに通用する語学力の習得，具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「３級」に編入できることを目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語７」「朝鮮語８」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します．
「朝鮮語８」では、韓国の子ども向けの教材から始まって、新聞広告、新聞記事、マンガなど、いろいろな文章に接するなかで、文に慣れることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします．
2	第 9 課	ハンダ体，間接話法２
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 11 課	理由をあらわす表現，各種の濃音化
6	第 12 課	「やりもらい」の間接話法，助詞の尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 13 課	使役形，２ケタの固有数字
9	第 14 課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 15 課	漢字の読み方，南北のことばの違い
12	第 16 課	話者の体験をあらわす語尾，年月日と週の言い方
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語彙力を高めるよう自主的に努力してください．
BT20 階の国際文化学部資料室には、検定試験の問題集や、韓国で出版されている各大学の語学テキストなどを多数取り揃えていますので、活用してみましょう。

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います．

【参考書】
初歩の内容で不十分な箇所があったら、１年次の内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）に立ち返ってください。
さらに進んだ学習には、たとえば白峰子『韓国語文法辞典』（三修社）、韓国国立国語院『韓国語学習者のためのやさしい韓韓辞典』（アルク）などが参考になります。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります．

【学生の意見等からの気づき】
語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません．日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましょう．

【Outline and objectives】
This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁　禮先

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現と新造語を学んで自ら表現できることを目指します。授業はできるだけ朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】
朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着していきます。
授業は、ほとんど朝鮮語で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第 2 回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第 3 回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第 4 回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第 5 回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第 6 回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第 7 回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第 8 回	韓国の映像を見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第 9 回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第 10 回	韓国の映像を見る	韓国のテレビを見ます。
第 11 回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第 12 回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第 13 回	韓国語で発表する	討論をする。
第 14 回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
韓国のテレビ、新聞、小説などを読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリント、インターネット、ビデオなど。

【参考書】
韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を話したり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して (50%) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】
DVD などの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業の内容は少々変わることもあります。

【Outline and objectives】
We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁　禮先

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一定のテーマを決めてディスカッションをやったり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】
積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。
映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第 3 回	話題のテーマについて	意見交換する
第 4 回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第 5 回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第 6 回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第 7 回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第 8 回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第 9 回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第 10 回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第 11 回	日韓伝統について	意見交換をする
第 12 回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第 13 回	話題のテーマについて	討論をする
第 14 回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。

【テキスト（教科書）】
授業内で説明します。

【参考書】
韓国の近代文学作品
湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して (50%)、 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】
文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】
To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

HUI200GA

情報コミュニケーションⅠ

甲　洋介

サブタイトル：**デザイン・ワークショップ**
配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**受講状況により選抜することがあります**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
モノづくりの『面白さ』と『難しさ』の両面を、実践的に学ぶ科目
わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という２つのテーマに取り組む。　具体的な手法の習得と実践の両方をバランスよく講義に配置してある。　道具をデザインするという一見難しく思える課題を、具体的な課題に即して、実践的に学べる科目である。
●　**ユーザーを調べ、道具をもっと使いやすくデザインする**
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいか？　その手掛かりは、ユーザに起こっている出来事の理解にある。　使いやすさの観点から道具を改良する具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。
●　**新しい、近未来の道具をデザインする**
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。
まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？　その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの理解にある。　利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この２つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。
●　各テーマごとに、背景と基本的な理論、調査計画の立て方、データ収集の手法、分析手法、グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果の発表の仕方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この２つのテーマについて、具体的なデザイン手法を実践的に学べるワークショップである。
●　前半では、身近で気になる道具を１つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。
●　後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を１つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。
●　それぞれのテーマごとに成果発表の機会を設け、グループによる独自の改良案・コンセプト案の提言を行う。
　授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ（理論編）	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイディア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実習科目」の効果的な履修のために、教室外での一定の課題活動を含む。具体的には、教材の予習／復習、グループワークによる実習の準備、データ収集と、各自によるレポート作成である。

【テキスト（教科書）】
・「人間計測ハンドブック」第 3 章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】
・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition,(Taylor & Francis) 2006.
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA 編、ワークスコーポレーション）2014.
他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・授業・発表・討議における積極性な貢献度合い　40%
・課題レポート、プロトタイプ制作　60%
課題の未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義とグループ実習を効果的に組み合わせて、実践的な方法をより深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。
〔情報コミュニケーション共通のテーマ〕
本学部には、情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ、SA におけるプロジェクト等、文化情報学を実践するさまざまな機会が用意されている。
　情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT 活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。
「道具のデザイン」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。
「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」と合わせて履修する事でさらに学習効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline and objectives】
This class provides you with an unique "Design Workshop" which allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User-centred Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

COT200GA

情報コミュニケーションⅡ

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**実習設備の許容人数を超えた場合に行う**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自前のコンテンツを蓄積・可視化することで LINE や Instagram など外部メディアに頼らないコンテンツの安全な公開と共有を実践しよう。自分だけのコンテンツサイトを育てることで、3~4 年ゼミや 2 年次 SA での学修成果を見える化しよう。
【情報コミュニケーションⅠ〜Ⅲ共通テーマ】
文化情報学におけるいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。
【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】
本講義では文化情報編集のツールとして e ポートフォリオと Weblog を取り上げる。インターネットでの総合的な情報流通の有効性を学ぶ。Web 環境での有機的な情報共有を体験し、振り返りによる学修効果の確認を習慣として身に着けることで、3 〜 4 年生は卒論研究、ゼミ論研究に向けての学修内容、研究内容の進捗管理の可視化と外部公開を実現して欲しい。２年生は有効な文化研究のプラットフォームを活用した実り多き SA を実現してもらいたい。

【到達目標】
アカデミックな学修成果のみならず、ゼミや個別の学術研究活動、SA での現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムできちんと共有することで、「情報発信し価値を共有する個」としてネット社会にフィードバックできる。２年生は SA において異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の蓄積方法を身に着ける。３〜４年生は在外体験や 3 年次以降の学術活動の記録を可視化し共有できるようになる。インターネット環境を十全に活用し、e ポートフォリオや自前のブログサイトより学習成果を蓄積する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（情報実習室を使用する）
学習内容を授業計画を沿って概観すると：
1. インターネットのスキルを活用
2. ePortfolio ツール Mahara にコンテンツを構築
3. WordPress 上に個人ブログを開設しコンテンツを蓄積
4. アクティブラーニングによる協働学修を通じて学術活動（3、4 年ゼミ、文化研究としての SA）の可視化
を実践します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）学修成果の可視化とは何か？	科目内容のガイダンス（全体）、フォリオ・シンキング、ルーブリック、振り返り、真正な学習など学修成果の可視化にとって有効な考え方を学ぶ。
2	e ポートフォリオ概説	科目の目標、「学習目標（アカデミック、キャリア、生涯学習）とは何か」を理解する。
3	情報可視化のプラットフォーム:　b ポートフォリオと e ポートフォリオ	オープンソースの CMS プラットフォーム、WordPress(weblog) と Mahara(e ポートフォリオ) の補完的活用の効用を検討する。
4	【ネット社会】ネットワーク環境とセキュリティ	情報プラットフォームとして Web, CMS とセキュリティ、コンテンツの公開責任について理解する。
5	【ネット社会】ユビキタスな情報アクセス	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、学外での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。学内外でのクライアント環境からの e ポートフォリオの編集、更新を実践する。
6	【Mahara】 e ポートフォリオの基本	Mahara の基本操作、学習コミュニティ（グループ）への参加, アカウント情報の環境設定を学ぶ。
7	【Mahara】 学習環境としての e ポートフォリオ	各受講者による研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。Mahara アカウントのプロファイル構築、学習計画、プロジェクト（研究、学術活動、フィールドワーク）策定する。
8	【Mahara】 学習成果の蓄積方法	コンテンツのファイルアップロード、外部の参照資源の収集、RSS の利用を学ぶ。
9	【Mahara】 コンテンツを作成する：ページ、コレクション	ブロック単位での紙面レイアウト、テキスト、写真、動画コンテンツのページ構成、複数ページからなるコンテンツ構成を学ぶ。
10	【Mahara】 共有する：アクセスコントロール	アクセスリスト、シークレット URI の作成法を学び、コンテンツの公開形態を理解する。CMS としての e ポートフォリオと外部ネットメディアとの連携を検討する。 【コンテンツ】Mahara によるコンテンツを相互閲覧し、学修成果の可視化の有効性を議論する。
11	【WordPress】情報発信の個人プラットフォーム：ブログの基本技法	WordPress を開設する。各種プラグインを導入し、デザイン・レイアウトのカスタマイズ、スパムフィルタを実装する。 【コンテンツ】研究テーマ（ゼミ、SA）の問題把握。事前調査事項の洗い出し。
12	【WordPress】特色あるブログ構成法：カスタマイズ	WordPress のカスタマイズ、デザイン、レイアウトの改良する。コメントとトラックバックの使い分けを練習する。 【コンテンツ】研究計画の検討と問題点の報告。
13	【WordPress】情報活用の応用：ブログからの情報発信と相互閲覧の仕組みづくり	WordPress の更新、運営、メディアデータの利用、RSS の活用を学ぶ。研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	学習内容のまとめと成果発表	学習内容のまとめ、コンテンツサイトの相互批評を行う。 【コンテンツ】WordPress コンテンツを相互閲覧し、Mahara と WorfdPress の補完的運用の有効性を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実験実習科目」として、学期を通じて教室外での学修活動が含まれる。具体的には：
1. 研究テーマ (ゼミ、SA) の構想と深化
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 学修コミュニティ内での活発なコミュニケーション
4. 学内外からのコンテンツ蓄積、コンテンツサイトの管理
5. 最終報告書の作成、研究計画の公開

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。必要に応じて関連項目の学修内容を配布する。また以下の参考書を適宜参照することを奨める。

【参考書】
【SA 文化研究の方法】
佐藤郁哉、「フィールドワーク―書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
【Mahara】【e ポートフォリオ】
デリン ケントほか (著), 大澤 真也ほか (翻訳), 「e ポートフォリオ入門―Mahara でつくる」、海文堂出版 (2012)、ISBN-13: 978-4303734770
日本語で書かれた唯一の Mahara 解説書であり、e ポートフォリオの設計概念を理解するために役立つ。ただし刊行当時の Mahara のバージョンをもとに執筆されており、現行システムの手引書としてはそのまま使えない箇所があるので注意すること。

【成績評価の方法と基準】
授業参加（20%）、e ポートフォリオ構築（30%）、ブログ（30%）、課題（10%）、発表（10%）を目安とする。

【学生の意見等からの気づき】
携行予定の情報機器や SA 先での WiFi 接続など、実際の学習環境は年々変化する。
これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行います。受講者は学外（とくに SA 先）でのインターネット接続を励行しますのでスマホ、ノート PC もしくはタブレット端末など実際に現場で使用する機器類を授業ない実習でも持って来てください。不明な点は担当教員にご相談ください。また情報蓄積には ePortfolio を併用しますので、ふだんから HOPS の活用を心がけて下さい。

【その他の重要事項】
ゼミや SA は文化情報の実践的研究の場であり、本科目は有効なスキルトレーニングとして役立つので、特定のコースや個別の SA 先に特化したものではありません。
学びの可視化に意欲ある学生はぜひ受講してください。
Web を基盤とする高度な ICT の活用実習、ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
2 年生の受講者は SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並行履修すること。

【Outline and objectives】
This course deals with extensive and combined use of Mahara ePortfolio and WordPress weblog systems as an effective learning platform to provide students with both network-enabled and learner-centered environment. Students will take advantage of ePortfolio and weblog-based CMS to showcase their academic merits in undergraduate project as well as their learning outcome of Study Abroad activities through individual reflection and group synergy.

DES200GA

情報コミュニケーションⅢ

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**席数を超えた場合選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報コミュニケーションⅢでは、デザインやアートに関する入門的、実験的な実習を行います。
ロゴタイプやシンボルマーク、ピクトグラムやイラストレーションなどのデザイン制作を体験します。また、作品制作と並行して行うレクチャーを通じて、視覚言語に関する理解を深めます。
また、各課題を通じて多くのアーティストやデザイナーに使用されているクリエイティブ系ソフト、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop などの基本的な使い方を学びます。

【到達目標】
1. 作品制作を通じて、コミュニケーションに必要な視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作全般に通じるクリエイティブな造形表現に必要な感覚や技術を養います。
2. 絵を描くことに苦手意識のある人や、PC での写真加工やデザイン制作が初めての人もあまり難しく考えずに、頭よりも手や体を動かすことを優先して造形の楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では、
1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィーについて）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）
の 3 つのテーマで、課題制作を進めます。
課題に取り組む際には課題の意義及び各ソフトの使い方について講義をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	ロゴタイプとシンボル 1/3	課題の説明、講義（タイポグラフィーについて） Adobe Illustrator の使い方・基本編
3	ロゴタイプとシンボル 2/3	課題制作 1 Adobe Illustrator の使い方（文字による表現）
4	ロゴタイプとシンボル 3/3	課題制作 2 Adobe Illustrator の使い方（図形による表現）
5	ピクトグラム 1/3	課題の説明、講義（インフォグラフィックスについて） Adobe Illustrator の使い方・応用編（レイヤー）
6	ピクトグラム 2/3	課題制作 1 Adobe Illustrator の使い方・応用編（色彩について）
7	ピクトグラム 3/3	課題制作 2 Adobe Illustrator の使い方・応用編（複雑な図形）
8	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 次回の課題説明
9	イラストレーションとデザイン	課題制作 1 デザインのアイディア
10	イラストレーションとデザイン	課題制作 2 デザインに必要な要素
11	イラストレーションとデザイン	課題制作 3 レイアウトと構図
12	イラストレーションとデザイン	課題制作 4 仕上げ 1
13	イラストレーションとデザイン	課題制作 5 仕上げ 2
14	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクツなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。
また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジカメ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
参考書、参考作品については授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
課題提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】
ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
使用するソフトは以下の通りです。
Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
Adobe Photoshop（写真を加工するためのソフト）
課題提出に授業支援システムを使いますので登録しておいてください。
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】
初心者の皆さんには、各ソフトを使っての作品制作のコツをまず掴んで、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も是非チャレンジしてみてください。
※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。
初回のガイダンスに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】
This course is introductory and experimental on design and art. Learn basic usages of creative software, such as Adobe Illustrator, Adobe Photoshop which are used by many artists and designers.
Moreover, students experience design creation such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustration.
Students also deepen their understanding of visual language through lectures concurrently with creating artworks.

FRI300GA

情報アプリケーションⅠ

重定　如彦

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないといっても過言ではないだろう。ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。Javascript や CSS の技術を使えば､アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。ブラウザは Firefox、Chrome、IE11 以上を推奨）。

【到達目標】
ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザーを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどういうものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切（最後の授業の 1 週間後）までに制作を行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示する。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10% 課題 40% 最終課題 (迷路の課題）50%
課題は授業内で適宜指示する。
最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】
プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

【Outline and objectives】
Objectives of this class are to acquire skills and knowkedge about web technology such as HTML5, CSS and Javascript.
At first, this class learns about HTML5 and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javacscipt and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.

COT300GA

情報アプリケーションⅡ

和泉　順子

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システムは個人や家庭のシステムから、企業や役所などの組織におけるシステムまで広範囲に及んでおり、社会ではなくてはならない存在になっている。本講義では、情報システムの構成および処理形態について学び、情報システムの開発および運用・保守に必要な基本的知識・技能を学習する。

【到達目標】
社会的にも情報通信基盤として必要不可欠になりつつある情報システムの構成やそれぞれの役割を理解できることを目指す。IT パスポートや情報処理技術者試験などの試験内容の理解の深化を目指す。また、情報システムが安全に正しく使われるための工夫や応用を、技術的・社会的側面から学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は (1) 情報システムの構成、利用形態の変遷、(2) 情報システムの開発・運用、それぞれのテーマを学習する。これらの授業は講義形式で行った上で、JavaScript や Python などを用いて実際に簡単な Web アプリケーションを作成し、動作を確認する。
なお、受講者の理解度に応じて授業進度や内容は適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報システムの特色	情報処理システムが、コンピュータシステムおよび応用ソフトウェアで構成されることを学ぶ
2	情報処理システムの変遷	コンピュータシステムの構成や利用形態、システム自体の変遷を学ぶ
3	コンピュータ科学基礎	基数と基数変換、歩数、論理シフト、演算などについて学ぶ
4	コンピュータシステム（1）	情報処理システムのうち、ハードウエアに関する知識を学ぶ
5	コンピュータシステム（2）	情報処理システムのうち、ソフトウエアに関する知識としてオペレーティングシステムやファイルシステムについてを学ぶ
6	システム開発と運用（1）	情報処理システムの開発の流れを学ぶ
7	システム開発と運用（2）	システム開発における手法を学び、IT パスポートや情報処理技術者試験などの試験内容の理解の深化を目指す
8	Web アプリケーション（1）	JavaScript を用いた簡単な Web アプリケーションを設計する。
9	Web アプリケーション（2）	Web アプリケーションの動作を確認する。
10	Web を用いたデータ収集（1）	Python を用いた Web クローリングとスクレイピングを学習する。
11	Web を用いたデータ収集（2）	実際にスクレイピングを行い、動作を確認する。
12	情報セキュリティの基礎	情報セキュリティの基礎技術を学び、資格試験内容の理解を深める。
13	データの管理とシステム運用	収集したデータの管理だけでなく、個人情報に関する関連法規を学び、運用上の注意を議論する。
14	期末テストと授業のまとめ	授業で学習した内容について、理解度、知識をテストする。また、解説および授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際にプログラムを作成し動作を確認するため、各自で（他講義も含め）授業内容を復習し、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する参考書を、講義内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 20%、課題提出および小テスト 30%、期末テスト 50%で行う。

【学生の意見等からの気づき】
難しいと思われる内容については、IT パスポートや基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験などの例題を多く挟んでイメージしやすくする工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業は、パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席すること。
情報リテラシーⅠ、Ⅱを受講していること。
プログラミング言語基礎を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
We will learn the composition and processing architecture of the information system. We also learn and confirm the knowledge and skills necessary for the development, operation and maintenance of the computer system.

HUI300GA

こころの科学

甲　洋介

サブタイトル：**こころが生み出す「リアルな体験」の面白さ**
配当年次／単位：**2～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
感動の想い出は、なぜかスローモーション？
　あなたが日々体験している**「あなたのこころがはたらいている、という実感」**を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを深く理解することを目指す科目である。
「こころ」とはいったい何だろう。
　「こころ」について、いざ説明しようとするとうまく説明できない。私たちは「こころ」について知っているつもりで、よく知らない。しかし同時に、いつも体験している事だからよく知っているように感じる、という特性がある。本科目はその実感を基礎におく。
「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「感情がわく」「気づく」「覚える」「間違える」「わかる」「問題を捉えて解く」に着目し、検討を加える。学術用語を用いた概念的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、上手くはたらかない現象にも光をあてる、ことである。
　ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】
・感情がわく、気づく、わかる、覚える、誤る、問題を解く等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる
・感情の役割、潜在認知など、講義で解説されたこころの幾つかの基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな視点を与えるのか、簡潔に主張を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「こころ」のはたらきについて、説明はうまくできないのに、いつも体験している事だからよく知っている（と感じる）、という特色に着目し、本講義では、学術用語から概念的に説明する前に、一人ひとりの「こころで生み出される、リアルなこころの体験」をまず整理することから出発する。
　「こころ」のはたらきとして、「感情がわく」「気づく」「覚える」「間違える」「わかる」「問題を捉えて解く」に着目し、各主題について関連分野の知見を整理して一つ一つ検討を加える。
その際に、こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも目を向ける。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」ことの重要性を学び、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも目を向けることで「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べるのである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに　～講義のアウトラインと進め方	こころについて、どのような理解を目指ざすのか
2	感動の想い出は、なぜかスローモーション	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいてないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	間違える、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学
5	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
6	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
7	考える、問題を解く	『問題』とは何か、問題解決する、推論する
8	**感情**が生まれる、感情をはたらかせる　～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情があふれる、生まれない	感情の果たす役割、感情の障害
10	**脳**からみた、こころ **人工物**ではたらく、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能
11	**環境**に拡がる、こころ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方
12	生態学的知覚論という挑戦	アフォーダンス、生態学的視覚論からの問題提起
13	**社会・文化**に埋め込まれた、こころ　～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
14	総合討議と、まとめ	「こころ」について再考する　～こころの哲学から、ゲストをお迎えして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義を通じて考えた事柄を、各自が授業支援システムに蓄積する。　コメントは講義に活かされる。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
・日常と非日常からみる　こころと脳の科学（宮崎真ほか、コロナ社）2018

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%：討議への参画、小レポートを含む) と、試験あるいは課題レポート (60%)。以上を総合的に評価し、評定を決める。

【学生の意見等からの気づき】
実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】
・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。
・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。

【Outline and objectives】
This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind,by re-examining your real-world experiences in your "mind".

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村　修

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
こころとからだの関係を考える

あなたたちには「**こころ**」が「**あります**」か? 多くの人が「こころが**ある**」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「**こころがある**」ならば、それは「**どこにあります**」か?」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「**脳にある**」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、**こころと脳とは、どのように関係していますか?**」。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか?」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどうして「ある」と言えるのでしょうか? あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから、「こころはある」のですか? それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか? こころで体験するのですか? からだで体験するのですか?

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していく、**現象学（Phänomenologie）**（独）という哲学的立場から考察する科目なのです。

「こころ」は存在しない

人間が思考する能力が始まって以来、「こころ」（魂）について徹底的に考えられきました。それにもかかわらず、「こころ」を十分に理解できたという学説は、自然科学も含めて存在しません。いまだに、「こころ」と「からだ」の関係すら明らかになったとは言えません。

「こころとからだの現象学」では、「こころの哲学」の歴史から様々な哲学者の見解をおさらいし、「こころの哲学」が具体的にどのような問題に取り組んできたかを学びます。そして、20 世紀後半から現在に至るまで、認知科学や「こころの科学」と言われる分野と交流をしながら、新しい「こころとからだの哲学」を学んでいきます。

【到達目標】
・「こころの哲学」の歴史を学ぶことによって、「こころとからだ」の関係について、哲学的に説明できるようになる。
・哲学的な立場としての「現象学」の基礎を学ぶことができる。
・「こころとからだの現象学」を通じて、科学的にアプローチする「こころの科学」との関係性を明らかにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
本科目は、原則的には講義形式で行います。また、必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生 1 人ひとりが自分の「こころとからだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、**現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場**だからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	こころとからだについての基本的な考え方
2	こころの働きは、ア・プリオリ（非経験的）のものか、ア・ポステリオリ（経験的）なものか?	認識の働きは、科学的に解明できるのか? ——カントとヴント
3	意識の働きは、どのように記述できるのか?	意識の志向性 ——フッサール超越論的現象学 (1)
4	楽しい時はすぐに時間が過ぎるのに、退屈な時はなかなか時間が過ぎないのはなぜ?	時間意識の現象学 ——フッサール超越論的現象学 (2)
5	からだは「存在する」のに、こころは「存在する」とはなかなか言えないのはなぜ?	世界内存在と道具 ——ハイデガー実存的現象学 (1)
6	私が生きているうちは「存在する」なら、私が死んだら、私は存在しないのか?	実存的自己と死への「不安」 ——ハイデガー実存的現象学 (2)
7	私たちの知覚は、どのように環境と関わるのか?	原子論的心理学への批判 ——ゲシュタルト心理学
8	私たちの知覚は、どのように身体に根ざしているのか?	現象学と心理学 ——メルロ=ポンティの現象学 (1)
9	私たちのからだは、どのようにして生きているのか?	身体の現象学 ——メルロ=ポンティの現象学 (2)
10	自己はひとりぼっちなのか?	自己の存在論 ——サルトルの現象学的実存主義
11	知覚は環境との相互作用なのか?	生態学的心理学 ——ジェームズ・J・ギブソンの生態学的心理学
12	コンピュータには何ができないか?	認知主義への現象学的批判 ——ヒューバート・ドレイファスの哲学
13	こころとからだの現象学に向けて	エナクティヴィズム ——現象学的身体性認知科学
14	総合討議と、まとめ	「こころとからだ」について再考する 〜こころの科学から、ゲストをお迎えして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義に生じた疑問について、次回に発表できるようにする。

【テキスト（教科書）】
・ステファン・コイファー&アントニー・チェメロ『現象学入門——新しい心の科学と哲学のために』田中彰吾・宮原克典訳、勁草書房、2018 年
（Stephan Käufer and Anthony Chemero, *Phenomenology: An Introduction*, Polity Press, 2015.）

【参考書】
・ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心——心の哲学と認知科学入門』石原孝二他訳、勁草書房、2011 年
（Shaun Gallagher and Dan Zahavi, *The Phenomenological Mind: An Introduction to Philosophy of Mind and Cognitive Science*, Routledge, 2008/2nd Edition,2012.
・Tim Bayne and Michelle Montague eds. *Cognitive Phenomenology*, Oxford University Press, 2011.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%：討議への参画、小レポートを含む) と、試験あるいは課題レポート (60%)。以上を総合的に評価し、評定を決める。

【学生の意見等からの気づき】
「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】
・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。
・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしていますし、「文化情報の哲学」は、精神異常や発達障碍など「こころ」が病んだり障碍したり、また遺伝的に脳が障碍したりした人と精神やこころとの関係を論じています。

【Outline and objectives】
In this class, through the history of "phenomenological philosophy", we will confirm how "the relationship between mind and body" has been discussed and examine what kind of problems the phenomenological philosophy has tackled concretely. And from the latter half of the 20th century to the present, we will learn a new "phenomenology of mind and body" evolving under the influence of cognitive science and "mental science".

FRI300GA

ゲーム構築論

重定　如彦

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、**情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさ**をコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。
実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるである。
日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。
コンピュータゲームの題材としては主に、**占い**や**数当てゲーム**などの初歩的なものからはじめ、最終的には**マインスイーパー**や**テトリス**などの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】
コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に着けることを目指す。
2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ ページの順でクリックすると一覧を見ることができる）。http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業ではコンピュータプログラミングの入門用言語として Visual Basic を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。
前半では、「占い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。
後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。
実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。
授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Visual Basic の基礎について学ぶ
2	占い	変数、乱数、条件分岐について学び、占いのゲームを作成する
3	数当てゲームその１	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその２	数当てゲームを完成させる
5	マインスイーパーその１	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその２	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその３	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその４	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその５	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその１	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその２	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその３	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその４	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその５	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連する教科書の内容を予習復習し、各自制作の実習を行う。

【テキスト（教科書）】
「学生のための詳解 Visual Basic」 東京電機大学出版局（2009）

【参考書】
必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】
平常点 10%、ソフトウェア制作　90%
ソフトウェア制作は授業で取り上げたソフトウェアを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウエア等を用いて進める。

【その他の重要事項】
熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

【Outline and objectives】
Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.
The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

HUI200GA

道具のデザイン学

甲　洋介

サブタイトル：
配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：ヒューマンインターフェイス論
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
うまく道具をデザインすると、暮らしはもっと心地よいものになる
日常生活を観察すると、私たちはさまざまな道具に囲まれている。人間は道具を次々に作り出すことによって身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その一方で、私たちは思ってる以上に道具を使いこなすのに苦労している。ユーザ（利用者）が思い通りに使いこなせるようになって、初めて「人工物」は道具になる。暮らしの道具が使いやすいと、日常生活はもっと豊かで快適なものになる。
では、どうデザインするか？
本講義では、ユーザにとって「道具」を使いやすく、魅力的なものにするための方法論「ユーザーセンタードデザイン」について、基本的な考え方からデザイン手順まで、体系的、かつ実践的に学ぶ。
人間と人工物のよりよい共生に向けて
文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。人間の作り出す人工物と人間も、形や素材だけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物（道具）と人間の間でも様々な摩擦が生じている。ロボットと人間の共生問題を論じる際にも、この観点が重要になっている。このような発展的な課題について考える基盤も身につけられる。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

【到達目標】
デザイン手法の基礎知識を身につけ、魅力ある企画書を作ってみよう！
・使いやすい道具をデザインするための、「ユーザーセンタードデザイン」方法論の基本的な考え方、デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、具体的なデザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、ユーザーセンタードデザインを使って、新しい道具・商品・サービスのデザイン案を、ユーザエクスペリエンス（UX）の観点からデザインし、企画書を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーセンタードデザイン」*User-Centered Design* を、基本から実践までを体系的に学ぶ。
● **前半は、道具のデザインの基本的な考え方を学ぶ**
暮らしの中の道具をもっと使いやすいものにするには、まず人間の面白い特性を知ろう。たとえば、人間は覚えたことをすぐに忘れる。思い込みによって深刻な誤りを起こすこともある。人間のそういった諸特性を考慮してデザインすると、道具に囲まれた暮らしはもっと気軽で楽しいものになる。
●**「ユーザーセンタードデザイン」手法を学び、実践する**
後半では、具体的なデザイン方法論として「ユーザーセンタードデザイン」の基本から実践手順までを学ぶ。履修者それぞれが，日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスをテーマに、デザイン実習に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「人間中心のデザイン手法」*User-Centered Design (UCD)* ①	ユーザの特性を理解し、体験 *(experience)* をデザインする、という考え方
8	「人間中心のデザイン手法」②	*UCD* の基本原則を学ぶ
9	「人間中心のデザイン手法」③	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①	魅力ある商品の企画書を作る
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験 *(experience)* をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で学習した方法論に沿ってデザイン実習を行い、その成果を企画提案レポートとして仕上げる。

【テキスト（教科書）】
・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）2015
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013
他については適宜指示する。

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社)2014
・NPO 人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/

【成績評価の方法と基準】
発表とレポート (60 %)、授業・討議における積極性な貢献度合い（レスポンスシートを含む）（40 %）。

【学生の意見等からの気づき】
最終日の、受講生によるデザイン案のプレゼンテーションとグループ討議が、互いに大いに刺激になったとの感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
実務経験のある教員による授業：
情報関連企業のデザイン部門・技術顧問として実践してきた教員がデザイン学を手ほどきする。

【履修条件】
・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせて受講すると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・「情報コミュニケ―ションⅠ」のデザイン・ワークショップと併行履修すると、基礎知識と実習の相乗により、学習効果が高まる。
・「文化情報空間論」へと発展されていく。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline and objectives】
This class allows you to learn basic principles of the "User-Centered Design" and how to conduct concrete design steps using the "User-Centered Design" methodology.

COT200GA

情報セキュリティとプライバシー

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。
　ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システム的手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】
・PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
・より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
・セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分の PC を守る	アンチウィルスソフト、ファイアーウォール、アップデート。
3	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
6	アクセス制限と効果	ファイアウォールとは。データアクセスの制限の必要性とその手法。
7	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実践。
9	電子署名と認証	電子署名とは。SSH によるネットショッピング。
10	コンテンツ配信と著作権	著作者の利益保護。
11	組織としてのセキュリティ対策 (1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策 (2)	CSIRT の必要性とその適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。

【テキスト（教科書）】
特に必要としない。

【参考書】
特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）と課題（またはレポート）（30%）、期末テストの成績（50%）を併用した評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室での授業であり、授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。
授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.

BIO200GA

文化と生物

島野　智之、岡西　政典、川上　裕司、黒沼　真由美

サブタイトル：**生活にいかす生物との関わり**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**バイオインフォマティクス**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化という視点からみた生命の実像を学ぶ.
内容は大きく 2 つに分けて，(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と，(III-IV)「生物それ自体とその進化」について講義を行う．分野は衛生学，美術，生物学，農業にわたり，生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ.

【到達目標】
ヒトの生活と生物にまつわる歴史，文化そして，現代的な問題を解決する方法について，考え理解する．生物の多様性や進化について，考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている. ここでは，生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について，現代生物学の手法を体験し，現状を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う.
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．11 回までは，講義が中心ですが，特に，5-8 回は，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します. 最後の実習（12 回以降）は，実際にパソコンのソフトを用いて，外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 （1） 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）, ②食中毒とは何か, ③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 （2） 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か, ②医食同源は健康的な食生活の基本, ③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 （3） 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態, ②ダニ・昆虫アレルギーについて, ③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 （4） 住まいと微生物 担当教員：川上	①主な細菌・真菌（カビ）・ウイルスと疾病, ②真菌アレルギーについて, ③殺菌剤と IPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(II) 動物とは？ (1) 生き物のなかでの動物の位置 担当教員：岡西	①生き物とは何か, ②動物とは, ③生態系の中の動物の食物連鎖における位置，④新たな動物学の研究.
6	(II) 動物とは？ (2) 新種の発見 担当教員：岡西	①生き物に名前をつけるということ, ②生き物を名前をつけて認識する, ③分類学とは何か.
7	(II) 動物とは？ (3) 新種に名前をつけると言うこと 担当教員：岡西	①名前とはなにか, ②学名とは何か, ③新種はいつみつかるか, ④どの様にして新種に名前をつけるか.
8	(II) 動物とは？ (4) 未発見の生物を発見するために，冒険に出よう. 担当教員：岡西	①船で海で未知な生物を捕獲する, ②. 深海で未知な生物を捕獲する,
9	(III) 無脊椎動物解剖学 (1) エビの体のしくみ（外骨格、筋肉） 担当教員：黒沼	私達に馴染みの深い甲殻類であるエビ．主に体幹の仕組を通して, 節足動物に特有の, 硬い外骨格と２つの付属肢がつき, 前後につらなる「体節」という構造について
10	(III) 無脊椎動物解剖学 (2) 担当教員：黒沼	甲殻類であるカニの, 主に歩脚や鋏脚, 腹脚, 顎, 触覚等の付属肢に注目し, その動く仕組みと外側から見た形態の変化について
11	(III) 無脊椎動物解剖学 (3) 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし, 様々な形態や筋肉のつき方, 動きを比較する
12	(IV) 生物の進化を推定する （1）DNA 配列と分子進化 担当教員：島野	DNA は AGTC の配列（塩基配列情報）によって構成されていることについて復習と発展．塩基配列情報が違うことから生物の進化を推定する
13	(IV) 生物の進化を推定する （2） 塩基配列・バイオインフォマティクス 担当教員：島野	塩基配列解析の様々な手法および大量ゲノム解析が社会に与える影響.DNA 情報をテキスト配列として，操作して，様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(IV) 生物の進化を推定する (3) 系統樹作成 担当教員：島野	生物の塩基配列情報から，実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し, 柔軟な思考ができるように努めてもらいたい.

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない. 個人的に作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある.

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート (60%) だが, この他に講義内で提出してもらう様々な文書 (ビデオ等の感想, 小テストなど)(40%) も加え, 総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
今年度，カリキュラムを大幅に改訂し，国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である.
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい.

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用します. パソコンにインストールされているソフトを元に，実習します. 遺伝子データベース　http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html を使います.

【その他の重要事項】
情報実習室で行うことに注意してください.

【Outline and objectives】
The contents are how human beings use biological information through hygiene, art, biology and agriculture in culture.

BIO200GA

文化と環境情報

島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、松崎　素道

サブタイトル：**人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのか**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまの技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】
人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている．ここでは，生態系，地球環境と人間生活について，現代生物学の観点から現状を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う．
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．講義が中心ですが，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生態系とヒト 担当教員：松崎	講義内容のあらすじ 生態系とヒトについて 生態系＝　生産者，消費者，分解者の役割とヒト
2	(II) 地球環境の変化とヒト (1) 進化の駆動 担当教員：松崎	地球の環境変化，つまり，数回の全球凍結と酸素濃度の急激な上昇による生物の進化について
3	(II) 地球環境の変化とヒト (2) ヒトの影響 担当教員：松崎	人間がひきおこしている地球環境の変化と，持続可能性について，SDGs について
4	(III) 生態系 (1) 個体群，個体群内の個体間の関係 担当教員：佐々木	地球上では様々な生物の個体群がみられる．個体群の成長と密度効果．生存曲線について．動物の社会性について
5	(III) 生態系 (2) 異種個体間の関係 担当教員：佐々木	異種個体群間の競争，共存，寄生，被食者ー捕食者相互関係について
6	(III) 生態系 (3) 生物群集 担当教員：佐々木	食物網，撹乱，捕食者の存在が生物群集に及ぼす影響
7	(III) 生態系 (4) 生態系における物質生産 担当教員：佐々木	生産者がつくる有機物と消費者，分解者．栄養段階を構成する生物，そして，ヒト
8	(IV) 食環境と文化 (1) 食べる 担当教員：島野	①食べる力は生きる力, ②ヒトはなぜ食べるのか, ③食と社会のつながり
9	(IV) 食環境と文化 (2) 食生活の変遷 担当教員：島野	①日本人の食事の変化, ②生活習慣病と食事, ③健康寿命の延伸を目指して
10	(IV) 食環境と文化 (3) 味わう・塩梅 担当教員：島野	①美味しいは、何でできている? ②美味しさの東西比較, ③ユネスコ無形文化遺産 “和食；日本人の伝統的な食文化”
11	(V) SDGs と食 (1) ミレニアム開発目標から持続可能な開発へ 担当教員：島野	①ミレニアム開発目標とその成果, ②持続可能な開発目標, ③国際協力と開発援助
12	(V) SDGs と食 (2) 食品摂取と栄養改善 担当教員：中西	①世界における微量栄養素欠乏症，②栄養改善の手法－栄養補給、栄養強化、食の多様性, ③栄養強化食品の開発
13	(V) SDGs と食 (3) 摂食障害 担当教員：中西	① BMI18.5 未満は” やせすぎ” です。②低出生体重児の増加, ③神経性やせ症／神経性無食欲症の一般的経過と回復過程
14	(V) SDGs と食 (4) 食の安全・安心 担当教員：中西	①食の安全と安心は違います。②食中毒にならないためには？　③フードファディズムとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し, 柔軟な思考ができるように努めてもらいたい．

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない. 作成した講義資料を使用する．

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある．

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート (60%) だが, この他に講義内で提出してもらう様々な文書 (ビデオ等の感想, 小テストなど)(40%) も加え, 総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である．
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい．

【Outline and objectives】
How human society and culture are related to the ecosystem

HUI300GA

文化情報空間論

甲　洋介

サブタイトル：**人間の本来もつ制約を、『拡張された人間』**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は自然界において非力な存在である。人間は人工物を生み出し続けることで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。私たちが生きるこの世界は、けして自然的な世界ではない。むしろヒトが作り出した人工的世界の中に生きていると考えるほうが自然だろう。
自分の身の回りにある**人工物**は、実にさまざまな存在形態を有していることに気づく。人工物は暮らしのあらゆる場面に埋め込まれ、人間との一体化が進み、**人間と人工物の境界はすでに曖昧である**。人工物によって人間としての制約を拡張する道を歩み続ける人間は、何を求め、何処へ向かい、どこまで「人間らしく」いられるのだろうか。
人工物は、玩具や文具のように人間から独立して存在するモノだけではない。人間の身体に装着する義足や高機能な衣服、脳波によって作動する器具のように、人間の身体や能力と一体化して機能する人工物もある。住宅建築や空間のように人間を包み環境として存在する人工物もある。このように捉えなおすと、「都市」はある意味で空間化した知的人工物として捉えられる。
本講義では、「人工物の科学」（H.A. サイモン）を出発点に、「人間と人工物との一体化と拡張の方向性」について点検し、「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。

【到達目標】
・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
・知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムの基礎を学ぶ。
・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析観点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしをデザインすることに取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、まず「現在」を人間と人工物との共生社会として捉えることから始まる。　そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、
①人間の身体や能力と一体化して作動する人工物、
②人間と独立したモノとして存在する人工物、
③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
の 3 つの存在形態について検討を加える。
これらの人工物が日常生活に入り込むことによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されうるのか、具体的に切り出された生活場面を詳細に検討し、新たな設計を試みる講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし　〜サイバーパンクＳＦを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に、講義を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。

【テキスト（教科書）】
・「システムの科学」第 3 版 (H. サイモン、パーソナルメディア)1999.
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】
・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.
・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.
・「攻殻機動隊」（監督：押井守、ワーナー）他一連の作品群
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
・レポート (50 %)、
・授業・討議における積極性な貢献度合い（発表、レスポンスシートを含む）(50 %)
を総合して評価する。
レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
「人のこころ」「人工知能」「ロボット」に興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】
・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせて受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline and objectives】
This class addresses the advancement of "Augmented Human", as one of the essential issues of our modern society. It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis of human and artifacts.

COT300GA

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋　良明

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。 本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、 Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMF トーン（プッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】パッチ（Pd のプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】足音のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】シンセサイザーの出力音にポルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報リテラシー、メディア情報、ディジタル情報学等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。

【テキスト（教科書）】
実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】
参考書・参考資料等
【Pure Data】
美山千香士、『Pure Data チュートリアル＆リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424
松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804
中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821
【音響モデリング】
Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、課題（30 %）、最終課題の評点（40 %）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC（Mac 版、Linux 版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。Raspberry Pi、 Arduino、 Kinect、 Leap Motion などの実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験の教員がコンピューターを使用したメディア処理について講義する。

【Outline and objectives】
This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

FRI300GA

コネクション・デザイン

川村　たつる

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**ハイパーテクスト論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）やシェアリング・エコノミー、新しい形の社会装置等の事例を考察していきながら、これからの人・物・事のネットワーク（繋がること・繋がり方）を考えながら学んでいきます。

【到達目標】
受講者それぞれが事例の考察を通して、現代社会における人・物の繋がり方を自身の考え方で再考察していけることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
普段利用している SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）における人と人の繋がり方や、シェアリング・エコノミーの在り方、ネットワークを利用した新しい事業、新しいコミュニティに関わる事例を考察していきながら、グループワークやリアクションペーパーからの意見を通して、これからの人・物・事の新しい繋がり方の可能性を受講者と再考察していきます。
※課題に関しては、技術的な出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。また、発表を通して他者の考え方や表現方法を自身のものと比較検証を行いながら考察することも重要な目的としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	昨今の人と人の繋がりを考える
第 2 回	考察 1	サードプレイスを考える
第 3 回	考察 2	ソーシャルネットワークを考える
第 4 回	考察 3	シェアリングエコノミーを考える
第 5 回	考察 4	シェアリングハウスという住まい方を考える
第 6 回	課題発表	第 1 課題の発表と講評
第 7 回	考察 5	複雑ネットワークを考える
第 8 回	考察 6	キャッシュレス社会を考える
第 9 回	考察 7	サブスクリプション社会を考える
第 10 回	考察 8	ソーシャルネットワークによる繋がりを考える
第 11 回	考察 9	人と人との繋がり方を考える
第 12 回	考察 10	コミュニティモデルを考える
第 13 回	課題発表	第 2 課題の発表と講評
第 14 回	まとめ	「人」「物」「事」の繋がり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
課題の制作は、各自授業外で行うこととします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT 出版/2018 年）、『新ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK 出版/2002 年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005 年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018 年）、『サードプレイス―コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013 年）等。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70%）、課題（30%）で成績評価を行います。
また、すべての課題提出が必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline and objectives】
Consider the examples of social networking services, sharing economies, new forms of social devices, etc. and consider how to connect people, things and things in the future.

DES200GA

情報の編集論

川村　たつる

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**情報編集論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**50 人前後　あまりにも人数が多い場合は選抜も検討**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段何気なく見ている広告や製品等の事例を題材に、それぞれを再考察していきながら、受講者それぞれが「情報を編集する」ということを学んでいきます。

【到達目標】
受講者それぞれが、自身の考えを表現する際に、「情報の編集」を実践できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
広告制作、商品開発等の事例を制作者の立場から考察し、「情報を編集する」ということを学んでいきます。
受講者それぞれが課題制作を通して「情報を編集する」ということを試みたり、講評会における他者からのフィードバック、リアクションペーパーからの意見を通して「情報の編集」を再考していきます。
※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。
また、自身が表現方法を試行錯誤することだけでなく、他者の考え方や表現方法を自身のものと比較検証を行いながら考察することも重要な目的としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「情報の編集」とは
第 2 回	情報を編集する 1	「情報を編集する」ということ考える
第 3 回	情報を編集する 2	「情報を編集する」を試してみる
第 4 回	広告と情報の編集 1	「自分が最近気になる広告」を持ち寄って考える
第 5 回	広告と情報の編集 2	広告制作における情報の編集を考える
第 6 回	広告と情報の編集 3	「自分が最近気になるコマーシャル映像」を持ち寄って考える
第 7 回	広告と情報の編集 4	コマーシャル映像制作における情報の編集を考える
第 8 回	広告と情報の編集：講評会	講評会形式の課題作品発表
第 9 回	商品と情報の編集 1	「自分が最近気になる商品」を持ち寄って考える
第 10 回	商品と情報の編集 2	商品開発における情報の編集を考える
第 11 回	商品と情報の編集 3	「自分が最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考える
第 12 回	商品と情報の編集 4	商品パッケージ制作における情報編集を考える
第 13 回	商品と情報の編集：講評会	講評会形式の課題作品発表
第 14 回	まとめ	「情報の編集」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
課題の制作は、各自授業外で行うこととします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010 年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001 年）、「情報の歴史」松岡正剛監修（NTT 出版/1990 年）、「Design Rule Index ―デザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004 年）等。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70%）、課題（30%）で成績評価を行います。
また、すべての課題提出が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline and objectives】
While reconsidering cases of advertisements and products that we normally see casually, each student learns to "edit information"

FRI200GA

文化情報の哲学

森村　修

サブタイトル：**神経犯罪学と倫理**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、さまざまな文化の諸相を、「文化情報」という観点から、哲学的な問題として検討することを目的とする。
2019 年度は、エイドリアン・レインの『暴力の解剖学』（Adrian Raine, The Anatomy of Violence, 2013） を取り上げ、レインの提唱する「神経犯罪学（neurocriminology）」の立場から、生物学的構造の欠損、すなわち脳や自律神経系などの欠損や、それらの生理機能の欠陥が、いかに反社会的性格を生み、結果的に犯罪に生むかという問いについて考察する。
また本科目は、秋学期科目「現代思想」と深い関係がある。「現代思想」でも、犯罪や暴力、さらにはテロリズムなどについて共有する問題意識に基づいて、別の角度から検討していく。
それゆえ本科目と「現代思想」とを履修することで、現実を生きるための哲学の面白さを実感してもらうことも、大きなテーマになっている。

【到達目標】
（1）レインの『暴力の解剖学』に即して、暴力や犯罪などの反社会的行動を「神経犯罪学」の立場から理解することで、暴力における生物学的基盤と社会的要因との相互作用について考えることができる。
（2）21 世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
（3）哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
本授業では、レインの『暴力の解剖学』を取り上げ、犯罪における生物学的要因と社会的要因との相互作用について分析する。
【授業の方法】
テキストを中心に、教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	第１章　本能	・いかに暴力は進化したか
3	第２章　悪の種子	・犯罪の遺伝的基盤
4	第３章　殺人にはやる心	・暴力犯罪者の脳はいかに機能不全を起こすか
5	第４章　冷血	・自律神経系と犯罪
6	第５章　壊れた脳	・暴力の神経解剖学
7	第６章　ナチュラル・ボーン・キラーズ	・胎児期、周産期の影響
8	第７章　暴力のレシピ	・栄養不良、金属、メンタルヘルス
9	第８章　バイオソーシャルなジグソーパズル	・生物的基盤と社会構造との相互作用
10	第９章　犯罪を治療する	・犯罪への生物学的介入
11	第１０章　裁かれる脳	・自由意志はどの程度自由なのか
12	第１１章　未来の犯罪対策	・神経犯罪学は私たちをどこへ導くのか
13	まとめ　犯罪と神経犯罪学	・脳科学と犯罪学
14	まとめ２　犯罪と倫理学	・神経倫理学からみた神経犯罪学のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は事前にテキストを読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
・エイドリアン・レイン『暴力の解剖学――神経犯罪学への招待』（高橋洋訳）紀伊国屋書店、2015 年
・Adrian Raine, The Anatomy of Violence: The Biological Roots of Crime, Pantheon, 2013.

【参考書】
原田隆之『入門　犯罪心理学』、ちくま新書、2015 年
D.C. ロウ『犯罪の生物学――遺伝・進化・環境・倫理』、北大路書房、2009 年

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート（80 %）
・平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【Outline and objectives】
This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".
In 2019, we take up Adrian Raine's "The Anatomy of Violence" (Adrian Raine, The Anatomy of Violence, 2013) , and consider it from the standpoint of Raine's "Neurocriminology" in which the deficiencies of biological structure and defects of their physiological functions create antisocial characters and consequently crime. The question of how deficits such as the brain and the autonomic nervous system and defects of their physiological functions create antisocial character and consequently crime.
Also, this subject has a deep relationship with the autumn semester subject "Contemporary Thought". Even in "Contemporary thought", we will consider from another angle based on the problem consciousness shared about crime, violence and even terrorism.
Therefore a major objective is to enable the students to realize the enjoyment of philosophy applicable to their own lives by taking this subject along with "Contemporary Thought".

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣　立男

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**情報デザイン**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を通じて学ぶことは、ソーシャル・プラクティス、あるいはソーシャリー・エンゲージド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野です。
このような社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。

【到達目標】
下記の 3 つのテーマでワークショップを行います。
1 環境と社会
2 コミュニティ
3 ポリティカル・イシュー
ワークショップの冒頭には社会的な課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的にはグループワークでワークショップを進めますが、まず、各ワークショップの最初に講義を行います。次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。最後にプレゼンテーションとディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について ソーシャル・プラクティスとは
第 2 回	ワークショップ 1 環境と社会	講義とディスカッション
第 3 回	ワークショップ 1 環境と社会	資料調査 フィールドワーク
第 4 回	ワークショップ 1 環境と社会	制作 パワーポイントなどのスライド資料を作成
第 5 回	ワークショップ 1 環境と社会	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
第 6 回	ワークショップ 2 コミュニティ	講義とディスカッション
第 7 回	ワークショップ 2 コミュニティ	資料調査 フィールドワーク
第 8 回	ワークショップ 2 コミュニティ	制作 発表ポスターの作成
第 9 回	ワークショップ 2 コミュニティ	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
第 10 回	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー	講義とディスカッション
第 11 回	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー	資料調査 フィールドワーク
第 12 回	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー	制作 映像、インスタレーションなどによる制作
第 13 回	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
第 14 回	フィードバック 総括	授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ニュースや新聞で話題となる時事問題、地域社会の問題、個人と社会の問題など、様々な社会問題について関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容に関連した資料を配布します。
授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】
Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
パブロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための 10 のポイント』フィルムアート社、2015 年
アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって』 フィルムアート社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
授業内プレゼンテーション（25%）
フィードバック（25%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】
We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

ART300GA

サブカルチャー論

島田　雅彦

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超過した場合は選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】
イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズムの敗北	２０世紀の芸術運動としてのモダニズムの検証。ダダ、シュールレアリスム、未来派など。
3	映画の台頭	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。エンターテインメントとしての洗練の軌跡。
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	１９６０年代のアメリカの　カウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光、接待	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。
10	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
11	錬金術とオカルト	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。
12	メディアとサブカル	テレビ、新聞ＶＳウェブ 紙と電子。音楽、出版文化の変遷。
13	サブカル化した政治	サブカル化した政治としてのポピュリズム　政党政治、代表制のゆくえ。
14	まとめと授業内試験	まとめとテーマに基づく自由記述試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
教室で指示する。

【参考書】
教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点 20 %、授業内試験 80 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline and objectives】
Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general.Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age.

HUI200GA

道具による感覚・体験のデザイン

甲　洋介

サブタイトル：**『体験』から空間をデザインする**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アタマとカラダを使って、「体験する」という現象を「体験し直す」ことを目指す科目である。

● **体験をデザインする、ということ**
「経験」「体験」(*experience*) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される (E. リード)。
仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」はかつてない速度で変化が進み、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、”あたかも体験したかのように” 受け入れていることに気づく。
本講義は、デザインの視点から、この現象を批判的に問い直す。

● **日常の体験こそ面白い、しかしデザインするのは難しい**
体験という言葉から連想するのは、可笑しな体験、驚いたこと、つらかったこと、忘れられない事など、ほとんどが非日常的な体験である。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の豊かな体験にこそ目を向けるべきだろう。そこでは、ふだん気にも留めないさまざまな豊かな感覚が研ぎ澄まされ、感じ取り、感情を湧き起こし、体験が生み出されている。

● **『体験』から、空間をデザインする**
今年度は、「空間の体験」を取り上げる。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなど、多くの人が行き交う空間で、人は他人との距離感を巧みにコントロールしながら行動していることに気づく。こうした日常の空間をデザインし直すことを考える。
空間デザインによって、そこでの体験はどのように変化するのか。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。空間の体験をデザインする可能性について考えてみたい。

【到達目標】
目標はシンプルであり、つぎの３つに要約される。
1) 体験するとは、どのようなことか（特に空間の体験）、
2) 空間のデザインが変わると、そこに生まれる体験はどのように変化するのか、
3) 体験装置としての空間をいかにデザインするか、
について、基本的な考え方を理解し、具体的な対象に対して実践し、考察を深めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる３つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。

●【講義の３つのテーマ】
(a) 身体と感覚、体験するということ
(b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
(c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

●【デザインワークショップ】
さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第 2 回	**[A] 身体、感覚、体験**	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚。
第 3 回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験。
第 4 回	感情の科学：感情をともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム。
第 5 回	**[B] 空間の体験　〜道具によって空間の体験を作る**	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）。
第 6 回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動。
第 7 回	人間の空間行動〜パーソナルスペース	体験 *experience* から、空間をデザインする
第 8 回	デザインワークショップ 1	学校とは何だろう？　空間デザインから考え直す
第 9 回	デザインワークショップ 2	カフェ、ラーメン店、オフィスのデザイン。
第 10 回	グループ発表	発表と討議
第 11 回	**[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す**　〜体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックストリアリティ MR、代替現実 SR。
第 12 回	身体からみた『日本庭園』　〜日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第 13 回	メディア情報空間	スヌーズレン。大切な人とつながる情報空間の試み。
第 14 回	身体、感覚、体験 -revisit -	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・デザイン課題、グループ発表のための準備、資料づくり

【テキスト（教科書）】
初回時に指示をする。

【参考書】
・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
・「空間の経験―身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】
・試験・レポート・作品 (60 %)
・平常点 (40 %、レスポンスシート、討議への積極的な参画を含む)
試験・レポート・作品が未提出である場合、単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】
履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。
教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【関連科目】
「道具のデザイン」「こころの科学」「仮想世界研究」と組み合わせて受講することが望ましい。多角的に洞察できるようになり、面白くなる仕組みになっている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline and objectives】
This class allows you to learn "experience" concept and the design of "feeling" and "experience". This year, we will focus on the design of spatial experence.

ART300GA

マルチメディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（15 名）。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、**少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習**です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】
写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル（銀塩＋デジカメ、レフ、ストロボ）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・映像制作技法： Jingle、絵コンテ、ショートフィルム（ハンディカム）
●クリティーク
各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・Jingle (短い 15 秒程度の CM 的映像)
・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。
●大事にしたいこと
・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【自由課題による写真課題】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題： line、pattern、texture】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド　実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク： line、pattern、texture 【写真課題：光と影、色】
4	コミュニケーションデザインの手法－ Web	Web の特性とデザインについて理解する。 クリティーク：光と影、色 【写真課題：人物ポートレート、ライティング（2 週間)】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（ＣＤ，ＤＶＤなど）の構成法を理解する。 実習： Premiere による短いビデオ 【課題：写真ポートフォリオ（2 週間)】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース　制作	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 【課題： Web 写真アルバム（2 週間)】
7	タイポグラフィの基礎 中間のまとめ：課題のクリティーク	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク： Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース　実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。 クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。**長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。**

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
マルチメディア全般について以下の２冊を参考書として挙げる。
参考書（1）CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 参考書（2）CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1　以上の２冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

撮影技法については、キット　タケナガ（著）　東京写真学園（監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。
ショートムービーの制作については、ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956 が参考になる。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点 (20%)、中間課題 (30%) ならびに最終課題 (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。

【学生の意見等からの気づき】
2011 年度までは 3〜4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PC を必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびに ePortfolio に提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ： Premiere、Photoshop などを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PC やソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため 20 名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。**作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。**
情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、
高度な ICT の活用実習、ならびに作品制作を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア表現手法ついて講義する。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshop の応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。
写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【Outline and objectives】
This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

ART300GA

メディア表現ワークショップ１

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表現活動に繋がるフィールドワークに関する実習授業です。各実習はワークショップ形式で行います。
教室や大学の構内外を 3 つのテーマ（カメラを持って旅に出よう。スケッチブックに記録しよう。動きや音を拾うことから。）によるフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】
みなさんは課題を通じて様々な表現活動に通じる取材・調査方法や様々なメディアを使った表現方法を学びます。
各課題に取り組むにあたっては、自由な発想、臨機応変な対応が必要となります。柔軟な姿勢で（楽しんで）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
下記の３つの内容に基づいて、制作実習をします。
第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。
記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。
スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしていきます。
第 3 課題　動きや音を拾うことから。
拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。
お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	課題説明 講義　記録としての写真
3	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
4	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	課題制作
5	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
6	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。	課題説明 講義　スケッチの技法
7	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
8	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう	課題制作
9	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
10	第 3 課題　動きや音を拾う。	課題説明 講義　音や映像による記録
11	第 3 課題　動きや音を拾うことから。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
12	第 3 課題　動きや音を拾うことから。	課題制作
13	第 3 課題　動きや音を拾うことから。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
14	講評会	3 つの課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。
2. 調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
藤田 結子『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践 (ワードマップ) 』新曜社、2013 年
※授業毎に参考書や参考作品について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）と課題作品の提出（50%）により成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。
楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
スケッチブック及び iPhone や Android などの携帯端末が必要となります。

【その他の重要事項】
※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。

【Outline and objectives】
This is a practical course about fieldwork leading to expression activities. Each practice is done in a workshop format.
Fieldwork is conducted according to three themes inside and outside the classroom and university premises, and the results are presented.

ART300GA

メディア表現ワークショップ２

島田　雅彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙 げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方 ABC を伝授する。メールから企画書、報告 書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力 や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】
半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか?
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか?
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人?
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の 8 割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。

【テキスト（教科書）】
『小説作法 ABC』 島田雅彦　新潮選書２００９

【参考書】
『深読み日本文学』　島田雅彦　集英社インターナショナル新書２０１８

【成績評価の方法と基準】
折々のレポートと期末の創作７０%、平常点３０%

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline and objectives】
Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students
can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails , we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work.

ART300GA

五感共生論

川村　たつる

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人は物・事をどのように認識しているのかを、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の相互の関係を考察していきながら学んでいきます。

【到達目標】
受講者それぞれが五感の再認識を通して、自身の感覚に基づく「人」「物」「事」の捉え方を再考察していけることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
感覚にまつわる事例や簡単な実験、テーマに基づく課題制作等を通して、受講者それぞれが五感について再考察できるようにしていきます。
※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。また、自身が表現方法を試行錯誤することだけでなく、他者の考え方や表現方法を自身のものと比較検証を行いながら考察することも重要な目的としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	人と感覚の関係を考える
第 2 回	視覚 1	視覚に関する事例から考える
第 3 回	視覚 2	錯覚・錯視という事例から考える
第 4 回	視覚 3	「見る」ということ・「見ている」ということを考える
第 5 回	講評会 1	課題 1 の全員鑑賞と講評
第 6 回	聴覚 1	聴覚に関する事例から考える
第 7 回	聴覚 2	「聞く」ということ・「聞こえる」ということを考える
第 8 回	講評会 2	課題 2 の全員鑑賞と講評
第 9 回	触覚 1	触覚に関する事例から考える
第 10 回	触覚 2	「触る」ということ・「触っている」ということを考える
第 11 回	講評会 3	課題 3 の全員鑑賞と講評
第 12 回	味覚	味覚について考える
第 13 回	嗅覚	嗅覚について考える
第 14 回	まとめ	自身の感覚を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
課題の制作は、各自授業外で行うこととします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『錯覚の世界』ジャック・ニニオ著（新曜社/2004 年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013 年）、『触れることの科学』デイヴィット・J・リンデン著（河出書房新社/2016 年）等。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70%）、課題（30%）で成績評価を行います。
また、すべての課題提出が必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline and objectives】
While considering the mutual relations of the five senses, think about how people perceive objects and things.

ART200GA

写真論

丹羽　晴美

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、デジタルが主体となった写真について 19 世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡げたメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】
写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクションによる講義を実施。19 世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第 2 回	写真誕生前夜： 19 世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された 19 世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第 3 回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19 世紀半ば、写真発明に伴い何が起こり、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第 4 回	作家論１：現在と異なる写真技法を使った作家について	19 世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第 5 回	写真メディア史１：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第 6 回	写真メディア史２：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第 7 回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子と写真表現を考察する。
第 8 回	作家論２：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第 9 回	ドキュメンタリー１：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第 10 回	ドキュメンタリー２：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第 11 回	作家論３：記録と表現の狭間	記録することと、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第 12 回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第 13 回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第 14 回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約２〜３週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義内に指示

【成績評価の方法と基準】
レポート提出２割、期末試験８割

【学生の意見等からの気づき】
実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】
講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline and objectives】
This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA

映像と文学

林　志津江

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！ 私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テクスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】
1）さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
2）「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
3）美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論（マクルーハンやキットラーなど）のテーゼの真意を理解すること。
4）「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
5）この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。毎授業ごと、自分の考えをまとめ、小レポートとして記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テクスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／ C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995 年、映画 2001 年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）その１	モティーフとしてのタイムトラベル、時間芸術としての映画、商業映画のニーズ
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）その２	身体感覚の記憶を表現する、恋愛あるいは学校という大切なもの、科学と私たちの未来
5	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006 年、映画 2009 年）その１	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）のリアル
6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006 年、映画 2009 年）その２	コンピューターゲームが映画／表象の形式に与えた影響
7	S. フィツジェラルド／ J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 1974 年）その１	悩める若者とその風俗を描く、小説の受容・解釈がその映画化に与える影響
8	S. フィツジェラルド／ B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 2013 年）その２	「時代を超えた真実」を受け止める方法、「時代の空気」を再現する方法とタイムラグの有効な置き換え（１）
9	R. ブラッドベリ『華氏 451 度』／ F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953 年、映画 1966 年）	書物の神話、映像の氾濫と古典的なメディア批判の真意、インターネットの時代に焚書の危機を考える
10	E. ケストナー／ T. ヴィガント『飛ぶ教室』（小説 1933 年、映画 2003 年）	「政治に抵抗する文学」、「大人も子どもも楽しめる」の真意、タイムラグの有効な置き換え（２）
11	掘辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その１	大胆な翻案と同名タイトルが連想させるもの、映画の着想源となったもの
12	掘辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その２	人間の自己実現と社会、個人の運命と戦争に翻弄される人間
13	L.v.d. ポスト／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その１	共有される言説と複数の真実、「私」が見たものと集合的記憶の齟齬、皇国史観と人間性に対する疑義
14	L.v.d. ポスト／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その２	敵と味方・西洋と東洋の対立、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文学作品については該当箇所をあらかじめ読んでおきます。
・毎授業ごと、１週間かけて小レポートを作成し提出します（提出方法は履修人数が確定した後に決定通知します）。

【テキスト（教科書）】
・授業で扱う作品について、文学作品についてはプリントで配布します。
・授業中に扱う映画の DVD 等はこちらで用意します（ただし最終レポート執筆時には自分でも用意してもらいます）。

【参考書】
・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（１）（２）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999 年
・J.・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 ― ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017 年
・A・バザン（野崎歓ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015 年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005 年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990 年
・杉野健太郎編著『［映画学叢書］映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011 年
・杉野健太郎編著『［映画学叢書］交錯する映画 ― アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013 年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と毎授業ごとの課題（小レポート）65 %、最終レポート課題 35 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
・ペンや鉛筆等の筆記用具を準備してください。授業内でのスマホや PC 等の電子デバイスの使用は一切認めません（自宅での小レポート・学期末レポートの執筆には使用可）。
・なんらかの事情で授業中に電子デバイスの使用が不可欠だと言う場合は、あらかじめ申し出てください。

【その他の重要事項】
・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
・授業に参加し考えたことを書くのが「小レポート」です。「出席していない授業内容についてレポートを提出する」ということは認められません。
・授業運営の性質上、欠席した授業の代替措置といったものは原則行いません。考えうるいくつかのケースを除けば、あなたが今何をするのか決めているのはあなた自身だからです。
・部活動の公欠届や公共交通機関各社の遅延証明書の提出は不要です。担当者は遅刻や欠席を減点方式で評価する発想は持ち合わせず、欠席の理由に優劣があるとも思いません。担当者が重視するのは、どんな理由の遅刻や欠席があったとしても、それらをどうカバーしようとしたかという努力や試み、つまり授業受講時の態度とその成果の表現である提出課題です。
・教室内での携帯電話や PC 等の電子デバイスの使用は厳禁です。特に理由もないのに途中退室するような行動も容認しません。「映画を観て、文学作品を読み、授業担当者の話を聞く」という 100 分間の授業に集中できない履修者は、評価の対象外です。

【Outline and objectives】
Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of fundamental film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

ART300GA

演劇論

竹内　晶子

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。
この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】
・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
(a) 様々な演劇形態の説明、(b) 基本的演劇理論の解説、(c) 台本読解や DVD 鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題 (SQ) を期日までに提出することが必須です。単に DVD を漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすること I	ゼッフィレッリ演出『蝶々夫人』
第三回	演出が可能にすること II	浅利慶太演出『蝶々夫人』他
第四回	演出が可能にすること III	ロバート・ウィルソン演出『蝶々夫人』他
第五回	リアリズムと型 I	歌舞伎・二層のコミュニケーション
第六回	リアリズムと型 II	文楽、能、二層のコミュニケーション
第七回	演劇の言葉	セリフとナレーション、能、文楽
第八回	夢幻能という装置	源氏物語と〈野宮〉
第九回	能と西洋演劇	モダニズム運動と能
第十回	異性装 I	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装 II	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装 III	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ジーザス・クライスト・スーパースター』他
第十四回	学生発表	新作能・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の SQ（Study Questions）に答えること。
できるだけ多くの、古今東西の舞台を観ること。

【テキスト（教科書）】
配布資料を用いる。

【参考書】
毛利三彌『演劇の詩学　劇上演の構造分析』相田書房、2007 年。

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業参加　20 パーセント。4 回以上の欠席（病欠含む）には原則として単位を与えません。就活・教育実習で休む場合はその限りではありませんが、事前に書面で報告すること。
・課題（ＳＱ）40 パーセント。締切厳守。また、数行では課題提出とはみなされません。きちんと一段落以上の文章にして提出すること。
・期末試験　40 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
板書を多用します。

【その他の重要事項】
受講の際の注意
・ディスカッション時を除き、私語厳禁。教員に質問があれば手を挙げて聞くこと (隣の人に聞かないこと)。一回の授業内で私語を二度にわたり注意されたものは、欠席扱いとします。

【Outline and objectives】
Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater.

ART300GA

空間デザイン論

前田　尚武

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**オータムセッション/Autumn Session**
人数制限・選抜・抽選：**定員 40 名。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】
本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解し、表現・伝達する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは第一線で活動している訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などの生の声と空間の実体験から、様々な立場で建築、都市、アートに関わる際の実践的な理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、その制作過程や理論を解説する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施し、訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などからのヒアリングも行う。集中講義のため、訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に連絡する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワークの調査先、日程等は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第 2 回	「アートと空間１：現代美術のインスタレーションと空間デザイン」	現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第 3 回	フィールドワーク：美術館照明メーカーショールーム	美術作品にとって照明は最も重要な展示手法の一つである。最先端の美術館照明器具の実演を通して、体験的に光の知識を学ぶ。
第 4 回	フィールドワーク：六本木ヒルズ・森美術館「塩田千春展：魂がふるえる」	現代美術の展示手法や展示空間のデザインについて展示の実例をもとに解説する。
第 5 回	「アートと空間 2 ：美術館・博物館建築論」	いま、美術館に求められる空間とは何か。展示、運営、学芸的視点から美術館・博物館空間を考察する。
第 6 回	フィールドワーク：東京国立博物館	東京国立博物館は、国内を代表する美術館・博物館。その建築群は日本の近現代建築史を俯瞰できる。博物館・美術館建築からその展示デザインまで詳細に解説する。
第 7 回	「都市と空間 1 ：現代都市デザインの萌芽」	戦後の復興都市計画から 60 年に起きた建築運動メタボリズムから高度経済成長期に日本の建築家たちが描いた未来都市を紹介。
第 8 回	「都市と空間 2 ：都市デザインの未来」	70 年の大阪万博から六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第 9 回	「都市と空間 3 ：現代都市とアート」	パブリックアートからアートイベントまで、都市へアートを仕掛けてゆく様々な試みを紹介し、都市を活かすアートとは何かを考える。
第 10 回	「住居と空間：現代住宅の原型と実験」	現代住宅の原型であるル・コルビジュエの作品分析からプレファブ住宅やメタボリズムの実験住宅まで、住宅の未来と可能性を探る。
第 11 回	「伝統と空間１：日本建築の発見」	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第 12 回	「伝統と空間２：日本建築のグローバリズムと多様性」	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第 13 回	フィールドワーク：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の実践を実空間を通して体験し理解を深める。
第 14 回	フィールドワーク：文化庁国立近現代建築資料館・旧岩崎邸	明治期の代表的な洋館から日本の近代建築の魅力を体験するとともに、展覧会の建築資料から近現代建築を読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
書名『建築の日本展 その遺伝子のもたらすもの』
制作・発行：森美術館/Echelle-1 （２０１８年初版発行）
価格：３６７２円（本体３，４００円＋税）

【参考書】
必要に応じて授業時に随時配布、紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、レポートの合計。評価基準は平常点 50 %、レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク訪問先の美術館、博物館等の入館料が必要。
入館料の参考（大学生個人利用の場合。団体料金が適用となる館もある。）
森美術館　１２００円
東京国立博物館　４１０円
国立近現代資料館（岩崎邸見学の場合）４００円
江戸東京たてもの園　３２０円

【その他の重要事項】
担当講師は、一級建築士として六本木ヒルズの設計監理、学芸員として森美術館開館より展覧会企画、展示デザインの実務経験を有し、現在は、京都市美術館、富岡製糸場を始め国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。

【Outline and objectives】
“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.
Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.

ART200GA

比較表象文化論

竹内　晶子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】
・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。
従って、単に講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』鑑賞
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』台本分析
4	オリエンタリズム III	映画『サヨナラ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『サヨナラ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『M. バタフライ』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『M. バタフライ』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」分析
9	ジェンダー論 II	バレエ『シンデレラ』鑑賞、分析
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』鑑賞
11	ジェンダー論 IV	アニメ『シンデレラ』分析
12	ジェンダー論 V	実写版映画『エバーアフター』鑑賞
13	ジェンダー論 VI	実写版映画『エバーアフター』分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、定められた期限までに授業支援システムに課題（SQ) へのレスポンスを提出すること。

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
『オリエンタリズム』（上）（下）、サイード、平凡社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（積極的な授業参加）20 パーセント
・課題（ＳＱ）40 パーセント
・定期試験　40 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
板書を多用します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに、普段チェックするメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】
第一回目の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】
The students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

ART200GA

異文化と身体表現

深谷　公宣

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いくつかの舞踊を取り上げ、発生の経緯、発展のプロセス、文化的意義について学ぶ。ただし、身体運動のメカニズムを細かく分析することはしない。宗教、性、習俗、観光化といった身体にまつわる社会的な問題を、舞踊を通して、異文化という視点から論じる授業である。

【到達目標】
・舞踊の歴史的・文化的背景を叙述することができる。
・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえつつ、日本の能、歌舞伎、文楽等の特徴を、日本文化を知らない人に対して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。必要に応じて映像を鑑賞する。受講者は、授業の最後に毎回リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	ポリネシア	ハワイのフラダンス、ニュージーランドのハカの歴史・文化的特徴について
3	南米	アルゼンチンのタンゴ、その他、中南米の舞踊の歴史・文化的特徴について
4	北米・ヨーロッパ（1）	アイリッシュ・ダンスの歴史・文化的特徴について
5	ヨーロッパ（2）	フラメンコの歴史・文化的特徴について
6	ヨーロッパ（3）	ワルツの歴史・文化的特徴について
7	アジア（1）	インド舞踊の歴史・文化的特徴について
8	アジア（2）	京劇の歴史・文化的特徴について
9	アジア（3）	インドネシア、その他、東南アジアの舞踊の歴史・文化的特徴について
10	日本（1）	能と狂言の歴史・文化的特徴について
11	日本（2）	歌舞伎と文楽の歴史・文化的特徴について
12	舞踊映画を観る（1）	舞踊映画のいくつかの場面を観ながら、社会との関連性を読み解く（1）
13	舞踊映画を観る（2）	舞踊映画のいくつかの場面を観ながら、社会との関連性を読み解く（2）
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【参考書】に記載の書籍を読むように努める。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
ジェラルド・ジョナス『世界のダンス―民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
三隅治雄『踊りの宇宙－日本の民族芸能』（吉川弘文館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
生明俊雄『タンゴと日本人』（集英社新書）
山下理恵子『アイルランドでダンスに夢中』（東京書籍）
加藤雅彦『ウィンナ・ワルツ－ハプスブルグ帝国の遺産』（NHK ブックス）
宮尾慈良『舞踊の民族誌－アジア・ダンスノート』（彩流社）
皆川厚一『インドネシア芸能への招待－音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版）
魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
Patricial Leigh Beam, World Dance Cultures: From Ritual to Spectacle. Routledge.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
小課題 30 %：適宜課される小テスト、小レポートを通し、それまでの講義内容の理解度を評価。
期末試験 40 %：異文化と舞踊に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
A survey course that studies a wide range of dance across cultures and time periods. We will explore the process of its development and the cultural values. Instead of analyzing the details of body mechanics, this course will focus on the social dimensions of dance in terms of religion, sex, habits, tourism and try to elicit its intercultural aspects.

ART300GA

パフォーマンスの美学

森村　修

サブタイトル：**〈からだ〉の美学—写される〈からだ〉・加工される〈自己〉、そして Instagram の美学**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**パフォーマンス・スタディーズ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり・選抜試験**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、「美学=感性学（aesthetics）」の立場から、文化的・政治的・社会的な文脈で身体を用いて表現された「パフォーマンス（performance）」の「美しさ」を追求することです。2019 年度では、私たちの〈からだの美しさ〉に着目しながら、〈からだ〉がどのように表現されてきたかを「ボディ・スタディーズ（Body Studies）」の観点からアプローチすることを試みます。その際に、特に「フェミニズムとパフォーマンス」というテーマで、主に女性アーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性／アイデンティティーを問題にしていることを取り上げます。

【到達目標】
（1）アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
（2）自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
（3）高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
（4）アートの領域の内部で生じた、20 世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる
（5）「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。
②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していく。
③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えている（自由参加）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	Body Studies の基礎①	・Body Studies と Performance との関係について概観する
3	Body Studies の基礎②	・被写体としての〈からだ〉について考察する。
4	Body Studies の応用①——フェミニズムとパフォーマンス①	・表現される〈からだ〉をセクシュアリティから考える
5	Body Studies の応用②——フェミニズムとパフォーマンス②	・〈からだ〉を痛めつけることから見えてくるもの
6	Body Studies の現在①	・〈からだ〉に映し出されるアイデンティティーを考える
7	Body Studies の現在②	・〈からだ〉に刻まれた記憶と痛み
8	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ①	・〈自分〉を映し出すこと——セルフ・ポートレイト①
9	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ②	・〈日常〉を切り取ること——スナップ写真の〈顔〉
10	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ③	・〈はだか〉ってキレイだけどヤバイよね？ ——アートか猥褻か
11	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ④	・激痛に耐え傷つく身体・傷みとしての〈癒し〉——ボブ・フラナガン「スーパーマゾヒスト」
12	レフ・マノヴィッチのインスタグラムの美学①	・テクノロジーと身体 ・ニューメディアの美学
13	レフ・マノヴィッチのインスタグラムの美学②	・身体を表象する ・インスタグラムと身体表象
14	まとめ	・これからの Body Studies と Aesthetics of performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
パフォーマンス・スタディーズは、1980 年代に登場した新しい研究です。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらすことで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたいです。また、〈からだ〉に特化した Body Studies は、Performance Studies のひとつの方向性を示しています。

【テキスト（教科書）】
特に、特定のテキストは用いません。

【参考書】
Margo DeMello, *Body Studies: An Introduction*, Routledge, 2014.

【成績評価の方法と基準】
【成績評価】
①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25 %）
②期末リポート（75 %）
【評価基準】
①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
②期末リポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。
（1）自分自身の「評価規準」が明確であること。
（2）自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
（3）自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
（4）自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・情報機器（コンピュータからプロジェクターに投影します）
・DVD、ビデオなどの AV 機器を使用する。

【その他の重要事項】
・本講義がめざしているのは、パフォーマンス・スタディーズや Body studies を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。
・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。
・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性（presentation）」は「表象（representation）」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性（performativity）」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。
・「表象文化概論」（特に、森村担当分）も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」が、いわゆる「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【受講上の注意】
・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。
・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜することも考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is to pursue the "beauty of performance" expressed in the cultural, political and social context from the standpoint of "aesthetics". In 2019, we will try to approach from the viewpoint of "Body Studies" how Body has been expressed while paying attention to the < beauty of the body > .

ART300GA

現代美術論

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテクストを、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義とワークショップが中心となります。講義毎に授業内レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について
第 2 回	現代美術の基礎知識 1	未来派・ダダ、シュルレアリズム
第 3 回	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、
第 4 回	現代美術の基礎知識 3	コンセプチュアル・ミニマルアート
第 5 回	現代美術とパフォーマンス	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
第 6 回	舞台芸術とパフォーマンス	ダンス/コンテンポラリーダンス、舞踏
第 7 回	現代音楽とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
第 8 回	絵画・彫刻・ドローイング	プラークシスな実践としての芸術作品について
第 9 回	メディアとアート	写真・映像・インスタレーション
第 10 回	関係性の美術	パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ
第 11 回	ソーシャル・エンゲージドアート	ソーシャル・プラクティス
第 12 回	現代美術と言葉	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
第 13 回	現代美術とコミュニケーション	ポップアート、インターネット、SNS
第 14 回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容に関連した資料を配布します。
授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで　世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
授業内レポート（25%）
試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】
芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますのでやりがいがあると思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】
This course is about contemporary art theory and practice.
Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.
The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

LIT300GA

世界の中の日本文学

岩川　ありさ

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで、世界文学の「正典（カノン）」は、日本文学、イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学、ドイツ文学というように、国別、言語別で編纂されることが多かった。しかし、一つの国、一つの言語に限定される文学の捉え方から、世界の中で文学を幅広く捉える「世界文学」という概念も広まっている。「母語」の外に出て創作する作家たちが多く生まれている現在において、世界文学の視点は文学研究に欠かせない。この授業では、「世界の中の日本文学／日本文学の中の世界」をテーマにして、世界文学の基礎的な知識や近現代日本文学の歴史を学びながら、現代社会の重要なトピックと文学を繋げるための視座を身につける。

【到達目標】
１、世界文学についての基礎的な知識や理論を身につけ、具体的な日本文学のテクストを分析できるようになる。
２、日本文学を通して世界を見つめ、歴史や社会と文学との関係性について自分の考えをまとめられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。毎回ではありませんが、小グループに分かれての意見交換やプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界文学とは何か？	デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』(秋草俊一郎、奥彩子ほか訳、国書刊行会、2011 年) を中心にして、理論的な側面について学びます。また、エクソフォニーという概念について学び、多和田葉子、リービ英雄らの作家を紹介します。
第 2 回	エクソフォニー、オムニフォン―「母語」とは何か？	楊逸、シリン・ネザマフィ、温又柔らの作品をとりあげます。
第 3 回	祈りとしての文学：小野正嗣と岡真理	排外主義の時代と文学的な想像力について考えます。→ 小レポート（1）
第 4 回	ヒロシマの文学	大江健三郎、マルグリット・デュラス、柴崎友香らのテクストをとりあげて、原爆投下とヒロシマをめぐる文学について考えます。
第 5 回	ナガサキの文学	井上光晴、林京子、美輪明宏らの文章をとりあげ、記憶と時間をめぐる問題を中心にして考えます。→ 小レポート（2）
第 6 回	ホロコーストと日本文学	小川洋子『密やかな結晶』(1994)、赤染晶子『乙女の密告』(2010) などホロコーストについて描いた日本文学をとりあげます。
第 7 回	トラウマという視座	ジョナサン・サフラン・フォア『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』（2005=2011）をとりあげ、文学におけるトラウマ概念や理論的な側面について学びます。
第 8 回	リービ英雄「千々にくだけて」(2005=2008)	「古典」の現在性について学びます。→ 小レポート（3）
第 9 回	「日本近代文学」とは何か？	言文一致など日本近代文学の基礎的な知識について学びます。夏目漱石「坊つちゃん」(1906) を中心にアダプテーションについて学びます。
第 10 回	「日本近代文学」の現在性	夏目金之助『文学論』(1907) について学び、「原子力の百年」という広い射程で「日本近代文学」を現在の世界的な状況に開きます。→ 小レポート (4)
第 11 回	3 つのノーベル文学賞スピーチから考える「日本文学」	川端康成 (1968)、大江健三郎 (1994)、カズオ・イシグロ（2017）のノーベル文学賞受賞記念スピーチを中心としながら、「日本文学」がどのようなものとして想像されているのかについて考えます。
第 12 回	沢知恵と塔和子	詩人・塔和子の詩に曲をつけた沢知恵の活動を紹介します。→ 小レポート（5）
第 13 回	「病」をめぐる語りと表象	アーサー・W・フランク、スーザン・ソンタグなどの議論を中心に、「病」をめぐる表象や語りの問題について考えます。また、正岡子規「病床六尺」(1927)、岩崎航「点滴ポール　生き抜くという旗印」（2013）、山内令南「癌だましい」（2011）などのテクストを読みます。
第 14 回	まとめ	世界の中の日本文学／日本文学の中の世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムから全 5 回の小レポート（600 文字以上）の提出が必要です。よく調べ、十分な分量で書いてください。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントや資料を配布します。

【参考書】
授業において紹介します。世界文学やエクソフォニーについては以下の本を参照してください。
デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』秋草俊一郎、奥彩子ほか訳、国書刊行会、2011 年
フランコ・モレッティ『遠読―〈世界文学システム〉への挑戦』秋草俊一郎ほか訳、みすず書房、2016 年
ダニエル・ヘラー＝ローゼン『エコラリアス―言語の忘却について』関口涼子訳、みすず書房、2018
リービ英雄『日本語を書く部屋』岩波現代文庫、2011 年
多和田葉子 『エクソフォニー』 岩波現代文庫 2012 年
水村美苗 『日本語が亡びるとき』 ちくま文庫 2015 年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート 70 %、小レポート 30 %（全 5 回 ×6 点＝ 30 点）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
機材などの関係で十分に映像を見ることができなかった。
グループ・ワークなどを増やしてほしいとの意見があったので、アクティブな学びを増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末があると便利かもしれません。

【Outline and objectives】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about World literature. We will mainly focus on the theories of David Damrosch. We will examine the relationships of literature and social and historical problems. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of World literature. Coursework will include writing comments on various topics 5 times during the semester.

LANj300GA

世界の中の日本語

リービ　英雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回授業を出席した受講希望者より 200 名を抽選**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学のいくつかの作品（主に近代・現代）に出てくる文章を英語に翻訳しながら「世界の中の日本語」と「日本語の中の世界」を考える。実際の日本語のテキストを学生たちが翻訳する。
その実習を通して、表現のことばとしての日本語の姿を浮きぼりにして、二十一世紀にふさわしい日本文学論を展開する。

【到達目標】
実際の翻訳を通して、言葉のレベルで「日本と世界」を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回、テキストを翻訳し、講じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英訳を通して日本語について考える
第 2 回	ノーベル文学賞と「日本」上	大江健三郎と「あいまいな日本の私」
第 3 回	ノーベル文学賞と「日本」下	川端康成と「美しい日本の私」
第 4 回	戦後文学の英訳	キーンとサイデンステッカー等
第 5 回	安部公房の文学と英訳	「砂の女」について
第 6 回	英訳で見た三島由紀夫	「金閣寺」と日本語の美意識
第 7 回	宮沢賢治等	「雨ニモマケズ」と not defeated
第 8 回	夏目漱石と英訳	「我輩は猫である」は英語で言えるのか
第 9 回	現代詩と英訳	谷川俊太郎の詩
第 10 回	「在日」と日本語	日本のマイノリティ文学
第 11 回	越境時代の文学	ポストコロニアルと日本語
第 12 回	バイリンガルと日本文学	日本人バイリンガル作家、多和田葉子
第 13 回	日本語で「世界」を書く	リービ英雄「千々にくだけて」
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近代日本文学を自分で読む。

【テキスト（教科書）】
毎回、教員が提供する。

【参考書】
毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
大変人気のある授業だと分りました。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to introduce the possibilities of Japanese as a language of literary expression through translations of short selections of Japanese literature into English. Following an introductory lecture by the professor, the students will translate a passage, followed by the professor's comments and conclusions, given in Japanese. The course will deal with passages from modern and contemporary literature.

LIT300GA

日英翻訳論

リービ　英雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回授業を出席した受講希望者より 200 名を抽選**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学の名作を英訳することによって、英作文をみがき、同時に翻訳という鏡に映った日本語の特徴を考える。英語と日本語の究極的な比較。

【到達目標】
日本語と英語の本質を実際の翻訳を通じて考える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回、教授のレクチュアと、学生全員による英訳。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義
第 2 回	俳句の翻訳　「古池や」	発表　イメージを表す日本語
第 3 回	俳句の翻訳　「荒海や」	発表　イメージと英語のイメージズム
第 4 回	俳句の翻訳　「夏草や」	発表　短詩形の「戦争文学」
第 5 回	俳句の翻訳　「おくの細道」Ⅰ	発表　移動と表現
第 6 回	俳句の翻訳　「おくの細道」Ⅱ	発表　多義性と翻訳
第 7 回	俳句の翻訳　その他	発表　翻訳の技法
第 8 回	和歌の翻訳　万葉集	発表　「万葉集の世界」入門
第 9 回	和歌の翻訳　奈良の京	発表　文法と翻訳
第 10 回	和歌の翻訳　天の香具山	発表　枕詞の英訳
第 11 回	和歌の翻訳　富士山のイメージ	発表　イメージの極み、その英訳
第 12 回	和歌の翻訳　万葉仮名等	発表　文字の交流
第 13 回	和歌の翻訳　山上憶良等	発表　古代文学の国際性
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「おくの細道」「万葉集」などを読むこと。

【テキスト（教科書）】
毎回、教員が提供する。

【参考書】
毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
大変人気がある授業だと分りました。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to introduce the possibilities of Japanese as a language of literary expression through translations of short selections of Japanese literature into English. Following an introductory lecture by the professor, the students will translate a passage, followed by the professor's comments and conclusions, given in Japanese. The course will center on haiku and tanka.

ARSe200GA

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

曽　士才

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすること目指している。

【到達目標】
中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の５つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業の進め方は講義を主体とするが、必要に応じて映像資料による再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第 2 回	都市と農村（1）	北と南の違い、水問題、南水北調
第 3 回	都市と農村（2）	リテラシーの現状、学校教育、就職難
第 4 回	都市と農村（3）	拡大する中産階級、人権意識
第 5 回	人の移動（1）	経済特区、郷鎮企業、留守児童
第 6 回	人の移動（2）	都市の出稼ぎ者、農民工政策の変遷、ポイント制度
第 7 回	家族と婚姻（1）	伝統的家族制度、都市の家族
第 8 回	家族と婚姻（2）	一人っ子政策、新人類の若者たち「80 後」「90 後」
第 9 回	家族と婚姻（3）	高齢化社会、老人扶養
第 10 回	信仰と習俗（1）	宗教事情、国家と宗教
第 11 回	信仰と習俗（2）	風水思想と実践
第 12 回	日本と中国（1）	日中協力
第 13 回	日本と中国（2）	強制連行、戦争の記憶
第 14 回	日本と中国（3）	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前または事後に指示された参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための 40 章【第 4 版】』明石書店 2012 年
藤野彰、曽根康雄『現代中国を知るための 44 章第 5 版　（エリア・スタディーズ）』明石書店 2016 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
私語により周りの学生が迷惑を蒙らないよう、円滑な授業運営に努めたい。使用する映像資料は必要に応じて更新した。

【Outline and objectives】
This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan. At the end of the course, participants are expected to understand real China without any prejudice.

HIS200GA

中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）

鈴木　靖

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】
中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とどのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義と討論によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第 2 回	倭人の肖像	六世紀初めの倭人が描かれた絵巻物、南朝梁蕭繹「職貢図」を通じて、中国の人々の古代日本のイメージについて考える。 【キーワード】 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第 3 回	朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二百七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第 4 回	遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第 5 回	民間交流の時代	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第 6 回	元寇	ユーラシア大陸を席巻したモンゴルは、やがてその矛先を中国と日本に向ける。 【キーワード】 ・征服王朝
第 7 回	倭寇	モンゴルの衰退後、倭寇と呼ばれる武装集団が、朝鮮半島や中国沿岸部を襲う。近年、発見された二枚の絵巻物を通じて、中国の対日イメージを大きく悪化させた倭寇について考える。 【キーワード】 ・「倭寇図巻」（東大史料編纂所所蔵） ・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）
第 8 回	鄭成功	中国人の父と日本人の母を持ち、幼少時代を日本で過ごした鄭成功は、異民族王朝清によって明が滅ぼされた後も、台湾に拠点を移して抵抗を続けた。いまも民族の英雄と称えられている鄭成功が対日イメージに与えた影響について考える。
第 9 回	藤野先生	中国の文豪・魯迅をして「私が師と仰ぐ人の中でもっとも私を感動させ、激励してくれた人」と言わしめた藤野厳九郎。魯迅が書いた自伝的エッセー「藤野先生」は、現在も中国の対日イメージに大きな影響を与え続けている。 【キーワード】 ・藤野厳九郎 ・魯迅
第 10 回	霧社事件	1930 年、日本植民地下の台湾で、山地先住民による大規模な反乱事件が起こる。近年、台湾のドラマや映画などに取り上げられ、再び注目されようになったこの事件を通じて、台湾の対日イメージについて考える。 【キーワード】 ・ドラマ「風中緋桜」 ・映画「セデック・バレ」
第 11 回	日中戦争	戦後、60 年以上経ったいまも日中関係に影を落とす日中戦争。日本人戦犯たちの証言を通じて、中国がもつ負の対日イメージの淵源について考える。 【キーワード】 ・「認罪」教育
第 12 回	留用された日本人たち	終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまも中国で高く評価される日本人の事績について考える。 【キーワード】 ・「留用」された日本人
第 13 回	日中国交正常化	1972 年の田中角栄首相の訪中によって、日中国交正常化が実現する。緊迫した交渉の中で、田中らはどのようにして国交正常化を実現したのか。いまも中国で高く評価される田中らの交渉について考える。 【キーワード】 ・田中角栄 ・周恩来
第 14 回	今日の日中関係	歴史問題や領土問題など、日中間にはいまも多くの課題が残されている。閣僚による靖国神社参拝問題と尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題を取り上げ、その淵源と解決方法について考える。 【キーワード】 ・靖国神社参拝問題 ・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の前に fixi を通じて PDF 資料を配布する。授業中、これをもとに意見交換を行うので、事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業の前に fixi を通じて PDF 資料を配布する。fixi へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【参考書】
①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000 年）
②王暁秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000 年）
③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996 年）
④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』(中公新書、2011 年)
⑤孫崎享『日本の国境問題』（ちくま新書、2012 年）

【成績評価の方法と基準】
成績は以下の２つの基準をもとに評価する。
①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80 %）
②期末レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度はスライドのみを配布したが、今年度は資料のプリントも配布するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
fixi を通じて資料の配布を行う。fixi へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline and objectives】
How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?
What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Unnderstanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

LANc300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺　昭太

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
(2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現１	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現２	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現３	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語１	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語２	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語３	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把” 構文と “被” 構文	「“把” 構文（処置文）」、「“被” 構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文１	「存現文」、「“是…的” 構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文２	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめの一歩〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 1995 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』東京：東方書店
・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本)』北京：商務印書館
・朱德熙 (著)，杉村博文・木村英樹 (訳) 1995『文法講義―朱德熙教授の中国語文法要説―』，東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】
期末レポートを 50%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を 50%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】
In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村　英登

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】
＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯
＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点
＊中国古典の背景となる当時の社会環境
以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。

【テキスト（教科書）】
『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。
『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。
『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）： 40 %
期末試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline and objectives】
This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

張　文菁

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀初頭に中国では、いわゆる近代文学が誕生する。これらはいかにそれ以前の文学と異なり、そして何を目指したものだったのだろうか。近代文学として生まれた新文学がいかにその当時の社会と文化の大任を担わされたか。中国の近代の歩みを文学の視点から考えることが本授業の核心である。授業は、近代中国文学の誕生から中華人民共和国建国前後までを範囲とする。

【到達目標】
中国の近代文学を素材として中国の文化と社会について考察する。中国の近代文学について基礎的な知識を得るとともに、その歴史的な背景について認識を深める。各学生の文学観、文学史観の形成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の課題ごとに沿った作品をあらかじめ配布します。履修者は必ず作品を熟読したうえで授業に出席してください。議論するために下記の３点に注意しながら作品を読んでください。
・歴史（／社会背景）
・作者の意図
・各自の切り口（／論評）
以上の 3 点について、授業でコメントを求められることがあります。
授業後は、授業での議論と合わせて、リアクションペーパーに記入し提出することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/近代（文学）とは何か？	授業のねらい、進め方についての説明/梁啓超にとっての国民国家と文学
2	近代文学の胎動１	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の胎動２	鴛鴦蝴蝶派と翻訳文学
4	近代文学の誕生	魯迅
5	新世代の作家たち１	文学研究会
6	新世代の作家たち２	創造社
7	近代中国のモダニズム１	新月社
8	近代中国のモダニズム２	都会の新感覚派
9	革命文学	左翼作家聯盟
10	１９３０年代の長篇小説	老舎と沈従文
11	解放区の文学	趙樹理、丁玲と延安講話
12	淪陥区の文学１	東北の作家たち
13	淪陥区の文学２	張愛玲
14	国統区の文学	無名氏など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】
随時配布

【参考書】
『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】
レポート 40%
平常点 40%
授業態度　20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.

LIT300GA

中国の文化Ⅷ（現代文学）

張　文菁

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建国後の中国から現在までの文学を取り上げる。範囲は、中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾などの文学を含む。

【到達目標】
中国の現代文学を素材として中国の文化と社会について考察する。中国の現代文学について基礎的な知識を得るとともに、その歴史的な背景について認識を深める。各学生の文学観、文学史観の形成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の課題ごとに沿った作品をあらかじめ配布します。履修者は必ず作品を熟読したうえで授業に出席してください。議論するために下記の 3 点に注意しながら作品を読んでください。
・歴史 (/社会背景)
・作者の意図
・各自の切り口 (/論評)
以上の 3 点について、授業でコメントを求められることがあります。 授業後は、授業での議論と合わせて、リアクションペーパーに記入 し提出することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中華人民共和国建国後の中国文学	胡風批判と百花時代
2	文化大革命	白毛女の表象
3	１９７０年代の傷痕文学	王蒙『蝴蝶』など
4	新時期文学	１９８０年以降の展開
5	先鋒文学	残雪と高行健
6	通俗文学	韓寒と郭敬明
7	香港の文学１	南来文人とその後の発展
8	香港の文学２	武侠小説と金庸
9	台湾の文学１：戦前の日本文学	楊逵と呂赫若、龍瑛宗
10	台湾の文学２：二・二八事件前後の文学	呉濁流と葉石涛
11	台湾の文学３：１９５０年代の政治と文学	反共と懐郷文学の流れ
12	台湾の文学４：現代主義	雑誌『現代文学」と白先勇
13	台湾の文学５：郷土写実主義	王禎和と黄春明
14	台湾の文学：多元化する台湾文学	女性とクィア、原住民

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】
随時配布

【参考書】
『原典で読む:図説中国 20 世紀文学』(中国文芸研究会) ほか、授 業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】
レポート 40%
平常点 40%
授業態度　20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course introduces contemporary Chinese literatures. The range covers PRC, Hong Kong, and Taiwan.

LIT300GA

中国の文化Ⅸ（中国俗文学）

鈴木　靖

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＳＡを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。
この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。
巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。
いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】
中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第 2 回	殷代	文字の誕生
第 3 回	周代	采詩の官と詩経
第 4 回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第 5 回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第 6 回	漢代	紙の誕生
第 7 回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第 8 回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第 9 回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第 10 回	北宋時代	三国志の誕生
第 11 回	南宋時代	水滸伝の誕生
第 12 回	元代	演劇の隆盛
第 13 回	明代	出版文化の隆盛
第 14 回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習の資料を授業用の専用 web サイト fixi を通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、準備学習の資料と授業で使用するスライドを PDF ファイルとして fixi にアップしていく。

【参考書】
各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のような基準で行う。
①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80 %）
②期末レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は代講をお願いしたため、特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントを使用し、映画やドキュメンタリービデオなどの映像資料を多用する。

【Outline and objectives】
Understanding how the Chinese culture influenced the development of the Japanese culture.
How Kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries.
How Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries.
How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries.
When paper and printing were invented and how they changed the world.
How Chinese Popular literature was born and influenced the Japanese literature?

HIS300GA

中国の文化X（歴史）

張　玉萍

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】
現在、日中関係は改善に向かいつつあるが、両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中関係史を避けて通ることはできない。19 世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたる日中関係が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業で知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼の醸成にいたる可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義の形で進めていく。各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地域文化へのアプローチ
	中国とは何か（1）	地理——東低西高、南船北馬
第 2 回	中国とは何か（2）	民族—— 56 民族の由来と特徴、分布
第 3 回	中国とは何か（3）	言語——普通話と方言
第 4 回	儒教（1）	中国人の価値観の中核
第 5 回	儒教（2）	儒教の興隆、衰退、復活
第 6 回	満族（1）	“入主中原”
第 7 回	満族（2）	“満” と “漢”
第 8 回	旗袍（1）	下位文化から上位文化への上昇
第 9 回	旗袍（2）	上位文化から下位文化への転落および復活
第 10 回	清末留日学生（1）	史上初の留日ブーム ーー師弟関係の逆転
第 11 回	清末留日学生（2）	革命の揺りかご——東京と中華民国の成立
第 12 回	日中間における人的交流（1）	政治家としての戴季陶と日本
第 13 回	日中間における人的交流（2）	戴季陶の日本観およびその意義
第 14 回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011 年。
その他は授業中にそのつど紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものについて、自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。
期末テスト（70 点）、平常点（授業態度やテーマごとに課された感想文の完成度など、20 点）、授業中の討議への参画度（10 点）により総合的に評価する。
・授業開始後 20 分以内の到着は遅刻とし、それ以降は欠席とする。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席とする。
・欠席数が全授業数の 1/3 を超えた場合試験を受ける資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies and clothes, we will enter the world of modern China. It is the purpose of this lesson to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar. Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷　丹路

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は日本にとって，地理的，歴史的にもっとも密接な関係をもつ地域のひとつです．したがって、この授業では，朝鮮半島全般に関し，中国とも日本とも異なる文化や歴史の独自性など、常識ともいうべき基礎知識をひととおり身につけることを目的とします．

【到達目標】
朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって，日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します．さらに興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し，その上で各項目についてみていきます．朝鮮半島と日本とのあいだの文化的影響や共通点に着目するとともに，あることがらについて，日本と朝鮮半島とのとらえかたの相違点などにも注目して学びます。視覚資料をあわせてみながら、理解を深めます．なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つです．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1970、80、90 年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを作成して配布します．

【参考書】
参考文献はその都度指示します．
『新訂増補　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014 年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014 年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史　前近代編下』（青木書店）2006 年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業時に課すミニレポート含む）50 %、学期末試験 50 %による総合評価．言うまでもないことですが、やむをえない理由をのぞき、全回出席が原則です．

【学生の意見等からの気づき】
現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】
毎回プリントを配布するので、学期中の配布物をきちんとまとめてファイリングをすること．

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください（韓国人に「こんなことも知らないの？」と驚かれないように）．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある場合があります．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

LANk300GA

朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山　政春

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語を音声，文字，語彙，文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって，朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています．
具体的には大学入試センター試験「韓国語」を解く一方で，必要に応じてプリントを配布しながら，上の内容について解説を進めていきます．それ以外に，日頃接する機会の少ない，北朝鮮の言語と，さらに方言と古語の「さわり」をやりたいと思っています．

【到達目標】
この授業は，実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が，その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで，ブロークンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
みなさんには，少なくとも朝鮮語を２年（週２コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます．他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが，ついていくにはかなりの努力を要します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	資料配布とやり方の説明
2	つづりと発音	資料に基づいて問題を解く
3	漢字音	同上
4	用言の活用	同上
5	用言の語尾，助詞	同上
6	各種表現の和文朝訳１（日本語との表現の違いなど）	同上
7	各種表現の和文朝訳２（置き換え可能な表現など）	同上
8	各種表現の和文朝訳３（慣用句など）	同上
9	会話文１（短文；語彙問題）	同上
10	会話文２（短文；文法問題）	同上
11	会話文３（長文）	同上
12	北朝鮮の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについて解説する．
13	方言	主に韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについて解説する．
14	古語	訓民正音を見ながら現代語との違いについて解説する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「この授業のため」というのではなく，授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です．

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します．

【参考書】
授業中に必要に応じて説明します．

【成績評価の方法と基準】
平常点（80%）とレポート（20%）によります．あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります．

【学生の意見等からの気づき】
この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのは上に書いたとおりですが，にもかかわらず，シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います．そういう非常識なことはやめてほしいと思います．

【学生が準備すべき機器他】
ＳＡ後，朝鮮語に直接関連する授業は，この授業のほかに「朝鮮語アプリケーション」が通年１コマあるだけ，というのが残念ながら現状です．ＳＡ韓国の学生はこの授業を「アプリ」と合わせて履修することが望まれます．

【その他の重要事項】
履修者の状況によっては，授業を朝鮮語で行ないます．またおそらく少人数の授業になると思いますので，受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.

ARSh300GA

アフロ・アジアの文化

江村　裕文

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本人にとって意識の上で一番遠いと考えられるのが「アフロ・アジア」地域、つまり北アフリカから中近東にまたがる地域のことである。
本講では、「地理的」あるいは「歴史的」にこの地域にアプローチを試みるのではなく、主にユダヤ教・キリスト教・イスラームという精神的（宗教的）な面からのアプローチを試みる。これらの宗教を、可能な限り現在の我々日本人との関係に重点を置いて紹介したい。

【到達目標】
２０１１年の「アラブの春」以降、ガザ地区におけるハマスとイスラエルの戦闘、また先が見えないシリアのアサド支持派と反政府派との戦闘、さらにそのシリアおよびイラクのシーア派政権に対抗して勢力を拡大する「ＩＳ（イスラム国）」、シーア派のイランとスンナ派のサウジの対立など、この地域で起こったまた起こりつつある事態に対して、正確な知識を得て、この地域に関するメディア・リテラシーを高めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
以下の「授業計画」で提示した各テーマについて、それぞれ原理的・理論的な解説、具体的な事例紹介、ＤＶＤ視聴などを通して、多角的にこの地域について紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アフロアジアとは何か」	オリエント・中東（中近東）・中東北アフリカ・アラブ・イスラーム地域の自然と国家
2	「宗教」について	「宗教」とは何か
3	「聖書」について	「聖書」の成り立ちと歴史、その内容
4	「ユダヤ教」について　i	「ユダヤ教」の成り立ち、歴史的背景
5	「ユダヤ教」について　ii	映画《十戒》鑑賞
6	「ユダヤ教」について　iii	「ユダヤ教」の特徴、経典と教義
7	「キリスト教」について　i	「キリスト教」の成り立ち、歴史的背景
8	「キリスト教」について　ii	映画《受難》鑑賞
9	「キリスト教」について　iii	「キリスト教」の特徴、経典と教義
10	「イスラーム」について　i	「イスラーム」の成り立ち、歴史的背景
11	「イスラーム」について　ii	映画《メッセージ》鑑賞
12	「イスラーム」について　iii	「イスラーム」の特徴、経典と教義
13	「パレスチナ問題」　i	「パレスチナ問題」の歴史的背景
14	「パレスチナ問題」　ii	記録《エルサレム物語》鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「アラブの春」民主化運動や、ガザ地区を中心に起こったハマスとイスラエルの対立、ロシアのシリア介入、「イスラム国」等、流動的なこの地域に関するメディア等の報道に気を配り、関心を高める努力をしていくこと。授業では解説を試み、複雑に絡まっている現状の糸を解きほぐしていく。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしない。参考文献のリストを紹介するので、各自の興味にしたがって、読書を進めてほしい。

【参考書】
配布する参考文献リストを参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０点、試験６０点、合計１００点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
以下は受講した学生が書いてくれた感想の一部である。
以前から日本人は宗教に無縁だと考えていたが、実際はそうではないことを実感した。
イスラーム、アラブ、難民問題などは遠い世界のことだと思っていたが、ＳＡを通してテロを身近に感じるとともに、この世界の問題が日本の経済や社会に直接影響があるのだということがわかった。

【その他の重要事項】
授業予定はあくまでも予定である。「アフロアジア」地域で新たな展開があれば、臨機応変にそのつど取り上げたいと考えている。

【Outline and objectives】
The area thought to be the farest for japanese is "Afro-asiatic" area, namely midle east and north africa.
In this class, we try to approach to this area by religious way, Judaism, Christianity, and Islam.
To know the religions in this area is important to understand the civilization of the modern world and the future.

ARSb300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアと東欧は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中欧、もしくは中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的要因といった多面的な観点から考察される必要があるでしょう。
この講義では、ロシアと東欧諸国、それぞれの民族的差異や特殊性を主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時に、ナショナリズムの問題を提起していきます。また、日本との交流のあり方も視野に含めつつ、話を進めていきます。テーマが大きいだけに、まとまった結論を提示することはしません。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。
SA ロシアに向かう予定の２年生は事前準備の一環として、必ず履修してください。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
当講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の史実や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して、東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会体制の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしたいものです。授業の最後には毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートをみなさんに提出してもらい、次回の授業に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面について。
第 2 回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ピクニック事件の映像を鑑賞。
第 3 回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。
第 4 回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ジプシー楽団からリスト、バルトーク、コダーイの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。ハンガリー構成主義からグロテスク・デザインまでアーティストを紹介。
第 5 回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第 6 回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録を映像を通して概説。
第 7 回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイダ作品を鑑賞しながら検討。
第 8 回	ポーランド：映画と文学をめぐって	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンキェヴィチ、シュルツ、ミウォシュ、シンボルスカ、レムら作家や詩人を紹介。
第 9 回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件を紹介。
第 10 回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいを映像を通して概説。
第 11 回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて、映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第 12 回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品、現代社会の個人の内的精神の問題を描くパヴラートヴァーのセルアニメを鑑賞し、チェコのアニメーション文化の多様性とイデオロギー的機能について考える。
第 13 回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第 14 回	まとめ	これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品の DVD は大学の AV ライブラリーにある場合も多く、文学作品は図書館で借りることができます。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を配付します。

【参考書】
特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教員より教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

【学生の意見等からの気づき】
大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、何よりも皆さんの協力に期待します。

【Outline and objectives】
In this course, we will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process we will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.

ARSa300GA

ドイツ語圏の文化Ⅱ

林　志津江

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏のうち、ドイツとその首都であるベルリンを主に取り上げます。19 世紀後半から 20 世紀前半のベルリンとその周辺都市の文化現象や文学・芸術作品を例に、都市化を形成するさまざまな側面に着目しながら概観します。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなしとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。高校で学んだ世界史からもう一歩先の世界を、文化現象を通して探究します。

【到達目標】
1）日本の近代化に決定的な影響を及ぼした 19 世紀～ 20 世紀前半のベルリンとドイツ語圏（ドイツ帝国、ハプスブルク帝国）、及びヨーロッパ諸国と日本との関連を理解するとともに、文学や造形芸術などを批判的に読解・検討することができる
2）自分の考えを他人に伝えるため、適切に言語で表現できる
3）見知らぬ国・地域を見つめる作業が、自分自身と自身の背負う文化の反省に繋がっている現実を、知的に理解し受け止めることができる
4）近代ヨーロッパに関する知識と理解が、文明社会を問い直す方法、ひいては異文化間コミュニケーションの可能性の考察に繋がっていることを理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
時系列に沿って進みます。授業の各回では、最初に資料を用いてそれぞれのテーマを確認します。文学作品を扱う回は、該当箇所を輪読形式で読みます。映画や造形芸術を扱う回は、スクリーン上で作品を観てもらいます。そのあとは皆さんが気づいた点や疑問点を指摘し、意見を述べる時間です。授業終了後には小レポートを書き、自分の考えを言語化してまとめ提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・前史	この授業について、「ドイツ語圏」ってどこ？ 何で「ドイツ」って言うの？
2	3 月革命と普仏戦争：都市労働者とドイツ帝国の誕生	私ってドイツ人だったの？（グリム兄弟『子どもと家庭のためのメルヒェン』、メンツェル『鉄圧延伸工場』など）
3	ビスマルクの時代（1）：フランスと「ドイツ」の境界線	「ドイツ」と「フランス」どっちか選ぶしかないの？（ドーデー『最後の授業』その１）
4	ビスマルクの時代（2）：私を分類したい欲望	「母語」と「母国語」って違うの？（ドーデー『最後の授業』その２）
5	ビスマルクの時代からヴィルヘルム帝政期へ：労働者のリアル	「貧乏」だから当たり前？（（森鴎外『舞姫』『独逸日記』『衛生學大意』））
6	ヴィルヘルム帝政期のベルリン（1）：都市化の途上で	「清潔な水」って一体何？（（森鴎外『独逸日記』、フォンターネ『迷誤あれば』）
7	ヴィルヘルム帝政期のベルリン（2）：階級意識と学校教育	スポーツと勝利は何のためにあるの？（映画『コッホ先生と僕らの革命』）
8	大都市を描く：表現主義と第一次世界大戦の勃発	自然より大都市の喧騒が魅力的？（キルヒナー『ポツダム広場』ほか）
9	ヴァイマール共和国の誕生：「アメリカ」を受け入れる	集団の中でしか生きられない？（ジークフェルト・フォーリーズ、ディックス『大都市』、シャート『ソーニャ』など）
10	ヴァイマール共和国の華やかさ：黄金の 20 年代	「男」も「女」もめんどくさい？（I・コイン『人工シルクの女の子』その１）
11	ヴァイマール共和国の光と影：政治の限界と個人の運命	法律と「女の子」の真実？（I・コイン『人工シルクの女の子』その２）
12	ナチスの文化政策（1）：芸術の画一化は社会の画一化	私が本当に見たいのはどっち？（「大ドイツ芸術展」「退廃芸術展」）
13	ナチスの文化政策（2）：映画とオリンピックのカタルシス	「オリンピック」って何だかワクワクするよね！？（リーフェンシュタール『意志の勝利』）
14	ナチスの文化政策（3）：芸術家の良心	「私は音楽をやりたいだけなので」？（E.=S.・ランチ『帝国オーケストラ』）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業ごと、自分の考えのまとめ（小レポート）を作成・提出します。
前回の資料を見直し、次回のテーマに関する資料（配布物）にも目を通してくること。

【テキスト（教科書）】
こちらから資料を用意・配布します。

【参考書】
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017 年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001 年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（議論、提出物、小レポート）60 %
最終レポート課題 40 %
以上の合計で総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具を必ず用意してください
（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】
取り扱う文学・芸術作品は変更される場合があります。
ドイツ語の知識は必須ではありません。

【Outline and objectives】
This course introduces cultural phenomena of german-speaking world, especially Germany and its capital Berlin in 19. and 20. century (from the German Empire/the unification of Germany in 1871 to the era of Nazi Germany). The course deals with some cultural scene exclusively fine art, literature and popular/sub culture. These analysis focus on conclusively urbanization as well as people's sense of values and attitudes that are urged to change drastically at that times.

PHL200GA

フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス史において「偉大な世紀」とされる 17 世紀の思想や文明を学ぶ。この世紀がどのような面で「偉大」とされてきたのかについて考察を深めることは、フランス人の文化面における自己イメージを理解する上で有効である。

【到達目標】
1．各回のテクストの講読をつうじて、「偉大な世紀」の諸作品に関する概要をつかむ。
2．各回のテクストに登場する人物や作品から主題を選び、その思想に関する理解を深める。
3．モラリストに代表される鋭い心理分析を学び、みずからの感情との距離の取り方を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
受講者数にもよるが、基本的には演習に近い形式を想定している。語学の授業ではないため、フランス語の能力は求めない。期末のテストやレポートはない。授業中の活動への参加を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方の説明 ※「内容 / Contents」欄に書いてあるのは次の回で使うテクストです。	第 2 回で使うテクスト 石井洋二郎『フランス的思考』4-5 頁 アンドレ・シーグフリート『西欧の精神』福永英二訳、第３章「フランス人の知性」46-75 頁。 バラエティアートワークス『デカルト方法序説―まんがで読破―』第 4 章「形而上学の基礎」84-135 頁。
第 2 回	「フランスの」思想？	第 3 回で使うテクスト ボワロー『詩法』解説（守屋駿二）20-40 頁。 ヴィクトール・リュシアン・タピエ『バロック芸術』高階秀爾・坂本満訳、第二章「フランスのバロックと古典主義」88-105 頁。 アラン・バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』鳥取絹子訳、第 7 章「ル・ノートルと我われ庭師」115-146 頁。
第 3 回	古典主義あるいはフランス式バロック	第 4 回で使うテクスト エルンスト・カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』朝倉剛・羽賀賢二訳、第 2 章「悲劇概説」41-45 頁。 高階秀爾『フランス絵画史』第 2 章「17 世紀フランスの絵画」第 3 節「古典主義の成立」85-102 頁。 コルネイユ『コルネイユ名作集』ル・シッド論争「論争概観」（皆吉郷平・橋本能）488-490 頁。
第 4 回	「1636 年の英雄たち」	第 5 回で使うテクスト セヴィニエ夫人『セヴィニエ夫人手紙抄』井上究一郎訳、23-29、138-150 頁。 エリアス『宮廷社会』波田節夫・中埜芳之・吉田正勝訳、106-115、129-139 頁。 モリエール『町人貴族』鈴木力衛訳、33-35、105、155-157 頁。
第 5 回	習俗の純化	第 6 回で使うテクスト ボシュエ「アンリエット・ダングルテール追悼演説」 フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニタス」（アラン・タピエ&ニコラ・サント・ファール・ガルノ編『フィリップ・ド・シャンペーニュ 政治と敬神の間』148-151 頁） 高階秀爾『フランス絵画史』第 2 章「17 世紀フランスの絵画」第 2 節「フランス精神の勝利」59-66 頁。 パスカル『プロヴァンシアル（田舎人への手紙）』「第１の手紙」と「解説」、中村雄二郎訳、373-378、428-429 頁。
第 6 回	ヴァニタスと神の恩寵	第 7 回で使うテクスト フェヌロン『テレマックの冒険』下、朝倉剛訳、巻 10-11。 ガクソット『フランス人の歴史』第 2 巻、第 19 章「リシュリウとヴェストファーレン条約」451-469 頁。 林田信一『ルイ 14 世とリシュリュー』26-39、46-55 頁。
第 7 回	絶対王政と王国の基本法（リシュリュー、マザラン）	第 8 回で使うテクスト ラ・フォンテーヌ『寓話』今野一雄訳「都会のネズミと田舎のネズミ」「王さまを欲しがるカエルたち」「ハゲタカと鳩」27-29、55-57、133-135 頁。 ペロー『ペロー童話集』新倉朗子訳、「眠れる森の美女」「赤ずきんちゃん」「サンドリヨンまたは小さなガラスの靴」157-180、211-214 頁。
第 8 回	テクストを分析する①寓話について	第 9 回で使うテクスト ラ・ロシュフーコー『ラ・ロシュフーコー箴言集』二宮フサ訳、11-15、56-57、80-87、147-153 頁。 田中仁彦『ラ・ロシュフーコーと箴言　太陽も死も直視できない』11-68 頁
第 9 回	テクストを分析する②恋愛について	第 10 回で使うテクスト パスカル「大貴族の身分に関する講話」(伊吹武彦・渡辺一夫・前田陽一『パスカル全集』Ⅰ 161-168 頁) パスカル『パンセ』塩川徹也訳（上）71-75、80-89、92-93、105-117、124-127、238-259 頁。 拙稿「パスカルにおける情念と政治」
第 10 回	テクストを分析する③力と正義について	第 11 回で使うテクスト 赤木昭三『フランス近代の反宗教思想―リベルタンと地下写本』第 1 部第 5 章「17 世紀後半のリベルタン」、第 2 部第 3 章（1）「軍人哲学者」54-68、149-162 頁。 モリエール『ドン・ジュアン』鈴木力衛訳、38-45、50-53、78-81 頁。 フォントネル『世界の複数性についての対話』赤木昭三訳、第三夜「月世界の特徴および他の惑星にも人が住んでいること」78-102 頁。
第 11 回	リベルタン	第 12 回で使うテクスト モリエール『人間嫌い』内藤濯訳、第１幕第１場、第２幕第２場。 矢橋透『劇場としての世界―フランス古典主義演劇再考』第 2 章「仮面の劇　―モリエール『人間嫌い』について―」41-72 頁。 ジャン・ルーセ『フランスバロック期の文学』伊藤廣太・齋藤磯雄・齋藤正直他訳、第 3 章「変装とまやかし（悲喜劇）」、第 8 章「文学におけるバロック」67-108、270-311 頁。
第 12 回	仮面	第 13 回で使うテクスト 「レ枢機卿によるラ・ロシュフーコー卿の肖像」 ラ・ブリュイエール『人さまざま（カラクテール）』上・中、関根秀雄訳、第 3 章 女について 第 11 章 人間について。 辻邦生「プッサンの遺言」
第 13 回	ポルトレ	第 14 回で使うテクスト ラ・ロシュフーコー『箴言集』など、第 1 回から第 12 回までに使ったテクスト全部。
第 14 回	自画像を作ってみる。	モラリスト風の文章により自画像（オートポルトレ）を描く。授業支援システムを利用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．自分の担当する発表については、責任をもって準備して下さい。
2．次回の授業で取り上げられるテクストの予習を求めます。

３．国際文化学部の学部学生に関しては、この授業で扱っているテーマにに関する国際文化情報学会での報告や発表を推奨します（義務ではないが、評価が上がる要因となりえます）。

【テキスト（教科書）】
授業計画の内容で毎回のテクストを指示してある。

【参考書】
参考となる映像作品：
第 1～2 回に関して、パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994 年。
第 3～4 回に関して、ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000 年。
第 5～6 回に関して、エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969 年。
第 7～8 回に関して、リュック・ベッソン監督『狼（シャネル No.5 の広告）』1998 年。
第 9～12 回に関して、ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973 年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業での教科書講読への参加の質および量（20%）
（エ）（ウ）に関する授業内での発表の質および量（20%）
（オ）「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量（20%）
（カ）（オ）に関する授業内での発表の質および量（30%）※必須です。発表できなかった場合、評価が大きく下がる要因になりえます。
（キ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが聞きやすい話し方を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
１．教室内を含めて、タブレットやノート PC の持ち込みや活用を推奨します。
２．授業支援システムを利用するので、自己登録を第２回授業までに行ってください。

【その他の重要事項】
・国際文化学部の学生は１～４年生、それ以外の法政大学の学部に所属する学生は２～４年生であれば、学部やキャンパスに関係なく、この授業で単位履修できます。詳しくは所属学部の事務窓口までお問合せ下さい。

【Outline and objectives】
This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral presentations in Japanese will be required.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米大陸のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとし、オムニバス形式にて各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会について学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容については初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることを理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の 2 回ずつ（合計 4 回）は、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（10 回分）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第 2 回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第 3 回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第 4 回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第 5 回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第 6 回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第 7 回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第 8 回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第 9 回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第 10 回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第 11 回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第 12 回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第 13 回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第 14 回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するためにも、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州に関する情報を集めて頂きたい。
・期末レポート執筆のためにも、配布資料についても熟読して頂きたい。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』エリアスタディーズ・72 巻，明石書店，2009 年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）： 40 %
②期末レポート： 60 %
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。

【学生の意見等からの気づき】
・授業内容について、より多様性が富んだものにする。
・質疑応答の時間を出来るだけ設けるようにする。

【その他の重要事項】
・初回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席すること。
・毎年度秋学期に開講予定の授業であるが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありうる。

【Outline and objectives】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each courses will be given by the specialists of each research domain.

ARSa300GA

スペイン語圏の文化Ⅰ

久木　正雄

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域と言語・民族の多様性と、それらの歴史的重層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセローナ大学への SA に参加する 2 年生は、バルセローナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】
スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 4 回までは、教員がスペインの歴史を概観する講義を行った上で、受講生との議論を行う。第 5 回以降は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	スペイン史概説（先史時代〜中世）	スペインの自然環境（地勢と気候）と、先史時代から古代・中世までのスペイン史（イベリア史）への理解を得る。
3	スペイン史概説（近世・近代）	国家と地域との関係に留意しながら、近世と近代のスペインに関する通史的な理解を得る。
4	スペイン史概説（現代）	内戦とフランコ体制期を中心として、自治州体制へと至るスペイン現代史（20 世紀）に関する理解を得る。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々（前近代）	「三宗教の共存」と称される中世スペインの宗教的・民族的多様性と、近世以降の展開への理解を深める。
7	宗教と人々（近現代）	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。
8	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
9	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
10	都市と建築	バルセローナに焦点を当てて、都市計画とアントーニ・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
11	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
12	サッカー	スペインの国民的なスポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
13	スペインと日本	今日でも官・民のさまざまなレベルにおいて密接な係わりをもつ、スペインと日本との関係への理解を深める。
14	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。
復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。

【テキスト（教科書）】
- 立石博高（編著）『概説　近代スペイン文化史― 18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784623066759。
- 立石博高・内村俊太（編著）『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750344157。

【参考書】
- 田澤耕『物語　カタルーニャの歴史―知られざる地中海帝国の興亡』中公新書、2000 年、本体価格 780 円、ISBN9784121015648。
- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013 年、本体価格 860 円、ISBN9784582856743。
- 立石博高『スペインにおける国家と地域―ナショナリズムの相克』国際書院、2002 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784877911140。

その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加度： 30 %、プレゼンテーション： 30 %、学期末レポート： 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】
この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化 II」との直接の連続性はない。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

久木　正雄

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。特にラテンアメリカ（イスパノアメリカ）と総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちているが、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】
ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得て、各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 4 回までは、教員がラテンアメリカの歴史を概観する講義を行った上で、受講生との議論を行う。第 5 回以降は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「ラテンアメリカ」とは何か？	「ラテンアメリカ」という呼称と概念について、その歴史とともに考える。
3	ラテンアメリカ史概説	ラテンアメリカの歴史を、先スペイン期に重点を置いて概観する。
4	イベリア史研究から見たラテンアメリカ	ラテンアメリカとイベリア世界（スペイン・ポルトガル）との接触について、イベリア史研究の立場から概観する。
5	ラテンアメリカの政治	近現代のラテンアメリカについて、政治の側面から学ぶ。
6	ラテンアメリカの経済	近現代のラテンアメリカについて、経済の側面から学ぶ。
7	ラテンアメリカの社会	近現代のラテンアメリカについて、社会の側面から学ぶ。
8	ラテンアメリカの文化	近現代のラテンアメリカについて、文化の側面から学ぶ。
9	メキシコ	メキシコの歴史・文化・社会について学ぶ。
10	中米地域	中米地域の歴史・文化・社会について学ぶ。
11	カリブ海地域	カリブ海地域の歴史・文化・社会について学ぶ。
12	アンデス諸国	アンデス諸国の歴史・文化・社会について学ぶ。
13	ラプラタ地域	ラプラタ地域の歴史・文化・社会について学ぶ。
14	アメリカ合衆国とヒスパニック	アメリカ合衆国に住まうスペイン語話者と、同国でのスペイン語の占める位置について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。
復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。

【テキスト（教科書）】
- 国本伊代・中川文雄（編著）『ラテンアメリカ研究への招待［改訂新版］』新評論、2005 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784794806796。
- 清水透『ラテンアメリカ五〇〇年―歴史のトルソー』岩波現代文庫、2017 年、本体価格 1,200 円、ISBN9784006003722。

【参考書】
- 大泉光一・牛島万（編著）『アメリカのヒスパニック＝ラティーノ社会を知るための 55 章』明石書店、2005 年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750322353。
- 清水透・横山和加子・大久保教宏（編著）『ラテンアメリカ　出会いのかたち』慶應義塾大学出版会、2010 年、本体価格 3,500 円、ISBN9784766417234。
- 高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009 年、本体価格 1,905 円、ISBN9784122052376。
- オリヴィエ・ダベーヌ、フレデリック・ルオー（太田佐絵子訳）『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房、2017 年、本体価格 2,800 円、ISBN9784562054282。

その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加度： 30 %、プレゼンテーション： 30 %、学期末レポート： 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】
この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャの文化Ⅰはカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】
簡単なカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。
スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。
逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介ー名前を伝える ［カタルーニャ語とは？］	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la... カタルーニャ語とは？
2	アルファベットと発音	アルファベットと発音 Com s’escriu? Lletrejar
3	数字０－１００ 年齢、電話番号を伝える	数字　０－１００ Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介ー出身を伝える	国の名前／国籍の形容詞 D’on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 ［カタルーニャ語の歴史］	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史［Historia de la lengua］
6	自己紹介ー趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t’agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介ー職業	職業　Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする ［現在のカタルーニャ語］	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介ーお住まいの話をする	住所ー On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	人を紹介する	人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONÈIXER 動詞
11	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima.
12	時間を尋ねる	Quina hora és? 今何時ですか A quina hora ...? 何時に… 日常生活の話
13	日常活動	Activitats quotidianes. Què fas normalment? 普段は何をしていますか。
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
「ニューエクスプレス　カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」Publicacions de l’Abadia de Montserrat
「Passos 1」Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】
授業参加　６０％
宿題提出　１０％
小テストと期末試験　３０％

【学生の意見等からの気づき】
学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】
内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II] の受講もお勧めです。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】
Curs patrocinat per l’Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】
Catalan language. Introductory course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャの文化 II はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】
簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常活動の話をする	日常活動 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩
2	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
3	物体	Porto les claus a la butxaca. 名詞の性、数
4	買い物	Què li regalaràs, a en Daniel? 買い物の会話
5	天気のお話	Demà plourà. 天気のお話　【未来形】
6	レストランで I	Què és això? カタルーニャ料理を紹介する
7	レストランで II	Què volen de primer? Em pot portar més pa? レストランで行う会話 PODER、VOLER 動詞 命令形
8	人を食事などに誘う	Vols sortir el cap de setmana? 義務を表す表現　HAVER DE その他の表現： Passa, passa. Seu, seu.
9	調子、感情を伝える I	Té mal de coll. 喉が痛い。
10	調子、感情を伝える　II	Ha tingut un mal dia. 今日は嫌なことがあった。 現在完了形。
11	自分の過去の話をする	生年月日　数字１００〜 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
12	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 Vaig anar al cinema.La pel.lícula no em va agradar gens.
13	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
「ニューエクスプレス　カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】
授業参加　６０％
宿題提出　１０％
小テストと期末試験　３０％

【学生の意見等からの気づき】
学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】
秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】
Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】
Catalan language. Introductory course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャというと何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それももちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ (ジュゼップ)・カレラスやムンセラ・カバリェ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の 80 %がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがないほどです。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思います。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】
カタルーニャ文化 III では、知っていなければいけない、基本的なカタルーニャの文化をやります。カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使って行きます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民話; カタルーニャの音楽家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】
田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
プリントなどを授業中にも渡します。

【参考書】
田澤耕（著）2000 年「物語　カタルーニャの歴史」（中公新書）
田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他、発表のために参考できる本、Web など。

【成績評価の方法と基準】
発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。
授業参加　５０％
発表　３０％
宿題の提出　２０％

【学生の意見等からの気づき】
発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容が変更されることがあります。
カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【助成機関】
Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】
Introduction to Catalan culture.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】
カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使って行きます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでの カタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independentismo e identidad.
4.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかる カタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 La sociedad catalana (mobilidad)	社会ー Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかる カタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかる カタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語　La escuela catalana. 発表
10.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表
12.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表
14.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】
田澤耕（著）2000 年「物語　カタルーニャの歴史」（中公新書）
田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他

【成績評価の方法と基準】
発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。
授業参加　５０％
発表　３０％
宿題の提出　２０％

【学生の意見等からの気づき】
発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容が変更されることがあります。
カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【助成機関】
Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】
Introduction to Catalan culture, paying special attention to the latest news.

PHL300GA

英語圏の文化Ⅱ（思想史）

マーク・フィールド

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】
The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of "Western" religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of "Western" social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain's rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman's Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain's Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson's Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR's New Deal
13 回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14 回	Examination/ Comments:	Recapping what has been covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students may also be expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently for the preparation of Research Papers.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】
Participating students will do independent reading for their written assignments.

【成績評価の方法と基準】
30% In Class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)
30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,
40% Final Examination/Term Project.
**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】
The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

ARSk300GA

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

粟飯原　文子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語圏世界とは、むろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】
・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・講義形式をとり、毎回プリントを配布する。
・なるべく時系列にそって進めていくが、地域・トピックにもとづいて時代が前後することもある。
・授業中に複数の映像資料を参照するほか、学期の後半には一度、映画の全編を観賞して批評コメントを書いてもらう。
・授業の最後 10 分程度でリアクションペーパーを作成、提出してもらう。
・学期末の最後の授業で筆記試験を実施する。
授業中に配布したプリントやノートなどの持ち込みは許可するが、講義内容を把握していないと解答できないので、積極的に授業に参加して、しっかりメモをとってもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション―第三世界とはなにか	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。 英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第 2 回	第一次世界大戦後の世界―民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919 年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第 3 回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった 1927 年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第 4 回	第二次世界大戦後の世界―独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第 5 回	アジア・アフリカ会議	1955 年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第 6 回	アフリカ諸国独立	1957 年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第 7 回	非同盟諸国運動	1961 年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第 8 回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959 年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第 9 回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第 10 回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第 11 回	構造調整の時代―第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第 12 回	映画のなかの第三世界	映画の全編を鑑賞し、旧植民地が直面する現代的な問題を学ぶ。
第 13 回	現代の諸問題と全体の総括	現在の英語圏および旧植民地地域について概観し、これまでの総括をおこなう。
第 14 回	試験と解説	全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　10 %
・授業で提出する課題（リアクションペーパーなど）　30 %
・期末試験　60 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】
定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。
受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus
a different perspective on World History.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤　祐二

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写に隠されたアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、アメリカの絵画、映画、音楽など、ほかの文化領域にどのような影響を及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】
受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
第 1 回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学や文化がどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った、アメリカ史全体の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第 2 回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第 3 回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特異性をヨーロッパのゴシック小説との比較から考察し、前者おける恐怖の描き方から、「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第 4 回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第 5 回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19 世紀から 20 世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第 6 回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品がアメリカ的な価値観やエスニシティなどの問題意識をどのように受け継いでいるのかを考察する。
第 7 回	時間、都市、産業化	19 世紀後半以降のアメリカの都市化・産業化の結果、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、モダニズムの作家がそうした変化をどのように文学作品に反映したのかを考察する。
第 8 回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。
第 9 回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第 10 回	観念としての「黒人」は誰のものか	20 世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第 11 回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第 12 回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第 11 回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第 13 回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20 世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と 20 世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第 14 回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。
また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】
有賀夏紀 (編) 油井大三郎 (編)『アメリカの歴史――テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣アルマ, 2003 年
亀井俊介 (編)『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』昭和堂, 2006 年
板橋 好枝、高田 賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房, 1991 年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポートを 70 %、中間レポートを 30 %とする。
なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度と同様、映像資料も用いる。
例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】
受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds clearly evident in their works, but also into the characteristics of American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact American literary works, even those of different eras, have had on other cultural fields such as picture, film, and music.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会 B）

北　文美子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１８世紀から２０世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】
それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回、講義内容についての各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパーとして提出してもらいます。リアクション・ペーパーはレビュー・ウィークの際にコメントを付けて返却し、ペーパーをもとにしながら内容の復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2 回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
3 回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4 回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5 回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6 回	バーナード・ショーと地方主義	『ピグマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
7 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
8 回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9 回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10 回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11 回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
12 回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】
各回、プリントを配布します。

【参考書】
適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクション・ペーパー（１０％）
試験（９０％）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は国内研究のため、授業を担当しておりません。

【Outline and objectives】
This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examnine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和　彩子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀から 20 世紀の変わり目に特有の「不安」――ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖――にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読むことを通じ、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】
イギリス小説の代表的な作品を読み、テクスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。
作品と作者の文学史における位置づけを理解する。
イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
予習ワークシートに沿ってグループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理するというのが、演習の基本的な進め方である。各作品につき３回の授業を充て、３回目は主に講義とする。各授業の終わりにはリアクション・ペーパーを課し、理解の確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18〜20 世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886 年）小説前半	演習
3	『ジキル博士とハイド氏』（1886 年）小説後半	演習
4	『ジキル博士とハイド氏』全体	演習・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』(1890 年）小説前半	演習
6	『四つの署名』小説後半	演習
7	『四つの署名』全体	演習・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895 年）小説前半	演習
9	『タイムマシン』小説後半	演習
10	『タイムマシン』全体	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902 年）小説前半	演習
12	『闇の奥』小説後半	演習
13	『闇の奥』全体	演習・講義
14	＜世紀末の不安＞まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。
演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。
具体的な方法については、第一回授業で説明する。

【テキスト（教科書）】
(1) 長篇作品の邦訳は、以下の版を使用する予定。（絶版や新訳の出版等により変更する場合は、掲示等により連絡する）。
①田内志文訳『ジキル博士とハイド氏』角川文庫，2017,
②日暮雅通訳『四つの署名』 新訳シャーロック・ホームズ全集， 光文社文庫，2007.
③池 央耿訳『タイムマシン』 光文社古典新訳文庫,2012.
④黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫, 2009.
(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回提出するワークシート 30%、リアクションペーパー 10%、計 40%）と、試験の成績（60%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
“Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will read some representative British literary works published around the turn of the 20th century analytically and critically, and also be introduced to their social and cultural contexts. They will thereby understand how these texts are obsessed with the Victorian fin-de-siècle anxieties.

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

輿石　哲哉

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，学生が現代英語の構造について，様々な面から考察するを目標にするものです．良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は，どのような言語であるのか，学生は，担当者とともに，授業を通じて考察していきます．

【到達目標】
１．学生が英語の音声面，文法面等の構造について，知識を得られること．
２．学生が英語の構造についての研究の仕方について，ある程度の知識を得られること．
３．学生が英語という言語に関しての様々な問に対して，答えるべき道筋をつけられること．
４．併せて，学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること．
なお，上記の１，２で述べた知識ですが，ヤマとなる点は以下の通りです．
a) 音声器官，発音記号．
b) 音素の考え方（構造主義）．
c) 言語の知識を構成する各部門の考え方．
d) 記述上のさまざまな単位．
e) 統語範疇（品詞論）．
f) 直接構成素分析，句構造．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
履修者の数，知識のレベルなど未知数が多いため，現時点で具体的なことをすべて決定することはできない状況にあります．現時点で考えていることは以下の 2 点です．
１．講義形式の授業にせざるを得ませんが，可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います．
２．何をトピックにするか明確にし，履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方，教材について説明します．後半は，英語という言語について，どこでどのように話されているかなどを見た上で，英語史について簡単に触れます．
2	英語の音声について（1）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．言語音声に関する初回になりますので，音声研究において必要な調音器官などの用語，発声の原理について学びます．
3	英語の音声について（2）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．今回は，英語を離れ，一般的に単音の記述について見た後，子音・母音の分類原理について学習します．
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ 3 回目です．英語の母音について，その分類を学んだ後，各母音について見ていきます．
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ 4 回目です．二重母音，弱母音等について触れ，その後，フォニックスについて学習します．
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ 5 回目です．母音についてまとめ，英語の子音を見ていきます．
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ 6 回目です．子音についてまとめた後，音節，音結合について触れます．最後に，かぶせ音素（アクセント，リズム，イントネーション等）について解説します．
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ 1 回目です．初回ですので，文法という用語の伝統的な意味と，新しい意味，生成文法の考え方等について学びます．
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ 2 回目です．日英の語順の相違について概観した後，形態素，語，語彙素といった基本的な用語について学びます．
10	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ 3 回目です．統語範疇という概念について概観します．具体的に，形容詞を例にとって，いかに統語範疇が規定されるか，検討します．
11	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ 4 回目です．形容詞についての話をまとめ，他の統語範疇と形容詞の関係について学びます．英語の辞書の記述についても，検討します．
12	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ 5 回目です．構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます．そして，不連続構成素をどのように扱うかについての話をします．
13	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です．この回は，SVO+不定詞という構文を例にとり，それがどのように分析されるか，検討します．
14	まとめ〜今後につなげて	これまでの授業を総括し，その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか，授業で学んでいきます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みますので，学生は，基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．

【テキスト（教科書）】
特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】
授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．
・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・竹林滋・斉藤弘子 (1998).『改訂新版　英語音声学入門』．東京：大修館書店.
・中島文雄 (1991).『英語学とは何か』．東京：講談社 [講談社学術文庫].
・田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』．東京：講談社 [講談社学術文庫].
・竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』．東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】
試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして１段階下がる），欠席 5 で失格，というのを一応の目安とします．）
最終試験 50%，プロジェクト 30%，平常点 20%というのが，基本的な評価基準です．（プロジェクトについては，課さないこともありえます．その場合は，最終試験 60%，平常点 40%とします．）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は英語で行ったこともあり，難しいという印象が多かったようです．従って，教えるべき内容については再度見直し，減らす方向で考えたいと思います．しかし，到達目標に記したことは，ことばの学問の道筋として知っておいてほしいものですので，「授業支援システム」等で発信するフィードバックを元に，何とか学んでいってほしいと思います．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】
１．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めたいと考えています．
２．かなり速いペースで英語の構造についてお話しますので，真面目な態度で出席しないと履修は困難です．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の構造をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の構造について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language.Towards the end of the course, students will able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English SHOULD be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

a) articulatory organs and phonetic symbols,
b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
c) modular approach to linguistics,
d) various units in linguistic description,
e) syntactic categories (parts of speech),
f) intermediate constituency, phrase structural analysis

LANe300GA

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

輿石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の歴史は，ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります．本授業では，担当者とともに，学生は，本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから，どのような変化を遂げて，21 世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます．

【到達目標】
１．学生が英語の歴史について，ひと通りの知識を得ること．
２．学生が英語の歴史に興味を持ち，現代英語の様々な事象について，歴史的な説明を試みること．
３．学生が言語の歴史研究について，その大まかな方法論を知ること．
４．学生が英語の運用力をつけること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業では，テキストを読みながら，演習方式で英語の歴史について学んでいきます．履修者は，必ずテキストを読んできてください．授業では，教材の内容について皆さんに担当教員が質問したり，付加的な情報を加えたりして，履修者の参考になるべく努めます．その後，復習をして固めれば，理解力が高まります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説. - 現代英語の状況，話者数，分布等. - 英語史上の時代区分.
2	EARLY HISTORY 1	- Speech and Writing - The Continental Backgrounds - The Indo-European Languages
3	EARLY HISTORY 2	- The Position of Germanic in the Indo-European Group - Special Development in Germanic
4	OLD ENGLISH 1	- The Old English Dialects - The Conversion of the English to Christianity - Old English ・Vowel Sounds ・Consonant Sounds
5	OLD ENGLISH 2	・Consonant Sounds（続き） ・Word Stress ・Gender Not Based on Meaning ・Case
6	OLD ENGLISH 3	・Case（続き） ・The Development of the Personal Pronouns ・The Development of the Demonstrative and Relative Pronouns ・Adjectives and Adverbs
7	OLD ENGLISH 4	・Verbs ・Word Order
8	OLD ENGLISH 5	・The Old English Word Stock: Native Words and Loan Words
9	MIDDLE ENGLISH 1	- Leveling of Unstressed Vowels ・Spelling Practices ・Changes in Stressed Vowels ・The Blurring of Older Inflectional Distinctions
10	MIDDLE ENGLISH 2	・The Blurring of Older Inflectional Distinctions（続き） - Loan Words ・French ・Latin ・Greek ・Eastern Languages
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Old and Middle English Compared
12	MODERN ENGLISH 1	- The Great Vowel Shift - Changes in the Verb and the Pronoun - Word Borrowing
13	MODERN ENGLISH 2	- Word Borrowing（続き） - The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century
14	MODERN ENGLISH 3	- The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century（続き） - Noah Webster's Influence on American English - Is English Deteriorating?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，まず，テキストを読んでくることから始めてください．この際，批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか，曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと），出てくる用語等を資料，ネット等を用いて調べること，を意識的に行うことが重要です．授業後，復習をして固めれば，理解力が高まります．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．

【テキスト（教科書）】
英文パイルズ『英語の歴史』 (1973). この本はずいぶん古い本ですが，英語で読めるものとしては，それなりにいい本であると思います．元来，米国の高校生向けの教科書であるため，発音表記が分かりにくかったり，最近の英語についての説明がなかったりするのは欠点ですが，ModE までの説明はとてもよくまとまっています．

【参考書】
授業中，随時指定しますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．
・北村達三 (1980). 『英語を学ぶ人のための英語史』．東京：桐原書店．（内容として一番標準的ですが，最近の英語についての記述が少々足りません．）
・寺沢盾 (2008). 『英語の歴史　過去から未来への物語』．東京：中央公論新社 [中公新書].
・中尾俊夫，寺島廸子 (1988). 『図説　英語史入門』．東京：大修館書店．
・ブラッドリ，H. 寺澤芳男訳 (1982). 『英語発達小史』．東京：岩波書店 [岩波文庫].

【成績評価の方法と基準】
試験での成績を第一条件にして, 平常点を加味します. 言うまでもないことですが, 出席することはすべての前提です. 欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして１段階下がる），欠席 5 で失格，というのを一応の目安とします．）
最終試験 50%，プロジェクト 30%，平常点 20%というのが，基本的な評価基準です．

【学生の意見等からの気づき】
教材をしっかり読まないと単離履修につながりません．また，担当教員の話を聞き流すだけではダメで，やはり自分から勉強する態度が大切です．内容については，一見難しく思えるが，実際はそんなに難しいことは要求されていない，という意見もありました．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】
１．本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので，重複履修はできません．英語の歴史を英語で学びたい方は是非そちらの科目を履修してください．
２．今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました．
３．「英語史」と「英国史」とは異なります．ことばに焦点を当てる授業であるということを，理解した上で履修してください．
４．初回授業に必ず参加してください．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の歴史をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期のため，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

【Outline and objectives】
Towards the end of this course, students will be able to:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.
The following are the concrete goals of this course:
1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

LANe300GA

Structure of English

輿石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of this course, students will be able to attain the following goals indicated below.

【到達目標】

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English SHOULD be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:
a) articulatory organs and phonetic symbols,
b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
c) modular approach to linguistics,
d) various units in linguistic description,
e) syntactic categories (parts of speech),
f) intermediate constituency, phrase structural analysis

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (227 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim them over;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the H'etudes, i.e. 授業支援システム, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned in H'etudes for further comprehension.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	General Introduction	- Introduction - What's English? - English studies/linguistics - How many speakers? - AmE vs BritE
2	General Introduction (cont'd)	- RP and GA - Brief History of English - Saussurean semiotics
3	Sound Aspects of English (1)	- Sound classification - Consonants - Vowels - Others - Monophthong vs. diphthong
4	Sound Aspects of English (2)	- The phoneme - Allophones - English vowels - Checked vs. free - Strong vs. weak - Long vs. short (tense vs. lax)
5	Sound Aspects of English (3)	- Phonics - Checked vowels in English - What are good phonetic transcriptions?
6	Sound Aspects of English (4)	- Long vowels - Diphthongs - Triphthongs - Weak vowels
7	Sound Aspects of English (5)	- Consonants - Stops - Fricatives and affricates - Nasals - Laterals
8	Sound Aspects of English (6)	- Semivowels - The syllable - English phonotactics
9	Sounds Aspects of English (7) and Meaning Aspects of English (1)	- Sound connections - Suprasegmentals - Accent, rhythm and intonation - Grammar and lexis - 'Chain' and 'choice'
10	Meaning Aspects of English (2)	- Selection vs. combination - Modular approach and brain lateralisation - Word orders and generative grammar
11	Meaning Aspects of English (3)	- Word order generalisation - The word - The morpheme - The lexeme
12	Meaning Aspects of English (4)	- A dozen words of English - Syntactic categories - Important criteria - Distribution, combinability, and ordering - The adjective - Attributive vs. predicative uses
13	Meaning Aspects of English (5)	- The adjective (cont'd) - Adjectival semantics Central vs. peripheral adjectives - Adjectives and other syntactic categories
14	Meaning Aspects of English (6)	- Adjectival semantics (cont'd) - Immediate constituency - Flat vs. hierarchical structures - Phrase structure grammar - Discontinuous constituent?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to visit the relevant H'etudes site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested in お知らせ posted immediately after each class session by the instructor.

【テキスト（教科書）】

There are no particular textbooks for this course.

【参考書】

Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through H'etudes in due course. However, the following (all written in Japanese) are recommendable prior to the opening of the course:
- 加島祥造 (1976).『英語の辞書の話』. 東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載.]
- 中島文雄 (1991).『英語学とは何か』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
- 田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』. 東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- Final exam: 50%.
- Project: 30%
- Class participation: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

n/a

【学生が準備すべき機器他】

Personal computers, good English dictionaries, etc.

【その他の重要事項】

This is just a half-year (semestral) course about the structural aspects of modern English, which is in many ways similar to 'Intro to English Linguistics' you see in English major's curriculum; only, the speed is much faster! Therefore, the contents covered should be rather selective in nature. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.
Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】
Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and/or language studies in general.

LANe300GA

History of English

輿石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Towards the end of this course, students will be able:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標】
1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (227 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim them over;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the H'etudes, i.e. 授業支援システム, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned in H'etudes for further comprehension.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction; early history	- Introduction - IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
2	Early history (cont'd)	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
3	Early history (cont'd) and Old English	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
4	Old English (cont'd)	- Place name studies - *Angli* vs *wealas* - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks casket
5	Old English (cont'd)	- Old English Pronunciation - 'Back to front' movements
6	Old English (cont'd)	- Old English documents and poems (Law of Æthelberht, Ælfric's *Colloquy*, Lindisfarne Gospels, *Beowulf*) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	Old English (cont'd)and Middle English	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	Middle English (cont'd)	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - Middle English (Grammar and lexis, OE and ME dialects, word order, etc.)
9	Middle English (cont'd)	ME documents (*Sumer is Icumen in*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*) - Social changes - Great Vowel Shift
10	Modern English	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	Modern English (cont'd)	- Biblical parallel texts - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	Modern English (cont'd)	- The first dictionaries (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - *The Oxford English Dictionary*
13	Modern English (cont'd) and Present-day English	- *The Oxford English Dictionary* (cont'd) - Received Pronunciation and General American - Regional varieties
14	Present-day English (cont'd)	- Regional varieties (cont'd) - Jargon and slang - The future of English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to visit the relevant H'etudes site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested in お知らせ posted immediately after each class session by the instructor.

【テキスト（教科書）】
Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press.

【参考書】
Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through H'etudes in due course. However, the following are worth reading prior to the opening of the course:
- Algeo, John (2010). *The Origins and Development of the English Language*. Sixth edition. Boston: Wadsworth. [Based on the original work of Thomas Pyles. Careful about special phonetic notations used.]
- Barber, Charles, Joan C. Beal, and Philip A. Shaw (2009). *The English Language: A Historical Introduction*. Second edition. Cambridge: Cambridge University Press. [Offers clear explanations of linguistic ideas.]
- Bradley, Henry (1970). *The Making of English*. Tokyo: Seibido. [A bit out of date, but still a good introduction. Japanese translation available from Iwanami.]
- Schmitt, Norbert and Richard Marsden (2009). *Why Is English Like That? Historical Answers to Hard ELT Questions*. Ann Arbor: The University of Michigan Press. [A recent book; easy to read; written for English language teachers.]

【成績評価の方法と基準】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- Final exam: 50%.
- Project: 30%
- Class participation: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
Overall, the instructor gets favourable comments from the students.

【学生が準備すべき機器他】
Using a personal computer is recommended, which enables you to get accustomed to make use of phonetic fonts as well as tree-drawing applications. Also, there are many interesting sites on the web which the instructor recommends you to visit.

【その他の重要事項】
In terms of its content, this course is the same as「英語圏の文化 VIII（英語の歴史）」taught in Japanese. Therefore, if you have obtained credits taking that course, you cannot obtain credits by taking this course.
This course is just a half-year (semestral) course about the history of the English language. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.
Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】
Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and historical linguistics.

ARSx200GA

世界とつながる地域の歴史と文化

髙柳　俊男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012 年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「ＳＪ国内研修」（ＳＪ＝ Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「ＳＪ国内研修」とは、一般学生のＳＡに相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとってのＳＡとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8 日程度の「ＳＪ国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「ＳＪ国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「ＳＪ国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他の地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、毎回織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と「ＳＪ国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第 3 回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立した当初の市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。
第 4 回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第 5 回	飯田線建設史①	現在のＪＲ飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第 6 回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』をＤＶＤ鑑賞しながら、再度考える。
第 7 回	満州移民の歴史①	1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第 8 回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』をＤＶＤ鑑賞しながら、再度考える。
第 9 回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭について知る。
第 10 回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第 11 回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内にある黒田人形・今田人形について、映像で確認する。
第 12 回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、70 年以上の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の発刊や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第 13 回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平３人の文化人について、自校教育の意味も含めて取り上げる。
第 14 回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970 年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の授業支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：アップから２週間後）。

授業期間中に例年、この授業と関連した学部イベントを実施するので、ぜひ参加してほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、Ａ３で１枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

留学生には従来、自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010 年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、ＢＴ 20 階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍 1,800 冊以上、映像ＤＶＤ約 300 点所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢 40 %、途中での中間課題 20 %、学期末のレポート 40 %を目安とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくにＳＪ国内研修に参加せず、１つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれないが、「個別を極めることを通して普遍に至る」を目指してやっている。

自国のことを知り、外国人にも伝えられることは国際人の重要な要素であるので、今後とも、そのアプローチのもつ意義を理解してもらいながら授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】
上述のように、授業支援システムをもう一つの教室として活用する。

【その他の重要事項】
「ＳＪ国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。
ボランティア補助員の選抜や、一般参加者への奨学金支給の可否の決定は、事前学習における意欲や成果をもとに、６月末から７月上旬に行なう予定である。
「ＳＪ国内研修」に参加しない人の受講も認めるが、受講者数によっては選抜を行なうことがあるので、第１回目の授業に必ず参加すること（やむを得ず来られない場合は、事前にメールで連絡を入れること。アドレスは「履修の手引き」の「教員紹介」欄参照）。

【選抜の有無】
「その他の重要事項」欄にも記載されているように、留学生、およびＳＪ参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline and objectives】
This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.
Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class.

SOC300GA

実践社会調査法

松本　悟

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的社会調査の実践と量的社会調査の原則を学ぶことで卒業研究などで活かせるようになることを目指す。なお、量的社会調査については原則を学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】
（1）統計的な社会調査データの読み取りができる。
（2）質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー調査）を実践できる。
（3）研究発表の方法を理解・実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
グループワークを中心とする実習形式の授業。宿題（文献講読、調査）、講義、討議、発表で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む
2	問いと社会調査	研究や調査の前提である問いについて考える
3	ライフストーリー	ライフストーリー調査について実例をもとに学ぶ
4	ライフストーリー構想１	調査協力者の候補とテーマなどを発表し、その妥当性を議論する。調査協力者とテーマを確定する。
5	観察とドキュメント	調査方法としての観察・ドキュメント分析の目的は何か、具体的なケースを考えながら議論する。
6	半構造化インタビュー	半構造化インタビューの実践練習をする。
7	ライフヒストリー構想２	先行研究と予備的聞き取り調査をもとに構想を立てて発表・討議する。
8	量的調査のリテラシー	アンケート調査の問題点を実例を挙げながら講義する。
9	観察結果の発表	宿題として課した観察の結果を発表する。
10	ドキュメント分析結果の発表	宿題として課したドキュメント分析の結果を発表する
11	ライフストーリー初稿	宿題として課したライフストーリー調査の初稿をグループで討議する
12	量的調査のリテラシー（グループ A）	宿題として課した量的調査の分析について A グループのメンバーが個々に発表する
13	量的調査のリテラシー（グループ B）	宿題として課した量的調査の分析について B グループのメンバーが個々に発表する
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをＫＪ法を用いて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義授業としては宿題や課題が多い。しかし、その分まちがいなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。

【テキスト（教科書）】
特にない

【参考書】
大谷他、2005、社会調査へのアプローチ―論理と方法、ミネルヴァ書房.
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】
「観察」か「ドキュメント分析」が 20%、「量的調査のリテラシー」が 20%、ライフストーリーが 60%

【学生の意見等からの気づき】
国際社会コースを選択する 2、3 年生の卒業研究の一助とすることを目的とした授業であるが、宿題が多いため躊躇する学生が少なくない。負担の軽減を図る。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】
１．この授業は演習形式で行うため、履修者の上限を 24 人とする。希望者は必ず初回の授業を受けること。初回の授業で上限を超える出席者がいた場合は、その場で選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から 4 日以内に Web および学部掲示板で学生証番号を発表する。
２．この授業の位置づけは、卒業研究など実際の研究活動に必要な方法論を身につけることにある。
３．事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
４．選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
５．課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
６．遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。

【Outline and objectives】
This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as Life-Story Interview, Observation or document analysis, and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

SOS200GA

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには 2 つの意義があると考える。1 つは体系立った学習の応用として、もう 1 つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）グループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員による補足講義、の 3 つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース１　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース１を受けたグループ発表・討議	ケース１に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース２　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース２を受けたグループ発表・討議	ケース２に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース３　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース３を受けたグループ発表・討議	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース４　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース４を受けたグループ発表・討議	ケース４に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	まとめと試験	13 回の授業をまとめた上で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。大学に向かう通学電車でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編『ケースで学ぶ国際開発』東信堂，2011 年.
W. エレット『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社，2010 年.

【参考書】
授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の参加度（フィードバックシートで評価）20%、グループ討議での積極性（互評）30%、期末試験 50%（試験はケースに対する考察と、その結果の応用力を問うものとなる）。

【学生の意見等からの気づき】
遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に授業支援システムを使う。

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
・遅刻や欠席はグループワークを困難にし仲間に多大な迷惑をかけるので、第 1 回の授業には必ず出席し履修するかどうかを慎重に判断すること。

【Outline and objectives】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

POL200GA

国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）

松本　悟

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：**国際関係研究 1**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にＮＧＯや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】
（1）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（2）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（3）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義のほか、授業に関連した問いを提示し周囲の学生と小グループで討議する時間を設ける。問いには正解はなく、論理的な思考力の涵養と他者の考えから学ぶ姿勢を習得する。歴史への理解を深めるため映像を使う場合もある。英語の専門的な文献読解を自由課題レポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ 4 つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	ＮＧＯとは何か	ＮＧＯの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのＮＧＯ	国際社会におけるＮＧＯの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	ＮＧＯは国家を補完しているのか、国家を「脱している」（trans）のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにＮＧＯが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のＮＧＯ活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ（プライベートレジーム）	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。その際紙媒体で読むようにすること。理論については授業で指示する文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
【レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編、2013、ＮＧＯから見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―、ミネルヴァ書房.

【参考書】
毛利聡子、2011、NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座、法律文化社.
最上敏樹、2006、国際機構論第 2 版、東京大学出版会.

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（毎回のフィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%（レポートはいずれも知識を問うものではない）。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の議論の時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】
・長年ＮＧＯとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくＮＧＯの現状を交えて講義する。
・「国際関係学概論」「平和学」を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

ECN300GA

途上国経済論

武貞　稔彦

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】
本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ｉにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？ ：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える
第 11 回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困を撲滅できるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】
グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
過去数年休講であった。2015 年度以前は学生からの意見に基づき講義内容にメリハリをつけることに留意していた。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】
履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】
This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田　泰章

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。
実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テクストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。
サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。
星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めそめそした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テクストに忠実に分析します。
日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】
翻訳についての基本的学術用語を理解する。
翻訳の原理と可能性・限界を知る。
私たちが日常的に行っている他言語テクストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテクスト実例は、学生による分析に付する。学生による分析レポート提出、そのプレゼンテーションも随時行なう。
　１回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。
　その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテクスト分析 シニフィアン・シニフィエ ミニレポート１	基本概念の説明１: シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテクスト分析 恣意性 ミニレポート２	基本概念の説明２： 恣意性
4	基本概念の説明とテクスト分析 共時的・通時的 ミニレポート３	基本概念の説明３： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテクスト分析 間文化性 ミニレポート４	基本概念の説明４： 間文化性
6	基本概念の説明とテクスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート５	基本概念の説明５： 固有名詞と代名詞
7	基本概念の説明とテクスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート６	基本概念の説明６： オノマトペと慣用表現
8	基本概念の説明とテクスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート７	基本概念の説明７： 社会制度と翻訳
9	基本概念の説明とテクスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート８	基本概念の説明８： 翻訳と言語変容
10	基本概念の説明とテクスト分析 翻訳と文化変容 ミニレポート９	基本概念の説明９： 翻訳と文化変容
11	基本概念の説明とテクスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート 10	基本概念の説明１０： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテクスト分析 解釈学的循環 ミニレポート 11	基本概念の説明１１： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテクスト分析 複合的テクスト ミニレポート 12	基本概念の説明１２： 複合的テクスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。

【テキスト（教科書）】
『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入・用意してください：
　１日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか 1 冊。
　２加えて、英語、フランス語などなどのどれか 1 冊。
　　（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）
毎回の授業に持参してください。
最終レポートでも参照する。

【参考書】
熊田泰章編『国際文化研究への道―共生と連帯を求めて―』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。
その上で、最後に最終レポートを書く。
ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。
ミニレポート 50 %・最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生からの提案を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
概念語の確認のために、授業内でも電子辞書を用いることが必要です。

【Outline and objectives】
Translation is not only a transformation work between natural languages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible.
In this lecture we will consider translation texts between natural languages and grasp the basic concept of translation.
We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as many languages as possible.
When we read this work now, is the image of the Little Prince the exact same image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way?
The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important begriff “Interculturality”.

LIN300GA

多文化社会と人間

加藤　丈太郎

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設計画、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。日本における在留外国人数は過去最高を更新し続けている。2018 年、日本政府は新たな外国人労働者の受け入れを決断した。しかし、外国人労働者が家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。2020 年には東京五輪が開催される。外国人観光客数を年間 4,000 万人とする目標が掲げられ、来日に当たっての外国人へのビザ発給要件は緩和される。外国人（移民）を巡る課題も増えることが想定され、課題解決の方策が必要とされる。また、日本は「多文化社会」を目指すのか、目指さないのか、真剣に考えるべき時に来ている。
本授業では、移民・難民の人生を通して「多文化社会」のあり方を共に考える。また、移民・難民をめぐる対立や紛争を調和・調整できる人材の育成を目指す。受講者は、ミニリサーチ発表会、ワークショップ（ドラマづくりなど）を通じ、クリティカルシンキング・想像力を鍛える。

【到達目標】
・日本の出入国管理政策の現在、外国人受け入れの変遷を理解できるようになる。
・日本における「多文化社会」とは何かを自ら考えられるようになる。
・将来、NGO/NPO、国際機関、企業等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
キャリアデザイン学部ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連。国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義（約 2/3) とワークショップ（約 1/3）から構成される。
講義の際には、映像、ゲストスピーカーのお話を取り入れ、受講者が移民・難民の人生を少しでも感じやすくするようにする。講義で扱った内容を、後からワークショップでアウトプットする。活きた知識の習得を目指す。
ワークショップでは一部、授業外でグループ毎に準備をしてもらう。履修登録の際にはこの点に留意されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 日本の出入国管理政策の現在（講義）	講義内容、評価方法を説明する。 日本の出入国管理政策の何が改正され、今後どのような課題が想定されるのかを解説する。
第 2 回	第 1 回の続き（講義） 多文化社会（外国人と共に暮らすことができる社会）とは（ワークショップ①）	前回の講義の続きを解説する。 映像を視聴後、「ダイヤモンドランキング」（ワークショップの手法の一つ）を使って多文化社会について考える。
第 3 回	在日コリアン（講義）	在日コリアンの就職差別・ヘイトスピーチとの闘いに学ぶ。
第 4 回	「多文化共生」を問い直す（ワークショップ②）	テキスト（山田）の論考を元に、日本型「多文化社会」とも言われる「多文化共生」を問い直す【テキスト使用】
第 5 回	日系ブラジル人（講義）	1990 年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
第 6 回	技能実習生（講義）	技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。
第 7 回	外国人労働者受け入れにおける課題ー地方の現場から（ゲストによる講演）	山梨県から人材派遣会社の社長と県内で働く外国人をゲストにお招きする。お話から「地方」における課題という視点を得る。受講者には感想文を次週に提出してもらう。
第 8 回	留学生（講義） ミニリサーチ準備	多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度でキャリアの構築は可能かを考える。 授業の終盤では、次週のミニリサーチの準備をグループ毎に行う。【テキスト使用】
第 9 回	ミニリサーチ発表会（ワークショップ③）	テキスト（田中・加藤・松尾）のいずれか 1 章を選び、その章を読んで興味を持ったことについてグループ毎に調べ、全体に発表する。【テキスト使用】
第 10 回	難民（講義）	日本において難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。また、日本でファッションデザイナーとして活躍するミャンマー人難民の半生に学ぶ。
第 11 回	非正規滞在者（講義）	もし、あなたビザがない若者だとしたら日本でどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
第 12 回	日本に暮らす外国人の気持ちを想像する「ドラマ」づくり①　（ワークショップ④前半）	演劇ワークショップ準備編 テキスト（飛田）の内容を理解する。グループ毎にドラマの脚本を作る、配役を決める。【テキスト使用】
第 13 回	日本に暮らす外国人の気持ちを想像する「ドラマ」づくり②（ワークショップ④後半）	演劇ワークショップ発表編 グループごとに発表する。
第 14 回	試験・まとめ	論述形式（持ち込み不可）の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの指定箇所を事前に読んで来る。【第 4 回・第 8 回・第 12 回】
・ゲストスピーカーの話を聞いての感想文を提出する。【第 7 回】
・ミニリサーチ発表会、「ドラマ」づくりは、授業外でもグループ毎に集まっての事前準備が必要となる。履修登録に当たっては、この点に十分留意されたい。【第 9 回・第 13 回】
・移民・難民をめぐるニュースに注目をすること（新聞を読むこと）。

【テキスト（教科書）】
松尾慎編著、山田泉・田中宝紀・加藤丈太郎・飛田勘文著（2018）『多文化共生　人が変わる、社会を変える』にほんごの凡人社、978-4893589521、2,160 円

【参考書】
※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。
移民政策学会設立 10 周年記念論集刊行委員会編（2018）『移民政策のフロンティア―日本の歩みと課題を問い直す』明石書店、978-4750346526
芹澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮新書、978-4106107672
中島弘象（2017）『フィリピンパブ嬢の社会学』新潮新書、978-4106107047
西日本新聞社 （2017）『新移民時代– 外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750345864
山村淳平（2015）『難民からまなぶ世界と日本』解放出版社、978-4759263398

【成績評価の方法と基準】
試験（50 %）、ゲストによる講演の感想文（5 %）、ワークショップへの貢献度（45 %　内訳：① 5 %、② 5 %、③ 15 %、④ 20 %）により評価する。講義の回の出席は取らないが、試験は毎回の出席を前提として問題を作成する。また、持ち込み不可とする。遅刻・欠席が多いと高い点数を得るのは難しいであろう。
本授業はワークショップを多く取り入れ、カリキュラムを構成している。急な欠席は、本人だけでなく、グループのメンバーにも多大な影響を及ぼす。就職活動・インターンシップ等を理由とした、ワークショップの欠席に救済措置は原則として取らない。ワークショップに欠席の場合、当該の回の得点は 0 点となる。また、ワークショップ③・④で高い評価を得るためには、授業時間外での準備が前提となる。履修登録をする際はこれらの点に十分留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
・昨年度はキャリアデザイン学部・国際文化学部から、2-4 年生まで幅広い履修があった。アンケートより、昨年度の受講者は、初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップを楽しんでいることが分かった。今年度においても、新たな出会いを楽しんで欲しい。
・「パワーポイントの文字が細かい」とのご指摘をいただいた。パワーポイントは出来るだけ簡潔にする。文章が長くなる箇所は別途プリントを提供する。また、今年度はテキストを導入し、文章はテキストで読んでもらうことにする。
・昨年度は毎回リアクションペーパーの提出を求めた。ぎっしりと意見や質問を寄せていただいたが、一方で、リアクションペーパーが受講者からの教室での発言機会を減らしていると感じた。授業中に多く発言・質問をしていただきたいため、今年度は、リアクションペーパーは原則として用いない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。ワークショップの際、何か使いたい機器があれば事前に相談をすること。

【その他の重要事項】
・講義時は、分からない点、より深めたい点を講師に質問すること。
・講義中の私語は他の受講者の迷惑となるので、厳重に慎むこと。
・ワークショップ時は、学部・学年の枠を超えて、初めて話す方同士で議論をしていただく。ぜひ、ワークショップに苦手意識を持つ方こそ、積極的に交流して欲しい。
・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。
・授業時間外の学習を多く求める科目である。決して「楽勝科目」ではない。履修登録をする際にはこの点に十分留意されたい。
「実務経験のある教員による授業」該当

日本の外国人支援 NGO/NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】
This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination by various activities such as mini-research presentation and workshop (making "drama").

ARSf200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

松本　悟

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：**国際関係研究２**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を取り上げることで、社会科学と自然科学の融合的な視点を身につけることを目指す。

【到達目標】
（1）「地域研究」の視点から国際関係を理解できるようになる。
（2）「開発と社会・環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
（3）「地域研究」や東南アジア半島部の「開発と社会・環境」を論じた論文を適切に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
14 回のうち約半分は演習形式で行う。事前に短い論文等を課題として出し、それをもとに担当者が論点を挙げグループ討議・発表を行う。授業のどこかで担当教員が関連する短い講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方、論点とは何かを説明する。事前に読む課題文献を提示する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	越境環境問題	「メコン地域」内で起きている越境的な問題を捉える分析視角を考える。
4	村から見た国際関係	１つの村の歴史を紐解きながら、ミクロとマクロの視点で国際関係について考える。
5	調査から見た国際関係	メコン地域の開発事業を事例に環境・社会影響評価調査の課題について考える。
6	資金源と国際関係	資源開発が引き起こした人権侵害を例に資金源の「目隠しの効果」を考える。
7	コモンズと財	カンボジアの漁業紛争を財の性質という視点から考える。
8	洪水と水害	ベトナムの洪水を事例に「多過ぎる水」の問題について考える。
9	国境を越える人	メコン地域の越境人身売買について考える。
10	資源の呪い	ビルマを例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える。
11	市場の失敗、政府の失敗	資源が枯渇する原因を囚人のジレンマなどの理論を使って考える
12	国家間債務の機能	対ビルマＯＤＡの分析を事例に国家間債務が国際関係に及ぼす機能について考える
13	メコン河開発の歴史	地域の歴史と重ね合わせて、開発の歴史を紐解くことで地域の視点で国際関係を捉える意義を考える。
14	まとめ	解釈学、系譜学、考古学の視点から授業で扱ったイシューを再度検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題文献を読んでくること。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（フィードバックシートで評価）20%、事前課題への理解度 20%、事前課題に基づく授業内の発表 30%、期末レポート 30%。授業内の発表は 2-3 人 1 組で行い事前課題の内容の要約ではなくそこから導いた重要だと思う発見と論点を提示する。1 人 1 回担当。事前課題文献は最初の授業で提示する。期末レポートでは国際関係と地域研究について論理的な思考を求める。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの課題が難しいという指摘がある。それによって、東南アジアの国際関係に関心のある学生が履修を躊躇するのは本意ではないので、今年度は事前課題とそれを用いた授業内討論を中心に行うことで理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】
・事前課題文献についての発表を必ず 1 回担当するので、第 1 回の授業には必ず出席すること。
・「国際関係学概論」「平和学」「国際関係研究１」を受講していることが望ましい。
・メコン河流域国で長年ＮＧＯ活動していた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら講義を行う。

【Outline and objectives】
What is "Area Studies"? How is it related to international studies? This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development" in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

曽　士才

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人の移動」という観点から 19、20 世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると２千万人から３千万人といるといわれており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシェーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】
中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～華僑の誕生	華僑・華人の見方、華僑の歴史
第 2 回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第 3 回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、信用
第 4 回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第 5 回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、ニューヨークの新旧チャイナタウン
第 6 回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、中国との関係
第 7 回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第 8 回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第 9 回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、華僑総会、新移民
第 10 回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、、横浜中華街、神戸南京町
第 11 回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第 12 回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第 13 回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第 14 回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005 年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。なお、授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）

木村　健二

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代の日本をめぐる人の国際移動に関わる歴史的・社会的諸事象について学ぶことを通して、それらがそのときどきの国際関係に強く影響されたものであったことを理解し、あわせて今日の日本における外国人労働者問題と比較対照できるようになることを目的とする。

【到達目標】
1) 近現代の日本をめぐる人の国際移動に関わる歴史的・社会的諸事象にはどのようなものがあったかを学び、2) それらがそのときどきの国際関係に強く影響されるものであったことを理解し、3) あわせて今日の日本における外国人労働者問題と比較対照できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・基本的にテキストにそって、プリントを配布して進めていく。
・予習・復習の課題を課す。
・講義の感想や質問事項を受付け、次回にそれについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要とテキスト序章	移民の定義、移民に関する論点について解説する
2	第 1 章 近代日本の出移民史	出移民の属性、背景、諸契機、郷里とのつながりについて検討する
3	第 2 章 ハワイ日系人の社会史	ハワイの特徴、プッシュ・プル要因、ハワイ移民の変遷を 7 期に区分して検討する
4	第 3 章 アメリカ合衆国への移民	漂流民、ハワイからの転航、排日、戦時下の強制収容、日本人会について検討する
5	第 4 章 カナダへの移民	日本人移民の属性、漁業移民、文化的側面とその変容について検討する
6	第 5 章 ブラジルの移民政策と日本移民	ブラジル側の事情を中心に、日本人移民の置かれた状況とその変遷をたどる
7	第 6 章 中南米への移民	中南米への日本人移民の概要を述べたうえで、ペルーへの移民や沖縄からの移民について解説する
8	第 7 章 満洲移民の生活世界	満洲農業移民の送り出しや開拓生活について述べたうえで、日本敗戦以降の引揚げとその後の戦後経験について考察する
9	第 8 章 東南アジアへの移民	東南アジアへの日本人移民を、出稼ぎから経済進出について述べ、戦時下の状況、今日の来日東南アジア人について言及する
10	補論① 近代日本のからゆきさん観	明治以降のシンガポールを中心に、外務省の政策やジャーナリズム、文壇で展開されたからゆきさん観について解説する
11	補論② 南洋群島への移民	第一次世界大戦以降の南洋群島への移民送り出し政策や移民の背景、入植後の動向、敗戦後の状況について解説する
12	第 9 章　在日ブラジル人/デカセギ移民	1980 年代以降増加していくブラジル日系人の日本出稼ぎとその帰趨、「帰国支援事業」について検討する
13	第 10 章 在日コリアンの歴史的変遷と生存のための経済戦略	在日コリアンの歴史的推移をたどり、生存戦略としての経済活動に関して検討する
14	終章 移民研究の現状と展望	移民研究の現状と課題を、北米と中南米、そしてアジア方面に関して検討し、まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前にテキストを読んでくる。
・今回の復習事項と次回の予習事項、質問事項につき、与えられた課題をペーパーに記入して次回に提出する。

【テキスト（教科書）】
・日本移民学会編『日本人と海外移住』明石書店、2018 年。（2600 円）

【参考書】
・テキストに記載している参考文献。
・各回に指定する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回の課題提出〜30 %。
・到達目標の 1)、2)、3) が、どの程度できているかを期末テストによって判定する〜70 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度が初めての担当なので記載すべき情報がない。

【Outline and objectives】
To learn about various historical and social phenomena of international migration around modern and contemporary Japan,especially to think from the perspective of international politics.

ARSl200GA

国際関係研究Ⅲ（地域紛争とエスニシティ）

中島　成久

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**地域紛争とエスニシティ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。
現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】
１９６６年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。
オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。DVD、VHS、Youtube などの視聴覚教材を多用する。出席票へのコメントを次の回の授業中に行い、学生の理解を深められるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	国家と暴力、成績評価説明、１９６５年の９月３０日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説＋成績評価説明
第 2 回	国家と暴力	「アクト・オブ・キリング」②
第 3 回	領土と起源①	オランダ東インド会社'VOC)
第 4 回	領土と起源②	オランダ領東インド (蘭印)
第 5 回	領土と起源③	アチェ戦争
第 6 回	ナショナリズム①	インドネシアの国民音楽
第 7 回	ナショナリズム②	日本軍政から独立へ
第 8 回	開発の時代①	アサハンプロジェクト
第 9 回	開発の時代②	コトパンジャンダム裁判
第 10 回	開発の時代③	開発と先住民①オラン・リンバの現状
第 11 回	開発の時代④	開発と「先住民」②アブラヤシ開発
第 12 回	開発の時代⑤	違法入植の現状
第 13 回	開発の時代⑥	エコツーリズムの可能性
第 14 回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１　授業内で指示した参考文献をよく読むこと
２　図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること

【テキスト（教科書）】
中島成久　『インドネシアの土地紛争――言挙げする農民たち』創成社新書、2011 年
加納啓良（編）　『インドネシアの検定』メコン、2010 年
映画　ジョシュア・オッペンハイマー監督「アクト・オブ・キリング」

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験 (70 %) ＋平常点 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The topic of this class is post colonialism in Indonesia. Territory and Violence are main issues of this class. Nation and Violence which represent the most important phenomenon of Modern Nation-State are discussed through examples from the data of the colonial state as well as the era of development.

ARSf300GA

国際関係研究Ⅴ（東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学）

中島　成久

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**東南アジアの文化**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学」というテーマで授業を行う。地域としての東南アジア像を理解し、その上で、インドネシア（ボロブドゥール、バリ、スマトラの熱帯雨林）、フィリピン（イフガオの棚田）それにタイ、カンボジア国境紛争の原因となっているプレア・ビヘア寺院などの世界遺産をめぐる文化の政治学的な問題を検討する。

【到達目標】
国際文化学部生にとってはなじみのない東南アジアについて、その世界遺産をめぐる文化の政治学的な課題を理解し、日本との共通性と世界史的なコンテキストを把握できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。DVD や Youtube などを多用する。出席票のコメント欄について、次の回に特徴的なものを紹介し、学生の理解を深めるよう努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「文化の政治学」とは、授業内容の説明、成績評価の説明
第 2 回	インドネシア①	ボロブドゥール①曼荼羅の宇宙
第 3 回	インドネシア②	ボロブドゥール②過去の栄光と現在の空白
第 4 回	インドネシア③	バリ①循環する水
第 5 回	インドネシア④	バリ②ブサキ自院はなぜ世界遺産を断ったのか
第 6 回	インドネシア⑤	スマトラの熱帯雨林①グヌン・ルスル国立公園
第 7 回	インドネシア⑥	スマトラの熱帯雨林②クリンチ・スブラット国立公園
第 8 回	インドネシア⑧	スマトラの熱帯雨林③ワイ・カンバス国立公園
第 9 回	フィリピン①	イフガオの棚田①歴史
第 10 回	フィリピン②	イフガオの棚田② 1903 年セントルイス博覧会
第 11 回	フィリピン③	イフガオの棚田③保全事業の検証
第 12 回	カンボジア①	アンコールワット
第 13 回	カンボジア②	プレア・ビヒア寺院
第 14 回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストをしっかりと読むこと、図書館などで関連する文献を調べ、関心を広げること。

【テキスト（教科書）】
ベネディクト・アンダーソン『言葉と権力』中島成久訳、日本エディタースクール出版会
永淵康之『バリ　宗教　国家』青土社
高橋　進『生物多様性と保護地域の国際関係』明石書店
清水　展『草の根のグローバリゼーション、世界遺産棚田村の文化実践と世界戦略』京都大学学術出版会
笹川秀夫『アンコールの近代－植民地カンボジアにおける文化と政治』中央公論新社

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験 (70 %) ＋平常点 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The topic of this class is politics of culture of world heritages in Southeast Asia. It is stressed that the world heritages of Southeast Asian countries reflect not only world wide views but also the nations' inner politics and cultural policies.

ARSa400GA

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2018 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させてください。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方がありえます（「EU の政治と社会」）。経済学部なら、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部には、食糧需給の観点から共通農業政策（CAP）を扱う授業があります（「国際食糧需給論」）。グローバル教養学部（GIS）には、ウクライナ危機や難民問題のような現在進行中のトピックから出発し、英語を使用言語として実施されている授業もあります（"European Integration"）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあると言えます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラーム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンスが含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとでの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明　※プリント「地域協力・統合　受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンら 17 世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、この授業について 90 分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。
・ほぼ毎週小テストを実施します。これは全員必須で、授業支援システム（インターネット）上で受験します。
・アクティブ・ラーニングに関係して、事前に資料や映像を見てくる宿題が出される場合があります。

【テキスト（教科書）】
遠藤乾編『原典　ヨーロッパ統合史　史料と解説』名古屋大学出版会, 2008 年。

【参考書】
金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史―人物を通して見たあゆみ 』有斐閣、1996 年。
ジェラール・ノワリエル『フランスというるつぼ』法政大学出版局、2015 年。
エティエンヌ・バリバール『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社, 2006 年。
イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』庄司克宏監訳、岩波書店、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
・小テストの受験【**全員必須**。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】
高校や大学 1 年時の学習との橋渡しを意識し、NHK の高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】
・パソコンかスマートフォンが必要。
・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
・「授業支援システム」＞「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
・連絡はメールでお願いします。メールアドレスは授業支援システムを見て下さい。

【その他の重要事項】
・シラバスを熟読してください。

【Outline and objectives】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

HIS300GA

Cultural Dimension of American Foreign Relations

佐原　彩子

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスで学生は、アメリカ外交の変容を移民史を通して学びます。グローバルな視点からアメリカの移民政策を理解することで、移民が人種・エスニック編成をどのように作り、また変化させてきたのか学びます。

【到達目標】
The goal of this course is that students to understand the relations between immigration and American foreign relations from colonial era to present. In particular, students will gain academic knowledge on American immigration history as well as American foreign relations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
This course is designed as a series of students' presentations with class discussions. Due to a class size, the method would be changed. At the end of each class, students are required to submit their reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Students learn how to learn cultural dimensions of American foreign relations.
2	This Isn't a Border Wall: It's a Monument to White Supremacy	Critiques the idea of building the wall by Trump Administration.
3	How Immigration Became So Controversial	Looks into the current argument on immigration.
4	Chapter 1: Empires and Migration (1)	Overviews the contexts of global migration.
5	Chapter 1: Empires and Migration (2)	Learns specifically on Asian immigration.
6	Chapter 2: Race and the American Republic (1)	Looks into racism towards Asian immigrants.
7	Chapter 2: Race and the American Republic (2)	Overviews exclusion on immigration.
8	Chapter 3: Living in the Margins (1)	Examines the ways in which the U.S. created the category of ineligible for citizenship.
9	Chapter 3: Living in the Margins (2)	Analyzes the diverse groups of immigrants into the U.S. society.
10	Chapter 4: Crucibles of War (1)	Learns the internment of Japanese Americans.
11	Chapter 4: Crucibles of War (2)	Prevalence of anti-Communism and the significance of refugees in the Cold War politics.
12	Chapter 5: Imperialism, Immigration, and Capitalism (1)	How the U.S. liberalized its immigration policy in relation to its foreign policy.
13	Chapter 5: Imperialism, Immigration, and Capitalism (2)	Looks into the immigrant lives in a new era of globalization.
14	Wrap Up Session	Overview the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review what you learn in a class and work on your assignment. If you are not familiar with American history, you should study basic historical events of American history.

【テキスト（教科書）】
Madeline Y. Hsu, Asian American History: A Very Short Introduction, New York: Oxford University Press,2017.

【参考書】
Donna R. Gabaccia, Foreign Relations: American Immigration in Global Perspective, Princeton University Press, 2012（一政（野村）史織訳『移民からみるアメリカ外交史』白水社、2015 年）.
和田光弘編著、『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】
Contribution/ Response Papers (40%)
Short Essay (20%)
Presentation (40%)

【学生の意見等からの気づき】
Nothing in particular since I do not have any result from the survey.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【None】
None.

【Outline and objectives】
In this class, students learn the dynamics of American foreign relations through the history of immigration. To understand American immigration policies from a global perspective with the intersection of transnational linkages created by immigrants, students will see how immigrants built and changed America of its racial and ethnic composition over time.

INF300GA

情報文化演習

春学期担当：佐藤　雅明，秋学期担当：和泉　順子

サブタイトル：**情報科学技術の問題の発見と考察**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータとコンピュータ、ネットワークとネットワークを相互に接続することから始まったインターネットは、その技術の普及と発展により、ネットワークは社会基盤の一部を担うようになった。インターネットの上では様々なデジタル情報が交換され、既存メディアには無い多様性と価値を生み出している。その一方では、国境を超えたコミュニケーションメディアである点やその広がりから、他の社会システムとの協調や調整が必要なケースも多く、グローバルな視点での問題発見や解決が重要となる。
本演習では、こうしたインターネットを前提とした情報科学時代において、コンピュータネットワークの基本的な考え方や構成技術を理解し、社会的課題の発見と解決について学ぶとともに、自らの意見を発信できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・インターネットの基本原理とその考え方、および構成技術の基礎を理解する
・グローバルな視点による社会課題の発見とその解決方法についての考え方を学ぶ
・技術的な視点に基づいた、自らの意見を発信する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
春学期では、共通の本を精読して発表する「輪読」の他に、各々の興味に関連する読書（サーベイ）を継続的に行う。単純に本を読むだけでなく、そこから何を読み取ったかを他の人に説明するため、できるだけ本の内容や自分の意見を正しく伝えるために必要なスキルを学ぶ。
秋学期では、春学期に得た知識をベースとし、実社会における具体的な問題について議論をおこなうために、現在の情報科学技術を支える構成技術を理解し、自分なりの考えをまとめて発信するために必要なスキルを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要および春学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマを探る
2	これまでに修得した情報技術の確認	各々が、高校あるいは大学の講義でどのような情報関連科目を履修し、どのようなスキルや知識を修得したのか確認する
3	課題解決に必要な情報技術の議論	今後取り組むテーマや興味に、あるいは解決したい問題に対して、どのような情報技術が影響するのか考え、なにが必要なのかを議論する
4	精読する本の紹介と選定	情報技術とその社会への影響に関する本の中で、履修者の興味に共通する本を複数紹介し、輪読する本と分担を決めるする
5	情報技術と社会環境（1）	近年話題となっているロボットや AI、IoT、ビッグデータなどの情報科学技術の現状と、展開に際しての問題点を議論する
6	情報技術と社会環境（2）	前回の議論を踏まえた自分なりの提案を論理的に説明するための準備を行う
7	学生発表（1）	前回の準備から、情報科学技術の展開に関する問題点とその対応に関する発表を行い、互いの発表の過不足を議論する。
8	学生発表（2）	前回の発表とそれに関する質疑応答、改善策に関する議論を踏まえ、再構築した発表を再度行い、改善を確認する
9	輪読（1）	第 4 回で選定した本を精読した結果として、輪読を行う。担当者によって１〜２章ずつ行う。
10	輪読（2）	前回に続き、輪読を行う。
11	輪読（3）	前回に続き、輪読を行う。 また、輪読によって得られた知見、さらに調査が必要な点などについて確認する。
12	研究テーマに関連する本の紹介	各々が自分の興味、あるいは研究テーマを意識しながら関連する本を選定し、簡単に発表する
13	他の人の研究テーマに関する質疑、提案	前回の発表をもとに、自分以外の研究テーマに関する質問や提案を行うことで、互いに新たな視点を得る
14	秋学期に向けての準備	秋学期に向けて、必要な知識やスキルを確認し、夏休みになにをするか自らが課題を設定する
1	イントロダクション	本演習の概要説明と導入、および秋学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマについての議論をおこなう
2	インターネット概要	現在のインターネットの役割と環境、およびこれまでの変遷について学ぶ
3	インターネットの構成要素	インターネットを支える技術と構造、およびデジタル情報の特徴について学ぶ
4	インターネットのサービスと課題	インターネットで現在行われているサービスについて考察すると共に、顕在化している、あるいはこれから起こりうる課題について議論する
5	学生発表 (1)	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
6	IoT・ビッグデータ (1)	具体的なテーマとして、センサデータの利活用の事例や国内外の動向について学ぶ
7	IoT・ビッグデータ (2)	前回の授業を受けて、センサデータの利活用や事例に対して理解を深めると共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
8	セキュリティ	具体的なテーマとして、インターネット上のセキュリティ問題や国内外の動向について学ぶと共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
9	グローバルガバナンス	情報科学技術の規格化・標準化や、国際的なルール作りの方法や過程について学ぶ
１０	学生発表 (2)	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
１１	テーマ演習 (1) ：テーマ選定	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマを定める
１２	テーマ演習 (2) ：テーマ分析	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマの問題や解決法の分析をおこなう
１３	テーマ演習 (3) ：テーマ整理	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマに対し、情報科学技術的なアプローチでとりまとめる
１４	最終発表	履修者が、それぞれが情報科学技術の視点から、自身の問題発見・問題解決に向けた考察内容について、発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業を受けるにあたって特別な前提知識は必要としない。課題やレポートについては、授業の中で適宜指示をする

【テキスト（教科書）】
教科書は特に必要としない

【参考書】
必要な参考書などは授業の中で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業における研究発表、および授業での学習状況などの平常点を総合して評価する。具体的には、授業における発表 (3 回を予定) を 60%、および平常点を 40%を目安とした配分とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
In this seminar, we learn about the basic concepts and composition techniques of computer networks, discuss the organisation and the solution about social problems regard to the internet. Moreover we also acquire the skill to represent their own opinions.

FRI300GA

情報文化演習

大嶋　良明

サブタイトル：**vvvv でインタラクティブなメディアアートを創ろう**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●テーマ
永遠のテーマは、「マルチメディアとネットワーク」ですが、特に先端芸術（音・映像・インタラクティブが融合した表現芸術）に関心があります。マルチメディアは**メディアアート**へと拡張し、ネットワークといえば今日では **IoT**、すなわち我々を取り巻く総てのモノがインターネット上で有機的に繋がること。2019 年度の重点テーマは、**メディアアートの作法に親しむ**。
vvv, Arduino, Kinect, GoPro, Raspberry Pi などを駆使して、CG とくに対話的なメディア・アート作品を制作します。
●授業運営の方針
「やりたくなったらまず動く」“Be Proactive!” これに尽きます。
●ことし研究室では何をするのか？
vvvv というメディア処理ソフトに習熟し、Arduino , Raspberry Pi, iPad で対話的に反応する作品の制作技法を身に着けて、その学習成果を ePortfolio にまとめます。
●「何を学ぶのか？」から「何ができるのか？ 何のために学ぶか？」へ
これまでのゼミ生たちは Web, サウンドデザイン、アニメ制作、映画監督、UX、情報科教員などの分野に進み、留学、大学院進学者もたくさん輩出しました。参考にして下さい。最近の実績分野については後述しました。

【到達目標】
●目標
・コンピュータを自分の表現のために応用すること
・インターネットネット社会で自分を表現すること
・新しい物作りを構想し提案すること
を通して
・社会の中で十分に役に立つもの
・長期的に世の中を見通す力
を身につけたいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
● ICT の最先端を学びます。
●各自がテーマを決めて、個人研究あるいは作品制作に取組みます。
●学習成果の「見える化」には e-Portfolio を積極活用しましょう。
● 4 年生は各自（あるいは連名）で、3 年生は全員でひとつのテーマで、**国際文化情報学会**および学外での成果発表に向けて取組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、学術活動とその基盤、春学期学習テーマの導入	【講義】　アカデミック・スキルズと研究環境を理解する。とくにネットワーク環境について全員で習得する。Web を学ぶためのクライアント環境、端末について検討する。 vvvv を中心とする春学期学習テーマの概要を把握する。 【演習】　ePortfolio を立ち上げる。
2	vvvv の基礎	【講義と演習】 ビジュアルプログラミングの考え方を理解する。vvvv の開発の歴史とこれまでの経緯を学ぶ。 ノードベースのプログラム開発の考え方を理解する。vvvv におけるパッチ、ノードとは何かを理解する。ノード、ピン、リンクの基本操作を学ぶ。インスペクタ、ヘルプ、IOBox、レンダリングの機能を理解する。
3	vvvv プログラミング（1）	【講義と演習】　ノードベースのプログラム開発の考え方を理解する。図形の生成と基本変形の操作、アニメーション、色、透明度の操作を身につける。配列（スプレッド）、条件分岐、論理演算を学ぶ。
4	vvvv プログラミング（2）	【講義と演習】インタラクティブなどの機能を学ぶ。サブパッチ、モジュールなどの機能の部品化を理解する。 【月例報告】　ePortfolio
5	ジェネラティブな表現法	【講義と演習】　計算による線描、色の生成、ランダム化、インタラクティブな作品性を学ぶ。
6	動きの可視化	【課題と演習】　Kinect, leapmotion などジェスチャーセンサーの動作原理とデータ構造を理解する。センサーデータの取り込み方法を学ぶ。 【調査】　メディア・アートと vvvv
7	【制作課題（1）】【中間発表（構想発表）】	【実習】これまでの学習内容にもとづき vvvv 作品を制作する。基本テクニックの組合せのみでの十分な作品性を目指す。既習単元にとどまらず探究的な要素を必ず含める。 【発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
8	プロトタイピング（1）：　メデイア・データ	【講義と演習】　画像、映像、音声などメディアデータの利用を学ぶ。各種メディアデータのリアルタイム解析と作品表現への利用を学ぶ。
9	プロトタイピング（2）：　プロトコル連携	【講義と演習】　OSC などプロトコル経由でのアプリケーション、ハードウェア連携を学ぶ。
10	プロトタイピング（3）：　デバイス系	【講義と演習】　Arduino マイコンと vvvv との連携を学ぶ。シリアル通信および Firmata ライブラリによる連携方法を学ぶ。
11	【制作課題（2）】	【実習】プロトタイピングの学習内容にもとづき vvvv 作品を制作する。特に複数システム、他のアプリ、外部デバイス連携を含む総合作品の制作を通じて、展示に耐える実装知識や必要な規模感を身につける。 【調査】デバイス系への応用 Arduino, Raspberry Pi と vvvv 【月例報告と発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
12	ケーススタディ（1）VJ の基礎技法	【講義と演習】　ライブエンコーディング、映像音声と vvvv とのリアルタイムの同期を学ぶ。
13	ケーススタディ（2）オープンデータ、ビッグデータ	【講義と演習】　インターネットから様々な未知データを取得し解析する方法と映像音響作品に反映する手法を学ぶ。
14	【まとめ】【中間発表（学期末）】	【実習】春学期のまとめとして多元的でインタラクティブな総合作品を制作する。 【月例報告と発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。 【夏休み宿題】　Raspberry Pi Zero W の環境構築
15	秋学期キックオフ	春学期の振り返りに基づく秋学期学習領域を確認する。周辺領域の必要知識、参考書（ドイツ語技術文献）の輪講スケジュールを策定する。
16	Firmata 詳説（1）：センサデータの活用	【講義と演習】　Firmata 経由で Arduino でのポテンショメータ値、温度センサ値検出を学ぶ。応用スケッチの構想を発表し、プロトタイピングに着手する。
17	Firmata 詳説（2）：vvvv スケッチへの応用	【講義と演習】　Firmata 経由での Arduino 連携を vvvv スケッチとしての実装を完成させ発表する。 【e ポートフォリオ】制作内容を e ポートフォリオに定着させる。
18	OSC 詳説 (1) ：加速度センサ	【講義と演習】　OSC プロトコルにより WiFi デバイスと vvvv の連携方法を学ぶ。加速度センサ情報の活用法を学ぶ。
19	OSC 詳説（2）：vvvv スケッチへの応用	【講義と演習】　OSC 経由での複数デバイスの連携を vvvv スケッチとして実装を完成させ、発表する。 【e ポートフォリオ】制作内容を e ポートフォリオに定着させる。

20	【制作課題（3)】【中間発表・学会発表準備】	【実習】プロトタイピングの学習内容にもとづき vvvv 作品を制作する。特に複数システム、他のアプリ、外部デバイス連携を含む総合作品の制作を通じて、展示に耐える実装知識や必要な規模感を身につける。 【調査】Firmata、OSC、 USB 接続、BlueTooth など複数のデバイス連携による vvvv スケッチの可能性を検討する。 【月例報告と発表】　研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。本中間報告会の成果により学会発表応募の形態を検討する。
21	【第 3 回中間発表・学会発表準備】	【発表】　研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。本中間報告会の成果により学会発表応募の形態を検討する。
22	トラッキング概説	【講義と演習】　カメラデータの取り込み、Video ノード、Camera In ノード、可視光、赤外線のフィルタなどの活用法を習得する。
23	WebCam の活用	【講義と演習】　WebCam 映像から動きや色を検知抽出する方法を学ぶ。
24	WebCam の応用：機械学習による顔認識、表情認識	【課題演習】　本人画像で特徴を機械学習、WebCam 画像から顔認識に応用する技法を学ぶ。 【報告】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。12 月初めの学会発表にむけての準備状況を情報共有する。
25	ジェスチャー、対話性	【講義と演習】　Kinect、leapmotion センサからスケルトン情報や深度データを取得する方法を学ぶ。
26	【制作課題（4）】	【実習】これまでの学習内容にもとづき vvvv 作品を制作する。特に複数システム、他のアプリ、外部デバイス連携を含む総合作品の制作を通じて、展示に耐える実装知識や必要な規模感を身につける。
27	出力デバイスの多重化・複数化：レンダリングの作業分割	【講義と演習】複数ディスプレイの活用法と Boygrouping による大規模 vvvv レンダリングのクライアント・サーバ構築を学ぶ。
28	【期末発表】　2019 年度のまとめ	【発表】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。 【学習成果の総括と見える化】学習内容の総まとめを実施する。ePortfolio で学習成果を定着させ、コンテンツとして公開する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
文献講読、プロジェクト活動、自主的な学習など授業時間外に求められる学習行動はとても大事です。プロジェクト運営、文献レポータなど積極的に活動してください。
とくに学外での貴重な学びの機会として vvvv の勉強会やメディアアート関連のイベントがあります。まずは聴講参加を心がけてください。そしてできれば作品発表できるようになりたいです。

【テキスト（教科書)】
演習では学ぶべきことが多岐にわたるので必要に応じて文献を紹介します。
今年度にとりあげる vvvv の教科書として
伊東 実, 星 卓哉,「vvvvook -プロトタイピングのためのビジュアルプログラミング入門」, ビー・エヌ・エヌ新社 (2014), ISBN-13: 978-4861008009
を指定します。

【参考書】
【vvvv】
秋学期の重要参考書として
Jan Barth ほか、"Prototyping Interfaces: Interaktives Skizzieren mit vvvv"、Schmidt Hermann Verlag (2013)、ISBN-13: 978-3874398435
を挙げておきます。ドイツ語文献ですが、関連項目の学習に非常に参考になります。
【Raspberry Pi】
日本語で読める参考書がたくさん出版されています。例えば
Japanese Raspberry Pi Users Group,「Raspberry Pi〔実用〕入門」, 技術評論社 (2013),ISBN: 978-4774158556
は良くまとまっています。
【Arduino】【プロトタイピング】
小林 茂 ,「Prototyping Lab 第 2 版 ―「作りながら考える」ための Arduino 実践レシピ (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2017)、ISBN-13: 978-4873117898
が参考になります。
【Web】
今日の Web の最前線に触れると言う意味で：
「Web サイト制作 最新トレンドの傾向と対策」MdN(2012)、ISBN: 978-4844362456 を多く参照しますが、これに限らず他の文献も多用します。
【文化情報学】
大学院で情報学系の研究を目指す学生のためにじっくりとまた批判的に読んでもらいたい論集と書籍を挙げておきます：
Durham and Kellner (ed), "Media and Cultural Studies Keyworks", Blackwell(2001), 978-0-631-22095-4
Thomas Swiss(ed), "Unspun - Key Concepts for Understanding the World Wide Web", New York University Press(2000), ISBN 0-8147-9759-8
Cambridge, "Eportfolios for Lifelong Learning and Assessment", Jossey-Bass(2010), ISBN: 978-0470503768
西垣通、「基礎情報学―生命から社会へ」、NTT 出版 (2004)、ISBN-13: 978-4757101203

【成績評価の方法と基準】
●成績評価方法　セメスタ毎に総合評価します。欠席は認めません。止むを得ない事情で欠席する場合には必ず申し出てください。また講義内容を復習して次の授業までに実習課題を済ませておいてください。
　Proactive な運営方針にもとづき、学生個人によるゼミ制作・ゼミ論研究（25%)、全体プロジェクトとグループ活動 (25%)、学会への参加や外部コンペへの作品応募 (20%)、各種資格（情報・英語関連など実践力形成に限る）の取得努力 (20%)、研究指導を受けるための個別面談 (10%) などをすべて総合的に評価します。
　最後にまとめとしてのゼミ論、あるいは何らかの作品制作（狭い意味での表現に限らず、システム・プログラム等でもよい）と制作レポートを課します。

【学生の意見等からの気づき】
（1）演習形式であるため、授業アンケートのような期末アンケートではその場の学習ニーズに対応できない。面談による個別指導によってこれまでも対応してきており、今後もこの方針を継続します。面談を通じての個別の研究指導とゼミでの学びをうまく組み合わせて効率的な学びをサポートできるようを配慮してゆきます。
（2）意欲ある学生の参加を歓迎します。4 年次からの研究や作品制作も可能ですので、演習変更希望の場合は事前に相談ください。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミは国際文化学部情報セミナー室（BT#0704）にて行います。
2019 年度の学習には、Windows PC, Mac, iPad, LINUX サーバ、MIDI 楽器、Kinect, Raspberry Pi などのデバイス等を使いますが**必要な機器はすべて研究室**にあります。講義時間外での作業のために WindowsPC か Mac(あるいは LINUX サーバ) が必要です。また vvvv はフリーソフトウェアですので、自分にパソコンにダウンロードしてすべての課題実習と作品制作に取り組むことができます。またユーザー同士の交流もとてもさかんです。
研究活動は情報準備室（BT#0703）のネットワーク、サーバ、マルチメディア装置からなる SOHO 環境を基盤として実習します。

【その他の重要事項】
●履修上の注意
　まず手を動かす、自分で調べる、しっかり聞く、物怖じせずに発言する。そこから文化と情報を発想します。自分ひとりでは解らないこともありますから、担当教員と面談を通じて指導を受ける、あるいは作品制作について助言を受けるなど風通しの良いコミュニケーションを心がけてください。
　また、
　・情報系、メディア系専門科目の 3～4 年次での履修
　・情報処理・メディア関連の検定資格取得
　・継続的な英語力養成の必要性
を明言します。
非常に関連が深い科目として「コンピュータ音楽と音声情報処理」があります。おなじく Pure Data を重点的に扱う科目として、きっと参考になると思います。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア制作・表現手法に関する授業を担当する。

【研究室の活動実績】
【研究・制作活動】
2011 年度：学部の動画配信システムの構築。
2012 年度： e-Portfolio の学部導入、全学導入にむけての技術的検討。大学院でのメディア論科目と連携。
2013 年度： e-Portfolio（HOPS）の構築に参加。
2014 年度より： Puredata パッチングサークルに参加、発表。
2015 年度（研究留学）： Carnegie Mellon 大学の Music & Technology においてコンピュータ音楽とサウンドデザインの研究。（演習は東京工科大学デザイン学科の松村誠一郎先生）
2016 年度： PureData でシンセサイザ、エフェクタ、シークエンサなどをインタラクティブな仕組みと組み合わせてライブ演奏向けに制作。
2018 年度： Prezi Night　（２０１９年２月）に参加。
【学部学会】3 年生は連名で学部学会に発表参加する、4 年生は個人で研究成果を発表することを目指してきました。
2014 年度は研究室からポスターとデモで発表 3 件。
2015 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表。
2016 年度は 3 年生が中間成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。
2017 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。
2018 年度は 3 年生がポスター発表 1 件。
【学外の学会等】
2012 年度の学会参加
私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」
教育システム情報学会「全国大会」
日本教育工学会「e ポートフォリオの活用と普及」研究会
2013 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2013 での研究発表（2 件）
2014 年度の学会参加
Mahara Open Forum 2014 での研究発表（1 件）
Pure Data パッチングサークルへの参加（5 回）
2016 年度の学会参加
私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」
Pure Data パッチングサークルへの参加（2 回）
2016 年度の学会参加
私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」
2018 年度の学会参加
ADADA2018 学術大会にて研究発表。

【Outline and objectives】
The course deals with media art programming by vvvv and extends interactive creativity by use of various kinds of external data obtained through stand-alone and micro-controller-enabled sensor devices such as WebCams, accelerometers, thermo sensors, infra-red gesture detectors. The purpose of this course is to support students with their individual research project and undergraduate thesis. ePorfolio is provided as the learning platform to support reflection and active learning.

DES300GA

情報文化演習

甲　洋介

サブタイトル：**＜こころ・つながり・空間＞　感じるデザイン学**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年･隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期/Spring・Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
暮らしと心を豊かにする「体験の空間」「道具」をデザインする。こころが感じる仕組みを学び、人と人がつながる難しさを考える。基礎文献をじっくり読み込んだり、建築や空間での人の行動をフィールドワークしたり、遊び心のあるモノづくりに挑戦する演習である。
【コミュニケーション (つながり) と文化の、デザイン学をめざして】
　言葉にならない「思い」を伝え合うコミュニケーションの空間、愛着を感じる道具、「知」を拡げ、遊び心がふくらむ暮らしの「空間」「道具」を君たちと創り出そうと思う。　そのために、ふだん忘れている感覚、懐かしい匂い、視覚風景に隠れている音たち、目にしたことがない色を初めて見た体験、うっとりする肌触り…、そういう身体の体験・感覚を呼び起こし、こころの声にじっくり耳を傾けよう。
【興味あるテーマの例】
(1) 楽しくて、使いやすい「道具、インテリア、家具」の制作
(2) こころとココロをつなぐ、離れて暮らす家族たちをつなぐ、穏やかなコミュニケーション技法 〜つながるフリは寂しい、でも濃密なのはもっと怖い？
(3) コトバで嘘をついても、カラダは正直に動いてしまう？ 現象
(4) アートとコミュニケーションの情報空間
(5) 居心地よい空間デザインの研究、遊び心のデザイン
(6) 仮想世界における「私」、こころの問題
(7) こころの科学、感情の脳科学
(8) 人工知能は、ヒトの何を超えるのか
(9)「個・種・域」を越境し、身体、いのち、自然の息吹を伝える『禅的』情報空間の探求

【到達目標】
・日常の具体的な場面を切り出し、人間中心設計の手法を応用して、利用者の特性を考慮したエクスペリエンス・デザイン（体験のデザイン）をできるようになる。
・演習を通じて、問題の本質を洞察する力、デザインの方向性の適否を嗅ぎ分ける美意識、研究活動を計画しやり遂げる実行力、を育む
　君もやがて、実社会に出たとき解答のない課題に取り組むことになる。これらの力はそのときに頼りになるはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「暮らしと文化のデザイン学」がテーマである。「コミュニケーション」「道具」「空間」のデザインを基本に、つぎの４つの観点を常に意識しながら学ぶ。この演習の研究課題のいくつかは、世界に未だ解答がない。その答えを一緒に探す知的探検となる。

「知」を拡げ「遊び心」を拡げる道具のデザイン
↓↑
人と人のつながり ⇔ | 暮らしと文化のデザイン学 | ⇔ 人のこころ　感情、身体
↑↓
人の営みを支える文化、自然とつながる環境、そして空間

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、自己紹介
2	暮らしを豊かにする空間や道具たち	暮らしの空間・道具をフィールドワークする
3	暮らしの道具をデザインする①	基礎的な考え方を学ぶ
4	暮らしの道具をデザインする②	デザイン方法論を学ぶ
5	デザイン・ワークショップ	デザイン実習（グループ）
6	成果発表	発表、討論、解説
7	こころと感情の科学①	基礎的な考え方を学ぶ
8	こころと感情の科学②	理論を学び、考えを深める
9	こころと感情の科学③	発表、討論、解説
10	空間デザインとアクティビティ①	基礎的な考え方を学ぶ
11	空間デザインとアクティビティ②	アクティビティを分析してデザインする
12	空間デザインとアクティビティ③	実例を学ぶ：体験する、考えを深める
13	デザイン・ワークショップ	デザイン実習（グループ）
14	発表会、まとめ	個人研究の構想発表、討論、解説
15	オリエンテーション（秋）	テーマの解説、進め方の話し合い
16	個人研究、グループ研究の育て方	個人研究／グループ研究のテーマ設定と、研究の育て方
17	心とココロがつながるとき：コミュニケーション論	心とココロがつながる難しさ
18	心とココロをつなぐコミュニケーション①	理論を学び、考えを深める
19	心とココロをつなぐコミュニケーション②	コミュニケーションの新しいカタチを探してみよう
20	心とココロをつなぐコミュニケーション③	実例と、デザイン手法を学ぶ
21	デザイン・ワークショップ	体験、デザイン実習（グループ）
22	トピック： AI〜知的人工物と生きる	実例に学ぶ、討論、解説
23	文化と、社会と、情報空間	文化と、社会と、情報空間
24	文化と、社会と、情報空間のデザイン①	文化と情報空間：基礎的な考え方を学ぶ
25	文化と、社会と、情報空間のデザイン②	暮らしを拡張する仮想世界
26	文化と、社会と、情報空間のデザイン③	近未来の暮らしのデザイン
27	デザイン・ワークショップ	体験、デザイン実習（グループ）
28	発表会、まとめ	個人研究の成果発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの発表準備、学外でのフィールドワーク。合宿は春と夏（OG・OBと合同）に行っている。美術館、建築空間の探検によく出かける。

【テキスト（教科書）】
各自の研究テーマを伺い、道具のデザイン、こころの科学、コミュニケーション、空間デザイン、情報学と人工知能、を中心に提示する。

【参考書】
・「感情の科学」「コミュニケーションとしての身体」「こころの情報学」
・「未来のモノのデザイン」「ネット接続された心」「遊びと人間」
・「建築する身体」「アフォーダンス」「サステナブル建築」
・森の葬祭場（アスプルンド)、湖畔のアトリエ（コルビュジエ)、ヘドマルク博物館（フェーン)、光の教会（安藤)、修学院・桂離宮。

【成績評価の方法と基準】
①発表と討議への参画 (40%)、②グループ実習の取り組み (30%)、③成果レポート (30%) を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
モノづくり実習と、実例による体験、実験、を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC があるとグループワークや合宿の時に便利。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
演習室と、甲研究室の先進的な機材を生かした実習を行う。

【参加希望者へ】
人間の「こころ」や感情のしくみ、コミュニケーション、モノづくり、建築、空間、玩具、家具のデザインに興味をもつ方に向いている。
次のような人物とのコラボレーションに興味がある：　①不完全燃焼なまま大学生活を終わりたくない、②少なくともゾウとイルカには心が通じると信じている、③モノづくりが好き、④土俗的な感性を持つデザイナー、⑤言葉で伝わらない思いを大切にしている、⑥建築、空間デザイン、インテリアに興味がある、⑦幼い子供、高齢者が楽しめる情報の道具を作りたい、⑧芸術家肌のプログラマー、⑨北欧建築の透明感、日本庭園の奥義、仏像の表情に魅せられる、⑩海中に、自分の見ていない地球があと半分あることを知ってしまったダイバー。　好奇心旺盛で常識ある個性派、歓迎。
関連科目
仮想世界研究、道具のデザイン、道具による感覚・体験のデザイン、こころの科学、情報コミュニケーション１、システム論

【注意】
” パソコンを実習するゼミ” ではない。

【Outline and objectives】
This seminar allows you to study on DESIGN, Science of Mind, and Non-verbal Communication. You are also encouraged to join various kinds of Design Workshops including design of "experiences and artifacts" as well as a colloquium of basic literatures. We sometimes go out for a fieldwork of "art and architectures."

FRI300GA

情報文化演習

重定　如彦

サブタイトル：**コンピュータエンターテイメント**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、われわれの身の周りにはコンピュータを使ったありとあらゆるエンターテイメントが満ち溢れており、電車の中などでスマートフォンや携帯のゲーム機を楽しんでいる人の姿はめずらしくなくなってきている。また、単なる娯楽だけではなく、学習の場においてもコンピュータを使って楽しみながら学習効果を上げることを目的としたエデュテイメントと呼ばれるソフトウェアが注目を浴びている。また、近年では小学校からプログラミング教育が導入されるなど、プログラミングの技能の取得の必要性がますます高まってきている。
本演習ではそういったコンピュータを使ったエンターテイメントについて学び、自ら作品を作り上げていくことを目標とする。

【到達目標】
コンピュータエンターテイメントといってもそのジャンルは幅広く、プラットフォームもパソコン、ゲーム機、携帯端末を使ったものなど様々である。コンピュータエンターテイメントの特徴や、コンピュータエンターテイメントをどのようにして実現するかについて学び、理解する。
次にソフトを作成するための技法（プログラミングやウェブを使ったシステムの使い方）を学び、実際にソフトウェアを作成する。
われわれは普段はコンピュータのコンテンツを消費する立場であるが、コンテンツを提供する側の立場に立つことによって新しい視点を獲得し、新しいものをクリエイトする力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
演習の概要は以下の通り。
・輪講
コンピュータエンターテイメントに関する様々なテーマについて輪講を行い、基礎知識を身につける。
・プログラミングの演習
本演習の最終目的は何らかの作品を作成することであるが、そのためにはプログラミングの知識が必要不可欠になる。そのための演習を行う。
なお、学生のプログラミングの習熟度が異なっている場合は、習熟度別にグループを作り、演習を行う予定である。
・作品の設定と実習
3 年次ではグループごとにいくつかの作品を設定し、その作品を製作する実習を行う。また、作品に関して中間発表と作品発表を行う。後期には対戦可能な作品を作成し、お互いのグループで対戦会を行う予定である。
・テーマの設定と構想発表
3 年次の最後に、輪講やプログラミング演習を通じて、4 年次に作成する作品に関するテーマを各自考え、構想を発表する。
・個人研究
4 年次では各自のテーマに従って研究を行い、各自の研究成果をまとめ、発表する。
・国際文化情報学会における発表
各自の研究成果を国際文化情報学会において発表する。また、国際文化情報学会での発表の際に得られた意見などを自分の研究にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論とテーマ設定	コンピュータエンターテイメントの概論について学び、グループごとの輪講のテーマを設定する
2	グループ１の輪講と演習	グループ１のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（変数について）
3	グループ２の輪講と演習	グループ２のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（条件分岐について）
4	グループ３の輪講と演習。2 回目のテーマ設定。	グループ３のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（繰り返しについて）。2 回目の輪講のテーマの設定を行う。
5	グループ１の輪講と演習	グループ１のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（関数について）
6	グループ２の輪講と演習	グループ２のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（ファイル操作について）
7	グループ３の輪講と演習	グループ３のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（アルゴリズムについて）。なお、必要であれば、演習は引き続き行う。
8	作品のテーマの設定と実習	グループごとに作成する簡単な作品のテーマを設定し、実習を行う
9	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
10	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
11	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
12	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
13	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
14	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行うまたグループごとに作品を作成する実習を行う
15	品評会とまとめ	各グループの作品の品評会をおこない、春学期のまとめを行う
16	秋学期のテーマの設定と実習	お互いが対戦可能な作品のテーマを設定し、実習を行う
17	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
18	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
19	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
20	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
21	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
22	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
23	作品の品評会と次のテーマの設定	お互いの作品を対戦させ、品評会を行う。次の少し複雑な作品のテーマの設定を行う。
24	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
25	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
26	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
27	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
28	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、輪講の準備や作品の作成の作業などを行うこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【参考書】
必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（３０％）、輪講や作品の制作（７０％）で評価する。
発表資料や作品はｅポートフォリオに提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生のプログラミングの習熟度別にグループを分けたほうが良いという意見があったので、臨機応変にグループ分けを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ室のコンピュータを使用する。

【その他の重要事項】

プログラミングは一見難しく、とっつきにくそうに思えるかもしれないが、しっかりと勉強すれば 2 年間で自分自身の作品を作ることは十分に可能である。過去のゼミ生の一人に、途中まではあまりプログラミングに興味がなかったが、16 パズルを作成する演習を行ったところプログラミングに興味を持ち始め、自分で本などを購入してシューティングゲームを作成した学生がいた。本ゼミでは、やる気があればプログラミングの未経験者でも歓迎する。

また、以下のウェブページに過去のゼミの論文や、ゼミ生の作品の一部があるので興味のある方は参考にして欲しい。ただし、過去のゼミのテーマは現在のものと異なっているので、過去のゼミ論にはコンピュータエンターテイメントとは異なるテーマのものがある。

http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/zemi/

また、2013 年度からゼミ生の制作物を e ポートフォリオに保存することにした。http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/view/groupviews.php?group=142 からこれまでのゼミの作品のページにアクセスすることができるので興味のある方は見てほしい。

【Outline and objectives】

In recent years, computer entertainments are very close to our daily life, and there are many people playing computer entertainment by smart phone in the train. Moreover, software called edutainment software which uses entertainment for studying draws many people's attention. Objectives of this class are to study computer entertainment and to create original computer softwares.

SES300GA

情報文化演習

島野　智之

サブタイトル：**生物と持続可能な社会**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の加速的破壊が進むなか, 持続可能な社会作りを考える．フィールドワーク等を通して，我々はどうあるべきかを各自考える．世界に視野を広げ見直してみる．「生き物と文化」について，考える．

【到達目標】
与えられた課題をこなすだけでなく, 自分で問題点を見つけて取り組むことが出来るようになること．具体的には, 積極的に現場に出かけて情報を収集できるようになること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業だけではなく夏期休暇などを利用して，フィールドワークを計画している．
また, メイン・テーマ以外に, 自由な視点でプロジェクトを企画・実践し, 秋学期に開催される学部内の研究発表会に参加する（予定）. そして, 論文作成に取り組む.
特に，教室を出てフィールドワークを考える（たとえば，地方への訪問など）．また，ゼミに関係したゲストをお招きする予定.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介および 1 年間の授業計画
第 2 回	生物多様性とは何か	生物多様性についての概観
第 3 回	生物多様性はなぜ重要か	生物多様性の意義．国際関係や経済活動がなぜ繁栄するのか？
第 4 回	生物多様性条約	各国の生物多様性条約への取り組みと経済活動．各国間の駆け引き
第 5 回	日本の生物多様性	日本の生物多様性，日本における生物多様性ホットスポットとは？
第 6 回	日本の食料事情など	日本の食と文化について，漁業と文化〜
第 7 回	世界の生物多様性	世界の生物多様性，地球の持続可能性と相反するのか，あるいは，補い合う方法はないのか？
第 8 回	世界の食料事情など	世界の食と文化について 〜チーズと文化〜
第 9 回	４年生の論文テーマ発表（事前準備）	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表. コメントを付けて討議する.
第 10 回	４年生の論文テーマ発表（本報告）	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表し，確定する.
第 11 回	生物多様性に関する討議	生物多様性について調べて，討議する.
第 12 回	生物多様性に関する問題を探る	討議を踏まえて，今後，どの様に各国が対策をとっていったら良いのか，あるいは，どのような問題解決の方法があるのか？
第 13 回	３年生のプロジェクト発表	前回，前々回の討議を踏まえて，3 年生の調査研究テーマを発表する.
第 14 回	４年生の論文中間報告	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表. コメントを付けて討議する.
第 15 回	４年生の論文中間報告（再）	再び，論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表. コメントを付けて討議する.
第 16 回	4 年生の論文中間作成（前半）	進捗状況に基づいて，作成にかかる.
第 17 回	4 年生の論文中間作成（後半）	進捗状況に基づいて，作成にかかる.
第 18 回	3 年生のプロジェクト成果発表	プレゼンテーションを交えて発表. コメントを付けて討議する.
第 19 回	国際文化学部学会準備①	テーマを出し合って討議する.
第 20 回	国際文化学部学会準備②	討議したテーマに基づいて，調査研究をすすめる.
第 21 回	国際文化学部学会準備③	まとめ
第 22 回	4 年生の論文発表①	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する. （4 年生の１／３について）
第 23 回	4 年生の論文発表②	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の１／３について）
第 24 回	4 年生の論文発表③	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の最後の１／３について）
第 25 回	ゼミ論文作成①	テーマを出し合って討議する.
第 26 回	ゼミ論文作成②	討議したテーマに基づいて，調査研究をすすめる.
第 27 回	ゼミ論文作成③	まとめ
第 28 回	ゼミ論文発表会	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で課題を見つけ, 多角的に取り組むこと．文献を収集するだけでなく, 直接, 調査・取材活動をおこなうこと．可能な限り, 情報源に当たり，なにが, オリジナルであるのかを明確にした上で，レポートなどを作成すること.

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず, 必要な資料はプリントして配布します.

【参考書】
「地球の論点 ―現実的な環境主義者のマニフェスト」 スチュアート ブランド (著), 仙名 紀 (翻訳), 英治出版, 2011.
他は必要に応じて, その都度, 指示します. また, ゼミに関係したゲストをお招きする予定です.

【成績評価の方法と基準】
年度末までにまとめた各自の成果（50%）, およびそのために各自が行った企画・調査活動状況（＝平常点: 50 %）. 頑張る姿勢, 真摯な姿勢を評価したいと思います.

【学生の意見等からの気づき】
ゼミは, 受け身的な授業と異なり積極的にみんなで作り上げていくものです. ４年生は後輩をサポートしお手本となるように心掛け，３年生は先輩をよく見て学んで下さい.

【学生が準備すべき機器他】
授業には, 主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用い，各自に, パワーポイント，あるいは，ポスターなどでプレゼンテーションをしていただくことがあります.

【その他の重要事項】
本ゼミの目標は, 文献などの間接情報だけに頼るのではなく, 直接出向いて生の情報に触れ, それらを通して学ぶことの面白さを知り, 自己を鍛えることでもある.
そして, グループ活動を通じて切磋琢磨し, 相手を思いやる心を身に付け, 少しでも一人前の社会人に近づくこと.
与えられたことを行うだけでは一人前とは言えず, 自分でさらに課題を見つけて取り組んでこそ, 一人前と言えます. そのためには, 小さな事でも損得を考えずに手抜きせず真面目に取り組むことが大切です.
授業の各回のテーマは, 受講生の希望や最新のトピックスなど取り入れることがありますので, 内容や順番が異なる場合があります.

【Outline and objectives】
With accelerated destruction of the global environment, think about creating a sustainable society through fieldwork.

PHI300GA

情報文化演習

森村　修

サブタイトル：**「欲望の資本主義社会」研究――無意識からみる現代社会の構造分析**
配当年次／単位：**3～4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【本演習の目的】
本演習の目的は、現代フランスの哲学者ジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリの「欲望の哲学」の観点から、私たちの個人的な人間関係のメカニズム、現代資本主義社会、現代政治を考察することです。
【本演習の概要】
私たちの日々の生活は、無意識的な欲望の影響を受けています。例えば、私たちは友人や恋人などとコミュニケーションしたいけれど、嫌いな人とは話もしたくない。また私たちは、消費者としては、好きな店で欲しい商品を購入したりすると喜びを感じますが、店のアルバイト店員としては、不快な客の接客は望まない。さらに言えば、アートやデザイン、建築や都市計画のような表現活動も、欲望にコントロールされています。このように、日常的なコミュニケーションや様々な表現活動から資本主義的な経済活動や社会活動、さらにはテロリズムや政治的示威行動に至るまで、私たちの生活は、無意識的な欲望の影響を受けています。私たちは、欲望に支配されているといっても過言ではありません。
そこで本演習では、欲望の哲学的考察を通じて、日常的な問題から国際社会の複雑な問題に至るまで様々な問題の背後にある欲望という無意識のメカニズムを考察していきます。
【本演習の意義】
本演習の意義は、日々の生活における欲望の力を考察し、欲望を正しく解放すること、すなわち欲望が誤った方向に流れていかないように、欲望を正しくコントロールすることです。そうすることによって、私たちは、私たちの現実の世界を、少しでもよりよいものにしていくための批判的な視座を獲得することを目指します。

【到達目標】
(1) 私たちの思考や行為、さらには人間関係から社会関係に至るまで、それらを根底で支えている「深層心理（無意識・欲望）」に対して、精神分析学やその批判を視野に入れるドゥルーズ&ガタリの哲学を学ぶことで、現代資本主義社会の構造を理解することができます。
(2) ドゥルーズ&ガタリの哲学を視野に入れることで、無意識と現代アートとの関係、無意識と社会構造との関係などを学ぶことができます。
(3) ドゥルーズ&ガタリの思想を学ぶことで、現代の資本主義がどのように欲望と関わっているかを説明することができます。
(4) 哲学テキストの読解方法を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
　通常の授業では、①指定テキストに基づいた「グループ研究」と、②個人がそれぞれ自分のテーマを研究する「個人研究」の発表を交互に行います。③三年生には「ゼミ論・ゼミ制作」を、四年生には「ゼミ総括研究」を義務づけています。④課外活動として、年三回（初夏・夏・冬）行う「ゼミ合宿」を実施します。⑤個別の希望者には、外部講師と連繋した「課外セミナー」や美術館・博物館などの公共施設の訪問なども考えています。
　①「グループ研究」では、ゼミ生をいくつかのグループに分けて、事前にそれぞれ担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成しておき、ゼミ当日に担当グループが発表し、それ以外のゼミ生と討議します。
　②「個人研究」では、ゼミ生各自が自らのテーマに即して研究を進め、ゼミの所定の時間内に研究発表を行う。その成果を、「ゼミ論」・「ゼミ制作」や「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」にまとめてもらう。「個人研究」については、2019 年度も引き続き、川村たつる先生のご協力をお願いするつもりである。おもに個人研究の作品制作については、川村先生からの直接的な指導がある。また、実践指導ならびに論文制作を、森村が担当する。
　③「ゼミ研究」・「ゼミ総括研究」では、三年生には、春学期のグループ研究のまとめとして「ゼミ論」（春学期）を、また年間を通して「個人研究」のまとめとしての「ゼミ論」・「ゼミ制作」（秋学期）が義務づけられており、四年生には、一年間を通して「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」が義務である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①演習の概要説明 ②自己紹介 ③ゼミ役員決定 ④テキスト読解技法の説明
2	グループ研究①ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(1)	①テキストの紹介 ②欲望的生産 ③器官なき身体
3	グループ研究②ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(2)	①主体と享受 ②唯物論的精神医学
4	グループ研究③ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(3)	①欲望機械 ②全体と諸部分
5	グループ研究④ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(4)	①オイディプス帝国主義 ②フロイトの三つのテクスト
6	グループ研究⑤ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(5)	①生産の接合的総合 ②登録の離接的総合
7	個人研究①「ゼミ論」発表①	ゼミ生（四年生）の個人研究発表
8	個人研究②「ゼミ論」発表②	ゼミ生（四年生）の個人研究検討
9	グループ研究⑥ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(6)	①消費の連接的総合 ②三つの総合の要約
10	グループ研究⑦ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(7)	①抑制と抑圧 ②神経症と精神病
11	グループ研究⑧ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(8)	①プロセス ②登記する社会体
12	個人研究③「ゼミ総括研究」中間発表①	ゼミ生（三年生）個人研究発表
13	個人研究④「ゼミ総括研究」中間発表①	ゼミ生（四年生）個人研究発表
14	個人研究⑤「ゼミ総括研究」中間発表①	ゼミ生（四年生）個人研究発表
15	秋学期イントロダクション	①秋学期の演習概要説明 ②学会のテーマ決定 ③総括研究の注意など
16	グループ研究①ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(9)	①原始大地機械 ②オイディプス問題 ③精神分析と人類学
17	グループ研究②ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(10)	①大地的表象 ②野蛮な専制君主機械 ③野蛮な、あるいは帝国の表象
18	グループ研究③ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(11)	①〈原国家〉 ②文明資本主義機械
19	個人研究①「ゼミ論」中間発表①	ゼミ生（三年生）個人研究発表
20	個人研究②「ゼミ論」中間発表②	ゼミ生（四年生）個人研究発表
21	グループ研究④ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス――分裂症と資本主義』(12)	①資本主義の表象 ②最後はオイディプス

22	グループ研究⑤ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス——分裂症と資本主義』(13)	①社会野 ②分子的無意識
23	グループ研究⑥ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス——分裂症と資本主義』(14)	①精神分析と資本主義
24	グループ研究⑦ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス——分裂症と資本主義』(1)	①分裂分析の肯定的な第一の課題
25	グループ研究⑧ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリ『アンチ・オイディプス——分裂症と資本主義』(15)	①分裂分析の肯定的な第二の課題
26	個人研究③ 「ゼミ総括研究」中間発表① ゼミ生（三年生）個人研究発表	
27	個人研究④ 「ゼミ総括研究」中間発表① ゼミ生（四年生）個人研究発表	
28	個人研究⑤ 「ゼミ総括研究」中間発表① ゼミ生（四年生）個人研究発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
グループ研究は、毎回の担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成するため、グループごとに集まって事前に準備する必要があります。テキストの読解はもとより、他の資料を検討することで、テキストの理解を一層充実させることができるからです。そのために、授業外にグループで集まって集中学習することが、ゼミ内の活性化にも繋がり、各自の研究の広がりと深みを増すことになります。

【テキスト（教科書）】
ドゥルーズ&ガタリ『アンチ・オイディプス』、河出文庫、2006 年
Gilles Deleuze & Felix Guattari, *L'Anti-OEdipe, Capitalisme et Schizophrénie*, Les Éditions de Minuit, 1972.

【参考書】
(1) ドゥルーズ&ガタリ研究
a. 仲正昌樹『ドゥルーズ＋ガタリ〈アンチ・オイディプス〉入門講義』、作品社、2018 年
b. 佐藤嘉幸・廣瀬純『三つの革命——ドゥルーズ=ガタリの政治哲学』、講談社選書メチエ、2017 年
(2) ラカン精神分析研究
a. ジャック・ラカン『エクリ』Ⅰ～Ⅲ、弘文堂、1977 ～ 1981 年
b. ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』岩波書店、2000 年
c. ビチェ・ベンヴェヌート／ロジャー・ケネディ『ラカンの仕事』青土社、1994 年
d. ブルース・フィンク『「エクリ」を読む——文字に添って』人文書院、2015 年

【成績評価の方法と基準】
①グループ研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）
②個人研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）
③ゼミ論（三年生）（50 %）／ゼミ総括研究（四年生）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
【授業外の活動】
①ゼミ卒業生や大学院生との交流があります。年一回年末の「望年会」には、1 期生から現役のゼミ生まで、ほとんどの学年の卒業生が集まります。これは、本演習の最大の人的資産であり、他のゼミには絶対に負けない資産です。それ以外にも、様々な方面で活躍する卒業生たちの交流が、密接に行われています。
②年三回の「ゼミ合宿」もまた、基本的には参加が義務だが、拘束力はありません。向上心をもって、より成長したい人だけが積極的に参加してくれることが前提だからです。ただ、本演習としては、欠かすことのできない課外活動であることに変わりはありません。合宿では、ゼミ生同士の交流、教員との親睦、さらには東京近郊では体験できない他の地域の施設などの訪問など、刺激を得る機会となっています。

※　本演習では、授業外の活動が重要です。積極的に参加し、自らを磨く「修練」を積むことが本演習では要求されていますので、注意してください。

【注意と要望】
基本的に、ゼミで課される課題に集中し、他のゼミ生と交流することが重要です。もちろんゼミ生の個性と自由は尊重しなければなりませんが、ゼミは集団活動ですから、過度な個人プレーには気をつけてもらいたいです。様々なことに好奇心を持ち、互いに切磋琢磨しながら協力し、真面目に研究に取り組む人に来てもらいたいです。本演習では、地味でかまいませんから、ひとつのことに熱中できることが重要です。

【コメント】
本演習は、「情報文化演習」のひとつですが、コンピュータを用いてゼミ活動をすることはありません。ただ、作品を制作したり、研究発表をする際に、パソコンが使えると便利かもしれません。それも、気にする必要はありません。

【Outline and objectives】
【Purpose of this exercise】
The purpose of this exercise is to consider the mechanism of our personal relationship, modern capitalist society, and contemporary politics from the viewpoint of "philosophy of desire" in modern French philosopher Gilles Deleuze and Felix Guattari.
【Significance of this exercise】
The significance of this exercise is to examine the power of desire in everyday life and correctly release it, that is, to correctly control the desire so that desire does not flow in the wrong direction. By doing so, we aim to acquire a critical viewpoint to make our real world a little better.

ART300GA

表象文化演習

稲垣　立男

サブタイトル：**コミュニケーションとアート**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代美術に関する演習です。社会と繋がるアートプロジェクトやワークショップ研究を軸に、様々な表象文化（音楽、パフォーミングアーツ、映像等）に関する実践と考察を行います。
コミュニティなどとのコラボレーションを通じて、背景の異なる人々の生活や文化を理解し様々な方法で相互の考えを伝えることを経験的に学びます。また、学生各自のの関心のある表象分野について制作を進め、その背景となる理論についての研究を並行して行います。研究を通じて
1. 既成概念に囚われずに自由に発想すること
2. 様々な方法で他者と関わること
3. ものごとの本質を見極めること
これらについて個々の課題として検証し、社会に繋がる問題を発見することが目標です。このような能力は、周囲の情報に流されがちな現代社会において自らの方向を定め、日々の生活を豊かにすることになるでしょう。

【到達目標】
【3 年生春学期】様々な表象文化について体験し、各個人の興味や関心について考えてみます。学期の後半では、研究発表（作品・ポスター発表）を行います。また、グループで行うワークショップに参加します。
【3 年生秋学期】個人研究のテーマについての取り組みをスタートさせます。国際文化情報学会、個人研究展での研究発表に取り組みます。
【4 年生春学期】個人研究について考察を深めていきます。特に先行研究の調査が中心となります。
【4 年生秋学期】研究の仕上げとして、国際文化情報学会、個人研究展での研究発表に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
◯ 共同研究
【春学期】アートプロジェクトやワークショップを中心とした活動です。
【秋学期】研究のまとめとして国際文化情報学会に参加します。
今年度は、下記の国際展に参加します。ゼミ合宿も同地で実施する予定です。
・中之条ビエンナーレ 2019（群馬）
希望者は、国内外のアートプロジェクトやワークショップの研修、展覧会の鑑賞なども積極的に参加してください。
・バコロド・ワークショップ（デラ・ラ・サール大学・フィリピン）
・バライ・スギラノン（国立フィリピン文化センター）
◯ 個人研究
年間を通じて個別に研究を進めます。各学期に中間報告会及び研究発表会（展覧会）を行います。また、制作報告書、論文については 10 月提出の法政大学懸賞論文への参加を前提とします。
研究方法については以下の 2 つから選んでください。
3 年生
1. 作品制作＋制作報告書（3,000 字程度）
2. 論文（10,000 字程度）＋ポスター制作
4 年生
1. 作品制作＋制作報告書（10,000 字程度）
2. 論文（20,000 字程度）＋ポスター制作
◯ ぜんまい
授業の冒頭に個人研究に関連したテーマで 10 分程度のプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/10	オリエンテーション	春学期活動について 研究の進め方
4/17	個人研究 1	プレゼンテーション プレゼンテーションを基に映像作品を制作します。
4/24	ワークショップ 1	20 世紀表象文化に関する考察 未来派やダダイズムなど前衛芸術に関連するパフォーマンスとテキストによるグループワーク。
5/8	ワークショップ 2	フィールドワーク（美術館・シアターなどの見学） フィールドワークの記録を基にしたエスノグラフィとしての作品制作
5/15	ワークショップ 3	音・テキスト・イメージ・空間を使った表現 パフォーマンスについて考える
5/22	ワークショップ 4	音・テキスト・イメージ・空間を使った表現 インスタレーションについて考える
5/29	ワークショップ 5	音・テキスト・イメージ・空間を使った表現 講評
6/5	個人研究 2	論文・制作報告書の中間報告 1（口頭発表）
6/12	個人研究 3	論文・制作報告書の中間報告 1（口頭発表）
6/19	ワークショップ 6	アートプロジェクト演習 1 リレーショナルアート、ソーシャルワークなど 21 世紀の表象文化についての考察
6/26	ワークショップ 7	アートプロジェクト演習 2 作業
7/3	ワークショップ 8	アートプロジェクト演習 3 講評 作品及び研究ポスター展の準備
7/10	個人研究 4	作品及び研究ポスター展 展示作業
7/17	個人研究 5	作品及び研究ポスター展 講評会 撤去作業
9/25	オリエンテーション	秋学期活動についての説明 懸賞論文
10/2	個人研究 6	プレゼンテーション（ポスター発表）
10/9	共同研究 1	国際文化情報学会とは 研究発表の方法について
10/16	共同研究 2	フィールドワーク 資料収集
10/23	共同研究 3	グループでの企画案 ディスカッション
10/30	共同研究 4	グループでの企画案 中間発表
11/6	共同研究 5	プレゼンテーションの手法の検討 材料などの検討と準備
11/13	共同研究 6	制作 1
11/20	共同研究 7	制作 2
11/27	共同研究 8	制作 3
12/4	個人研究 7	論文・制作報告書の中間報告 2（口頭発表）
12/11	個人研究 8	論文・制作報告書の中間報告 2（口頭発表）
12/18	個人研究 9	作品及び研究ポスター展 展示作業
1/8	個人研究 10	作品及び研究ポスター展 講評会 撤去作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 経験などは問いませんが、年間を通じて意欲的に取り組んでください。
2. 個人研究については担当教員と相談しながら進めていくことになります。質問・疑問点については教員によく相談してください。
3. 展覧会・コンサート・映画館などで作品鑑賞する機会を持ち、また他のアートやデザインの授業も積極的に受講するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
1.Schneider, Arnd　Wright, Christopher　*Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice*　Berg Publishers　2010 年
2. 北澤憲昭、杉田敦　芸術表象コンセプトブック　アート・プラットフォーム　美学出版　2010 年

【参考書】
以下のような研究に関する実践例（プロジェクトや展覧会）および参考文献を各自で参照しておくこと。
1. 福祉施設、博物館、広場や公園など公的空間における環境計画
2. 病院や学校など、公的な場所でおこなうワークショップなどの研究
3. 地域コミュニティのポータルサイトや映像作品、冊子などの企画制作
4. 地域活性化のためのイベントやプロジェクトなどの計画案

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
共同研究（25%）
個人研究（25%）

【学生の意見等からの気づき】
チームワークが大切な研究活動となります。日頃からよくコミュニケーションを取るようにしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
作品制作やプレゼンテーションで PC を活用する機会も多いと思いますので、関連した実習授業を履修しておくとよいでしょう。ブログや、LINE、facebook などの SNS も積極的に活用します。
また、課題提出などで授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
活動記録（ブログ）がありますので、履修したい方は見ておいてください。
http://inagaki-seminar.blogspot.com/
教員のウェブサイト
http://www.tatsuoinagaki.com

【Outline and objectives】
This seminar is about contemporary art. Practice and consider various art activities (e.g., music, performing arts, images) around the research on the theory of art project and workshop connected to society.
Through collaborative work on art projects and workshops in the community, we will learn empirically to understand the lives and cultures of people from different backgrounds as well as communicate mutual thoughts in various ways. Students also create artwork that they are interested in and research the theory behind it.

GDR300GA

表象文化演習

岩川　ありさ

サブタイトル：**現代文化創造論**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2019 年度のテーマは、「表象から読み取るジェンダー」です。
春学期の前半には、クィア・スタディーズに関する入門書（森山至貴『LGBT を読みとく: クィア・スタディーズ入門』(ちくま新書、2017）を読み、基礎的な知識を身に着けます。そのうえで、ポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』(土屋武久訳、ミネルヴァ書房、2016) を教科書として、メディア文化研究の観点から表象分析を行い、ジェンダーをめぐる諸問題について考える視座を養います。また、『HUG っと!プリキュア』(2018) のキュアアンフィニ（若宮アンリ）登場回、エレオノール・プリア監督「軽い男じゃないのよ」(2018）など、具体的な表象作品を対象として、表象分析を行う力を培います。秋学期には、本年度のテーマ「表象から読みとるジェンダー」に沿って国際文化情報学会での発表を行います。

【到達目標】
(1) 授業で学んだトピックについて、具体例をあげながら、表象分析が行える。
(2) 論点を整理してディスカッションを行うことができる。
(3) グループワークを通じて現代文化を創造するための具体的な展望を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
(1) 演習形式で行います。
(2) 春学期は、森山至貴『LGBT を読みとく: クィア・スタディーズ入門』(ちくま新書、2017）とポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』(土屋武久訳、ミネルヴァ書房、2016) を教科書として、メディア文化研究の観点から表象分析を行い、ジェンダーをめぐる諸問題について、プレゼンテーションやディスカションを行います。
(3) 秋学期は、本年度のテーマについて国際文化情報学会での発表を行うためのグループワークを行います。また、リサーチの仕方やレポートのまとめ方を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・1 年間の授業計画について説明を行います。 ・3 年生と 4 年生の顔合わせをし、今年度のテーマ「表象から読み取るジェンダー」について 4 年生から説明を行います。 ・ゼミ長、副ゼミ長、書記係、ゼミ発表進行の係、論集係など役割を決定する。3 年と 4 年を組みあわせます。
第 2 回	クィア・スタディーズ入門	森山至貴『LGBT を読みとく: クィア・スタディーズ入門』(ちくま新書、2017) を必須文献として読んできた上で、クィア・スタディーズについての基礎的な知識について講義を行います。
第 3 回	『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』を読む (1)	第１章「メディアが先か、文化・社会が先か？」 社会とメディア表象の関係、コミュニケーションの理論 、第２章「メディアテクノロジー」 メディア論の展開、テクノロジー決定論とその批判
第 4 回	『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』を読む (2)	第３章「メディア産業」 メディアの一極集中化、思考の多様性の確保、政府と規制、第４章「メディアコンテンツ」 記号論、ナラティブ分析、ジャンル分析、ディスコース分析
第 5 回	『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』を読む (3)	第５章「メディアユーザー」 オーディエンス研究、カルチュラル・スタディーズ、メディアと暴力 、第６章「メディアが操作する？」 マルクス主義とイデオロギー、消費主義の神話、消費者による抵抗
第 6 回	『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』を読む (4)	第７章「ニュースの解剖学」 作られた世界の表象としてのニュース、ニュースの情報娯楽番組化、第８章「公共サービスか、個人のための娯楽か？」 公共放送、検閲、新自由主義における商業化
第 7 回	『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』を読む (5)	第９章「国民的メディアの衰退」 公共圏、想像の共同体、グローバリゼーション、 第 10 章「メディア・エスニシティ・ディアスポラ」 人種差別とナショナリズム、ステレオタイプな表象、文化様式の多様化
第 8 回	『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』を読む (6)	第 11 章「メディア・ジェンダー・セクシュアリティ」 フェミニズム、異性愛主義批判、クィア・リーディング、 第 12 章「メディアコミュニティ」 ファン・アート、ファン・グループ、コミュニティとアイデンティティ、第 13 章「メディアによる飽和・集団の流動性・意味の喪失」 ポストモダンのメディア論、「事実」と「虚構」、リアリティの行方
第 9 回	表象作品の分析 (1)	『HUG っと!プリキュア』(2018) のキュアアンフィニ（若宮アンリ）登場回を中心に分析します。
第 10 回	表象作品の分析 (2)	エレオノール・プリア監督「軽い男じゃないのよ」(2018）を中心に分析します。「軽い男じゃないのよ」については、https://www.netflix.com/jp/Title/80175421 参照。
第 11 回	4 年生・個人研究発表 (1)	4 年生の個人研究発表をします。(25 分 ×4 名）
第 12 回	4 年生・個人研究発表 (2)	4 年生の個人研究発表をします。(25 分 ×5 名）
第 13 回	国際文化情報学会に向けての企画会議 (1)	今年度のテーマに沿いながら、各自、案を発表し、発表部門や企画の大枠を練ります。
第 14 回	文化情報学会に向けての企画会議 (2)	今後どのように進めるのか、計画を決定します。
秋学期・第 1 回	秋学期・オリエンテーション	秋学期の計画および国際文化情報学会と論集作成に向けての説明。
第 2 回	個人研究 (1)	リサーチの仕方、図書館での検索の仕方について学びます。
第 3 回	個人研究 (2)	研究テーマの決め方、研究計画の作り方について学びます。
第 4 回	個人研究 (3)	個人研究の内容を発表する方法について学びます。
第 5 回	グループワーク (1)	インスタレーションなど表象文化作品の案を出し、国際文化情報学会の発表内容について決定します。
第 6 回	グループワーク (2)	表象文化作品を実際に創ります。
第 7 回	グループワーク (3)	表象文化作品の練り直しを行います。
第 8 回	レポートの書き方 (1)	レポートや論文のテーマの決め方や執筆計画の立て方など基本事項についてまとめます。
第 9 回	レポートの書き方 (2)	レポートや論文の書式や参考文献一覧の付け方など基本事項についてまとめます。
第 10 回	4 年生・個人研究発表 (1)	4 年生の個人研究発表をします。(25 分 × 4 名）
第 11 回	4 年生・個人研究発表 (2)	4 年生の個人研究発表をします。(25 分 ×5 名）
第 12 回	ゼミ論集の作成 (1)	ゼミ論集の編集会議を行います。
第 13 回	ゼミ論集の作成 (2)	表象文化用語集についてまとめます。
第 14 回	まとめ	今年度の演習についてのまとめを行います。また、来年のゼミ・国際文化情報学会・論集共通となるテーマについて決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・夏休みの映画討論会（ラウンドテーブル）
　各映画ごとに発表者 3 名 ×5 分間で表象分析を行います。表象文化・文化理論に関する理論的な用語についてそれぞれまとめてきておいて、その視座から読み解き、用語への理解を深めます。このリサーチをもとにして、年度末の論集で 3 年生が表象文化用語集を書きます。
・秋学期の終わりにゼミ論集の作成を行います。
・春休みの映画討論会（ラウンドテーブル）
来年度のテーマに沿った映画について発表者 3 名 ×5 分間で表象分析を行います。

【テキスト（教科書）】
・森山至貴『LGBT を読みとく: クィア・スタディーズ入門』(ちくま新書、2017）864 円　ISBN: 4480069437
・ポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待―多声性を読み解く理論と視点』(土屋武久訳、ミネルヴァ書房、2016)　4,320 円　ISBN: 4623075745

【参考書】
入門書としては以下のものをあげますが、毎回の授業でも紹介します。
・河口和也.2003.『クイア・スタディーズ』岩波書店.
・河口和也・風間孝編著.2018.『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社.
・黒岩裕市.2016.『ゲイの可視化を読むー現代文学に描かれる＜性の多様性？＞』晃洋書房.
・高橋準.2014〔2006〕.『ジェンダー学への道案内　四訂版』北樹出版.

【成績評価の方法と基準】
春学期、秋学期ともに、研究発表やグループワーク 50 %、学期末レポート 50%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・核になるテーマを毎年学生と一緒に決め、それに沿って進めることで、4 年生にとっては 1 年やってきたことの集大成になり、新 3 年生には導入となる。
・国際文化情報学会などの計画を春学期から行い、早めに準備を行う。
・表象文化論についてのバックグラウンドや用語をまとめる。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションやレポート作成を行うためのパソコンなど。

【Outline and objectives】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about Media and Queer studies. Primarily we will focus on the works of Paul Hodkinson. We will also examine social and historical issues. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of the relationships of media, gender and sexuality. In the spring semester coursework will include weekly reading of Media, culture and society : an introduction (SAGE Publications Ltd; 1 edition, 2010) in Japanese translation. In the autumn semester, we will participate in an academic conference of FIC.

ART300GA

表象文化演習

種田　元晴

サブタイトル：**場所論**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「場所」とは、私たちの文化を文字通り足下から支える基盤である。文化の観点から場所を研究するとともに、文化を「場所」の観点から見なおす。
春学期の主題として、これまでに「建築」「風景」「旅行」「東京」「歩行」「都市」「観光」「庭園」「ジブリ」「都市の映像」などを取り上げてきた。
今年度は「建築家」を春学期の主題とし、場所の意味を変質させた建築家の人と作品について考える。

【到達目標】
文化と場所の相関性に関して、知識をつけるだけではなく、作品鑑賞やフィールドワーク（とミニレポート）を通して、作品分析力、感受性、想像力を、体験的・実践的に養うことを目指す。
またゼミの諸活動を通じて、調査力、発表力、コミュニケーション力、責任感を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
春学期は、主として建築家の人と作品についてグループ発表とディスカッションを行う。
秋学期前半は、４年生による研究発表、秋学期後半は３年生による研究発表（秋学期末レポート予備発表）を行う。秋学期の発表・レポート・卒論の主題は、場所に関する表象文化の研究であれば「建築家」以外の主題でも、またデザイン行為でも構わない。
年間を通じ、合間に適宜東京に現存する建築家の作品のフィールドワークや展覧会見学を実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。 一年間の計画の説明。 「建築家」研究に関する概説。 春学期のグループ発表の計画。
2	建築家の人と作品に関する講義	前期発表の見本として教員が「建築家」研究の一例を講義する。
3	国立西洋美術館見学	国立西洋美術館にて「ル・コルビュジエ　絵画から建築へ―ピュリスムの時代」展を見学し、上野周辺をフィールドワーク。
4	第１回グループ発表 -大江宏とその建築 -丹下健三とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
5	第２回グループ発表 -ル・コルビュジエとその建築 -前川國男とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
6	第３回グループ発表 -辰野金吾とその建築 -片山東熊とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
7	江戸東京たてもの園見学	江戸東京たてもの園を見学。江戸・東京の歴史的・文化的な建築空間を体験する。
8	第４回グループ発表 -村野藤吾とその建築 -渡辺仁とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
9	第５回グループ発表 -堀口捨己とその建築 -山田守とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
10	第６回グループ発表 -伊東忠太とその建築 -岡田信一郎とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
11	東京駅周辺の建築見学	東京駅周辺をフィールドワークし、発表を通じて得た知見をもとに、現存する建築作品を体験する。
12	第７回グループ発表 -槇文彦とその建築 -菊竹清訓とその建築	発表とそれをめぐる全員での討議。
13	第８回グループ発表 -安藤忠雄とその建築 -伊東豊雄とその建築 教員講義	発表とそれをめぐる全員での討議。 前期レポートに関するレクチャー。
14	教員講義	春学期の補習。 ３年は春学期やった主題に関するレポートを提出。 ４年は自由研究レポートを提出。
1	秋学期ガイダンス	新ゼミ長ほかの挨拶。 秋学期の計画。 春学期レポートについてのコメント。 教員による場所論レクチャー。
2	第１回個人研究発表	４年生による研究発表。
3	第２回個人研究発表	４年生による研究発表。
4	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
5	第３回個人研究発表	４年生による研究発表。
6	第４回個人研究発表	４年生による研究発表。
7	第５回個人研究発表	４年生による研究発表。
8	第６回個人研究発表	３年生による個人研究発表。
9	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
10	第７回個人研究発表	３年生による個人研究発表。
11	国際文化情報学会準備	国際文化情報学会の展示物の作成等。
12	第８回個人研究発表	３年生による個人研究発表。
13	フィールドワーク	３年生の研究レポート提出。 法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
14	フィールドワーク	４年生の卒業研究提出。 法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表や研究に関する文献調査やフィールドワークや作品鑑賞。
ゼミ生と相談のうえ国際文化情報学会で研究発表をする。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布する。

【参考書】
倉方俊輔・斉藤理『新装版 東京建築ガイドマップ 明治大正昭和』エクスナレッジ（2010）
村松貞次郎『日本建築家山脈（復刻版）』鹿島出版会（2005）
村松貞次郎・近江栄・鈴木博之・藤森照信監修『新建築 1981 年 12 月臨時増刊 日本の建築家』新建築社（1981）

【成績評価の方法と基準】
ゼミ参加度 (50 %）と期末レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の議論をより活発にする。メリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の発表では必ずスライドと配布資料を用意すること。

【その他の重要事項】
書籍を買ったり、美術館へ行ったり、映画鑑賞をしたり、街歩きや旅行をしたりする好奇心と体力と余裕があること。ゼミのメンバーと協力しあい、責任を分担すること。

【Outline and objectives】
"Place" is the basis supporting our culture. In this class, we study "Place" from a standpoint of culture and observe culture from "Place". We dealt with "Architecture", "Landscape", "Travel", "TOKYO", "Walking", "City", "Tourism", "Garden", "GHIBLI", "City Image" as the theme of this class. The theme in this spring semester is "Architect".

ART300GA

表象文化演習

島田　雅彦

サブタイトル：**歴史上の発明は世界をどう変えたか**
配当年次／単位：**3～4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的には小説やエッセイ、脚本、企画書の書き方を学びながら、個々の興味に即した研究テーマの選択から始める。文化研究、サブカルチャー研究を希望する者には個別指導を行うが、自分の研究テーマがない場合は共通テーマに基づき、リサーチや分析を行う。本年度のテーマは「技術史の背景」とし、世界史、日本史におけるテクノロジーの開発とそれによって社会や世界観が変化した局面に焦点を当てた研究を行う予定。研究成果は論文、フィクション、映像作品に仕上げることも可能。両者に共通しているのは、コンテンツ作りの具体的ノウハウ、理解や共感を作り出す実践的な表現テクニックを磨くレッスンを行うことである。

【到達目標】
秋学期の学部学会に向け、計画的に論文、作品制作をすすめ、より完成度の高い映像作品の制作、問題に鋭く切り込む批評、エッセイの執筆をする。個々の中に眠っている表現欲や表現スキルを春学期のうちに開発し、秋学期にはその集大成をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
セメスターの初めに企画会議を行い、各班の方針を決め、早速、必要なレッスンの準備に取り掛かる。またゼミ生が個人的に興味を抱いているテーマを聞き、今後いかに研究を進めるべきか、またどのような形態でその成果を発表するかの相談を受ける。共通の問題系での思考、議論を通じ、また個人研究の指導を通じ、コンテンツ作りに必要な企画力、事務能力を育めればと思う。春学期はエッセイや論文、シナリオや映像の試作品を作ることに当てられるだろう。夏合宿や課外授業を挟んで、秋学期には春学期の成果を生かし、公開可能なレベルの映像作品、エッセイ、そして論文の完成までを指導する。
文章であれ、音楽であれ、映像であれ、身体表現であれ、表現意欲や好奇心あふれる諸君、眠っている才能を開花させたい学生、プレゼン能力を向上させたい学生などの能動的な参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回はじめに	ゼミの狙い	自己紹介の発展形としてのセルフプロモーション 個々のテーマ設定と共通テーマの説明
第二回企画	技術史講義	個々のテーマ設定と共通テーマの説明
第三回企画	技術史講義	様々な発明についての学習
第四回実習	技術史講義	様々な発明についての学習
第五回実習	表現レッスン	論文、エッセイの書き方
第六回実習	表現レッスン基礎編	論文、エッセイの書き方
第七回発表	表現レッスン基礎編	簡単な映像作品、ビデオクリップの作り方
第八回個人研究	個人研究テーマの発表	それぞれのテーマ選びに際し、アドバイス
第九回個人研究	個人研究テーマの吟味	個別相談
第十回共同制作	中間発表会	研究論文、エッセイ等の途中経過報告、個別指導
第十一回共同制作	中間発表会	研究論文、エッセイ等の途中経過報告、個別指導
第十二回共同制作	表現レッスン実践編	映像作品の試作 ロケハン、リハーサル、撮影①
第十三回共同制作	現レッスン実践編	映像作品の試作 ロケハン、リハーサル、撮影②
第十四回共同制作	発表会	春学期の成果報告
第十五回共同制作	映像試作品の上映	夏休みの合宿で完成させた映像作品の完成
第十六回共同製作	新たな企画　共同研究もしくは共同制作	企画会議、ゼミ共同での研究もしくは映像作品の共同制作の模索
第十七回個人作品制作	企画の吟味　共同研究もしくは共同制作	企画会議、ゼミ共同での研究もしくは映像作品の共同制作の模索
第十八回個人作品制作	追加リサーチの指示	個別指導
第十九回論文指導	映画鑑賞	教員推薦映画の鑑賞と論評
第二十回論文指導	中間発表①	個人論文指導
第二十一回個人作品制作	中間発表②	個人論文指導
第二十二回個人作品制作	共同研究、共同制作の指導	共同研究論文、共同制作した映像の吟味
第二十三回個人作品制作	共同研究、共同制作の指導	共同研究論文、共同制作した映像の吟味
第二十四回学会準備	共同研究、共同制作の指導	共同研究論文、共同制作した映像の吟味
第二十五回学会準備	春学期、秋学期に作った作品の吟味	完成に向けた指導
第二十六回学会準備	春学期、秋学期に作った作品の吟味	完成に向けた指導
第二十七回学会発表	一年の成果の公開	完成度アップし、学会発表
第二十八回学外発表	最終研究成果の提出	最終チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課外活動として、取材、撮影、ロケハンなどあり。ゼミの時間外にこちらが推薦する映画、書籍にできるだけ多く触れること。

【テキスト（教科書）】
「小説作法 ABC」新潮社刊　それ以外は授業で指示する。

【参考書】
授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
共同製作での役割、個人研究の成果、学部学会発表などの総合的評価で決定する。評価基準は平常点 40 %、レポート、論文 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
共同作業の中では必ずサボる学生がいる。ゼミ内の温度差を解消する。

【その他の重要事項】
２０１９年度は水曜日の４限に授業を行う。

【Outline and objectives】
Specifically, while learning how to write novels, essays, scripts, and project plans, start with the selection of research themes that are appropriate for each individual interest. For those who wish to study cultural studies and subculture studies, they will be provided individual guidance, but if there is no research theme of their own, they should research and analyze based on common theme. The theme of this year is "The background of the history of technology" and will be conducted the research focusing on the development of technologies in world history and Japanese history and thereby the society and the world view changed. It is also possible to finish research results into papers, fiction, video works. What is common to both is to do concrete know-how on content creation, lessons for learning practical expressive techniques to create understanding and sympathy.

ART300GA

表象文化演習

深谷　公宣

サブタイトル：**映画研究**
配当年次／単位：**3～4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期/Spring・Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「映画からみる社会」をテーマとし、映画・映像作品の分析を行う。映画は時代や社会を反映している。作品分析により、時代や社会の有様が見えてくる。一年間の演習を通し、学生は映画作品分析力とそれに基づいた社会観察力を養う。

【到達目標】
・映画の美学的構成要素を検証できる。
・映画の社会的構成要素を検証できる。
・一次資料、二次資料を用いて作品分析を行い、研究発表や論文執筆を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・春学期は教員が課した映画作品について学生が調査・分析し、報告する。教員は必要に応じ映画の理論や歴史について解説する。
・秋学期はグループまたは個人で研究テーマを設定し、研究を進める。授業では、研究報告、質疑応答、討議を行う。
・研究は論文等の成果物にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	授業の概要説明、発表者と課題作品の割当
2	映画の歴史とジャンルについて	映画の誕生から現在までの略史と、ジャンルの特徴について講義
3	『華麗なるギャツビー』	ジャズ・エイジの歴史を振り返り、アメリカ大衆社会について考える。
4	『エデンより彼方に』	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの形成過程を振り返り、２０世紀半ばのアメリカ社会における家族のあり方について考える。
5	『ウェストサイド物語』	アメリカの多人種社会と、都市のあり方について考える。
6	『グラン・トリノ』	アメリカの多人種社会と、サバービアのあり方について考える。
7	『レント』	アメリカの多人種社会と、性の問題について考える。
8	『メリー・ポピンズ』	イギリスの家族と階級社会について考える。
9	『パリ 20 区、僕たちのクラス』	フランスの移民と教育について考える。
10	『サウンド・オブ・ミュージック』	ナチス・ドイツの影から、統治権力について考える。
11	『エル・スール』	スペイン内戦の影から、統治権力について考える。
12	『悲情城市』	日本の台湾統治の影、ふたつの中国の問題から、統治権力について考える。
13	『ペコロスの母に会いに行く』	高齢社会と戦争の記憶、その継承の問題について考える。
14	まとめと課題の抽出	秋学期の活動に向けて研究課題の抽出を行う。
15	秋学期オリエンテーション	夏休みの振り返りと研究計画書の提出。
16	研究報告 1 回目（1）	各自が取り組んでいる研究についての進捗報告と意見交換（1）
17	研究報告 1 回目（2）	各自が取り組んでいる研究についての進捗報告と意見交換（2）
18	研究報告 1 回目（3）	各自が取り組んでいる研究についての進捗報告と意見交換（3）
19	研究報告 1 回目（4）	各自が取り組んでいる研究についての進捗報告と意見交換（4）
20	研究報告 2 回目（1）	1 回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究についての進捗報告と意見交換（1）
21	研究報告 2 回目（2）	1 回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究についての進捗報告と意見交換（2）
22	研究報告 2 回目（3）	1 回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究についての進捗報告と意見交換（3）
23	研究報告 2 回目（4）	1 回目の報告と意見交換を踏まえて、新たに進めた研究についての進捗報告と意見交換（4）
24	チュートリアル	面談形式での研究指導・助言を行う。
25	研究成果発表（1）	2 回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表（1）
26	研究成果発表（2）	2 回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表（2）
27	研究成果発表（3）	2 回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表（3）
28	研究成果発表（4）	2 回目の報告と意見交換、チュートリアルを踏まえて、研究成果発表（4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外でも映画や舞台などを積極的に観に行くこと。
下記【参考書】に記載の資料で自分の発表や研究に関わるものは読むように努めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
ボードウェル、トンプソン『フィルムアート　映画芸術入門』（名古屋大学出版会）
ライアン『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社）
佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（NTT 出版）
宮脇俊文『アメリカの消失：ハイウェイよ、再び』（水曜社）
大場正明『サバービアの憂鬱：アメリカの光と影』（東京書籍）
新井潤美『不機嫌なメアリー・ポピンズ　イギリス小説と映画から読む「階級」』（平凡社新書）
瀬川裕司『サウンド・オブ・ミュージックの秘密』（平凡社新書）
ノワリエル『フランスという坩堝　一九世紀から二〇世紀の移民史』（法政大学出版局）
遠山純生『ビクトル・エリセ（紀伊国屋映画叢書２）』（紀伊国屋書店）
田村志津江『悲情城市の人びと』（晶文社）
森崎東『頭は一つずつ配給されている』（パピルスあい）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（報告と発言）40%
研究計画書 20%
研究成果（論文等）40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
国際文化情報学会への参加の有無は学生と相談して決める。
学生の希望により映像制作を行う場合がある。
授業で扱う作品は進行状況等により変更する場合がある。

【Outline and objectives】
In this seminar we study films for social observation. Film works are often intended to reflect their age and society; detailed exploration of films enables us to see how society is shaped during a certain period. The seminar aims to develop our ability to examine films, as well as our way of looking at society through film analysis.

ART300GA

表象文化演習

竹内　晶子

サブタイトル：**比較文化・比較演劇**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較演劇・比較文化
今年度のテーマは「文化の結節点としての演劇」。宝塚歌劇から一作品、歌舞伎から一作品をとりあげ、演劇作品創造に絡む様々な文化的・社会的問題――異性装、ジェンダー、「他者」表象、語り物、劇的コミュニケーション、ジャンル形成等――をともに分析・考察していきます。
キーワード：宝塚、歌舞伎、能、ミュージカル、異性装、ジェンダー、記号論

【到達目標】
・宝塚歌劇、歌舞伎、それぞれの歴史的・構造的特徴を理解する。
・ジャンルや言語を異にする作品をとりあげた比較分析ができるようになる。
・ジェンダー論の基礎を理解し、作品分析において応用することができるようになる。
・先行研究をふまえ、ち密な作品分析に基づいた、客観的かつ説得力をもった論文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
春学期はジェンダー論と宝塚歌劇「エリザベート」を取り上げます。様々なレベル（劇団組織、物語、ファンとの関係、身体表象等）にみられるジェンダー観を分析するとともに、異性装および他作品との比較を通じて作品の考察を深めていきます。
秋学期は歌舞伎「義経千本桜」を取り上げます。異性装、「他者」表象等の分析をするとともに、語り物、義経記、能、文楽などの先行作品との比較を行い、ジャンルを異にする演劇作品の比較分析を実践します。
また授業以外でも、様々なジャンルの舞台に足を運ぶ予定。
両学期共に、学生には各自研究発表を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
2	宝塚版「エリザベート」Ⅰ	DVD 鑑賞、ジェンダー理論概説
3	宝塚版「エリザベート」Ⅱ	異性装分析
4	宝塚版「エリザベート」III	物語にみるジェンダー観分析
5	宝塚版「エリザベート」IV	劇団とファン構造分析
6	ウィーン版「エリザベート」	史実と演劇の比較
7	東宝版「エリザベート」I	DVD 鑑賞
8	東宝版「エリザベート」Ⅱ	宝塚版との比較
9	異性装の多様性	ディスカッション
10	学生発表Ⅰ	四年次生中間発表① 口頭発表の仕方
11	学生発表Ⅱ	四年次生中間発表② ハンドアウトの作り方
12	学生発表Ⅲ	四年次生中間発表③ 映像の使い方
13	学生発表Ⅳ	三年次生研究発表① 質疑応答の仕方
14	学生発表Ⅴ	三年次生研究発表② フィードバック
15	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
16	歌舞伎「義経千本桜」I	DVD 鑑賞
17	歌舞伎「義経千本桜」II	歌舞伎の異性装分析
18	「平家物語」と「義経記」	義経像と静像の変遷分析
19	能〈船弁慶〉	能における義経像、静像分析
20	人形浄瑠璃「義経千本桜」	人形劇と人間劇比較
21	ミュージカル「キャッツ」と「ライオンキング」	ミュージカルにおける動物表現分析
22	狂言〈釣狐〉〈靭猿〉	狂言における動物表現分析
23	日本における「狐」観	狐の宗教的含意分析
24	学生発表 I	四年次生中間発表① 口頭発表の仕方
25	学生発表 II	四年次生中間発表② ハンドアウトの作り方
26	学生発表 III	四年次生中間発表③ 映像の使い方
27	学生発表 IV	三年次生研究発表① 質疑応答の仕方
28	学生発表 V	三年次生研究発表② フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキストを読み、発表準備をすること。
・期末論文の調査・執筆・書き直し。

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
・若桑みどり『お姫様とジェンダー　アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）筑摩書房、2003 年。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30 パーセント
・課題提出　20 パーセント
・発表　20 パーセント
・期末論文　30 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
板書を多用します。

【Outline and objectives】
This course picks up Takarazuka Revue and kabuki, analyzing various socio-cultural issues in them.
Key words: Takarazuka Revue, kabuki, cross gender performance, gender, theater semiotics

ART300GA

表象文化演習

林　志津江

サブタイトル：**ポップ・カルチャー／ポピュラー音楽の系譜**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポピュラー音楽と、その周辺の文化現象や芸術形式（ポップ・カルチャー）について、さまざまに思考をめぐらせてみたいと思います。ロック、ポップ・ミュージック、パンク、ヒップホップ、EDM、ハウス・テクノ＆レイヴ、J-POP、K-POP、アイドル…などと呼ばれる現象の実像や、ポップ・カルチャーの成立要素とともに、インターネットや SNS をめぐる諸現象、人と芸術との関わりを通して見える社会のあり方にするどく迫ります。キーワードは「メディア／テクノロジー」「共感／一体感」「身体（Body）」「アイデンティティ」です。

【到達目標】
・ポピュラー音楽の基本的構成要素や、モダン・アートの形式の多様性に関する知識を得て、批判的な洞察を行うことができる。
・メディア論の諸概念や、「記憶」「世代」「身体」「アイデンティティ」等の概念の意味を理解することができる
・ポップ・カルチャー（拡大芸術）の歴史的展開を理解することができる。
・ポピュラー音楽／ポップ・カルチャーという現象の特質や、個々の作品やシーンに関するテーマで、論理的に明解でまとまった自分のテーゼを提示できる。
・良いリスナー、良い観察者になれる。ミュージシャン／作曲家と批評家の関係、正当な音楽批評とは何か、芸術批評は印象批評を超えることができるのか、多様化する芸術形式の意義の問題について、思考をめぐらせることができる。
・芸術と政治・社会との関わりとその困難に対し、誠実な想像力を持つことができ、それに関する自身の思考を言語化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・両学期ともに、参加者は研究発表を行います。
・春学期と秋学期初頭は、全授業回、20 世紀のポピュラー音楽とポップ・カルチャーの基本的な枠組みを、時系列的に概観します。参加者は自身の分担部分について発表を行います。
・秋学期は、自身のテーマで発表を行う方法で進めます（国際文化情報学会の参加は演習参加者のみなさん自身で決定します）。
・各回、発表の後は全員で議論を行います。議論に参加しない人は出席と認められません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この演習について、研究発表の分担を決める、音楽について日頃感じていること、「ポピュラー音楽」と自分の関わりについて、みんなでざっくばらんに話してみよう
2	「ポピュラー音楽」「ポップカルチャー」の基本のき	「ポピュラー音楽」って？「ポピュラー音楽」じゃない音楽って何？ ポピュラー音楽とポップカルチャー、楽曲形式（1）
3	テクノロジーの夜明け	大量生産・大量消費時代の幕開け、レコード（フォノグラフ、グラモフォン）の誕生とラジオ
4	余暇の誕生	ラジオ・レコード・マイクロフォン、映画館とダンスホール、ジャズ・エイジの到来、楽曲形式（2）
5	若者・階級・音楽	余暇の誕生、中産階級の産み出した「若者」世代、ラジオと音楽、プチ・ブルと労働者の断絶
6	新しいメディア・新しい音楽	戦争がもたらしたもの、第二次世界大戦後のアメリカ合衆国、ロックンロールの誕生
7	ラジオ、テレビの普及・映画と音楽	映画スターを求めて、ラジオのための音楽、「LP レコード」と「ドーナツ盤（45 回転シングル）」
8	階級と音楽・ロックンロールからロックへ	フォークソングとビートニク、リバプールにあってロンドンになかったもの、アーティスト化するミュージシャン
9	「熱狂」を求めて（1）ー カウンターカルチャーの台頭	「追っかけ」という人々、ロックの市場価値、FM ラジオとヒットチャート、ヴェトナム戦争と音楽フェスティバル
10	音楽は誰のため？　ー「抵抗の証」が一大文化産業になる矛盾	「詩人的に生きる」ミュージシャンと労働者階級の若者、「アートスクール」が作り出す音楽
11	人種と音楽 ー 労働者階級と移民たちの生き方	階級と人種、難しくなるロック、ファッションとアート、「パンクはアティテュードだ」、移民たちのスカ／レゲエ
12	新しいメディア・ダンスと音楽・MTV の誕生・ロックとジェンダー	疲弊する工業都市、ディスコと「見る音楽」の誕生、「女性ロックミュージシャン」という職業
13	「熱狂」を求めて（2）ー サンプリングと冷戦の終結	DJ というアーティスト、B-Boys/B-Girls とヒップ・ホップ、ハウス／テクノが興隆する理由
14	レイヴとドラッグ、「インディーズ」のスター	バンドエイド／ライブエイドの真実、「インディーズ」の勝利？、クラブとレイヴがダメになる理由
１５	「日本のロック」・洋楽 VS. 邦楽	グループサウンズと「アメリカ」への憧れ、ロックかフォークか、「はっぴいえんど」の登場
１６	「ガラパゴス化」の起源？	歌謡曲と「ニュー・ミュージック」、「テレビに出ない」が宣伝になる、「日本ならでは」を売り出すこと
１７	熱狂を求めて（3）ー 記号化するアイドルたち	アイドルと「オタク」の関係、インディーズと「渋谷系」、J-POP と K-POP の夜明け
１８	「つながり」の時代 ー 加速する音楽のデジタルデータ化	WINMX と CCCD、iPod/iTunes、Wi-Fi と YouTube、SNS とストリーミング配信・「一体感」のための音楽
１９	研究発表（1）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２０	研究発表（2）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２１	研究発表（3）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２２	研究発表（4）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２３	研究発表（5）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２４	研究発表（6）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２５	研究発表（7）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２６	研究発表（8）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２７	研究発表（9）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
２８	研究発表（10）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自に必要な文献を読み、研究発表の準備を行います。以下に掲載の【参考書】も活用すること。
・必要な文献や考えるヒントを探し、アクセスすること。自分の履修している、あるいはこれまで履修した授業と、本演習での学習を関連づけるという発想を持ち、その方法を模索すること。
・外国語の勉強と、活字を読む、特に日刊紙を読む習慣づけは、論理的思考能力をきたえるには何よりも効果的なトレーニングです。
・この演習のテーマはあなたの日常そのものです。ですからこの演習に参加した経験を、充実した日々の営みとするだけでなく、就職活動その他、自分の人生の糧とするという気概を持ってください。
・「自分の好きなもの」を大事にしてください。自分にとって楽しいことを楽しんで、人と会って話す時間を愛しんでください。
・音楽を聴いたりライブへ出かけたりすることはもちろん素晴らしいことです。その他にも活字に触れること、映画や展覧会、舞台芸術、スポーツ観戦、寺社巡りや街歩きなど、何でも積極的にチャレンジして、心揺さぶられる体験にたくさんめぐりあってください。

【テキスト（教科書）】
高増明（編）『ポピュラー音楽の社会経済学』（ナカニシヤ出版、2013 年）

【参考書】
・ヴァルター.・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・マーシャル・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
・テオドール・W. アドルノ（三光長治・高辻知義訳）『不協和音 ― 管理社会における音楽』（平凡社）1998 年／ Th.-W. アドルノ（高辻知義・渡辺健訳）『音楽社会学序説』（平凡社）1999 年
・ヨッヘン・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 ― ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017 年
・ヘンリー・プレザンツ（片岡義男訳）『音楽の革命 ― バロック・ジャズ・ビートルズ』（晶文社）1971 年

・ジェイソン・トインビー（安田昌弘訳）『ポピュラー音楽をつくる ― ミュージシャン・創造性・制度』（みすず書房）2004 年
・スーザン・マクレアリ（女性と音楽研究フォーラム訳）『フェミニン・エンディング　音楽・ジェンダー・セクシュアリティ』（新水社）1997 年
・スティーヴン・ウィット（関美和訳）『誰が音楽をタダにした? ― 巨大産業をぶっ潰した男たち』（早川書房）2016/2018 年
・ゾーイ・フラード＝ブラナー＆アーロン・M・グレイザー（関美和訳）『ファンダム・レボリューション － SNS 時代の新たな熱狂』（早川書房）2017 年
・小川博司『音楽する社会』（勁草書房）1988 年
・渡辺裕『聴衆の誕生 ― ポスト・モダン時代の音楽文化』（中公文庫）1989 年
・細川周平『レコードの美学』（勁草書房）1990 年
・渡辺潤『アイデンティティの音楽 ― メディア、若者、ポピュラー文化』（世界思想社）2000 年
・南田勝也『ロックミュージックの社会学』（青弓社）2001 年
・野田努『ブラック・マシン・ミュージック ― ディスコ・ハウス・デトロイト・テクノ』（河出書房新社）2001 年
・東谷護（編著）『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房）2003 年
・生明俊雄『ポピュラー音楽は誰が作るのか ― 音楽産業の政治学』（勁草書房）2004 年
・前川洋一郎（編著）『カラオケ進化論』（廣済堂）2009 年
・上田誠二『音楽はいかに現代社会をデザインしたか ― 教育と音楽の大衆社会史』2010 年
・柴那典『ヒットの崩壊』（講談社現代新書）2016 年
・中川和亮『ライブ・エンタテインメントの社会学 ― イベントにおける「受け手（Participants）」のリアリティ』（五絃舎）2017 年
・レジー／ blueprint（編）『夏フェス革命 ― 音楽が変わる、社会が変わる』（垣内出版）2017 年
・金成玟『K-Pop ― 新感覚のメディア』（岩波新書）2018 年
その他適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究発表＋授業への積極的な参加・貢献 60 %、レポート課題 40 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見ヒアリングは逐次行い、意志の疎通と内容改善につとめます。

【その他の重要事項】
・参加者の興味や意向に沿って、上記の項目や内容・順序は変更されることがあります。
・夏季休暇中にフィールドワーク（音楽フェス体験）とその事前・事後学習を行います。基本的に全員参加です。
・フィールドワークにかかる費用はひとり２万円程度です。もしその点に不安や問題があるという場合はぜひ、担当者に事前に相談して下さるとありがたいです。
・音楽が大好きという方の参加はもちろん大歓迎です。ですが「興味が一つにはしぼりきれない」と思う方にも、大いにやりがいのある内容だと思っています。あなたの興味の正体は何なのか？ メディアとメディアの境目には何があるのか？ 形式の多様性に関する問いこそが、ポップカルチャーやヒットソングと呼ばれるものの本質にも関わっています。
・「自分のテーマ」卒業研究のテーマは、演習のテーマの近接分野（担当者がカバーできる分野の範囲の）であれば、自由に選んで構いません。
・一般的に「ポピュラー音楽」の範疇には入らない、古典的西洋音楽の形態（クラシック音楽）へのアプローチも可能です。
・音楽学（楽典、音楽理論）やデジタル音楽技術についての知識は特に必要ありませんが、それがあればより楽しめるテーマもありえます。また平易な音楽理論は楽曲分析に必要ですが、そこは発表者の説明次第で、参加者の誰もが理解できるはずです。
・音楽コンテンツを制作するという演習ではありません。
・本演習は音楽サークルや音楽雑誌の愛好会とは違います。アーティストや楽曲をめぐる音楽談義を繰り広げる場ではなく、音楽談義的文化の背景にあるもの、嗜好品と社会とのかかわり、アイデンティティの構成要素としての排他性について考える場所です。演習で鍛えるのは「誰もがわかる言葉で事柄を説明できる能力」の方であり、知識の量で相手を圧倒するような態度は、評価の対象外です。
・メディア技術の発展のおかげで、今や音楽は最も安価（＝タダ同然で手に入るように思えるもの）なコンテンツのひとつになりました。演習ではもちろんそうした現象についても批判的な検討を試みますが、著作権は絶対に守って下さい。もちろん音楽以外の著作権についても同様です。

【Outline and objectives】
This course deals with pop culture as well as popular music, including Pop, Rock, Punk, Hip-Hop, EDM, House/Techno/Rave, J-Pop/Idol or K-Pop. It also enhances recognition of their forming condition in our society along with relationship between art and people. The participants are expected to explain basic concepts of modern art, pop culture, popular music and media studies. They also expected to be able to evaluate or explain changes in the media environment and its influences into art and culture related with our dairy life. The aims of this seminar are to be able to discuss and imagine not-understandable actual situation of our living world and to realize how complex the relationship between art/culture and politics by which our dairy life are affected unconsciously. The key words of this seminar are: "media"/"technologies", "empathy"/"sense of unity", "body" and "identity". The participants are evaluated through presentations, writing reports and discussion each times.

LIN300GA

言語文化演習

江村　裕文

サブタイトル：**対人配慮の語用論**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では言語によるコミュニケーションを中心に考える。
言語を話せることとその言語でコミュニケーションすることとは全く異なった問題である。
最近の若者はコミュニケーション能力に問題があるという。彼らは日本語が話せないわけではない。日本語でのコミュニケーションのやり方が問題なのである。
日本人は母語を日本人のやり方で使用している。外国人も彼らのやり方で自分たちの言語を使用している。この言語の使用法の違いを異文化と称する。つまり「やり方」が異なっているのだ。日本人は日本語の「やり方」を無意識に身につけている。彼らも同様だ。
自分の「やり方」を意識化することで把握し、相手の「やり方」も理解できれば、「異文化コミュニケーション」も可能となる。これなしの異文化者との接触・交流は誤解しかもたらさない。

【到達目標】
授業を通して、基本的な「語用論」・「日本語」・「敬語」等に関する概念を共有し、それらの知見を応用して、現実の日本人の日本語使用の分析できる学力および知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
まずは自分たちが母語をどのように使用しているかという実態を観察し、次に「語用論」・「談話分析」・「発話行為論」・「コミュニケーション論」等の知見を応用して分析する。
具体的には、授業計画であげたような項目について、観察をはじめる（ボトムアップのアプローチ）。同時に並行して理論書の講読をすすめていく（トップダウンのアプローチ）。
　最終的には、受講者の問題意識に応じて、現象の断片について個々に考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキストの紹介・配布。 授業の進め方の確認。
第 2 回	文献購読　①	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 3 回	文献購読　②	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 4 回	文献講読　③	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 5 回	文献講読　④	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 6 回	文献講読　⑤	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 7 回	文献講読　⑥	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 8 回	文献講読　⑦	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 9 回	文献講読　⑧	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 10 回	文献講読　⑨	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第 11 回	文献講読　①	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 12 回	文献講読　②	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 13 回	文献購読　③	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第 14 回	春学期試験	春学期の内容に関する試験
第１回	文献購読　④	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第２回	文献購読　⑤	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第３回	文献購読　⑥	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第４回	文献購読　⑦	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第５回	文献購読　⑧	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第６回	文献購読　⑨	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第７回	文献購読　⑩	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第８回	文献購読　⑪	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第９回	文献購読　⑫	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第１０回	文献購読　⑬	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第１１回	文献購読　⑭	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第１２回	文献購読　⑮	井出祥子『わきまえの語用論』を読む
第１３回	テーマに関する報告　①	各自のテーマについて報告する
第１４回	テーマに関する報告　②	各自のテーマについて報告する
	レポート提出	レポートを提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その都度言及するアサインメントに必ずアクセスし、自分で自分が扱うべき領域を開拓していくように努めること。

【テキスト（教科書）】
最初に、鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を購読し、次いで、井出祥子『わきまえの語用論』を購読する。

【参考書】
ブラウン＆レヴィンソン／田中典子監訳『ポライトネス』研究社
滝浦真人『日本の敬語論』大修館書店
滝浦真人『ポライトネス入門』研究社
三宅和子『日本語の対人関係把握と配慮表現行動』ひつじ書房
トマス／浅羽亮一監修『語用論入門』研究社
オーティー編／浅羽亮一監修『異文化理解の語用論』研究社

【成績評価の方法と基準】
春学期は、平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価する。
秋学期は、平常点４０点、レポートの得点６０点、合計１００点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストとなる文献を読み進むにあたって、前提となる知識が要求されることがある。今回はそのつど説明するようにしていたが、課題として課したほうが、手間はかかるが結果的に受講生のためになると考えられるので、できるかぎりその方向で進めていきたい。

【Outline and objectives】
For japanese, our native language is Japanese. So we can use this without any consciousness. But many of us don't know the essence of the language itself and the real phase of the way of its usage.
The main theme of this class is how to communicate with a certain language, here for instance Japanese. To manser a language is not the same thing with to use it for communication.
A language has two aspects. The first is a structural aspect and the second is a functional aspect. For the first aspect, we can discuss about it with the concepts like sounds, words, sentences, and grammar, as linguistics. For the second aspect, we can discuss about it with the concepts like intentions, purposes, effects, and the usage of utterances, as Pragmatics or Communication.
In this class, we possibly discover who is the japanese, what is japanese culture, and what is japanese "WAKIMAE".

ARSx300GA

言語文化演習

大西　亮

サブタイトル：**スペイン語圏の文化を探索する**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スペイン語圏の文化と社会」と聞いて私たちは何を思い浮かべるだろうか？ スペインはもちろん北はメキシコから南はアルゼンチンにいたるまで、広大な領域にまたがるスペイン語圏の国々については人によってさまざまなイメージがあるだろう。最近のニュースに目を向けると、スペインのカタルーニャ自治州の独立問題をはじめ、アメリカとメキシコの国境に壁を築こうとするトランプ大統領の無謀とも思える政策や、54 年ぶりにアメリカとの国交回復を果たしたキューバの話題などが世界の注目を集めた。一方で、サッカーをはじめとするスポーツや ZARA に代表される流行ファッション、ヒットチャートを席巻している中南米系アーティストの活躍に熱い視線を注いでいる人も少なくないだろう。こうした話題の多くは、スペイン語圏だけにかかわるものではなく、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるだろうか。

このゼミでは、スペイン語圏の文化と社会に光をあてつつ、世界のさまざまな地域との接触や交流を視野に入れながら、生成変化する人間の営みのありようを浮き彫りにすることを目的とする。そのためにはさまざまな角度からのアプローチが可能であろう。歴史、芸術、スポーツ、文学、等々、おのおのの関心に応じて多様なテーマが設定されるはずである。とはいえ、一人ひとりが個々のテーマに自足していたのでは、それらを結ぶ有機的な関係は見えてこない。みずからの興味や関心を足がかりに、それらを幅広い視角から見つめなおす柔軟な発想が求められることはいうまでもない。

本ゼミでは日本語を使って上記テーマに沿った活動を行なう。スペイン語を学んだことのない学生を含め、刺激的な知の出合いを求める学生の参加を歓迎する。

【到達目標】

このゼミでは、上記「授業の概要と目的」に沿って、以下のような能力の開発を目的とする。
・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な事項の理解。
・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識を応用しながら、興味や関心のあるテーマを見つけ、それを追究していく思考力。
・興味や関心のあるテーマについて、それを幅広い視角から見つめなおす柔軟な発想力。
・興味や関心のあるテーマについて論理的に解釈し、それを他者にむけて明快に説明する能力。
・他者との議論を通じてみずからの問題意識を深め、それを自分のテーマの追究に活かす能力。
・効果的なプレゼンテーション技法および論理的な文章表現能力。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゼミは２部構成のもとに進められる。第１部では、スペイン語圏の文化と社会を見ていくうえで最低限これだけは知っておきたいという事柄について、さまざまな資料を用いながらディスカッション形式で学んでいく。それを受けるかたちで、第２部では、より専門的な内容について、プレゼンテーションやグループ討議を通じて理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、具体的なゼミ運営方法について話し合う。
第 2 回	スペインにおけるローマ文化の影響とその歴史	「スペインにおけるローマ文化の影響とその歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 3 回	スペインにおける西ゴート王国時代の歴史と文化	「スペインにおける西ゴート王国時代の歴史と文化」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 4 回	スペインにおけるイスラム支配の歴史	「スペインにおけるイスラム支配の歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 5 回	スペインにおけるイスラム文化の影響	「スペインにおけるイスラム文化の影響」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 6 回	スペインにおけるユダヤ教の影響	「スペインにおけるユダヤ教の残した文化的影響」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 7 回	スペインにおけるレコンキスタの歴史	「スペインにおけるレコンキスタの歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 8 回	スペインにおける三文化共存の歴史	「スペインにおける三文化共存の歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 9 回	スペインの国家統一にむけての歴史	「スペインに国家統一にむけての歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 10 回	大航海時代のスペイン	「大航海時代のスペイン」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 11 回	スペインによる植民地経営の歴史	「スペインによる植民地経営の歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 12 回	スペインにおける異端審問および「血の純潔」思想の歴史	「スペインにおける異端審問および< 血の純潔> 思想の歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 13 回	スペイン黄金世紀の文学	「スペイン黄金世紀の文学」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 14 回	前期の振り返り	前期授業の内容を振り返り、教員により補足説明およびグループディスカッションを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	後期ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、具体的なゼミ運営方法について話し合う。
第 2 回	スペイン没落の歴史	「スペイン没落の歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 3 回	インディオ世界との出合い	「スペインとインディオ世界との出合い」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 4 回	ラテンアメリカの三つの場	「ラテンアメリカの三つの場」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 5 回	< 野蛮> の捏造と< 野蛮> への恐怖	スペイン人植民者による新大陸の< 野蛮> 表象について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 6 回	植民地の秩序形成	「植民地の秩序形成」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 7 回	精神的征服の歴史	スペインによる新大陸の「精神的征服」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 8 回	新大陸における抵抗のさまざまなかたち	「新大陸における抵抗のさまざまなかたち」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 9 回	近代の実験場としてのアメリカ大陸	「近代の実験場としてのアメリカ大陸」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 10 回	独立と白色国民国家構想	「独立と白色国民国家構想」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 11 回	野蛮の清算、そして白色化の歴史	「野蛮の清算、そして白色化の歴史」をテーマに発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。

第 12 回	近代化のなかの先住民社会	「近代化のなかの先住民社会」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 13 回	軍事独裁と裏庭化の歴史	「軍事独裁と裏庭化の歴史」について発表してもらい、その内容についてのディスカッションを通じて理解を深める。
第 14 回	まとめ	年間のゼミ活動を振り返り、反省点等の話し合いを通じて次年度のゼミ活動の方針に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のテーマに沿って参考文献を指示するので、それを熟読すること。これを怠るとディスカッションに参加して有益な意見交換を行うことができない。

【テキスト（教科書）】
授業内で随時指示する。

【参考書】
授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表 (70 %)、平常点 (30 %）を目安に、発表の準備やプレゼンテーションスキル、グループ討議への参加度、等々を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まずは日本語できちんと議論し、論理的に自説を展開することのできる力を身につけることをめざします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
学部開講科目「スペイン語圏の文化と社会」をあわせて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to enable students to face various aspects in vast Spanish-speaking nations, not only from Spain but Mexico in the north as well as the Argentine in the south etc.
Many of these problems have broken out in close contacts and relations with Europe, America and other countries in the world. What unexpected crucial scenes and points do students discover in approaching the problems in Spanish-speaking nations ?
To achieve the goal, there are diverse angles according to students' own interests —— history, art, sports, literature and so forth. It is, however, not enough to discover and confront their own favorite fields. Starting from their interesting areas, it is hopefully important to assess a variety of aspects in their flexible views.
In this seminar, students will be expected to challenge various activities to find out crucial points, mostly speaking Japanese. This course is, therefore, open to all students —— including those unfamiliar with Spanish language.
We sincerely welcome all students challenging our exciting intellectual discovery-trip.

LIT300GA

言語文化演習

衣笠　正晃

サブタイトル：**身近な文化を読みほどく**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
どのような社会でも、その文化はつねに異文化＝他者との出会いや対決のなかで自らを形成し続けており（＝相関的）、その結果として多様な（＝複数的）要素が、重なり合って存在する（＝重層的）ものとなっています。
本ゼミではこのような〈相関性・複数性・重層性〉という視点から、われわれを取り巻くさまざまな文化事象を、ゼミの仲間との自主的な議論を通じて考察してゆきます。そのなかで現代社会のあり方とそれが抱える問題を深く理解するとともに、それに向き合う批判的な視座と判断力を身につけることを目指します。
なおこれまで本ゼミの授業や個人研究で取り上げられてきた対象は、アニメ、マンガ（コミック）、映画、ポピュラー音楽、ファッション、ツーリズム（観光）から、スポーツ社会学、都市空間論、教育問題、言語と社会、IT と社会など、多岐にわたります。

【到達目標】
1）比較文学・比較文化、カルチュラル・スタディーズ、文化社会学、メディア・スタディーズなど、文化の研究・分析に必要な理論的枠組みや知識を習得するとともに、批判的思考を身に付ける。
2）幅広い知的好奇心を保ちつつ自らの関心領域を絞り込み、具体的な文化事象の考察をおこない、現代世界の諸問題とその歴史的文脈について理解し、自らの考えを深める。
3）個人研究の発表、グループでの討議・報告を通じて、自らの意見を説得的に伝えることのできる論理性・プレゼンテーション力を身につける。
4）先行研究など文献の読解やフィールドワークなどの調査に必要な、アカデミック・スキルを学び取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
上記の目標を実現するため、このゼミではグループワークと個人研究を並行しておこないます。
春学期には、文化を考えるための基礎となる理論や考え方を確認するため、先行研究を一緒に読み進め、討議します。学期後半からはグループワークによるプレゼンテーションをおこないます。
秋学期は国際文化情報学会のためのグループワークと、各自の個人研究の紹介・発表を、並行して進めます。また随所で理論的な枠組み、モデルとなる研究を検討します。
演習参加者は自分の関心に応じてテーマを自由に設定し（必要に応じて担当教員がアドバイスします）、授業を通じた学び、ゼミ生相互の批評やアドバイスを生かしながら、自らの研究として集約します。
発表者はグループの場合も、個人の場合も、レジュメを作成し、パワーポイントなどを用いて発表をおこないます（事前に資料を配布してもらいます）。発表に対しては全員が参加してのディスカッションをおこないますので、担当者以外の人も十分な予習と積極的な発言が求められます。また毎回各自のコメントを提出してもらいます。
なお授業での講読文献・グループワークのテーマについては、ゼミメンバーの関心や研究テーマを考慮して決定します。
また夏休み中に実施予定の合宿では、テーマを決めた学習会と、研究の中間報告を予定しています。加えて学期中にフィールドワークを実施する予定です。
なお授業の進め方については、学生と教員との話し合いにもとづいて変更を加えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスの確認、各自が関心をもつトピックの紹介、授業の進め方の確認
2	イントロダクション	文献や資料探索の方法の紹介・確認
3	個人研究紹介	4 年生による個人研究の紹介
4	文献講読の導入	とりあげる文献についての紹介・解説
5	グループワーク (1)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(1)
6	グループワーク (2)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(2)
7	グループワーク (3)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(3)
8	グループワーク (4)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(4)
9	フィールドワーク	東京の街を歩くなかでの問題発見とレポートの作成
10	グループワーク (5)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
11	グループワーク (6)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	グループワーク (7)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
13	グループワーク (8)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
14	総括と反省	春学期の議論のまとめ、夏合宿の準備
1	イントロダクション	秋学期のスケジュールの確認
2	個人研究発表 (1)	3 年生による個人研究構想の紹介 (1)
3	個人研究発表 (2)	3 年生による個人研究構想の紹介 (2)
4	グループワーク (1)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (1)
5	グループワーク (2)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (2)
6	グループワーク (3)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (3)
7	グループワーク (4)	国際情報文化学会でのゼミ発表の準備 (4)
8	グループワーク (5)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
9	個人研究発表 (3)	3 年生による個人研究の中間発表 (1)
10	個人研究発表 (4)	3 年生による個人研究の中間発表 (2)
11	グループワーク (6)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	個人研究発表 (5)	4 年生による個人研究の発表 (1)
13	個人研究発表 (6)	4 年生による個人研究の発表 (6)
14	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定ないし配布された文献・資料を十分に読み込んでおくこと。関連する資料・情報について事前の指示にしたがって（または自主的に）収集・入手し、理解につとめること。
・発表を担当する場合（グループ、個人とも）は、レジュメ等の資料作成を含め、プレゼンテーションの準備をおこなうこと。担当しない場合も事前の指示にしたがって予習をおこない、質問・議論すべき点をあらかじめ考えておくこと（内容の要約をミニレポートとして提出してもらう場合があります）。
・フィールドワークなどの際、指示にしたがってレポートを作成し、提出すること。

【テキスト（教科書）】
・上野千鶴子『情報生産者になる』（筑摩書房〈ちくま新書〉、2018 年）
※その他文献や資料のプリント類を随時使用します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。ブックガイドとして下記のものを挙げておきます。
・井上俊・長谷正人（編著）『文化社会学入門――テーマとツール』（ミネルヴァ書房、2010 年）
・井上俊・伊藤公雄（編）『日本の社会と文化』（世界思想社、2010 年）
・井上俊・伊藤公雄（編）『文化の社会学』（世界思想社、2009 年）
・吉見俊哉『現代文化論』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業準備、発表、議論への参加など。50 %）、提出物（リアクションペーパー、課題、レポートなど。50 %）をあわせて評価します。
なお評価にあたっては、以下の 5 点に着目します。
（1）文化を研究・分析するための基本概念と方法論を理解・習得できているか。
（2）対象とする事例について、十分な情報にもとづいて、社会的・歴史的文脈のなかで正確に理解できているか。
（3）文献読解や調査のスキルを習得できているか。
（4）報告や討論を通じてコミュニケーション能力を向上させ、共同の学びに積極的に参加・貢献できているか。
（5）授業での学習成果を主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】
・ゼミ生の関心対象が多岐にわたるなかで、共通した目的としての批判的視点の育成について、より具体的に指導をおこないたい。また学生各自の研究へのサポートを強化するために、アカデミックスキルや基礎理論の解説、論文執筆に関する面談指導をさらに充実させたい。

【その他の重要事項】
自分の研究テーマに閉じこもるのではなく、幅広い知的関心をもってグループワークに参加するとともに、他のメンバーのテーマにたいして積極的にコメントし、アドバイスできる皆さんの参加を期待しています。

【Outline and objectives】
In this seminar we will learn how to analyze everyday cultural phenomena around us through active discussions among members, paying particular attention to the correlated, multitudinous, and multilayered structure of culture. In the process, we will aim to cultivate a better understanding of the issues of contemporary society and a critical attitude toward them.

LIN300GA

言語文化演習

輿石　哲哉

サブタイトル：**英語，英語圏文化研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，学生が英語・英語圏文化を中心に，その言語・文化事象をさまざまな形で受信し，自らの考えを発信していくことを目的とします．

【到達目標】
到達目標としては，１）学生が授業を通じ，できるだけ多くの英語に触れ，英語の力をつける，２）学生が学んだことを可能なかぎり発信していく，の二つです．具体的には，学生がまず英語を理解する力をつけ，文献が読めたり，ニュース等が聞けるようになったりしなければいけません．そのために，数多くの言語・文化事象を自ら受信する能力を高めることで，きちんと英語圏の言語・文化を理解していく態度を身につけていきます．その上で，それを学生が発信していきますが，その際には可能なかぎり，英語で発信することを考えていきます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的に英語・英語文化について，あるいはより一般的に，言語・文化についての材料を用意して，学生が読んだり見聞きしながら体験していくことから始めます．その後，ゼミ生同士で気づきを共有したり，さらに各自が自らの考えを発表したりすることで，より理解・考察を深めていきます．
春学期では，主に英語の言語・文化事象を体験していくことに焦点を当てます．担当教員や学生が選んだ教材を読んだり，見聞きしたりしながら，きちんと理解できる能力を培います．担当者だけでなく，他のゼミ生も教材を徹底的に調べて，自分なりに理解してくることが要求されます．
秋学期では，教材を理解していくことを続けながら，各自の選んだテーマについてのプレゼンを混ぜていきます．自らの意見を発信し，全員で討論することによって，学生は視野を広げ，より深い理解に繋げることを目指します．
なお，以下の授業計画ですが，教材の数については変更する可能性がありますことをご了解ください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生との話し合い．ゼミについての概略を説明．学生・担当教員の自己紹介．春学期でどのような教材を用いるか確認．すぐ次回の教材（教材_1）を配布し，担当者を決める．
2	教材_1（1 回目）	教材_1 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
3	教材_1（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．併せて教材_2 を配布．担当者を決める．
4	教材_2（1 回目）	教材_2 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_3 を配布．担当者を決める．
5	教材_2（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
6	教材_3（1 回目）	教材_3 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_4 を配布．担当者を決める．
7	教材_3（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
8	教材_4（1 回目）	教材_4 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_5 を配布．担当者を決める．
9	教材_4（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
10	教材_5（1 回目）	教材_5 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_6 を配布．担当者を決める．
11	教材_5（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
12	教材_6（1 回目）	教材_6 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
13	教材_6（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
14	総括_1	これまでの教材の理解の仕方を総括する．資料の用い方等についても，再度検討し，今後の研究に役立てる．
15	総括_2	これまでの教材の理解の仕方を総括する．資料の用い方等についても，再度検討し，今後の研究に役立てる．さらに問題点などをプレゼンしてもらい，全員で討議．その後，秋学期へどう続けていくか総括において考えていく．
16	イントロダクション	春学期を振り返り，改めて秋学期の授業開始に際し，スケジュール等を確認する．教材_7 を配布し，担当者を決める．
17	教材_7（1 回目）	教材_7 について担当者が正確に理解しているか，チェック．教材_8 を配布し，担当者を決める．
18	教材_7（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
19	教材_8（1 回目）	教材_8 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
20	教材_8（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
21	学部学会に向けた取り組み_1	学部発表の内容を固めていく．
22	学部学会に向けた取り組み_2	学部発表の内容を固めていく．
23	学部学会に向けた取り組み_3	学部発表の内容を固めていく．
24	学部学会のリハーサル_1	学部学会の発表を念頭に置き，これまで研究してきたことを実際に発表してみる．プレゼンの仕方などについて学習する．
25	学部学会のリハーサル_2	学部学会の発表を念頭に置き，これまで研究してきたことを実際に発表してみる．プレゼンの仕方などについて学習する．
26	学部学会の最終リハーサル	学部学会を控え，最後のリハーサルを行う．実際の発表を見据え，あくまで当日のことを頭に描きながら，よりよい発表になるようベストを尽くす．
27	教材_9（1 回目）	教材_9 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
28	教材_9（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教材の扱っている事柄や学部学会のトピックについて，学生がきちんと先行研究を読むこと．また，固有名詞（人名，地名等）もおろそかにせず，きちんと下調べをしておくこと．最近ではネットを用いたりすればたいていの情報は入手できます．

【テキスト（教科書）】
特定のものは用いません．プリントの形で配布，あるいは授業支援システム等を通じて配布します．

【参考書】
随時，指定します．

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%)，学部学会への貢献等 (50%) を合計して成績を出します．なお，授業は出席することが当然なので、成績評価基準として「出席点」や「出席」という記載はしませんが，欠席が 4 回以上になりますと，参加度ゼロという扱いをするため平常点が極めて低くなり，単位取得が困難になります．

【学生の意見等からの気づき】
2017 年度の振り返りになりますが，総じて好評のようです．学会発表などをやり遂げることで，ゼミ生の自信につながっている様子が見て取れます．

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンが必要なときには，パソコン，スクリーンを用います．また DVD 等も随時使用いたします．

【その他の重要事項】
１．英語に興味が持てない方には不向きです．例えば，英語を読むのが億劫な学生には向きません．
２．上記の授業計画 (Schedule) は実状に合わせて変更・修正を行います．
３．遅刻・欠席は原則として一切認めません．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，3 年生，4 年生が SA 等を通じて自ら選んだコース（言語文化コース）での集大成に至る科目です．4 年間を一つの山にたとえた場合その頂点に向かう科目なので，その重要性をしっかりと認識してください．

【Outline and objectives】
By the end of this course, you should:
- become acquainted with the basic literature on language, communication, and culture studies in general.
- begin to develop your own ability to express your opinion using English.

CUA300GA

言語文化演習

佐々木　直美

サブタイトル：**世界遺産に学ぶ**
配当年次／単位：**3～4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは SA 中あるいは個人旅行などでこれまでにいくつかの世界遺産に触れ感動した経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げ研究します。単に世界遺産に関する知識をみつけるのではなく、世界遺産の意義である平和について考え・行動することを学ぶゼミです。

【到達目標】
①世界遺産の意義を理解する。
②世界が抱える諸問題を認識し、それについて自分の意見を述べ議論を展開させる力を付ける。
③資料収集、文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
④世界遺産検定 2 級あるいは 1 級程度の知識を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ゼミ生との話し合いによってゼミ全体での研究テーマを設定し、その基礎文献の輪講と討論を行います。場合によってはフィールドワークへ出ることもあります。
また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会への参加準備も行いますので、積極的なゼミへの参加と協力が求められます。
今年度は世界遺産検定２級および１級取得を目指しながら、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1	3 年生に対する、昨年度何をやってきたか、の説明（4 年生と教員による）。今年度のテーマについて議論する。
2	イントロダクション 2	世界遺産の基礎知識を学ぶ。課題図書の選定を行う。
3	世界遺産の現状と課題	世界遺産の現状と問題について理解を深めるため、グループに分かれて研究を行う。
4	世界遺産の現状と課題	世界遺産の現状と問題について理解を深めるため、グループに分かれて研究を行う。
5	文献講読 1	課題図書の輪講と討論
6	文献講読 2	課題図書の輪講と討論
7	文献講読 3	課題図書の輪講と討論
8	文献講読４	課題図書の輪講と討論
9	文献講読５	課題図書の輪講と討論
10	個人研究発表	４年生による個人研究発表を行う。
11	個人研究発表	４年生による個人研究発表
12	文献講読６	課題図書の輪講と討論
13	文献購読７	課題図書の輪講と討論
14	まとめ	春学期の間に学んできたことをまとめ、各メンバーが考えたことを持ち寄り、自由に議論する。
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を是認で共有しながら討論する。
3	グループ・ワーク（1）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
4	グループ・ワーク（2）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
5	グループ・ワーク（3）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
6	グループ・ワーク（4）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
7	文献講読１	輪講と討論
8	文献講読２	輪講と討論
9	文献講読３	輪講と討論
10	文献講読４	輪講と討論
11	文献講読５	輪講と討論
12	個人研究発表（1）	個人研究の発表と議論を行う。
13	個人研究発表（2）	個人研究の発表と議論を行う。
14	討論会および総括	受講生がテーマを設定し、討論会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・個人研究を進める。
・必要に応じてフィールドワークを行う。

【テキスト（教科書）】
秋月辰一郎『死の同心円-長崎被爆医師の記録』長崎文献社、2010 年。
永井隆『長崎の鐘』アルバ文庫、1995 年。
高瀬毅『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013 年。
松尾潤『祈りの記憶　長崎と天草地方の潜伏キリシタンの世界』批評社、2018 年。
NPO 法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド 300』毎日コミュニケーションズ、2017 年。

その他必要に応じて授業内で指示します。

【参考書】
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010 年。
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015 年。
NPO 法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典< 上> ＜下＞ 世界遺産検定 1 級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2016 年。
その他必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション、研究報告、ゼミへの貢献度などの平常点（50 %）、課題（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と相談しながらフィールド・ワークを企画し、演習内容を柔軟に対応させる。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO 法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得を目指すことができます。その際にはゼミの先輩たちと共に受検対策をサポートします。

【Outline and objectives】
Many World Heritage sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems. In this seminar, we will study world heritage and various problems related to it according to each student's interest.
The purpose of the seminar is not only to learn the knowledge about World Heritage, but also is to learn to think and act on peace, which is the significance of the World Heritage,

ART300GA

言語文化演習

佐藤　千登勢

サブタイトル：**映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、さまざまな国の映画作品を通して、象徴性・メタファー・寓意的表象で語られる映画言語を読み解き、背後にある、それぞれの国・地域の土着的文化、慣習、歴史的経緯、イデオロギー、社会体制の差異を確認する作業も含めて、映画鑑賞と作品分析を楽しみます。そのための基礎概念として、《ファシズム・全体主義》《亡命・離散》、《差別》、《抑圧》、《エスニシティ》、《マイノリティ》といった社会的テーマから《エディプス・コンプレックス》、《トラウマ》、《母胎回帰》、《潜在意識》、《欲望》など個人の内的世界に関わるモチーフをキーワードに、映画作品の多面性・両義性・重層性、そして映画作品に反映する国や地域の文化や社会を見ていきます。扱う映画作品は、ロシア（ソ連）、アメリカ、イギリス、デンマーク、フランス、イタリア、ドイツ、ポーランド、チェコのもの、及び、監督がこれらの国の出身である作品が中心となるでしょう。
なお、「映画テクスト解読」のみならず、ロシア（および旧ソ連）・中東欧の文化や社会研究の分野も、当演習でとりくむ用意があります。

【到達目標】
映画作品は、世界の縮図モデルであり、多様な国々の社会、経済、文化、民族的な傾向を反映したモデルとも言えます。ですから、映画作品の分析により、学生のみなさんは、洞察力、ものごとの本質を見抜く力を身につけ、さらにこれを言語化してプレゼンテーションする能力を身につけることが、この演習の目標となります。また、毎回の映画鑑賞を経ての議論内容、および自身の意見を A4 用紙 1 枚程度でまとめ、文章表現の鍛錬、自身の見解を論理的に記述する練習を重ねることで、レポート作成能力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
初回から第５回までは、教員が選択する映画作品を鑑賞し、教員による概説と問題提起に基づき、みなさんに自由に討論をしてもらいます。さらに、討論を通して、自身の見解を次週までに短いレポートとしてまとめてもらいます。第６回から以後は、学生のみなさん一人ひとりに映画作品の選択から分析、見解をまとめたプレゼンテーションをしてもらい、質疑応答をみなさんで行います。また、毎回の映画鑑賞と議論の後には、これらを整理し、記憶に留めるためにも、またレポート作成能力の向上のためにも、A41 枚程度の鑑賞記録文を提出してもらいます。
なお、映画作品を扱った発表ではなく、ロシア・中東欧の文化や社会に関する発表を希望する学生は、予め相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、春学期の計画を明確にする。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧について概説。
2	原発事故と個人	『故郷よ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
3	エスニシティと暴力	『神々と男たち』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
4	見果てぬ夢のゆくえ	『マルホランド・ドライブ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
5	自己犠牲と共依存	『奇跡の海』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	学生による報告１	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
7	学生による報告２	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告３	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告４	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告５	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告６	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
12	学生による報告７	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告８	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告９	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
1	学生による報告 10	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
2	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、秋学期の計画を明確にする。
3	全体主義・パロディ・寓意	『ゼロ・シティ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
4	社会主義体制下の不自由な社会と個人、リアリズム	『４ヶ月、３週と２日』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
5	抑圧と抵抗	『地下水道』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	社会批判とメロドラマの混淆の妙味	『１年の９日』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
7	学生による報告１	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告２	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告３	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告４	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告５	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

12	学生による報告６	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告７	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告８	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予め読んでくるべきテキスト（参考文献の一部コピーなど）を配付することがあります。その場合には、学生は必ずテキストを精読し、演習での議論に活発に参加できるようにしてきてください。また、発表担当の学生は、自身の紹介する映画作品について社会背景、制作背景、手法、解釈の観点から詳細に調査を行うこと。発表担当以外の学生も、毎週鑑賞する映画作品については文献やネットを通して予習の上、演習に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストは使用しません。適宜、教員がテーマと関連する文献のコピー、および教員が作成したレジュメを配付します。

【参考書】
ジェニファー・ヴァン・シル著『映画表現の教科書』吉田俊太郎訳、フィルムアート社、2012 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）、リアクションペーパー（25 %）、報告内容（25 %）に基づき、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の議論を中心とした演習を望む声もあれば、教員からの概説を中心とした演習を望む意見もありました。以後は、両者の配分のバランスに配慮しながら演習を進め、学生のみなさんに知識を得る楽しさや充実感を味わってもらうと同時に、自らの意見をまとめて見解を述べ、議論する技術を身につけてもらうよう尽力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【Outline and objectives】
In this seminar, we will analyze and interpret motion pictures of various countries from the point of view of an allegorical representation, metaphor, camera work, and the historical and political background of each of the countries. The basic concepts: Oedipus complex , trauma, subconscious, fascism, totalitarianism, discrimination, suppression, ethnicity and minority.

HIS300GA

言語文化演習

鈴木　靖

サブタイトル：**アジアから見た日本**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国や台湾、韓国などアジアの人々の対日イメージと日本人の自己イメージとの間には大きな懸隔があり、良好な近隣関係を築く上での障害となっている。この授業では「アジアから見た日本」をテーマに、これらの国や地域と日本との政治的関係や文化的交流の歴史を概観するとともに、アジアの人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件や人物に焦点を当て、それらが当該国や地域の教育やテレビ・映画などを通じてどのように語り伝えられているかを学ぶ。

【到達目標】
アジアの人々の対日イメージがどのように形成されたかを理解し、日本とアジアという双方の視点から問題を考える力（「共感力」empathy）を養い、国際社会人として円滑な異文化間コミュニケーションを行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度は春学期に台湾、秋学期に韓国について学ぶ。
春学期には、台湾でベストセラーになった『図説・台湾の歴史』をテキストにその歴史を概観するとともに、台湾の人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件を取り上げ、それが台湾の歴史教科書やテレビ・映画の中でどのように描かれているかを学ぶ。
夏合宿では日本とアジアとの交流に関連した史跡を見学するとともに、ビデオ取材の基礎を学ぶ。
秋学期には、石坂浩一・福島みのり編『現代韓国を知るための 60 章（第 2 版）』をテキストに、韓国の政治、社会、文化を学ぶ。
また、これらの学習と並行して、アジアに関連したドキュメンタリー映像作品を制作する。昨年度は韓国にいまも生きる原爆被害者に取材した「韓国のヒロシマ〜ハプチョンからの想い」を制作した。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	なぜ台湾の歴史を学ぶのか？	課題テキストを輪読する目的と到達目標を確認し、同書の発表分担や授業の進め方について話しあう
第 2 回	先史時代の台湾と先住民たち	同書の第２章と第３章をもとに、先史時代の台湾と先住民について学ぶ
第 3 回	オランダ統治下の台湾	同書の第４〜６章をもとに、オランダ統治下の台湾と漢族移民および先住民と関係について学ぶ
第 4 回	鄭氏政権下の台湾	台湾を拠点に異民族王朝である清に抵抗を続けた鄭成功ら鄭氏政権について学ぶ
第 5 回	日本統治下の台湾① 日本の領台からタバニー事件まで	同書の第７〜８章をもとに、日本の領台から二大抗日事件の一つであるタバニー事件（西来庵事件）までを学ぶ
第 6 回	日本統治下の台湾② 霧社事件	二大抗日事件の一つである霧社事件に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの事件をどのように描いているかを考える
第 7 回	日本統治時代の台湾③ 反植民地運動	同書の第９〜１１章をもとに、日本統治の台湾での反植民地運動について学ぶ
第 8 回	日本統治時代の台湾④ 戦時下の台湾	同書の第１２章をもとに、戦時下の台湾について学ぶ
第 9 回	日本統治時代の台湾⑤ 軍人・軍属の動員と戦後補償問題	台湾からの軍人・軍属の動員と戦後補償の問題に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの問題をどのように描いているかを考える
第 10 回	国民党独裁体制下の台湾① 2・28 事件と白色テロ	同書の戦後編第１〜２章をもとに、戦後台湾で起こった最大の弾圧事件である 2・28 事件について学ぶ
第 11 回	国民党独裁体制下の台湾② 2・28 事件と白色テロの犠牲者たち	台湾人の対中国イメージに大きな影響を与えた 2・28 事件や白色テロの犠牲者に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの問題をどのように描いているかを考える
第 12 回	民主化運動から現代へ①	同書の戦後編第３〜４章をもとに、台湾の民主化運動とその成果について学ぶ
第 13 回	民主化運動から現代へ②	民主化以降の台湾の歩みを歴史教科書や新聞記事などを使い整理する
第 14 回	台湾の対日イメージ	中国や韓国との比較を通じて、台湾の対日イメージの特徴と課題について考える
第 15 回	なぜ韓国の政治、社会、経済、文化を学ぶのか Ⅰ 政治 第 1 章 国土と人口 第 2 章 冷戦と分断 第 3 章 冷戦の構造化	課題テキストを輪読する目的と到達目標を確認した後、1945 年の解放から 1950 年代初頭の朝鮮戦争に至る韓国の現代史を学ぶ
第 16 回	Ⅰ 政治 第 4 章 民主化の高揚と市民社会の形成 第 5 章 平和的政権交代と保守政権の復活 第 6 章 憲法と政治形態、政党	1960 年代の冷戦構造の中での反共体制から今日に至るまでの韓国の民主化の歴史を学ぶ
第 17 回	Ⅰ 政治 第 7 章 南北対立から和解へ 第 8 章 韓国の軍隊と徴兵	朝鮮半島の南北分断の歴史と現在の南北関係および韓国の軍隊の現状を学ぶ
第 18 回	Ⅰ 政治 第 9 章 日韓関係 竹島＝独島について 第 10 章 韓国の外交関係	戦後の日韓関係とその課題、韓国と諸外国との関係の現状を学ぶ
第 19 回	Ⅱ 社会 第 11 章　教育システムと受験戦争 第 12 章　いじめ・学校暴力 第 13 章　教育の新しい動き	受験戦争やいじめに悩む韓国の学校と、その問題解決に向けた新たな動きを学ぶ
第 20 回	Ⅱ 社会 第 29 章 88 万ウォン世代 第 30 章 大学生の就職活動	厳しい就職活動と不安定な雇用に苦しむ韓国の若者の現状を学ぶ
第 21 回	Ⅱ 社会 第 33 章 離散家族、「脱北者」 第 34 章 自殺の増加を食い止める 第 35 章 変貌する家族関係	朝鮮戦争による離散や家族関係の変化など、韓国の「家族」のいまを学ぶ
第 22 回	映像作品試写会	秋学期に制作した映像作品の試写会を行い、修正すべき点について意見交換を行う
第 23 回	Ⅲ 経済 第 36 章 韓国経済の成長と現況 第 37 章 財閥と経済構造	韓国経済とそれを支配する財閥系企業の歴史と現状を学ぶ
第 24 回	Ⅳ 文化 第 47 章 テレビドラマの変遷 第 48 章 多様化し深化する韓国映画	中高年を中心に日韓の大衆文化交流のメインストリームとなった韓国のテレビドラマと映画の歴史と現状を学ぶ
第 25 回	秋の遠足	日韓関係に関連した近隣の施設や史跡を見学する
第 26 回	Ⅳ 文化 第 49 章 Ｋ－ＰＯＰへの道のり 第 50 章 Ｋ－ＰＯＰアイドルの誕生とファンダム	若年層を中心に日韓の大衆文化交流のメインストリームとなったＫ－ＰＯＰの歴史と現状を学ぶ
第 27 回	Ⅳ 文化 第 57 章 新聞・放送 第 60 章 ＳＮＳとソーシャルテイナー	韓国の世論形成に大きな影響力を持つ新聞・放送やＳＮＳなどのメディアの歴史と現状を学ぶ
第 28 回	まとめ	春学期・秋学期の学習を総括し、この演習の到達目標をどの程度達成できたか、今後の課題は何かを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は、テキストの内容をまとめるだけでなく、それを補充あるいは反証する資料を紹介し、論理的思考と批判的思考をもって実証的な発表ができるよう準備する
・発表者以外は、テキストの当該箇所を精読するとともに、他の関連資料も事前に参照して、発表後のディスカッションに貢献できるよう準備する

【テキスト（教科書）】
【春学期】

・周婉窈著『増補版・図説台湾の歴史』（平凡社、2013 年）
【秋学期】
・石坂浩一・福島みのり編『現代韓国を知るための 60 章（第 2 版）』（明石書店、2014 年）

【参考書】
春学期
〔書籍〕
・若林正丈著『台湾――変容し躊躇するアイデンティティ』（ちくま新書、2001 年）
・呉濁流著『夜明け前の台湾』（社会思想社、1972 年）
・戴國煇編著『台湾霧社蜂起事件　研究と資料』（社会思想社、1981 年）
・楊威理著『ある台湾知識人の悲劇』（岩波同時代ライブラリー、1993 年）
・内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（山川出版社、2002 年）
・許國雄監修『台湾と日本・交流秘話』（展転社、1996 年）
〔映像〕
・台湾テレビドラマ「風中緋桜」（万仁電影有限公司制作、2003 年放送）
・台湾映画「セデック・バレ（原題 賽德克巴莱）」（2011 年公開）
・NHK ドキュメンタリー「ＢＳプレミアム 三つの名を生きた兵士たち～台湾先住民 “高砂族” の 20 世紀」（2012 年 8 月 11 日放送）
秋学期
〔書籍〕
・尹學準『タヒャンサリの歌』（丸善ライブラリー、1996 年）
・朴裕河著・佐藤久訳『和解のために――教科書・慰安婦・靖国・独島』（平凡社ライブラリー、2011 年）
〔映像〕
・韓国映画「ブラザーフッド（原題　　）」（2004 年公開）
・韓国映画「国際市場で逢いましょう（原題　　）」（2014 年公開）
・NHK「プロジェクト JAPAN シリーズ 日本と朝鮮半島 第 5 回 日韓関係はこうして築かれた」（2010 年 8 月 1 日放送）

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回以下の項目について５段階の自己評価をしてもらい、その合計点で評価する。
①遅刻や早退、無断欠席などをすることなく、演習のマナーを守ったか（25 %）
②輪読資料を事前に精読し、意見交換ができるように準備したか（25 %）
③他のゼミ生の発表をしっかり聞き、積極的に意見や質問を行ったか（25 %）
④教室内で飲食などをすることなく、またゼミ終了後は教室内の清掃や機材の片付けを行ったか（25 %）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は輪読発表に多くの時間がかかり、意見交換に十分な時間を割くことができなかったので、今年度は各回の輪読発表の割り当てを少なくした。意見を述べることは演習への貢献と考え、より活発な議論を行ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
演習では、授業時間外でも共同作業ができるよう、独自に設置した SNS サービス fixi を活用する。URL は、
・fixi
http://fic.xsrv.jp/elgg/
授業の中では次のような情報機器を使用する。
(1) プレゼンテーション
パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける
〔使用機材〕ＰＣ、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど
(2) ディスカッション
発表者や他者の意見にしっかり耳を傾けるとともに、批判的思考と資料的根拠をもって論理的、実証的に意見を述べ、ディスカッションに貢献する力を身につける
〔使用機材〕マイク、教室内の拡声装置
(3) 現地取材
取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につける
〔使用機器〕ビデオカメラ、三脚、マイク、fixi（インタビューの起こしと翻訳に利用）
(4) 映像制作
文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを身につける
〔使用機器〕パソコン、fixi（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど

【Outline and objectives】
How does Japan’s self image differ from the ideas and opinions held by the people of China, Taiwan and Korea, throughout history?
What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?
Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by the countries of China, Taiwan and Korea, through the use of text and visual materials.

ARSc300GA

言語文化演習

栩木　玲子

サブタイトル：**知ってるアメリカ・知らないアメリカ**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一つの「場」から別の「場」へ足を踏み入れるとき、人は多くの発見をします。日本を離れて初めて見えてきたことが、SA 期間中には数多くあったのではないでしょうか。音楽、映画、テレビなどのメディア文化の豊かさや危うさ、生活様式、教育システム、あるいは大統領選挙、銃規制問題、国や人に対するイメージなどについて、それまでの思い込みがもろくも崩れ去ってしまう経験は「自分」という狭い箱から抜け出すきっかけとして、とても貴重です。当演習でみなさんは、せっかく得られたその経験を忘れないうちに一つ一つ切り出し、俎上にのせ、さまざまな資料に基づいて分析を加えます。「異文化を知り、自分を知る」ことが目的です。担当教員の専門領域がアメリカ文化なので、アメリカに関する知見を深めることがサブテーマとなるでしょう。

【到達目標】
I. この演習で学生は以下の力を身につけます。
(1) 一つの題材から、検討に値する問題点を見つけ出す。
(2) 上記の問題点の理由を調べ、解釈・検討し、それを他者に伝える。
(3) 他者の意見に耳を傾け、場合によっては見解を修正しつつ、より正確で精緻な、説得力のある結論
　へと練り上げる。
言い換えれば (1)~(3) のプロセスを通して、学生は問題発見、情報収集、解釈と分析と思考 、そして表現のスキルを磨いてゆきます。それが当演習の目標の一つです。
II. こうした探求の姿勢は、一つの事象の背景が決して単一で単純ではないことを、改めて気づかせてくれるはずです。その複雑さをときほぐすための、強靱かつ繊細な知力と感受性を身につけることも、当演習の目標となります。
III.「大学時代になにを学びましたか？」と聞かれたとき躊躇なく答えられることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員が用意し、または学生のリクエストによる文献、映画、テレビ番組、音楽などを読み/聞き/観てから、それらについて問題設定を行い、プレゼンテーションならびにディスカッションを行います。また、学生は授業で浮かび上がった問題や、自分の経験を通して興味を抱いた事柄をテーマに選び、授業で獲得した方法論を使って、情報を取捨選択しながらゼミレポートを完成させます。もちろん一人で作業するだけではありません。随時レポートの進行状況を報告しあいながら、学生同士の意見やアドバイスが活発に交差する機会を、授業内外で提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。自己紹介がわりに SA 先などでの「？」や「！」体験の洗い出し（グループによる討議とプレゼンテーション）。
第 2 回	表象分析（1）	一回目の授業で気づいたことに基づいて、表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討し、実際に分析します。
第 3 回	表象分析（2）	前回の続き。
第 4 回	アメリカ理解のためのトピック（1）	人種とその歴史的背景について検討します。
第 5 回	アメリカ理解のためのトピック（2）	おもに宗教について日本と比べながら検討します。
第 6 回	ゼミ論合評会（1－ 1）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	ゼミ論合評会（1－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	ゼミ論合評会（2－ 1）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	ゼミ論合評会（2－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	春学期ゼミ論助走	テーマ設定の仕方やレジュメの書き方、書式などについて説明。ゼミ論の構成や論理的な思考についてもトレーニングします。
第 11 回	ゼミ論合評会（3－ 1）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 12 回	ゼミ論合評会（3－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 13 回	ゼミ論合評会（4－ 1）	ゼミ論のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 14 回	ゼミ論合評会（4－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 1 回	アメリカ理解のためのトピック（3）	ホワイトカラーとブルーカラーについて検討します。
第 2 回	アメリカ理解のためのトピック（4）	マニフェスト・デスティニーとフロンティアについて検討します。
第 3 回	アメリカ理解のためのトピック（5）	肥満と階級について検討します。
第 4 回	ゼミ論合評会（1－ 1）	３・４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 5 回	ゼミ論合評会（1－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 6 回	ゼミ論合評会（2－ 1）	３・４年次のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	ゼミ論合評会（2－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	ゼミ論合評会（3－ 1）	３・４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	ゼミ論合評会（3－ 2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	ゼミ論合評会（4－ 1）	３・４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 11 回	ゼミ論合評会（4-2）	前回のゼミ論に基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 12 回	フィールドワーク	身の回りにある「アメリカ」に係わる事柄を集め、日本の「アメリカ化」について検討します。
第 13 回	秋学期ゼミ論助走（1）	春学期ゼミ論執筆からの気づきと表現の困難、ならびに一般化とステレオタイプをめぐる境界設定を確認します。
第 14 回	秋学期ゼミ論助走（2）	春学期ゼミ論執筆からの気づきから、出典明示の意味と方法を再確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に向けた事前準備（題材を読む・観る・聞く・調べる）は授業に参加するために不可欠です。準備の方法や範囲は、毎回具体的に指示します。春・秋学期のゼミ論作成には相応の時間と労力を費やすことになりますが、完成時の知的な満足感・充実感は学生時代の思い出の一つとして、なにものにも換えられないはずです。また社会へ出てからも大きな自信となることでしょう。

【テキスト（教科書）】
とくになし。主に論文、新聞、雑誌、ネット記事などの印刷物を使用します。

【参考書】
適宜、授業時間内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
（1）発表 (30%)
（2）発言や毎授業における貢献度 (10%)
（3）レジュメや各回コメントシートなどの課題の完成度（10 %）
（4）ゼミ論（50 %）
上記 4 つの側面を主たる評価の対象として、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生が主体的に授業を企画・運営できるよう、サポートしていきます。また英語によるレポート執筆にも対応し、英語圏への留学も極力アシストし続けるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
DVD プレイヤー、PC、ならびに授業支援システム

【その他の重要事項】
（1）授業や授業準備を優先させられる
（2）向上心・知的好奇心が強い
（3）USA や特定の文化、あるいは文化全般に興味がある
– 以上の条件を満たす学生を望みます。また、当演習には学部 SA 先がアメリカ以外の学生や「嫌米」の学生もいます。多様な背景をもつ学生を歓迎します。

【Outline and objectives】
Through this course, students will be introduced to basic concepts and theories in order to understand various cultures, mainly those in the United States. Students are expected to develop an interest in the issues of ideology, power, everyday meaning-making and cultural practices. This course will explore different territories within the realm : popular culture and media studies, minority and subcultures, race, gender,etc. In addition, students will be learning and trying out various methods to find information, give presentations, write papers, cite sources, etc.

ARSx300GA

言語文化演習

廣松　勲

サブタイトル：**フランコフォニーの言語文化**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「フランコフォニー（＝フランス語圏）」の言語や文化を総合的に分析することで、世界に散在するフランス語・フランス文化の多様性と共通性を考察する。それにより、フランス語圏に留まらず、文化接触や文化的差異の調整を理解する際の分析手法を身につけることを目的とする。
（＊フランス語の語学能力は前提としないが、或る程度の予備知識があることが望ましい。要相談。）

【到達目標】
到達目標は、大きく分けて 2 つある。
①一つには、「フランス共和国」の言語文化を超えて、「フランコフォニー」のそれへと変貌を遂げつつあるフランス語・フランス文化が、各地域において、どのような方法によって多文化・他文化との共生の道を探っているのかを説明できること。
②もう一つには、文化接触や文化的差異の「妥当な調整」といった現象を分析する際に必要となる方法論を、確りと意識して分析・考察に取り組むことができるようになること。
これらの目標に到達するために、学生は自ら選んだフランス語圏地域におけるフランス語・文化を調査・分析することで、「どのような文化接触の結果として、どのような共生への道が目指されてきたのか」、その上で「そのような共生への道が今後も有効なものであるのかどうか」を考察することになる。
調査・分析・考察の結果は、最終的にレポートや論文などの形にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本演習では、学生の人数・関心等に鑑みながら、以下のような形で演習を進める。
≪ 春学期について ≫ テクストや映像を丁寧に読み込む方法を知るため、主に演習形式（レジュメ発表と討議）で進める。邦訳・字幕版の存在する代表的なフランス語圏の文献・映像、それらに関するエッセイなどを分析対象とする。まず最初の数回の演習では、参加学生と対話しながら、フランス語圏の言語文化を読解する際の「方法論」や「レジュメの作成方法」などを講義する。その後、演習形式の講読では、担当の学生が分担箇所をレジュメ発表し（何がどのように描かれているか？ など）、その上で問題提起とゼミ全体での討議を行う（なぜそのように描かれているのか？ など）。
春学期の最後には、個人研究のテーマや分析方法を決定する際のヒントを見つけるべく、学習内容についてレポートを提出してもらう。
≪ 秋学期について ≫ 前半では、講読形式を継続する予定である。後半では、各自が自らの関心・問題意識から個人研究の口頭発表を行った上で、全員で討議を行うことになる。
秋学期末までに、個人研究の成果を論文などの形で提出してもらう。
≪ リアクション・ペーパーについて ≫ 全体討議などで触れられなかった疑問点や意見、さらに演習運営上の希望を含めて、リアクション・ペーパーを提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本演習（特に春学期）の内容および参加方法を説明する。 ・「フランコフォニー（フランス語圏）」とは何か？ ・春学期の講読分担を決める。
2	Ⅰ．方法論の概説、レジュメ作成方法・問題提起の仕方の確認	・文献を読解する際の方法論を概説する。テクストや映像を対象とした「テクスト分析」や「社会学的分析」を中心に論じる。 ・講読で必要となる「レジュメ」等の作成方法を解説し、参加学生全員に共通理解を作る。
3	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る	・グザヴィエ・ヤコノ著『フランス植民地帝国の歴史』（第一部、第二部）を講読する。 ・映画『はじまりの小屋』を見る。
4	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る	・グザヴィエ・ヤコノ著『フランス植民地帝国の歴史』（第三部、第四部）を講読する。
5	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る	・フランス植民地帝国が各地域に残した「遺産」について考える。 ・映画『移民の記憶』（一部分）を見る。
6	Ⅲ．フランスと移民	・概説的にフランス共和国について論じる。 ・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（序章〜第 2 章）を講読する。 ・映画『移民の記憶』（一部分）を見る。
7	Ⅲ．フランスと移民	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 3 章〜第 4 章）を講読する。 ・映画『憎しみ』を見る。
8	Ⅲ．フランスと移民	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 5 章〜第 6 章）を講読する。 ・映画『非-統合』を見る。
9	Ⅲ．フランスと移民	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（終章）を講読する。 ・映画『Le Gone du Châba』を見る。
10	Ⅳ．カリブ海域の言語文化	・概略的にアメリカ大陸のフランス語圏について解説を行う。 ・概説的にカリブ海域諸島に関する解説を行う。 ・特に、ネグリチュード、アンティユ性、クレオール性、クレオール化といった文化概念を説明する。
11	Ⅳ．カリブ海域の言語文化	・エメ・セゼールの『帰郷ノート／植民地主義論』、訳者による「エメセゼール小論」を講読する。
12	Ⅳ．カリブ海域の言語文化	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（ⅠとⅡ）を講読する。 ・エメ・セゼールに関する映像を見る。
13	Ⅳ．カリブ海域の言語文化	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（ⅢとⅣ）を講読する。
14	Ⅳ．カリブ海域の言語文化 まとめ	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（Ⅴ）を講読する。 ・ジャン・ベルナベ、ラファエル・コンフィアン、パトリック・シャモワゾーの評論『クレオール礼賛』を講読する。 ・まとめ
１５	イントロダクション	・秋学期の演習内容と参加方法を確認する。 ・秋学期の講読分担を決める。
１６	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・概略的にアメリカ大陸のフランス語圏について解説を行う。 ・特に歴史的・言語的コンテクストに注目しつつ、マルチカルチャー、インターカルチャー、トランスカルチャーといった文化概念を説明する。
１７	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ジェラール・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（はじめに、第一章〜第四章）を講読する。 ・映画『ブレイキングコップ』を見る
１８	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ジェラール・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（第五章〜第八章）を講読する。
１９	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ダニー・ラフェリエールの小説『帰還の謎』（前半）を講読する。 ・ケベックへの移民に関するドキュメンタリーを見る。
２０	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ダニー・ラフェリエールの小説『帰還の謎』（後半）を講読する。 ・ダニー・ラフェリエール脚本・監督の映画『いかにして一晩でアメリカを征服するか？』を見る。
２１	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ジャック・ゴドブーの小説『やぁ、ガラルノー！』（前半）を読む。
２２	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ジャック・ゴドブーの小説『やぁ、ガラルノー！』（中盤）を読む。 ・ジャック・ゴドブーの映像作品を見る。
２３	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化	・ジャック・ゴドブーの小説『やぁ、ガラルノー！』（後半）を読む。
２４	Ⅵ．個人発表①	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度） ・「ベルギー」に関するアニメ映画『はちみつ色のユン』を見る。
２５	Ⅵ．個人発表②	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度）
２６	Ⅵ．個人発表③	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度） ・「セネガル」に関するアニメ映画『アダマ』を見る。
２７	Ⅵ．個人発表④	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度）

２８	まとめ	・まとめ ・来年度のゼミ運営に関する検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

≪ 準備学習に関して ≫ レジュメ作成担当の学生は、充実した討議のためにも、「要旨」「語句説明」「問題提起」を確りと切り分けて提示すること。また、担当ではない学生も積極的に討議に参加するために、講読文献を含めた関連資料にも触れておくこと。

≪ 情報収集に関して ≫ 参加学生は、各種メディアを介して、フランス語圏社会の言語・文化・社会等について、できるだけ情報収集するように心掛けてほしい。また、演習内などで告知する講演会や上演会への参加は義務ではないが、できれば積極的に参加してくれることを願う。

【テキスト（教科書）】

講読文献に関しては、参考文献とともに、初回の演習において告知する。ただし、学生との相談によって、講読文献・映像を追加・変更する場合がある。

【参考書】

参考文献に関しては、講読文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。当然ながら、希望者には、さらに詳しい参考文献・映像等を提示するつもりである。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出など）： 10 %、講読発表： 30 %、全体討議への参加度合： 20 %、学期末ごとのレポート： 40 %を見て、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読を行うために必要なレジュメ作成や問題提起の仕方等については、春学期最初の授業だけでなく、適宜解説を行う。特に問題提起の仕方については、丁寧に解説を加える。

【学生が準備すべき機器他】

CD, DVD, BD などを用いることがある。

講読におけるレジュメ発表や個人発表の際には、パソコンおよびスクリーンを用いることがある。

【その他の重要事項】

履修に際しては、できるだけ春学期と秋学期合わせての履修を推奨する。フランス語の知識（＝語学能力）は要求しない。ただし、講読の際にフランス語原典を読み、レジュメを作成しても構わない（ただし、フランス語を知らない学生にも分かるようなレジュメであって欲しい）。また、日本語以外の文献も積極的に参照することが望ましい。

講読文献の分量や内容によっては、比較的多くの準備時間が必要となることがある。そのため、レジュメ作成担当者は、早めに準備作業を始めることを推奨する。

講読や個人研究を進める上で疑問点などがあれば、廣松研究室（BT2008）での個人面談やメール面談にて、直接話し合うことができる。

【Outline and objectives】

This course deals with the problematics of the French-speaking world around the world while reading a variety of books and articles (written in japanese). It also enhance the situation of french language or national identity in the relevant countries or regions. For this year 2019, we will deal with the situation of migrants in France, the Département d'outre-mer, Martinique, and the province of Québec in Canada.

LIT300GA

言語文化演習

前川　裕

サブタイトル：**比較文化研究（小説と映像）**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期/Spring・Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大衆文化の研究や映像の鑑賞を通して、文化を比較することの意味を考える。研究対象は、参加学生の人数・希望も考慮しながら多岐に渡るが、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫のような純文学作家の作品、ミステリー風の小説や推理小説の元祖ポーの作品、あるいは江戸川乱歩・横溝正史・松本清張・綾辻行人・東野圭吾などの推理・大衆小説も取り扱うことになろう。あるいは、それらの文学作品と関連する映画の鑑賞も大きなテーマとなり得る。これらの作品（小説・映像）を、西洋の関連作品と比較・対比することによって、最終的には日本文化および西洋文化の本質について議論する。

【到達目標】
文化研究の伝統的な方法論を知り、それを踏まえた上で自分独自の創意工夫を凝らした研究を行うことができるようになること。最終的には、あらゆる領域の大衆文化について、論文としての体裁の整ったゼミ論を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式の併用によって進められる。学生諸君のグループによって、発表してもらうこともある。せまい意味での文化研究ではなく、文学作品や映画を通して、浮き彫りにされる各時代の文化的諸相の理解が望まれる。また、大衆文化の研究が中心になるため、寄席に出かけたり、ゆかりの場所・文学館等を訪問することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大衆文化研究の意味	マシュー・アーノルドの『文化と無秩序』やレイモンド・ウイリアムズの『長い革命』を紹介し、大衆文化を研究することの意味を検証する。
2	比較文化研究の視点	『グーテンベルグの銀河系』を紹介しながら、シェークスピアの『リア王』の伝統的読みと新しい視点について、概説する。
3	黒沢明の『蜘蛛巣城』を見る。	映画『蜘蛛巣城』がシェイクスピアの『マクベス』を下敷きにしていることはよく知られている。黒沢によって、映画化された『乱』が原作と比べてどのように変容し、日本的価値を表出しているかを考察する。
4	推理小説の歴史的研究　『人間椅子』と『地獄の道化師』	江戸川乱歩の『人間椅子』と『地獄の道化師』を読み、当時の探偵小説がどういう位置づけにあったかを文化的に考察する。
5	映画『黒蜥蜴』を見る。	江戸川乱歩の原作を舞台劇として脚色した三島由起夫作品に基づいた映画『黒蜥蜴』を見て、原作との差違を考察する。
6	エドガー・アラン・ポー原作『赤死病の仮面』の映画鑑賞	ポーの『赤死病の仮面』を読み、「仮面」と「時計の音」が持つ象徴性について考察する。この２つの要素が、後に映画や推理小説において、どのように応用されたかも考える。
7	『たけくらべ』の英訳研究	樋口一葉『たけくらべ』の一部原文と英訳を検討し、翻訳とは何かを考える。また、この作品の背景となる「遊廓」の歴史と売春防止法の関係を社会文化史的に考察する。
8	「樋口一葉記念館」見学	『たけくらべ』が書かれた背景を「樋口一葉記念館」の訪問によって学習する。単なる作品研究ではなく、その時代の背景を知ることが重要である。
9	学生による発表１	レジュメの書き方、発表の方法などについて、学生の発表を参照しながら、解説する。
10	エドガー・アラン・ポー原作『アッシャー家の崩壊』の映画鑑賞	ポーの『アッシャー家の崩壊』の原作の解釈と映像を見て、そこに含まれる推理小説的要素について考える。特に、そこに描き出される血縁の家系図の意味について考える。
11	横溝正史『八つ墓村』を読む。	この作品が津山事件とどういう関係にあるかを検証し、『アッシャー家の崩壊』との関連を考える。
12	映画『悪魔が来たりて笛を吹く』を見る。	映像を見ながら、帝銀事件という実際の事件を原作がどのように取り入れ、それがどのように映像化されているかを考察する。
13	学生による発表２　松本清張原作『点と線』	松本清張『点と線』について、学生に発表してもらう。社会派推理小説の意義について考察する。
14	綾辻行人『奇面館の殺人』を読む。	推理小説における空間の限定が、どういう意味合いを持つのかを、ポーの小説と対比させながら考察する。
１５	レポートの回収と講評	論文の書き方について、回収レポートを見ながら、解説する。
１６	ルネ・クレマン『太陽がいっぱい』の鑑賞	フランス映画における、終わりの問題を考える。アリストテレスのペリペティアの理論を映画の演出に関連させて考察する。
１７	イングマール・ベルイマン『処女の泉』の鑑賞	巨匠ベルイマン監督がストーリーの構成をどう考えていたかを研究し、西洋映画と日本映画の差異を考察する。
１８	溝口健二『雨月物語』の映画鑑賞	上田秋成原作『雨月物語』が、溝口の手によって、どのように映像化されたかを、原作との差異を考察しながら、検証する。
１９	小津安二郎『秋刀魚の味』の映画鑑賞	溝口や小津が海外で高い評価を受ける理由を、オリエンタリズムという視点から考察する。
２０	東野圭吾『容疑者Ｘの献身』を読む。	ミステリー小説の構造を、アリストテレスが『詩学』の中で述べている理論で分析する。ギリシャ悲劇と近代ミステリーの類似点についても、考察する。
２１	『容疑者Ｘの献身』の映画鑑賞	映像が小説に対して、一層、大衆的なものになり得る理由を考察し、映像と活字の問題を研究する。
２２	レイモンド・ウイリアムズ「感情の構造」と昭和歌謡	ウイリアムズの言葉「感情の構造」を用い、横光利一の『上海』とも対比させながら、日本の昭和歌謡がどのような裏の意味を持っていたかを考える。
２３	学生の発表４	４年生３人によるゼミ論の中間発表会。１人２０分程度で、自分のゼミ論の構成と要旨を概説してもらい、それぞれが質疑応答を受ける。
２４	学生の発表５	４年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、２３に同じ。
２５	学生の発表６	４年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、２３に同じ。
２６	遠藤周作『海と毒薬』を読む。	『海と毒薬』を読み進めながら、日本における罪の意識と西洋における罪の意識について考える。
２７	アラン・レネ『夜と霧』の映画鑑賞	罪という問題を扱う際、活字とは異なる映像という媒体がどのような効果を生み出すか考察する。
２８	６０年代および７０年代の背景	三島由起夫の『鏡子の家』を紹介しながら、作品そのものよりも、むしろ、当時の時代背景に焦点を当てて概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書は必ず読んで、授業に出席しなければならない。課題図書は、推理小説・日本近代文学作品・海外の翻訳作品など多岐に渡る。また、毎回の授業で配布するプリントは必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】
共通のテキストは使わない。日本文学作品の英訳を取り扱うときは、英訳のプリントを配布する。原文の方は、各自で用意してもらう。

【参考書】
『グーテンベルグの銀河系』（M. マクルーハン、みすず書房）

【成績評価の方法と基準】
発表・発言などの平常点 (40%) および提出レポート (60%)。

【学生の意見等からの気づき】
授業評価アンケートはおおむね良好だが、授業の延長については、映画鑑賞や特別な発表に限るべきだろう。部屋は２時間分確保してあるが、目的もなく延長するのは好ましくない。むしろ、基本的には９０分内にゼミが終了することを目指したい。

【学生が準備すべき機器他】
映画鑑賞のためのＡＶ機器。

【その他の重要事項】
文化について考えることが好きな学生の参加を希望します。映画好きも大歓迎。このゼミでは、今まで見たことがないような風変わりで、興味深い映画を鑑賞することができます。また、知識よりも感性、頭のよさよりも、性格のよさを重視します。もちろん、ゼミ参加には協調性が一番大事です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help the students to acquire an understanding of the cultural differences through reading novels of Japanese and Western literature and seeing movies of two culturally different countries. This course deals with not only the works of writers of pure literature such as Soseki Natsume, Jun'ichiro Tazizaki, Yasunari Kawabata, and Yukio Mishima, but also those of mistery writers such as Ranpo Edogawa, Seishi Yokomizo, Seicho Matsumoto, Yukito Ayatsuji, and Keigo Higashino. By comparing those works of Japanese literature with Western counterparts, and seeing the movies which are based on those novels, the participants are expected to acquire the necessary skills and knowledge to discuss what is the nature of Japanese culture and Western culture at the end of the course.

LIT300GA

言語文化演習

リービ　英雄

サブタイトル：**国際文学論**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学の国際化を代表する作家とともに、日本文学と外国文学を両方読む。それぞれの国、それぞれの言語、それぞれの時代にとって、真に新しい表現は何なのか、追求する。
越境、マイノリティ、ポストコロニアル、バイリンガル、紀行文学などを、情熱的に読み、楽しく話し合う。文学を専門にしない学生を歓迎する。ＳＡにおいて異言語に身をさらした、その体験を活かし、現代にとって書き言葉の表現の最先端はどこにあるかを問う。

【到達目標】
日本と世界の一流の文学表現にふれて、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
テキストを読んで、それについて学生が発表をする。
ゼミナール形式を中心に授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールについて	イントロダクション
第 2 回	越境とバイリンガル①	書くべきことがあるのか
第 3 回	越境とバイリンガル②	発表①
第 4 回	越境とバイリンガル③	発表②
第 5 回	越境とバイリンガル④	発表③
第 6 回	マイノリティの表現①	発表①
第 7 回	マイノリティの表現②	発表②
第 8 回	マイノリティの表現③	発表③
第 9 回	世界の中の日本文化の表現①	発表①
第 10 回	世界の中の日本文化の表現②	発表②
第 11 回	世界の中の日本文化の表現③	発表③
第 12 回	島国と大陸の表現①	発表①
第 13 回	島国と大陸の表現②	発表②
第 14 回	島国と大陸の表現③	発表③

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールについて	イントロダクション
第 2 回	世界の新しい文学①	発表①
第 3 回	世界の新しい文学②	発表②
第 4 回	世界の新しい文学③	発表③
第 5 回	世界の新しい文学④	発表④
第 6 回	日本文学における「新しさ」①	発表①
第 7 回	日本文学における「新しさ」②	発表②
第 8 回	日本文学における「新しさ」③	発表③
第 9 回	ボーダーを越えた新しい表現①	発表①
第 10 回	ボーダーを越えた新しい表現②	発表②
第 11 回	ボーダーを越えた新しい表現③	発表③
第 12 回	日本の中で「世界文学」を読む①	発表①
第 13 回	日本の中で「世界文学」を読む②	発表②
第 14 回	結論	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連書を読むこと

【テキスト（教科書）】
二十世紀後半から現代までの日本と、主に英米の小説（たとえばメイラー、大江健三郎、三島由紀夫、ボールドウィン、中上健次、トニー・モリソン、在日朝鮮文学、ポスト・コロニアルの小説）。常に「時代」を切り開く文学を選ぶ。短い作品を原文で読んで、長い作品を日本語の翻訳文で読むこともある。

【参考書】
多和田葉子「エクソフォニー」
安部公房「砂の女」
リービ英雄「日本語を書く部屋」

【成績評価の方法と基準】
毎回の発表（50 %）、および参加（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
学生は全員満足しているようです。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to introduce various themes related to contemporary literature (both Japanese literature and world literature). The course consists of both lectures by the professor and presentations by the students on the various topics. The content of the student presentations will be decided through consultations between the professor and the students. One of the objectives is to improve students' understanding of the language of expression.

ARSi300GA

国際社会演習

粟飯原　文子

サブタイトル：**アフリカを学ぶ／アフリカに学ぶ**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんはアフリカについて何を知っていますか？　何を連想するでしょう？わたしたちが「知っている」アフリカとは、えてして、広大な大陸のごく一部を、ある特定の見方から切り取ったイメージでしかありません。アフリカとは実に 50 以上の独立国を含み、地域や社会や民族によって全く異なる言語、文化、慣習が存在する広大で豊かな場所。この演習では、そんな多様性豊かなアフリカのさまざまな時空間を「旅」することで、アフリカについて多角的に学んでいきます。アフリカについて学ぶことは、アフリカから学ぶことでもあり、わたしたちの思考法や物の見方が自然と変化を遂げていく経験となるでしょう。
また、この演習で学ぶことと平行して、あるいは、この演習で学ぶことからインスピレーションを受けて、他の旧植民地地域の歴史や文化にも関心を向けられるかもしれません。受講生個人の研究・発表のテーマは、アフリカに限らず、南アジアやカリブ海などの地域、人種差別や移民／難民などのテーマを対象とすることも可能です。

【到達目標】
・アフリカのさまざまな文化表現を通して、アフリカの多様性を理解し、かつアフリカの歴史・社会・政治に幅広く触れる。
・アフリカ（および旧植民地地域）について学び、考えることで、「世界史」への新しい視座を得る。
・批評・議論の力を発展させ、自主的な調査・研究の方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・アフリカの歴史、文化、社会に関する議論、学術論文などに触れる。
・担当者が問題提起を含む発表を行い、全体で討論を行う。または、全員が課題文献を読み問題意識や論点を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
・3 年生の春学期の課題として、授業内で扱ったテーマか自分の関心にもとづいて 1 冊本を選び、レポートを作成する。また、秋学期の後半には全員に研究発表を行ってもらう。春学期同様、授業内で扱ったテーマから選んでもよいが、個人の関心や問題意識にもとづいて自由にテーマを設定することもできる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の演習の進め方について説明。自己紹介、関心のあるテーマを共有。
第 2 回	レポートと論文の書き方	発表やレジュメ作成の方法を学ぶ。レポートや論文の書き方について、疑問や不明な点を解消できるように基本事項を復習する。
第 3 回	アフリカを学ぶために①	わたしたちはどのようにアフリカにアプローチすべきか。まずは大陸の歴史を概観する。
第 4 回	アフリカを学ぶために②	アフリカ研究の基礎知識を身に付けるために、さまざまな導入的な文献を読む。
第 5 回	アフリカを学ぶために③	アフリカ研究の基礎知識を身に付けるために、さまざまな導入的な文献を読む。
第 6 回	映画から学ぶアフリカの現代史①	映画をより深く理解するために歴史的・政治的背景を学ぶ。
第 7 回	映画から学ぶアフリカの現代史②	映画を鑑賞してグループ・ディスカッションを行う。
第 8 回	ネルソン・マンデラと南アフリカ①	ネルソン・マンデラとは何者だったのか？ マンデラについて学ぶことから、南アフリカの現代史を概観する。まず二週かけて、マンデラと南アフリカについてのエッセイや論文を読む。担当者が発表、全体で討論を行う。
第 9 回	ネルソン・マンデラと南アフリカ②	引き続き、マンデラと南アフリカについてのエッセイや論文を読む。担当者が発表、全体で討論を行う。
第 10 回	ネルソン・マンデラと南アフリカ③	マンデラに関する映画を見てグループ・ディスカッションを行う。
第 11 回	ドキュメンタリー映画で見る南アフリカ	南アフリカに関するドキュメンタリー映画を見て、グループ・ディスカッションをおこなう。
第 12 回	イメージとしてのアフリカ①	アフリカ人作家のエッセイを通して、作られたアフリカの「イメージ」について考える。
第 13 回	イメージとしてのアフリカ②	アフリカに関する偏見やステレオタイプはどのようにつくられてきたのか。複数の文献から歴史的に検証する。
第 14 回	春学期のまとめ	レポートの提出。春学期で学んだことの復習、まとめ。
第 1 回	イントロダクション	秋学期の演習の進め方について説明。国際文化情報学会や後半に行う研究発表に関して意見を交換する。
第 2 回	アフリカ文学と言語	アフリカ人作家のエッセイを通して、アフリカ文学を読解する手がかりをつかむ。主に植民地支配と言語について考える。
第 3 回	アフリカ文学を読む①	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第 4 回	アフリカ文学を読む②	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第 5 回	アフリカ文学を読む③	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第 6 回	アフリカ音楽と政治①	アフリカの代表的なミュージシャンを通して、音楽の社会的・政治的役割とは何かを考える。資料や文献を提示するので、二週にわたりそれをもとにして討論を行う。
第 7 回	アフリカ音楽と政治②	アフリカ音楽についての文献を読んだうえで、担当者が発表、全体で議論する。
第 8 回	パンアフリカニズムという夢①	パンアフリカニズムの歴史、思想について、複数の文献を参照しながら理解を深める。
第 9 回	パンアフリカニズムという夢②	パンアフリカニズムについて、アフリカ大陸の経験と絡めて学ぶ。
第 10 回	研究発表①	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 11 回	研究発表②	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 12 回	研究発表③	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 13 回	研究発表④	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のレポート、卒業研究の提出。秋学期で学んだことの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次週のための準備・予習は必ず行うこと。
・文献を読む場合、指名された担当者はレジュメを作成して発表する。
また、発表担当の有無によらず、受講者全員が文献を共有し、問題意識をもって授業に臨んでほしい。
・春学期・秋学期ともにレポートを課題として出すので、そのための調査を独自に行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業時にコピーを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への貢献度、授業時間内の課題の提出）10 %
・授業での発表（調査やレジュメの完成度）　30 %
・学期末のレポート　60%

【学生の意見等からの気づき】
学生の自主的な学習、授業への積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【その他の重要事項】
・全員が何らかの形で授業に貢献すること。
・授業で提示された文献をしっかり読むのは言うまでもなく、
自分で文献を探して積極的に読んでいき、研究テーマをできるだけ
早く見つけられるようにする。
・英語（仏語）の読解能力を身につけてもらいたいので、
個人の調査・研究にもなるべく英語（仏語）文献や資料を用いること。

【Outline and objectives】
This African Studies seminar class is designed to expose students to varying interdisciplinary approaches to and perspectives on the Continent. By the end of this course, students will have (1) a solid understanding of important themes in the study of African history, culture, and society, (2) confidence in expressing their views orally and in written form, and (3) the ability to undertake independent research projects.

SOS300GA

国際社会演習

中山　寛子

サブタイトル：**「国際関係」を問い直す**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代世界の諸事象・諸問題を国際関係学の視点と方法から分析する。ゼミ生は関心ある事象・問題に関し、①それらが生起し展開してきた歴史のなかで、また②同時代に起きているさまざまな事象・問題との関係性のなかで起きていることに気づき、さらに③本学部の学際的な学習環境をいかして分析することを目指す。

【到達目標】
(1) 国際関係学の方法論を習得する。
(2)「国際関係」について、その成立から現代世界に至るまでの構造と動態を理解し、関連する概念、理論、思想を学ぶ。
(3) 研究テーマの設定、資料収集、分析、発表、議論の方法を習得し、学術論文を執筆し、発表する。他のゼミ生、他ゼミのゼミ生 (学部学会などにて）の研究にコメントができる。
(4) 研究対象、これに関係する人びとと自分との関係性を理解し、現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
2019 年度春学期の共同研究テーマは「地域で生きる外国人労働者」で、秋学期のテーマは春学期を踏まえて決定。春学期のテーマ説明は演習説明会で行うが、1 年を通じて以下のように進める。
(1) 共同研究の文献購読では担当者を割り当て、報告、議論する。フィールドワークを実施する。
(2) 個人研究には中間報告会を複数回もち、ゼミ生同士の議論、教員からの指導を得て 4 年次末に研究論文を完成、ゼミ論文集を刊行する。
(3) 学部学会で報告する（3 年は共同研究、4 年は個人研究を原則とする）。
(4) 毎回授業最初に関心ある報道を 1 つとりあげて議論する。
(5) 年間授業計画はゼミ生の関心、進捗状況によって一部変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	共同研究テーマの説明、授業の進め方、ゼミ運営について確認。
2	4 年生、個人研究について中間報告	先行研究の整理、論文構成、序論提出。
3	文献１に基づく議論①	報告と議論。
4	文献１に基づく議論②	報告と議論。
5	文献１に基づく議論③	報告と議論。
6	文献１に関する補足資料を踏まえた議論④＋春学期前半の総括	報告と議論、文献１の総括。春学期前半の総括。
7	研究テーマ設定、研究計画の立て方、学術論文の書き方を学ぶ（４年生担当）	３年生は論文の書き方を学び、４年生は研究過程と方法を振り返る。
8	文献２に基づく議論①	報告と議論。
9	文献２に基づく議論②	報告と議論。
10	文献２に関する議論③	報告と議論。
11	文献２に関する補足資料を踏まえた議論④	報告と議論、文献２の総括。
12	春学期の総括と秋学期のテーマ、フィールドワークのテーマ決定。	文献２を含めた春学期の総括。秋学期のテーマ、フィールドワークのテーマを決定し、フィールドワークの準備計画をたてる。
13	個人研究中間報告、夏休みの研究計画発表。	３年生は個人研究の最初の構想発表、４年生は中間報告。
14	フィールドワークの準備学習。	フィールドワークの方法の学習と、テーマに関する準備学習。
15	秋学期のオリエンテーション。ゼミフィールドワークの総括。	秋学期の共同研究テーマと進め方を確認。フィールドワークの成果報告と総括。
16	個人研究について中間報告、研究計画提出	３年生、４年生の夏休みの研究成果報告、進捗状況に基づく研究計画の修正。
17	文献３に基づく議論①	報告と議論。
18	文献３に基づく議論②	報告と議論。
19	文献３に関する補足資料を踏まえた議論③＋秋学期前半の総括	報告と議論、文献３の総括。秋学期前半を総括。
20	個人研究について中間報告	３年生は先行研究整理と調査報告、４年生は論文の半分以上を書き上げて報告。
21	文献４に基づく議論①	報告と議論。
22	文献４に基づく議論②	報告と議論。
23	文献４と補足資料に基づく議論③と総括	報告と議論、文献４の総括。
24	学部学会準備報告	３年生による共同研究のプレ報告、４年生の個人研究のプレ報告。
25	学部学会報告の総括	準備や報告内容、学会で得たコメントに基づく今後の改善点を共有、検討。
26	文献５に基づく議論①	報告と議論。
27	文献５と補足資料に基づく議論②	報告と議論、文献５の総括。
28	秋学期および１年の総括。	秋学期および１年の総括の議論。次年度の共同研究テーマ決定。ゼミ論提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 文献などに関する報告では担当者がテキスト以外の関連文献も読み、レジュメを作成。報告者以外も疑問点は調べ、意見を準備。
(2) 個人研究は中間報告会で報告し、自主的に教員から指導をうけることを義務づける。関係機関での調査、聞き取り、フィールドワークを実施する。第一・第二外国語を活用する。
(3) 共同研究ではフィールドワークの企画・実施（昨年度は沖縄県）。
(4) 関連するシンポジウムや講演会、映画、博物館などに積極的に足を運ぶ。

【テキスト（教科書）】
〇国際関係学に関する基本文献
　百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
　百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。
〇学術論文の書き方
斉藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005 年。
その他、授業時に提示する。

【参考書】
授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの共同研究に関する報告と議論（50 %）、個人研究に関する報告、レポート及び研究論文執筆（50 %）。前者は準備、司会、発言、授業後の補足調査、学部学会での発表。後者は調査、分析、中間報告会での報告、自主的に論文指導を受ける、学部学会での発表、中間レポートや最終提出の研究論文及び口頭試問の内容を対象とする。提出物の締切りに遅れた場合、特別な理由（期末試験のルールに則る）以外は未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
個人研究と共同研究の両立を意識した年間計画としている。

【その他の重要事項】
(1) ３年、４年を継続して受講する。４年への継続は、３年次末の論文構想発表会でテーマ決定、課された準備を行い得た学生にのみ認める。
(2)「国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ」は必ず受講し、研究テーマに応じて国際社会コースを中心に同コース以外の授業も積極的に受講し、「学際的」に課題を追究する方法を学ぶ。地域研究から国際関係学の方法を学ぶために「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A、B」、「人の移動と国際関係Ⅲ（旧移民研究Ⅲ）」の受講を薦める。
(3) やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれば成績評価に考慮する。
(4) 本ゼミでは個人研究とゼミ共同研究が密接に関連する。両者を両立させ、責任をもってゼミ運営に関わり、協力しあえる学生を歓迎する。

【Outline and objectives】
We analyze subjects and matters of world-wide from the view-point of International Relations,methodologically. Students take care of the subjects and matters to be concerned,
① on the base of history of their origination and development, ② on the relationship of various kind of them to be occurred at the same periods, Additionally, ③ We aimed at analyzation and realization by utilizing of our interdisciplinary educational environment.

POL300GA

国際社会演習

大中　一彌

サブタイトル：**グローバル化と政治理論**
配当年次／単位：**3～4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学を卒業すると「社会人」になるといわれます。では「社会人」がその一員となる社会とは、どのような場所なのでしょう。例えば、この社会は「まとも」な社会なのか？ と問うてみることにします。もしあなたの答えが「この社会はまともな社会だ」なら、あなたはどのような理由で「まとも」だと考えたか言葉で説明できるでしょうか？　そして反対に、もしあなたの答えが「この社会はまともな社会ではない」なら、あなたはどのような理由によってそう考えたか言葉で説明できますか？　さらに、あなたが「まともでない」と思う社会のなかで、あなたはどのように振るまえば良いのか、何らかの見通しをお持ちでしょうか？　この演習（ゼミ）では、私たちが「社会人」となるにあたって出会うこうした問いをめぐり、自分の頭を使って考えることができるようにトレーニングしていきます。

【到達目標】
１．テレビの情報番組や、Yahoo!などのネット上のニュースやいわゆる「まとめ」サイトをもっぱら情報源としていませんか？　これらの情報源が間違っていたり、偏っていたとしたら、どうしたらよいでしょう。この演習（ゼミ）では、大学生にふさわしく、ニュースの内容や、それが作り出される過程を批判的に考察できる能力（リテラシ）を身に付けることを目指します。
２．１．の目標を達成すべく、教養としての政治学をこのゼミでは学びます。2019 年度の春セメスターでは、**政治学の基礎概念**や**欧米主要国の政治制度の概要**を学びます。秋セメスターでは、応用編としてグローバル化時代における市民権（シティズンシップ）を支える**コスモポリティクス**（世界市民主義と訳されることがあるが、字義通りには世界政治）の概念を軸にトレーニングを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
１．教科書の輪読（授業内の発表＋議論）
２．新聞コーナー（学生による話題提供、報道のされ方の分析、討論）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	ゼミ長の選出 輪読や新聞コーナーの担当日程決定
2	人類と政治	教科書① 1-16 頁に関する学生の発表と議論
3	政治学の基礎概念	教科書① 18-32 頁に関する学生の発表と議論
4	政治思想の流れ	教科書① 33-48 頁に関する学生の発表と議論
5	政治研究の変遷	教科書① 49-64 頁に関する学生の発表と議論
6	デモクラシーの理論と諸相	教科書① 65-80 頁に関する学生の発表と議論
7	自由民主主義体制の諸原理と政治制度	教科書① 81-96 頁に関する学生の発表と議論
8	選挙制度と投票行動	教科書① 97-112 頁に関する学生の発表と議論
9	政党と政党システム	教科書① 113-128 頁に関する学生の発表と議論
10	圧力団体・ＮＧＯ・ＮＰＯ	教科書① 129-144 頁に関する学生の発表と議論
11	インターネットと政治	教科書① 145-160 頁に関する学生の発表と議論
12	主要国の政治の動態	教科書① 161-176 頁に関する学生の発表と議論
13	国際政治	教科書① 177-192 頁に関する学生の発表と議論
14	現代日本の政治	教科書① 193-208 頁に関する学生の発表と議論
1	秋セメスター初顔合わせ	学期中の分担の確認
2	日本の行政	教科書① 209-224 頁に関する学生の発表と議論
3	日本の地方自治	教科書① 225-240 頁に関する学生の発表と議論
4	世論は「世界の女王」か？	教科書② i-iii 頁と 3-27 頁に関する学生の発表と議論
5	民主政の概念化	教科書② 31-67 頁に関する学生の発表と議論
6	民主政とグローバル・システム	教科書② 68-101 頁に関する学生の発表と議論
7	コスモポリタン民主政の構築	教科書② 102-138 頁に関する学生の発表と議論
8	国連の重要性：その位置	教科書② 139-165 頁に関する学生の発表と議論
9	コスモポリタニズムと人道的介入	教科書② 202-225 頁に関する学生の発表と議論
10	民主政は輸出できるか	教科書② 226-246 頁に関する学生の発表と議論
11	民族自決とコスモポリタンな視座	教科書② 247-270 頁に関する学生の発表と議論
12	多言語民主政は可能か	教科書② 271-297 頁に関する学生の発表と議論
13	コスモポリタン民主政の展望	教科書② 298-315 頁に関する学生の発表と議論
14	まとめ	ニュース素材のなかから、グローバルなシティズンシップに関連する事例を学生が探し、論として構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．次回で扱われる教科書の内容を読む
２．海外メディアや国内の地方紙を毎日読んで、この演習と関係ありそうな記事をチェックする。
３．１ ＋ ２ の合計学習時間が、週あたり 90 分程度となることを目指す。

【テキスト（教科書）】
【春～秋】教科書①吉野篤編『政治学』NEXT 教科書シリーズ、弘文堂、第 2 版、2018 年。
【秋】教科書②ダニエル・アーキブージ『グローバル化時代の市民像　コスモポリタン民主政に向けて』中谷義和・髙嶋正晴・國廣敏文・加藤雅俊・嶋内健・篠田武司・山根健至・松下冽（訳）、法律文化社、2010 年。

【参考書】
ジェラール・ノワリエル『フランスという坩堝』大中一彌・川﨑亜紀子・太田悠介訳、法政大学出版局、2015 年。

【成績評価の方法と基準】
次の１～５の項目それぞれを２０％として評価
１．授業内発表（レジュメ、新聞コーナー）
２．授業参加・発言の積極性
３．ゼミの運営全般への協力
４．期末提出物（タームペーパーなど）
５．平常点

【学生の意見等からの気づき】
いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】
報告原稿やさまざまな連絡、学期末の提出物の提出など、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。また、新聞コーナーでのパソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎する。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN 接続の使い方をマスターすること

【その他の重要事項】
進路について、定期的に個別の面接を実施している（特に大学院進学、留学、公務員試験、教職課程などについては早めにご相談を）。

【Outline and objectives】
This seminar introduces students to basic conceptual instruments of political research with a focus on the notion of citizenship at different levels (local, national and international). The students are expected to develop their media literacy necessary to critically evaluate political discourses. Topics will include migration, identity politics, economic inequality and "cosmopolitan democracy"(D. Archibugi).

ARSk300GA

国際社会演習

春学期担当：桐谷　多恵子，秋学期担当：熊田　泰章

サブタイトル：**アートは国境を越える？！ - 間文化性研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミのテーマは文化研究であり、国際文化学部の英語表記にも含まれる概念：Interculturality ＜インターカルチュラリティ／間文化性＞
を研究する。
研究の目的は、「アート」を通して文化や民族の異なる人々が個々の文化の独自性を互いに尊重し、共生する社会を考察することにある。そのための最初の一歩として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラリティを学ぶ。
具体的には、芸術は「文化」をどのように表現できるのか。あるいはそれが「文化」を志向／思考する上でどんな役に立つのか。これらの問いについて、基本文献を手掛かりにディスカッションを行い、考察する。考察することは、「自分の頭で考える」という事である。自分の頭で考えるには、2 つの作業が必要である。一つは、事実関係の確認が必要であり、参考になる資料をきちんと探すこと。研究では、先行研究をしっかり把握することが出発となる。二つ目は、自分たちの取り組んでいる個別の「文化」の事例を、いつも広い問題領域の中で位置付け、考えようとする姿勢である。ゼミでは、それぞれの地域文化に着目しつつ、それらが織りなす国際文化に視野を広げ、社会の諸相における文化の関係性と躍動性を研究する。
基本文献を読み込む理論研究に加えて、間文化性を身体性として確認するために、現代アートを共同研究テーマとして発表する。現代アートが、地域文化を再確認しつつ国際文化の関係性を構築するために大きく貢献していることを明らかにする。また、作品が成立するための主たる行為者を製作者ではなく、作品を鑑賞する受容者として要求する作品――例えば、マルセル・デュシャン『泉』――を考察し、「作品の内在性と受容者の能動性」を学ぶ。この考察を通して、私たちが生きる「文化」が、 存続の危機にさらされる時に、その持続のために、当事者である私たちが何をすることが可能なのかを考えることが、ゼミの課題である。それを、共通討議によって学問的に考察し、 一人一人の論文として書くこと、そして、インスタレーションによって表現することを、一年間のゼミ活動を通して達成する。

【到達目標】
国際文化学部の基本概念： Interculturality ＜インターカルチュラリティ＞を理解し、文化の生成と変化の仕組みを把握する。
学術論文を精密に読み、学術研究の基本を身に付ける。
学術研究の基本に即して論文を書く。
各自の研究テーマを決め、研究成果を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本文献と英語論文を読み、討論する。
個人研究発表を行なう。
現代アートの展覧会を見に行く。
作品制作と発表を行なう；春学期に 1 回、秋学期には学部学会で発表する。
個人研究論文集を作成する。
ゼミ合宿として各地の現代アート国際展などを訪ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献 『オリエンタリズム（上)』 第 1 章第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
3	基本文献 『オリエンタリズム（上)』 第 1 章第 2 回 英語論文第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズの第 2 回 英論第 1 回のレポート・全員の討論
4	基本文献 『オリエンタリズム（上)』 第 2 章第 1 回 個人研究構想発表第 1 回	第 2 章第 1 回 個人研究構想を順に発表する第 1 回
5	基本文献 『オリエンタリズム（上)』 第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回	第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回
6	基本文献 『オリエンタリズム（上)』 第 2 章第 3 回 作品構想第 1 回	第 2 章第 3 回 作品制作の構想について討論第 1 回
7	基本文献 『オリエンタリズム（下)』 第 1 章第 1 回 作品構想第 2 回	第 1 章第 1 回 作品制作の構想について討論第 2 回
8	基本文献 『オリエンタリズム（下)』 第 1 章第 2 回 作品制作第 1 回	第 1 章第 2 回 作品制作第 1 回
9	基本文献 『オリエンタリズム（下)』 第 2 章第 1 回 作品制作第 2 回	第 2 章第 1 回 作品制作第 2 回
10	作品発表会	作品発表と解説を行う
11	『オリエンタリズム（下)』 第 2 章第 2 回 作品発表総括	第 2 章第 2 回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献 『オリエンタリズム（下)』 第 2 章第 3 回 個人研究発表第 1 回	第 2 章第 3 回 個人研究発表と質疑第 1 回
13	英語論文第 2 回 個人研究発表第 2 回	個人研究発表と質疑第 2 回
14	まとめ	このセメスターの総括
15	イントロダクション	秋学期ゼミ運営について決定
16	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 1 章	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
17	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 2 章 個人研究中間発表第 1 回	第 2 章 個人研究の中間発表と質疑第 1 回
18	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 3 章 個人研究中間発表第 2 回	第 3 章 個人研究の中間発表と質疑第 2 回
19	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 4 章 個人研究中間発表第 3 回	第 4 章 個人研究の中間発表と質疑第 3 回
20	英語論文第 3 回 作品構想第 1 回	英論第 3 回 作品制作の構想について討論第 1 回
21	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 5 章 作品構想第 2 回	第 5 章 作品制作の構想について討論第 2 回
22	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 6 章 作品制作 1 回	第 6 章 作品制作開始
23	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 7 章 作品制作第 2 回	第 7 章 作品制作継続
24	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 8 章 学部学会発表準備 作品制作	第 8 章 最終準備ゲネプロ
25	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
26	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 9 章 最終個人研究発表 1 回目	第 9 章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑第 1 回
27	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 10 章 最終個人研究発表第 2 回	第 10 章 最終個人研究発表と質疑第 2 回
28	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。
学習ノートは、準備学習 ⇒ 授業内 ⇒ 復習で順次参照し、書き込んでいく。
学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。

【テキスト（教科書）】
基本文献：

1. エドワード・W. サイード『オリエンタリズム』（上下）今沢紀子訳、平凡社、1993 年
2. ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい美術鑑賞法』 犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006 年
3. ジェラール・ジュネット『芸術の作品Ｉ－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013 年
4. アゴタ・クリストフ『悪童日記』堀茂樹訳、早川書房、1991 年
5. ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛―ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温司・大塚直子訳、白水社、2002 年
6. ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001 年
英語論文、もしくは、関連する英文記事（例えば以下のような英文記事）：
1. Ishiguro, K. My Twentieth Century Evening – and Other Small Breakthroughs [Nobel Lecture]. The official website of the Nobel Prize; 2017 December 7 [cited 2019 Jan. 8]. Available from: https://www.nobelprize.org/nobel_prizes/literature/laureates/2017/ishiguro-lecture_en.html
2. Miyake, I. A Flash of Memory [New York Times]. 2009 July 13 [cited 2019 Jan.8]. Available from: http://www.nytimes.com/2009/07/14/opinion/14miyake.html

【参考書】

1. 熊田泰章編『国際文化研究への道 - 共生と連帯を求めて』彩流社、2013 年
2. 熊田泰章「唯一であることの相対的価値についての試論」法政大学国際文化学部『異文化論文編（１５）』、2014 年

【成績評価の方法と基準】

発表と討論（50 %）、個人研究（50 %）によって評価。
基本文献で展開される概念を理解し、理解したことを発表することが重要です。基本概念をふまえて、個人論文で論証力を鍛錬します。

【学生の意見等からの気づき】

学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ないし各自のパソコン持参が望ましい。
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

アートを通して国際社会を分節する！
Articulate the international community with art!

【Outline and objectives】

The main theme of this seminar is cultural research and we study the concept of “interculturality” as seen in the name of our Faculty, “Intercultural Communication”.
The purpose of our research is to examine the society where people from different culture or groups live together respecting each other through art. As a first step to achieve that, we learn “interculturality” as a base of cultural diversity.
For example, our research questions are “how can art express culture?" and “how can art help to accomplish or determine culture?”. We discuss these questions reading relevant literature. In addition to the theoretical research based on the literature, we present works of contemporary art as a joint research theme in order to exercise “interculturality”.
It is our mission to consider, through determining art, what we can do about the current situation where our culture is having difficulty surviving. While trying to answer this question academically through discussion, each member summarizes their own opinion as a thesis and express it as an installation.

HIS300GA

国際社会演習

佐々木　一惠

サブタイトル：**トランスナショナル・ヒストリー研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期/Spring・Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
過去とは、私たちにとっては＜異文化＞の一つであり、また過去の出来事や事象を探究することとは、現代と過去との間の関係性を相関的に捉えていくことでもあります。この演習では、国境を越える人・モノ・カネ・思想・文化の移動によって生じた現象及び問題を歴史的な視点から検討していきます。そこから、私たちにとって「当たり前」な事象や歴史認識を、批判的に捉えなおしていく力を養っていきます。また、ナショナルな境界を越える諸問題について、自分なりの研究テーマ（対象や地域は自由）を構想し、調査・分析し論文としてまとめていく方法・技術の修得を目指します。

【到達目標】
・文献を読み、内容を理解するだけでなく、自分なりの解釈や批判を含めたクリティカル・レビューや先行研究分析ができるようになる。
・一次史料（資料）に関して、それが書かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈の中で解釈できるようになる。
・自分が関心のある事象について、歴史的な視点から史料（資料）収集や現地調査を行い、研究論文（3 年生のゼミ論は 10,000 字程度、4 年生の卒論は 20,000 字程度）としてまとめていけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
（1）文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）
（2）一次史料分析の発表を行う
（3）個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う）
（5）先行研究レビュー（自分のテーマに関する先行研究を整理しレポートにまとめ発表する）
（6）その他（夏合宿、他大学との合同ゼミ、国際文化情報学会での発表、卒論合評会など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習概要の説明
第 2 回	アメリカ史からのアプローチ①	「移民国家」アメリカの二つの顔
第 3 回	アメリカ史からのアプローチ②	「移民国家」神話の系譜
第 4 回	アメリカ史からのアプローチ③	アジアから問い直す「移民国家」アメリカの歴史
第 5 回	グループ発表①	「移民国家」アメリカに関する発表
第 6 回	グループ発表②	「移民国家」アメリカに関する発表
第 7 回	グループ発表③	「移民国家」アメリカに関する発表
第 8 回	史料分析実習①	1896-1897 年：　Ellis Island
第 9 回	史料分析実習②	1896-1897 年：　Chinatown
第 10 回	史料分析実習③	1896-1897 年：　Japanese immigrants
第 11 回	研究論文分析実習①	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第 12 回	研究論文分析実習②	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第 13 回	研究論文分析実習③	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第 14 回	論文作法	論文の書き方についてのワークショップ
第 1 回	イントロダクション	今学期の計画と目標について
第 2 回	アメリカ史からのアプローチ④	中国人移民のはじまり
第 3 回	アメリカ史からのアプローチ⑤	連邦政府の中国人移民政策
第 4 回	アメリカ史からのアプローチ⑥	「アメリカ人」の境界と中国人移民
第 5 回	グループ発表④	一次史料を用いたグループ研究
第 6 回	グループ発表⑤	一次史料を用いたグループ研究
第 7 回	グループ発表⑥	一次史料を用いたグループ研究
第 8 回	学会発表準備①	個人発表の予行演習
第 9 回	学会発表準備②	個人発表の予行演習
第 10 回	学会発表準備③	個人発表の予行演習
第 11 回	個人研究発表	3 年生
第 12 回	個人研究発表	3 年生
第 13 回	個人研究発表	3 年生
第 14 回	まとめ	今年度、演習で学んだことについて振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．文献を読み、疑問点や質問、意見を準備してくる。
2．発表にあたっている班は、事前に集まって発表のための準備を行う。
3．個人研究の準備を進める（文献表の作成、先行文献の整理と批判、資料収集、調査、等）

【テキスト（教科書）】
貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波書店、2018 年.

【参考書】
歴史学研究会『史料から考える世界史２０講』岩波書店、2014 年。
吉田ゆり子、八尾師誠、千葉敏之編『画像史料論ー世界史の読み方』東京外国語大学出版会、2014 年。
歴史学研究会編『世界史史料』全 10 巻、岩波書店、2006〜2013 年。
ヴァレリー・R・ヤウ『オーラルヒストリーの理論と実践：人文・社会科学を学ぶすべての人のために』インターブックス、2011 年。
槇原茂編著『個人の語りがひらく歴史：ナラティヴ/エゴ・ドキュメント/シティズンシップ』ミネルヴァ書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】
発表・プリゼンテーション５０％、提出課題５０％

【学生の意見等からの気づき】
具体的な実習形式を入れてみることにした。

【学生が準備すべき機器他】
史料（資料）検索の実習等において、パソコンを使用することがある。

【Outline and objectives】
The seminar explores the history of the cross-border movements of people, goods, ideas, capital, information, and symbols so that students can develop the ability to analyze social, economic, political, and cultural issues cross-culturally and interracially.

ARSk300GA

国際社会演習

曽　士才

サブタイトル：**ヒトの移動で読み解く世界**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光や仕事、留学、あるいは国際結婚など、自らの意思で定住地を離れ、軽々と越境することが現代社会における人の移動の特徴だといえる。その意味では現代人はみな「ツーリスト」だと言えるでしょう。このゼミでは人の移動を切り口にして日本を、そして世界を読み解く研究をする。

【到達目標】
日本や諸外国のなかの移民コミュニティや移民が継承する／創造する文化について、あるいは観光客誘致のための情報発信に力を入れている地域や人気観光スポットについて、自ら現地をフィールドワークし、関連する研究文献を読んで分析する。「移民」や「観光」を通して私たちが生きているこの社会を深く理解することを目指しており、その研究成果を国際文化情報学会で発表し、最終的には分析レポートとしてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
19 世紀は「移民の世紀」と呼ばれ、ヨーロッパから多くの移民が新大陸アメリカへと渡って行った。同じ頃、アジアでも中国やインドから欧州列強の植民地へのヒトの移動が見られた。「戦争の世紀」と呼ばれる 20 世紀に入ると、難民や国際労働力としてのヒトの移動が世界規模で広がっていった。そして、21 世紀は「観光の世紀」とも呼ばれ、人類最大の異文化接触や交流が日々、世界で展開するようになっている。
春セメスターでは、こうしたヒトの移動に関する共通文献を読み、討論を行う。次に、チームまたは個人単位で研究調査テーマに関する先行研究を洗い出し、研究文献の渉猟を行う。最終的には研究調査計画を立案する。また、課外活動として移民コミュニティのある町を歩く。
秋セメスターではチームまたは個人単位で研究調査したことを整理分析し、発表し、討論する。必要に応じて補充調査をし、11 月の国際文化情報学会で成果発表を行う。また、研究を深めるために、ゲストスピーカーをお呼びして特別講義をしていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生による研究紹介（1）	4 年生による自己紹介を兼ねた研究紹介 春学期授業の説明、テキスト講読の分担決め
第 2 回	4 年生による研究紹介（2）	4 年生による自己紹介を兼ねた研究紹介
第 3 回	テキスト A の講読と討論（1）	分担者の発表と共同討論。第 1、2 章の講読
第 4 回	テキスト A の講読と討論（2）	分担者の発表と共同討論。第 3、4 章の講読
第 5 回	テキスト A の講読と討論（3）	分担者の発表と共同討論。第 5、6 章の講読
第 6 回	テキスト A の講読と討論（4）	分担者の発表と共同討論。第 7、8 章の講読
第 7 回	テキスト A の講読と討論（5）	分担者の発表と共同討論。第 9、10 章の講読
第 8 回	テキスト B の講読と討論（1）	分担者の発表と共同討論。第 1〜3 章の講読
第 9 回	テキスト B の講読と討論（2）	分担者の発表と共同討論。第 4〜6 章の講読
第 10 回	3 年生による研究発表と討論（1）	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論する。
第 11 回	3 年生による研究発表と討論（2）	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論する。
第 12 回	3 年生による研究発表と討論（3）	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論する。
第 13 回	研究調査計画の立案	フィールドワークの計画案を練る （テーマ、調査対象、調査内容の決定）
第 14 回	研究調査計画発表	チームまたは個人単位の発表と質疑応答 役員の改選
第 1 回	研究調査の進捗状況報告	各自の研究調査の進捗状況を報告 教員から卒論等の説明、学会発表の説明
第 2 回	調査結果の整理と分析	必要なら補充調査を行う
第 3 回	研究成果の発表（1）	ゼミ生全員の前で成果発表
第 4 回	研究成果の発表（2）	ゼミ生全員の前で成果発表
第 5 回	研究成果の発表（3）	ゼミ生全員の前で成果発表
第 6 回	学会発表に向けての準備（1）	学会発表要旨の作成、相互討論
第 7 回	学会発表に向けての準備（2）	学会発表要旨の作成、相互討論
第 8 回	学会発表に向けての準備（3）	学会発表要旨の作成、相互討論
第 9 回	学会発表のリハーサル（1）	学会発表予定者は発表練習。それ以外の人は卒論、レポート作成作業
第 10 回	学会発表のリハーサル（2）	学会発表予定者は発表練習。それ以外の人は卒論、レポート作成作業
第 11 回	4 年生による就職ガイダンス	活動日程、重視したこと、アドバイスなど
第 12 回	ゲストスピーカー講演	外部講師による講演、アドバイスなど
第 13 回	研究成果の最終発表（1）	執筆した論文、レポートに基づく成果発表
第 14 回	研究成果の最終発表（2）	執筆した論文、レポートに基づく成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期では、共通テキストの読み込みを行うとともに、自身の研究テーマの先行研究の洗い出し、読み込みを行う。秋学期では、フィールドワークや文献調査によって得られた調査結果の整理・分析を随時行う。

【テキスト（教科書）】
A ：高山陽子編『多文化時代の観光学―フィールドワークからのアプローチ』ミネルヴァ書房 2017 年
B ：白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化―グローバリゼーションとアイデンティティ』お茶の水書房 2008 年

【参考書】
菅原和孝編『フールドワークへの挑戦―〈実践〉人類学入門』世界思想社 2006 年
山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』(講談社選書メチエ) 講談社 2009 年
日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房 2011 年
吉原和男編『現代における人の国際移動―アジアの中の日本』慶応義塾大学出版会 2013 年

【成績評価の方法と基準】
春学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度 70 %、期末に課すレポート（研究調査計画書／中間報告書）30 %、秋学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度 70 %、期末に提出する分析レポート 30 %の割合で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ参加者数が多く、グループワークの時間が占める割合が高い。ゼミ生全体の交流の機会を確保するために、懇親会や授業支援システムの活用を心がけたい。

【Outline and objectives】
This course deals with migration and tourism. At the end of the course, participants are expected to understand Japan and other countries from the viewpoint of
transnationalism.

ARSe300GA

国際社会演習

髙柳　俊男

サブタイトル：**朝鮮半島と日本**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2015 年は、戦後 70 年、すなわち日本の朝鮮植民地支配の終焉から 70 年であると同時に、日本と韓国が過去を清算し、国交を樹立してから 50 周年に当たる、まさに節目の年であった。

現在、隣国の韓国に向ける日本の視線には、K-POP をはじめ韓流による関心や憧れがある一方で、領土問題や歴史問題をめぐって軋轢や厳しい見方もある。もう一つの北朝鮮には、かつては熱い視線が注がれた時代もあったが、いまだ国交がなく、ミサイル発射や粗末な漁船の相次ぐ漂着など、冷やかな眺めが支配的である。

どうしてこのような現状になっているのであろうか？　そこに至るまでの間には、どのような出来事や人々の営みがあったのだろうか？　状況を少しでも良い方向に動かしていくためには、何が必要なのだろうか？

この授業では、参加するゼミ生たちとともに、日本と朝鮮半島の間の複雑に絡まっている糸を少しずつ解いていく作業をする。それを踏まえてあるべき未来を考察することをめざしたい。なかでも、現在は埋もれてしまっている貴重な歴史的諸経験や未発の可能性の掘り起こしに努めたい。

同時に、朝鮮問題を中心にしながらも、日本の異文化理解や多文化共生・多民族共生全般という、より広い文脈の中で捉えることを心がける。

私の演習では、理論から出発するようなアプローチは採らない。むしろ受講生たちが具体的な諸事実をとことん突き詰めるなかで、自らの認識を深化させること――いわば個別を極めることを通じて普遍に至るような学び方を身につけることを重視したい。

【到達目標】

日本と朝鮮半島が歩んできた歴史と現在、およびその中で営まれた人々の思索と行動の軌跡を、自らの知性と感性により時間的・空間的広がりの中で理解する。理解した内容を、受け売りではなく、自ら紡いだ言葉で語れるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第１回目に、参加ゼミ生個々人がこれまで読んで感銘を受けた韓国・朝鮮関連の本で、ぜひ他のメンバーと共有したい作品を挙げてもらう。それらをリスト化し、個々人の読書の参考にするとともに、一部を年間スケジュールの中にも組み込みたい。

第２回目以降は、まずウォーミングアップから始め、髙柳が執筆したいくつかの関連文献を、導入教材として読む。

続いて今年度のテキストに入る。これは、明治時代から現在まで、朝鮮や朝鮮人（総称）とさまざまな形で関わりをもった日本人 36 人を取り上げ、その関係・交流や認識などを具体的に論じたもので、昨年度テキストの続編である。各自には、ウォーミングアップの時期にテキスト全体に目を通し、自分が取り上げたい人物を選定してもらい、それに基づきテキストから春学期と秋学期に最低１回ずつ報告してもらう。　発表の際には、テキストの記述のほか、その人物の全集や著作集（あれば）、あるいは後述する参考文献類などを参照し、多面的で客観的な内容となるよう心掛ける。

毎回の討論の中で出た疑問点・不足点を、レポーターに次回冒頭で補足してもらい、知識・認識の深化をはかる。

関連映像の視聴を随時まじえ、夏季休業期間などを利用した合宿や関連スポットへのフィールドワークも、受講生の自発性と創意工夫に基づき適宜実施したい。

なお、可能なら昨年度同様、授業の最後に編者（本学出身）をお招きすることも考えたい。

朝鮮語ができる人には、関連する朝鮮語文献を活用していただくが、朝鮮語能力はこの演習を受講するにあたっての必要条件ではない。

また、授業は登録上では１コマだが、４限と５限にまたがって行なうので、ほかの授業やアルバイトを入れないこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の自己紹介、自分の推薦する本、年間授業スケジュールの確認、導入教材の配付、レファレンスブックの紹介など
第 2 回	導入教材①	髙柳執筆の論文①を読む
第 3 回	導入教材②	髙柳執筆の論文②を読む
第 4 回	導入教材③	髙柳執筆の論文③を読む
第 5 回	映像上映①	学習内容の映像による確認
第 6 回	テキスト導入	これからテキストを講読するにあたって、まず編者である舘野晳氏について、他にどんな著作があるか、新聞・雑誌でどんな報道がなされているかについて確認する
第 7 回	テキストの個人報告①	レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	テキストの個人報告②	レポーターの報告と全員による討論
第 9 回	映像上映②	学習内容の映像による確認
第 10 回	テキストの個人報告③	レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	テキストの個人報告④	レポーターの報告と全員による討論
第 12 回	映像上映③	学習内容の映像による確認
第 13 回	テキストの個人報告⑤	レポーターの報告と全員による討論
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学習のまとめと、夏季休業中の学習計画の策定
第 1 回	秋学期の導入①	夏季休業中の各自の学習成果の報告（一人 10 分程度）
第 2 回	秋学期の導入②	夏季休業中の関連新聞記事の分析（朝日／毎日）
第 3 回	秋学期の導入③	夏季休業中の関連新聞記事の分析（読売／韓国の新聞）
第 4 回	映像上映④	学習内容の映像による確認
第 5 回	テキストの個人報告⑥	レポーターの報告と全員による討論
第 6 回	テキストの個人報告⑦	レポーターの報告と全員による討論
第 7 回	テキストの個人報告⑧	レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	映像上映⑤	学習内容の映像による確認
第 9 回	テキストの個人報告⑨	レポーターの報告と全員による討論
第 10 回	テキストの個人報告⑩	レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	映像上映⑥	学習内容の映像による確認
第 12 回	ゲスト講師を囲んで	テキスト編者の舘野晳氏をお迎えして、さらに議論を深める
第 13 回	ゼミ生推薦の本の読書会	年度始めにゼミ生全員が推奨した本の中から１冊を選び、全員で読んで討論する
第 14 回	年間のまとめ	年間の学習のまとめと、春季休業中の学習計画の策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する各種参考文献の講読、関連スポットへの訪問、学内外における関連イベントへの参加など。とくに、編者自身の他の著訳書にも目を通すことを勧めたい。

また、別の科目になるが、自らの大学時代の学びの集大成として、４年次秋学期に「卒業研究」を提出して卒業できるよう、日頃から作成に向けた準備を念頭に置きながら演習にも臨むことが望ましい。

なお、日本近現代史・東アジア近現代史の大きな流れについて、高校で習う程度の基礎知識を前提にするので、不足を感じる人は自分で補うよう努めること。

【テキスト（教科書）】

舘野晳編『36 人の日本人：韓国・朝鮮へのまなざし』（明石書店、2005 年）。

【参考書】

レファレンスブックとして、『朝鮮を知る事典』（平凡社）、『朝鮮人物事典』（大和書房）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、『在日コリアン辞典』（明石書店）などを随時参照すること。韓国・朝鮮について深く考えたいと願う人は、自分で購入し、ゼミに持参することを強く推奨する。

単行本としては、同じ編者による『韓国・朝鮮と向き合った 36 人の日本人』（明石書店、2002 年：絶版）を、テキストの前提としてとくに参照すること。

それ以外では、たとえば、古典的な旗田巍『日本人の朝鮮観』や朴春日『近代日本文学における朝鮮像』をはじめ、高崎隆治『文学のなかの朝鮮人像』、渡邊一民『「他者」としての朝鮮：文学的考察』、小川圭治・池明観編『日韓キリスト教関係史資料』、李修京編『韓国と日本の交流の記憶：日韓の未来を共に築くために』、琴秉洞『日本人の朝鮮観』『朝鮮人の日本観』、鄭大均編『日韓併合期ベストエッセイ集』、朴裕河『引揚げ文学論序説：新たなポストコロニアルへ』、現在活躍する人へのインタビューとして朴日粉『過去から学び、現在に橋をかける：日朝をつなぐ 35 人、歴史家・作家・アーティスト』などを、文献目録としては園部裕之編『近代日本人の朝鮮認識に関する研究文献目録』などを参照するとよい。

【成績評価の方法と基準】

演習なので、担当するレポーターはもちろん、それ以外のゼミ生も毎回事前にテキストを読み込み、ポイントを把握して来たうえで出席し、必ず何かしら自分なりの見解を表明することが大切である。

そうした平常時の貢献度と発表時の報告内容を 35 ％ずつ、各学期末のレポートを 30 ％として判断する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミはサークルや「仲良しクラブ」ではないが、かといって参加者個人の孤独な作業とも異なる。探究心に溢れた一人一人の自立した営みの上に、みなで切磋琢磨できるような場となるよう、ともに努力していきたい。

【その他の重要事項】

年間を通して、「知の蓄積」という課題を常に考えながら学んでいきたい。

その意味は、一つはこれまでの長い歴史の中で蓄積されてきた人類の膨大な知をどう活用できるかという課題、もう一つは自分の中に知をどう蓄積していけるかという課題を指している。

とくに後者については、一度学んだ内容が再度登場した場合、より高いレベルで考えられるようにするためにはどうしたらよいかを、常に念頭において取り組んでほしい。すなわち、漫然とした受け身の学びではなく、真に能動的な学びとはどうあるべきかという問いかけである。

そのためには、具体にこだわること、すなわち演習内で登場する人名や事件名などの固有名詞を疎かにしない学びが決定的に重要だと考える。実際に、以前のゼミで登場した人物であるにもかかわらず、まるで初めて出てきたような触れられ方をすることがしばしばあるので、この点はとくに強調しておきたい。

【Outline and objectives】

This seminar aims to learn why there are many issues between Japan and Korea, and how we can solve these difficult problems by our own intelligence, sensibility, and experiences.

ARSl300GA

国際社会演習

中島　成久

サブタイトル：**人種・民族・宗教紛争研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは担当者が学部・基礎科目で行っている「文化人類学」「文化人類学方法論」「国家と民族」「地域紛争とエスニシティ」「他者イメージ論」「東南アジアの文化」で展開した議論を、さらに詳しく検討することを目指している。
現代世界で深刻な問題となっている人種、民族、宗教に絡む紛争を多面的に検討する。

【到達目標】
ゼミの共通テーマとして、「インドネシアの先住民の現状――開発と紛争」というテーマで、春学期はその課題に関する文献、映像資料を学ぶ。
夏休みには、ゼミ旅行として、インドネシアのスマトラ島での現地視察を予定している。
秋には、春学期と夏のゼミ旅行の成果を国際文化情報学会で報告することを目指している。また、比較のために、秋以降、屋久島でのエコツアーを計画している。
その他、個人研究も同時並行的に進めてもらい、最終的には卒業論文、懸賞論文としてまとめることを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ゼミは共通テキストの輪読、夏休みのゼミ旅行、国際文化情報学会での発表、それに個人の研究の追及を柱として進める。
春学期には夏の研修に向けて共通テキストを選び、視聴覚資料を見て、共通の問題意識を深める。秋にはその成果を国際文化情報学会で発表するため、ゼミ生が主体となって成果のまとめ、発表を行う。同時に個人の研究テーマを見出し、資料を集め、ゼミで発表し、最後にゼミ論としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	顔合わせ、自己紹介、ゼミの内容と年間計画の説明
第 2 回	森の民、オラン・リンバ①	映画「スコラ・リンバ」視聴
第 3 回	森の民、オラン・リンバ②	オラン・リンバとインドネシアの「先住民」
第 4 回	森の民、オラン・リンバ③	オラン・リンバとアブラヤシ開発
第 5 回	森の民、オラン・リンバ④	オラン・リンバの抱える紛争
第 6 回	熱帯林の資源管理①	BIOCITY 輪読①
第 7 回	熱帯林の資源管理②	BIOCITY 輪読②
第 8 回	熱帯林の資源管理③	BIOCITY 輪読③
第 9 回	熱帯林の資源管理④	BIOCITY 輪読④
第 10 回	東南アジアの先住民の現状①	マレー半島のオラン・アスリについて①
第 11 回	東南アジアの先住民の現状②	マレー半島のオラン・アスリについて②
第 12 回	東南アジアの先住民の現状③	サラワクの先住民について①
第 13 回	東南アジアの先住民の現状④	サラワクの先住民について②
第 14 回	まとめ	春学期に学んだことについての整理と検討
第 1 回	夏休み研修の成果のまとめ①	夏休み研修参加者の発表①
第 2 回	夏休み研修の成果のまとめ②	夏休み研修参加者の発表②
第 3 回	夏休み研修の成果のまとめ③	夏休み研修参加者の発表③
第４回	４年生の研究発表①	４年生の個人研究成果発表①
第５回	４年生の研究発表②	４年生の個人研究成果発表②
第６回	国際文化情報学会での発表に向けての準備①	研究テーマの絞り込み
第７回	国際文化情報学会での発表に向けての準備②	研究テーマに関する文献の収集
第８回	国際文化情報学会での発表に向けての準備③	研究テーマの深化と分担
第９回	国際文化情報学会での発表に向けての準備④	発表の予行演習
第１０回	世界の先住民の現状①	アジア、アフリカの先住民の現状についての文献講読①
第１１回	世界の先住民の現状②	アジア、アフリカの先住民の現状についての文献講読②
第１２回	３年生の研究発表	３年生の個人研究のテーマの発表①
第１３回	３年生の研究発表	３年生の個人研究のテーマの発表②
第１４回	まとめ	１年間に学んだことの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１　テキストの予習復習
２　図書館などで関連文献を調べ、理解を深める
３　自分のテーマを日ごろ深め、必要な文献を調べ、読み深める

【テキスト（教科書）】
中島成久　『インドネシアの土地紛争』創成社、２０１１年
『BIOCITY ――消えた熱帯林とプランテーション』２０１５年、No63
池谷和信　『熱帯アジアの森の民』２００５年、人文書院
岸上伸啓　『開発と先住民』、２００９年、明石書店
笹岡正敏　『資源保全の環境人類学』２０１２年、コモンズ
高橋　進　『生物多様性と保護地域の国際関係』２０１４年、明石書店

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。ゼミ活動へのどう積極的に関わったかによる。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見のフィードバック。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
このゼミは担当者が２０２０年３月退職するので、３年生にとっては「１年限り」のゼミとなる。

【Outline and objectives】
This seminar students are required to have knowledge of race, ethnic groups and religion. Students are required to place conflicts based of race, ethnicity and religion and so on in a wider perspective of nation, capital(multi national companies) and history rather than in a restricted and narrow social context.

SOS300GA

国際社会演習

松本　悟

サブタイトル：**国際協力を捉える視点**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国際協力」とは異なる文化的背景を抱えた人々のつながりの一形態であり、演習で扱うイシューは国際協力を必要とする背景や実施した影響も含む。具体的には、貧困、環境、開発、格差、紛争、難民、教育などの「グローバルイシュー」、国際機構、ＮＧＯ、政府機関、企業などの「組織」、ボランティア、募金、善意、助け合いなど「国際協力を実践する個人や社会のあり方」、そうした実践を表象するメディアも学びの対象とする。その前提に立って、国際文化学部の学生として「国際協力」やその背景要因、意図せざる結果を考察する多様な分析視角＝視点を見つけることを演習のテーマとしている。

【到達目標】
【3 年春学期】「国際協力」を広く分析する人文社会科学の視点や方法論を習得し、各自が研究したいテーマと研究方法を見出せるようになる。
【3 年秋学期】実際に調査・取材や研究に携わってその結果を発表したり、先輩の研究の進捗に積極的に触れたりすることを通して、研究に必要な方法を習得し、各自が研究したいテーマに関わる意義ある問いや仮説を立てられるようになる。
【4 年春学期】「国際協力」に係る事象を分析する人文社会科学の視点を深めるとともに、自らの研究テーマに沿った調査を進めることで、実践知（フロネーシス）として知識を捉えることができるようになる。
【4 年秋学期】先行研究や適切な方法に基づいた研究論文の執筆と研究発表を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【概要】春学期は国際協力やそれを必要とする問題群および人文社会科学の調査方法に関する日本語もしくは英語の文献を読んで議論する。秋学期は日本語もしくは英語の学術論文を読んで研究方法を議論すると同時に 4 年生の研究発表を題材に実践的な演習を行う。そのために法政大学懸賞論文や国際文化情報学会を積極的に活用し、4 年生は原則全員が発表する。また、希望があれば、夏休みには開発途上国や新興国へのフィールドワークを実施する（自由参加、自費）。
【方法】
◆文献講読とグループ討議：毎回全員が課題文献を読んで事前課題に答え、その回答をもとに毎回の担当学生が論点を提示し、それをもとに議論する。担当教員は関係する理論、事例などをインプットをする。
◆研究発表とグループ討議：各自の研究内容をレジュメや原稿にして事前に共有して全員がコメントを考え、演習の場でグループ討議を行う。
◆外部講師：課題文献の内容を深く理解するために外部講師を招くこともある。
◆海外フィールドワーク（開発途上国・新興国）：希望者がいれば、テーマを定めて夏休みに 7-10 日程度実施する（自由・自費参加）
◆ゼミ合宿： 9 月上旬に 2 泊 3 日で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の説明、インタビューと発表の練習、論文の書き方についての事前課題をもとにした討議、演習の進め方についての議論を行う。
第 2 回	支援とは何か	誰かを支援することやボランティアについて贈与論などを用いて考える
第 3 回	日本・途上国ネクサス	貧しかった頃の日本を開発途上国で起きている問題とつなげて考える。
第 4 回	弱者の生存戦略	スラムや孤児院に住む「弱者」が持つ「パワー」について考える。
第 5 回	難民の捉え方	日本、地中海、東南アジアの事例から難民の捉え方を考える
第 6 回	表象の力と偏見	舞台や写真による表象が国家や個人の平和とどうつながるのかを考える。
第 7 回	制度が人権を守る？	在日外国人を取り巻く制度から国際人権について考える。
第 8 回	ある場所が観光資源になるとき	「そこあるだけのもの」が働きかけによって「資源」になるプロセスを観光を例に考える。
第 9 回	言葉が作る国際協力	国際協力の分野で次々と生成される新しい概念が持つ作用について考える
第 10 回	抵抗から開発を考える	開発事業への抗議によって描き出される開発の異なる側面について考える。
第 11 回	地方の国際協力	大都市圏とそれ以外の「地方」では国際協力にどのような違いがあるのかを考える。
第 12 回	ライフストーリー研究発表会（Ａグループ）	３年春学期の実習課題であるライフストーリー研究の発表と議論（Ａグループ）
第 13 回	ライフストーリー研究発表会（Ｂグループ）	３年春学期の実習課題であるライフストーリー研究の発表と議論（Ｂグループ）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学びを KJ 法を使って整理し、議論する。
第 1 回	個人研究論文の発表とグループ討議（Ａグループ）	法政大学懸賞論文に投稿する学生の個人研究論文の発表とそれに対するグループ討議（Ａグループ）
第 2 回	個人研究論文の発表とグループ討議（Ｂグループ）	法政大学懸賞論文に投稿する学生の個人研究論文の発表とそれに対するグループ討議（Ｂグループ）
第 3 回	ライフストーリー論文の発表とグループ討議（Ａグループ）	３年生の夏休みの課題であるライフストーリー論文の発表とグループ討議（Ａグループ）
第 4 回	ライフストーリー論文の発表とグループ討議（Ｂグループ）	３年生の夏休みの課題であるライフストーリー論文の発表とグループ討議（Ｂグループ）
第 5 回	国際文化情報学会発表概要に関するグループ討議（Ａグループ）	国際文化情報学会にエントリーする学生の発表概要についてグループ討議（Ａグループ）
第 6 回	国際文化情報学会発表概要に関するグループ討議（Ｂグループ）	国際文化情報学会にエントリーする学生の発表概要についてグループ討議（Ｂグループ）
第 7 回	プレゼンテーション	プレゼンテーションに関する文献を読み、口頭発表で気をつけるべき点についてグループ討議をする。
第 8 回	口頭発表練習（Ａグループ）	国際文化情報学会に向けた口頭発表の練習を行い、相互評価する（Ａグループ）
第 9 回	口頭発表練習（Ｂグループ）	国際文化情報学会に向けた口頭発表の練習を行い、相互評価する（Ｂグループ）
第 10 回	アウトプットからの学び	秋学期に行ってきた論文や口頭発表などの「アウトプット」について振り返り、春学期に読んだ文献を踏まえて今後への学びを議論し、記録に留める。
第 11 回	国際協力の実務（１）政府関係団体	政府機関や国家間機関で国際協力の実務に携わっているゲストの講演。学生は１年間の学びをもとにコメントする。
第 12 回	国際協力の実務（２）非政府アクター	ＮＧＯや企業など非政府アクターで国際協力の実務に携わっているゲストの講演。学生は１年間の学びをもとにコメントする。
第 13 回	秋学期のまとめ	秋学期に学んだ内容についてＫＪ法を用いて整理し、議論する。
第 14 回	３年生の個人研究発表	３年生の１年間の成果を発表し、４年生からフィードバックをもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・春学期は毎回課題文献を指定するので全員が必ず事前に「精読」し、締切までに事前課題に答えること。ゼミ生は学期中に３回程度は発表担当者を担い、事前課題への回答をもとに論点を提示して、議論をファシリテートすること。
・秋学期は他のゼミ生の原稿や口頭発表のレジュメをもとに議論することが多いので、事前に与えられた原稿やレジュメを必ず精読してくること。その際、表面的な批判に留まらず、執筆者の懐に入ったコメントをできるようにすること。
・毎回演習後には授業支援システムを通したフィードバックを行い復習すること。
・ライフストーリー、研究の進捗、論文執筆など提出物が多いので必ず期限までに執筆を終わらせ提出すること。
・夏休みに英語で実施する開発途上国へのフィールドワークに参加する場合は、事前学習を十分行い、帰国後論文やポスターの形にして発表すること。
・法政大学懸賞論文、外国語でのスピーチコンテスト、学生論文コンクールなど大学内外のコンテストへの投稿・出展を奨励・サポートするので、積極的に挑戦すること。

【テキスト（教科書）】
4 月の演習が始まるまでに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。
下村恭民ら編『国際協力新版』有斐閣選書，2009 年.
鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書，2003 年.
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001 年.

【参考書】
演習の中で指定する

【成績評価の方法と基準】
毎回の「事前課題」への回答と「学び」を授業支援システムに提出： 40%、文献講読と発表： 30%、個人研究論文の執筆と発表： 30%。ただし 3 年生は各学期に 4 回以上欠席した場合は単位を取得できない。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間が長すぎると学びの質が低下するため、19 時までには終了するようにする。ゼミ生が何を学びたいかを意見聴取した上で、ゼミの内容をアレンジする

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを頻繁に使用する
・正式の連絡は演習の ML で伝える
・パワーポイントでの発表の際はパソコンを用意すること

【その他の重要事項】
・担当教員は博士（国際協力学）の学位を持つ一方で、報道記者、開発途上国での草の根協力、国際援助政策の策定にも長く携わってきた経験から、具体的事例と理論を融合した演習を行う。
・図書館、CiNii や Web of Science などの大学のリソースを早めに使えるようになること。
・授業内容は変更がありうるので 3 月の演習説明会や 4 月の授業時に説明する。
・3 年、4 年と継続して履修すること。ただし、途中で関心を失ったり、他にやりたいことを見出した場合は履修登録の継続を見送ることを推奨する。
・4 年次から履修する場合は、3 年次までに人文社会科学的なものの見方や学術的な研究の方法を一定程度身につけ、かつ本演習に係る具体的なテーマを設定し文献研究を進めていること。
・国際文化協力、平和学、国際関係学概論、国際関係研究、実践社会調査法、実践国際協力など、関連する授業を受講していることが望ましい。
・本演習を希望する現 2 年生や 1 年生は、2019 年 3 月 16 日（土）に市ヶ谷キャッパス内で開催される『松本・華井ゼミ公開卒論発表会』への参加を推奨する。詳しくは松本ゼミの知り合い、もしくは教員に直接問い合わせること。

【Outline and objectives】
This seminar covers inter-national cooperation, inter-cultural cooperation and various social problems or "global issues" which demand such cooperations, including poverty, environmental destruction, inequality, conflicts, refugees, or lack of education. It focuses actors (governments, international organizations, NGOs, companies), social norms (voluntarism, dependency, good faith, mutual help) or representations through various media. The goals of this seminar is to enable students to understand the relevant issues in diverse perspectives, and to develop their ideas and skills to conduct his/her own research.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

中島　成久、廣松　勲

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、学生が「国際文化学部に親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解した上で、今後の就職活動などに生かすことにあります。
この科目を通じて、学生は複数の外部講師らが担当するオムニバス授業を受けることになります。少なからずの学生は、本学部を卒業してどのような仕事に就けるのかという点については不安に思っている事案です。本学部を卒業して必ず有利になる職種はありませんが、学生は本授業を介していくつかの業界は国際文化学部との親和性が非常に大きいものであることを理解するでしょう。そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師をお招きして、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を直接見聞きすることができます。
なお、初回の授業では、学生は卒業生による就活体験や就業体験に関する講演を聞くことができます。

【到達目標】
1）国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができると同時に、実社会で生きるとはどういうことかを最新のデータを交えて学ぶことができる。
2）国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、学生は「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
初回を除いて、外部講師によるオムニバス授業です。各回ではパワーポイントを用いながら、各企業・機関の活動やインターンシップ制度の有無などについて講演をして頂きます。
各授業の最後には、質疑応答時間を設け、学生からの意見・質問を受け付けます。コメントシートは毎回、授業時間内に記載してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 4 月 11 日	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細 ・OGOB による就活就業体験
第 2 回 4 月 18 日	榎本　裕洋氏（丸紅株式会社シニア・アナリスト）	「総合商社とは何か」
第 3 回 4 月 25 日	堂前　清隆氏（株式会社 IIJ・広報部副部長 兼 MVNO 事業部事業統括部シニアエンジニア）	「格安スマホからみる通信業界」
第 4 回 5 月 9 日	山本　隆司氏（株式会社テレビ朝日総合編成局放送基準担当局長）	「テレビを取り巻く環境の変化 2018」
第 5 回 5 月 16 日	赤堀　久美子氏（株式会社リコー、サステイナビリティ推進本部社会環境室 CSV 推進グループ・リーダー）	「企業による社会課題解決〜リコーの取り組み〜」
第 6 回 5 月 23 日	廣松　勲氏（法政大学国際文化学部）	「大学で研究職につくということ」
第 7 回 5 月 30 日	松山　匡延氏（元 JICA 職員、M-wing コンサルティング IBO・代表、（株）アイリンク・主任研究員、青年海外協力隊ルワンダ OV 会・会長、日本ルワンダ協会・理事）	「青年海外協力隊、国際協力分野での活動について」
第 8 回 6 月 6 日	シムカート・ビョルン氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナルジャパン　キャンペーン・コーディネーター）	「国際 NGO で活動：世界を変える力を見つける」
第 9 回 6 月 13 日	弓野　克彦氏（株式会社 ANA 総合研究所）	「エアラインビジネスの課題と挑戦」
第 10 回 6 月 20 日	代島　裕世氏（サラヤ株式会社コミュニケーション本部　本部長）	「SARAYA の SDGs ビジネス」
第 11 回 6 月 27 日	大城　勝浩氏（株式会社朝日広告社　統合マーケティングコミュニケーション本部・本部長補佐兼デジタルソリューション局・局長）	「広告業界研究：広告のホンシツ」
第 12 回 7 月 4 日	十河　俊輔氏（独立行政法人国際交流基金 総務部人事課）	「国際文化交流を支える仕事」
第 13 回 7 月 11 日	神野　斉氏（株式会社明石書店編集部　部長）	「出版の今―縮む世界と広がる世界」
第 14 回 7 月 18 日	早坂　文宏氏（毎日新聞社人事・総務本部採用担当部長）	「新聞ジャーナリズムの現状とジャーナリズムの意味」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配布資料は、自らのメモを含めて、できるだけ再読すること。
・興味のある講師のテーマについては、図書館などで関連する文献を調べることで、できるだけ視野を広げること。

【テキスト（教科書）】
・なし。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】
・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（出席 20 %＋コメントシート 20 %）と授業内試験（60 %）による総合評価。
・授業終了後 1 週間後にレポートの提出。分量・提出方法などについては、授業において詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】
・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっているが、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てるなど、今後も授業運営を工夫する。

【Outline and objectives】
This course aims to introduce professional works which have affinity with edutaions and reseaches in the Faculty of intercultural communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some japanese company or international organization.
Students taking this course will be able to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the futur.
In addition, in the first class, some graduates of our faculty will give a lecture about their experiences or advices during internship program or job hunting.

法政大学
HOSEI University